

SETSUNAN UNIVERSITY  
**SYLLABUS**

2019 **薬学部** 授業計画  
薬学 科

**II**

薬 学 部

(学部略号：Y)

Faculty of Pharmaceutical Sciences

薬学科

(学科略号：P)

Department of Pharmaceutical Sciences

## ◎教育研究上の目的

高い倫理観、心豊かな人間性、実践的能力を備え、わが国の医療の進化、健康・福祉の増進、生活環境の保全に貢献する薬剤師を養成する。

## ◎ディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(薬学)の学位を授与します。

### ■社会的責任と使命

[DP 1] 医療を提供する者としての社会的責任と使命を強く自覚し、常に人々の生命、健康、尊厳を守る意思を示す。

### ■コミュニケーション

[DP 2] 情報を的確に伝達できる説明および表現能力を身につけているとともに、コミュニケーションを通じて豊かな人間関係を構築する能力を有している。

### ■科学の知識の活用

[DP 3] 医薬品の性質を理解し、薬物治療を科学的な視点から支える。

### ■情報の収集と評価

[DP 4] 薬物治療の実践に必要な科学に裏付けられた情報および患者からの身体的情報を収集し、評価する技能を有している。

### ■地域および他職種との連携

[DP 5] 地域の中で、住民および他職種と連携し、健康と福祉の維持・増進、生活環境の保全、科学知識の啓蒙を司る専門家としての基本的な能力を有している。

### ■薬物療法における実践的能力

[DP 6] 患者の様々な病態における薬物療法を総合的に評価し、医薬品の供給、調剤、服薬指導、処方設計の提案、安全性や有効性を担保するなどの薬学的管理を実践する能力を有している。

### ■多角的な観察と解析

[DP 7] 医療の進歩の一端を担うため、多角的な視野で医療を含む自然現象を観察し、解析する基本的な能力を有している。

### ■生涯にわたる自己研鑽、キャリア形成と教育能力

[DP 8] 医療の進歩を知り、薬剤師に対する社会の要請に応えるため、自らの適性に応じた職業を選択し、生涯にわたって自己研鑽を続け、後進を育成する意欲を有している。

## ◎カリキュラム・ポリシー(CP:教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

## < 1 年次 >

■基礎学力を補完し「8つの資質」の修得に共通する教養を得るために、薬学を学ぶうえで必須な学習を開始し、広い視野を身につけ様々な分野で活動する基盤を作るプログラムを実施する。これらの実現のために、「薬剤師になるために」、「早期体験学習」、各教養科目などを配置する。

## < 1～6 年次 >

### ■社会的責任と使命

「社会的責任と使命」を身につけるため、自己のあり方と他者との関わりを考えるプログラムを実施する。「患者安全」、「臨床心理学」、「応用薬学実習」などの科目を配置するとともに、課外活動にも取り組む。

### ■コミュニケーション

「コミュニケーション」を身につけるため、グローバル化への対応や自らの役割に基づいた行動を考えるプログラムを実施する。これらの実現のため、各種語学科目、「医療英会話」、「臨床心理学」、「グローバルコミュニケーション」などの科目を配置するとともに、課外活動にも取り組む。

### ■科学の知識の活用

「科学の知識の活用」を身につけるために、自然科学の知識を補完し、薬学の基礎および専門知識を修得するプログラムを実施する。これらの実現のため、「基盤演習」などの各種演習科目、「化学系薬学実習」などの実習科目を配置する。

### ■情報の収集と評価

「情報の収集と評価」を身につけるために、自然科学や臨床における情報の測定、収集、解析能力を修得するプログラムを実施する。これらの実現のため、各種実習科目、「患者安全」、「患者コミュニケーション」などの科目を配置する。

### ■地域および他職種との連携

「地域および他職種との連携」を身につけるために、地域における薬学と薬剤師の役割を理解するプログラムを実施する。これらの実現のために、「セルフメディケーション演習」などの各種演習科目、「生物・衛生系薬学実習」などの実習科目を配置する。

### ■薬物療法における実践的能力

「薬物療法における実践的能力」を身につけるために、疾病の成因および薬物治療を理解し、薬物の構造的な特徴や剤形から体内動態を予測するプログラムを実施する。これらの実現のために、「カルテ読解演習」、「薬学臨床実習事後演習」などの演習科目、「医療系薬学実習」などの実習科目を配置する。

### ■多角的な観察と解析

「多角的な観察と解析」を身につけるために、情報の測定、収集、解析をするための知識と技能を修得し、薬学研究を学び、研究に必要な態度を修得するプログラムを実施する。これらを実現するために、「DI 演習」などの演習科目、「薬学研究」などの科目を配置する。

### ■生涯にわたる自己研鑽、キャリア形成と教育能力

「生涯にわたる自己研鑽、キャリア形成と教育能力」を身につけるために、人や社会の育

成について議論し、自己研鑽を図るプログラムを実施する。これらの実現のために、「教育学」、「キャリア形成」などの科目を配置するとともに、課外活動にも取り組む。

<5～6年次>

■「8つの資質」を統合した能力を身につけるには、4年次に「プレファーマシー実習」、「フィジカルアセスメント実習」、「実践薬学」などで獲得したパフォーマンスレベルをさらに向上させる必要がある。5～6年次では本物の場で繰り返しパフォーマンスを発揮し、統合的な能力が定着する教育プログラム「薬学研究」、「薬学臨床実習」、「アドバンスト臨床薬学」などの科目を配置する。

## ◎アドミッション・ポリシー(AP:入学者受入れの方針)

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解・思考・判断

①化学を基本とする理科科目だけではなく、数学・語学などに対する高等学校での学習を基盤とした知識を活用する力を有している。

■思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現

②豊かな人間性を重視する価値観を基盤とした、自らの活動実例を表現できる力を有している。

■知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現

③高等学校の学習課程に限らない様々な学習に対して強い興味を示し、積極的な態度によって習得する力を有している。

入学者選抜の実施にあたっては、学力試験、適性検査をはじめとして、大学入試センター試験、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語ほかの資格検定試験の結果などを入試毎に組み合わせて評価します。



# 授 業 計 画

※本書（**薬学部 薬学科Ⅱ**）に掲載している科目は、基礎科目：  
P. 561 ～ P. 726、教養科目：P. 727 ～ P. 876、キャリア形成科目：  
P. 877 ～ P. 965 です  
専門科目：P. 9 ～ P. 560 は **I** に掲載しております。



科目名	担当者	ページ
<b>ア</b>		
悪性腫瘍治療学・緩和医療	向 井 啓	164
悪性腫瘍治療学・緩和医療	向 井 啓	166
アドバンスト臨床薬学	辻 琢 己	420
アレルギー・免疫疾患治療学	河 野 武 幸	382

<b>イ</b>		
E B M演習	首 藤 誠	556
一般用医薬品	首 藤 誠	410
一般用医薬品	首 藤 誠	414
一般用医薬品概論	首 藤 誠	537
一般用医薬品概論	首 藤 誠	541
医薬品開発演習	小 西 元 美	955
医薬品開発論	小 村 純 子	247
医薬品開発論	小 村 純 子	249
医薬品化学	河 合 健太郎	484
医薬品化学 I	安 原 智 久	58
医薬品化学 I	安 原 智 久	59
医薬品化学 I	安 原 智 久	331
医薬品化学 I	安 原 智 久	332
医薬品化学 II	河 合 健太郎	60
医薬品化学 II	河 合 健太郎	62
医薬品合成化学	安 原 智 久	486
医薬品合成化学	安 原 智 久	487
医薬品情報学	高 田 雅 弘	233
医薬品情報学	高 田 雅 弘	234
医薬品情報学	高 田 雅 弘	407
医薬品情報学	高 田 雅 弘	408
医療英会話	山 内 浩 充	633
医療英会話	中 道 英美子	634
医療英会話	ヘドリックⅢ ロイ	635
医療英会話	皆 本 智 美	636
医療英会話	木 村 理恵子	637
医療英会話	ユアン マクドゥーガル	638
医療英会話	中 道 英美子	639
医療英会話	皆 本 智 美	640
医療英会話	ヘドリックⅢ ロイ	641
医療英会話	ユアン マクドゥーガル	642
医療英会話	木 村 理恵子	643
医療英会話	山 内 浩 充	644
医療経済学	大 塚 正 人	950
医療系薬学実習	前 田 定 秋	262
医療薬学実習	前 田 定 秋	424
医療薬学総合演習	曾 根 知 道	453
医療薬学統合講義	小 森 浩 二	549
医療倫理	岩 崎 綾 乃	871
医療倫理	岩 崎 綾 乃	873

<b>工</b>		
英語 I a	沢 田 美保子	570
英語 I a	岩 永 道 子	572
英語 I a	箕 田 正 開	573

科目名	担当者	ページ
英語 I a	村 木 美紀子	575
英語 I a	井 寺 利 奈	577
英語 I a	ダンカン ホワイト	578
英語 I b	ダンカン ホワイト	580
英語 I b	箕 田 正 開	582
英語 I b	井 寺 利 奈	584
英語 I b	沢 田 美保子	586
英語 I b	岩 永 道 子	587
英語 I b	村 木 美紀子	588
英語 I c	沢 田 美保子	590
英語 I c	岩 永 道 子	591
英語 I c	箕 田 正 開	592
英語 I c	村 木 美紀子	594
英語 I c	井 寺 利 奈	595
英語 I c	ダンカン ホワイト	596
英語 I d	ダンカン ホワイト	598
英語 I d	箕 田 正 開	600
英語 I d	井 寺 利 奈	602
英語 I d	沢 田 美保子	604
英語 I d	岩 永 道 子	605
英語 I d	村 木 美紀子	606
英語 II a	天 野 貴 史	608
英語 II a	ユアン マクドゥーガル	610
英語 II a	山 内 浩 充	612
英語 II a	ヘドリックⅢ ロイ	614
英語 II a	村 木 美紀子	616
英語 II a	中 道 英美子	618
英語 II b	ユアン マクドゥーガル	619
英語 II b	村 木 美紀子	621
英語 II b	中 道 英美子	622
英語 II b	天 野 貴 史	623
英語 II b	ヘドリックⅢ ロイ	625
英語 II b	山 内 浩 充	626
英語 II c	山 内 浩 充	702
英語 II c	中 道 英美子	704
英語 II c	ヘドリックⅢ ロイ	706
英語 II c	皆 本 智 美	707
英語 II c	木 村 理恵子	709
英語 II c	ユアン マクドゥーガル	710
英語 II c	中 道 英美子	711
英語 II c	皆 本 智 美	712
英語 II c	ヘドリックⅢ ロイ	713
英語 II c	ユアン マクドゥーガル	714
英語 II c	木 村 理恵子	715
英語 II c	山 内 浩 充	716
英語 II d	中 本 明 子	717
英語 II d	村 木 美紀子	718
英語 II d	沢 田 美保子	719
英語 II d	村 木 美紀子	720
英語 II d	中 本 明 子	721
英語 II d	沢 田 美保子	722
英語 III a	木 村 理恵子	677
英語 III b	木 村 理恵子	678

科目名	担当者	ページ
衛生・医療系薬学演習	中尾 晃 幸	305
衛生化学	中尾 晃 幸	360
衛生化学	中尾 晃 幸	362
衛生薬学実習	伊藤 潔	422
衛生薬学総合演習	太田 壮 一	455

## オ

応用薬学実習	河野 武 幸	430
応用薬学実習	河野 武 幸	954

## カ

海外語学研修	鳥居 祐 介	645
海外ビジネスインターンシップ	西之坊 穂	850
化学	樽井 敦	14
化学	樽井 敦	16
化学系薬学実習	表 雅 章	257
化学療法論	奈邊 健	130
化学療法論	奈邊 健	132
株式投資と企業家育成	林 正 浩	865
カルテ読解演習	小森 浩 二	896
環境衛生学	奥野 智 史	104
環境衛生学	奥野 智 史	106
観光学	持永 政 人	769
観光学	持永 政 人	770
韓国語	沈 明 姫	692
韓国語	小石 佳 子	694
韓国語	周 相 勳	696
韓国語	沈 明 姫	697
韓国語	小石 佳 子	699
韓国語	周 相 勳	701
患者安全	辻 琢 己	890
患者コミュニケーション	田中 結 華	893
感染症学	河野 武 幸	523
感染症学	河野 武 幸	526
感染症治療学	河野 武 幸	146
感染症治療学	河野 武 幸	149
感染症治療学	河野 武 幸	374
感染症治療学	河野 武 幸	377
漢方処方学	矢部 武 士	194
漢方処方学	矢部 武 士	196

## キ

機器分析学	中谷 尊 史	481
機器分析学 I	中谷 尊 史	44
機器分析学 I	中谷 尊 史	46
機器分析学 I	中谷 尊 史	326
機器分析学 II	向井 啓	48
機器分析学 II	向井 啓	49
機器分析学 II	向井 啓	328
基礎薬学演習 I	伊藤 潔	443
基礎薬学演習 II	佐久間 信 至	445
北河内を知る	荻田 喜代一	783
基盤演習 I (物理・化学計算)	安原 智 久	279

科目名	担当者	ページ
基盤演習 I (物理・化学計算)	安原 智 久	281
基盤演習 II (生物学)	曾根 知 道	283
基盤演習 II (生物学)	曾根 知 道	285
基盤演習 III (化学)	安原 智 久	287
基盤演習 III (化学)	安原 智 久	290
基盤講義 I (化学)	樽井 敦	464
基盤講義 I (化学)	樽井 敦	466
基盤講義 II (物理)	西田 健太朗	468
基盤講義 II (物理)	西田 健太朗	470
基盤講義 III (生物)	曾根 知 道	472
基盤講義 III (生物)	曾根 知 道	474
基盤講義 IV (数学)	島田 伸 一	476
基盤講義 IV (数学)	田畑 謙 二	477
基盤講義 IV (数学)	島田 伸 一	479
基盤講義 IV (数学)	田畑 謙 二	480
基盤実習	山岸 伸 行	255
キャリア形成 I	奥野 智 史	881
キャリア形成 II	小西 元 美	884
キャリア形成 III	奥田 和 子	886
キャリア形成 III	奥田 和 子	959
キャリア形成 IV	中谷 尊 史	888
キャリアデザイン I (BASIC)	石井 三 恵	816
キャリアデザイン I (BASIC)	山岡 亮 太	818
キャリアデザイン I (BASIC)	中川 浩 一	820
キャリアデザイン I (BASIC)	上野山 裕 士	822
キャリアデザイン II (ADVANCE)	上野山 裕 士	824
キャリアデザイン II (ADVANCE)	橋本 朗 子	825
教育学	安原 智 久	765
教育学	安原 智 久	767

## ク

クリニカルパス演習	菊田 真 穂	449
クリニカルパス演習	河田 興	910
グローバルコミュニケーション(インドネシア語)	大坪 紀 子	938
グローバルコミュニケーション(韓国語)	沈 明 姫	926
グローバルコミュニケーション(韓国語)	小石 佳 子	928
グローバルコミュニケーション(韓国語)	周 相 勳	930
グローバルコミュニケーション(韓国語)	沈 明 姫	931
グローバルコミュニケーション(韓国語)	小石 佳 子	933
グローバルコミュニケーション(韓国語)	周 相 勳	935
グローバルコミュニケーション(スペイン語)	手塚 進	936
グローバルコミュニケーション(中国語)	段 飛 虹	914
グローバルコミュニケーション(中国語)	松田 郁 子	916
グローバルコミュニケーション(中国語)	兪 鳴 蒙	918
グローバルコミュニケーション(中国語)	段 飛 虹	920
グローバルコミュニケーション(中国語)	松田 郁 子	922
グローバルコミュニケーション(中国語)	兪 鳴 蒙	924

## ケ

経済学	南 慎二郎	759
経済学	南 慎二郎	761
血液疾患治療学	吉岡 靖 啓	372
現代韓国事情	田中 悟	857

科目名	担当者	ページ
現代ビジネス論	牧 美喜男	855
<b>コ</b>		
公衆衛生学	上 野 仁	108
公衆衛生学	上 野 仁	110
公衆衛生学Ⅰ	奥 野 智 史	349
公衆衛生学Ⅰ	奥 野 智 史	351
公衆衛生学Ⅱ	上 野 仁	353
コミュニケーション論	櫻 井 清 華	729
コミュニケーション論	金 瑛	730
コミュニケーション論	櫻 井 清 華	731
コミュニケーション論	金 瑛	732
<b>サ</b>		
細胞生物学	栗 名 利津子	100
細胞生物学	栗 名 利津子	102
<b>シ</b>		
実践衛生試験法概論	中 尾 晃 幸	497
実践薬学	高 田 雅 弘	401
実践薬学Ⅰ	片 岡 誠	205
実践薬学Ⅱ	首 藤 誠	208
実践薬学Ⅲ	吉 岡 靖 啓	213
実践薬学Ⅳ	向 井 啓	222
実践薬学Ⅴ	辻 琢 己	225
社会薬学	高 田 雅 弘	229
社会薬学	高 田 雅 弘	231
就職実践基礎	山 岡 亮 太	826
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	827
循環器疾患治療学	前 田 定 秋	138
循環器疾患治療学	前 田 定 秋	140
消化器・血液疾患治療学	前 田 定 秋	142
消化器・血液疾患治療学	前 田 定 秋	144
消化器疾患治療学	前 田 定 秋	368
消化器疾患治療学	前 田 定 秋	370
症候学	河 田 興	243
症候学	河 田 興	245
症候学	河 田 興	418
情報処理・統計学演習	寺 内 睦 博	870
生薬学	矢 部 武 士	50
生薬学	矢 部 武 士	52
職業保健学	上 野 仁	364
食品衛生学	太 田 壮 一	116
食品衛生学	太 田 壮 一	117
食品衛生学Ⅰ	中 尾 晃 幸	355
食品衛生学Ⅰ	中 尾 晃 幸	357
食品衛生学Ⅰ	太 田 壮 一	492
食品衛生学Ⅱ	太 田 壮 一	359
食品衛生学Ⅱ	中 尾 晃 幸	493
食品衛生学Ⅱ	中 尾 晃 幸	495
女性学	荒 木 菜 穂	763
処方解析	曾 根 知 道	529
腎・生殖器疾患治療学	吉 岡 靖 啓	160

科目名	担当者	ページ
腎・生殖器疾患治療学	吉 岡 靖 啓	162
心理学	小 牧 一 裕	733
心理学	小 牧 一 裕	735
<b>ス</b>		
数学	島 田 伸 一	775
数学	田 畑 謙 二	776
数学	島 田 伸 一	777
数学	田 畑 謙 二	778
スタートアップゼミ	河 野 武 幸	879
スポーツ科学	藤 林 真 美	647
スポーツ科学	藤 林 真 美	649
スポーツ科学実習Ⅰ	藤 林 真 美	723
スポーツ科学実習Ⅱ	藤 林 真 美	725
<b>セ</b>		
生化学Ⅰ	伊 藤 潔	64
生化学Ⅰ	伊 藤 潔	65
生化学Ⅱ	伊 藤 潔	66
生化学Ⅱ	伊 藤 潔	68
生化学Ⅲ	高 松 宏 治	333
生化学Ⅲ	高 松 宏 治	335
製剤学	佐久間 信 至	190
製剤学	佐久間 信 至	192
製剤学	佐久間 信 至	390
製剤学	佐久間 信 至	392
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅 野 英 一	830
精神神経疾患治療学	尾 中 勇 祐	134
精神神経疾患治療学	尾 中 勇 祐	136
生体情報伝達学	米 山 雅 紀	78
生体情報伝達学	米 山 雅 紀	80
生物・衛生系薬学実習	太 田 壮 一	260
生物・薬理系薬学演習	竹 内 健 治	299
生物学	曾 根 知 道	22
生物学	曾 根 知 道	24
生物学の基礎	曾 根 知 道	462
生物薬剤学	片 岡 誠	178
生物薬剤学	片 岡 誠	180
生命倫理学	岩 崎 綾 乃	771
生命倫理学	岩 崎 綾 乃	773
生理解剖学Ⅰ	倉 本 展 行	70
生理解剖学Ⅰ	倉 本 展 行	72
生理解剖学Ⅰ	倉 本 展 行	337
生理解剖学Ⅱ	倉 本 展 行	74
生理解剖学Ⅱ	倉 本 展 行	76
生理解剖学Ⅱ	倉 本 展 行	339
生理解剖学Ⅲ	米 山 雅 紀	340
世界遺産論	北 條 ゆかり	867
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	居 場 嘉 教	787
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	橋 本 正 治	789
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石 田 秀 士	791
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石 田 裕 子	793
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	浅 野 英 一	795

科目名	担当者	ページ
摂南大学PBLプロジェクトI	久保貞也	797
摂南大学PBLプロジェクトI	牧野幸志	799
摂南大学PBLプロジェクトI	大塚正人	801
摂南大学PBLプロジェクトI	石井信輝	803
摂南大学PBLプロジェクトI	田井義人	805
摂南大学PBLプロジェクトI	吉田佐治子	809
摂南大学PBLプロジェクトI	上野山裕士	811
摂南大学PBLプロジェクトI	藤原京佳	813
摂南大学PBLプロジェクトII	居場嘉教	788
摂南大学PBLプロジェクトII	橋本正治	790
摂南大学PBLプロジェクトII	石田秀士	792
摂南大学PBLプロジェクトII	石田裕子	794
摂南大学PBLプロジェクトII	浅野英一	796
摂南大学PBLプロジェクトII	久保貞也	798
摂南大学PBLプロジェクトII	牧野幸志	800
摂南大学PBLプロジェクトII	大塚正人	802
摂南大学PBLプロジェクトII	石井信輝	804
摂南大学PBLプロジェクトII	田井義人	807
摂南大学PBLプロジェクトII	吉田佐治子	810
摂南大学PBLプロジェクトII	上野山裕士	812
摂南大学PBLプロジェクトII	藤原京佳	814
セルフメディケーション演習	河野武幸	906
セルフメディケーション論	首藤誠	237
セルフメディケーション論	首藤誠	240
先端医療I	矢部武士	534
先端医療II	辻琢己	535
専門日本語F I	塩谷尚子	663
専門日本語F II	塩谷尚子	664
専門日本語R	塩谷尚子	675

## ソ

早期体験学習	曾根知道	251
総合薬学演習	河野武幸	457
ソーシャル・イノベーション実務総論	石井三恵	785

## タ

大学教養応用	大塚正人	863
大学教養実践	伊藤譲	861
大学教養入門	荻田喜代一	859
ダイバーシティとコミュニケーション	石井三恵	845

## チ

地域貢献実践演習	鶴坂貴恵	815
地域と私	鶴坂貴恵	781
地域連携教育活動I	吉田佐治子	831
地域連携教育活動II	吉田佐治子	832
チームビルディング	水野武	835
中国語	段飛虹	680
中国語	松田郁子	682
中国語	兪鳴蒙	684
中国語	段飛虹	686
中国語	松田郁子	688
中国語	兪鳴蒙	690

科目名	担当者	ページ
調剤学	曾根知道	398
<b>テ</b>		
DI演習	向井啓	314
DI演習	首藤誠	446
哲学	濱良祐	737
哲学	濱良祐	739
天然物化学	中谷尊史	54
天然物化学	中谷尊史	56
天然薬用資源学	中谷尊史	329
天然薬用資源学	荒木良太	940
天然薬用資源学	荒木良太	943

## ト

統計学	荒木良太	184
統計学	荒木良太	186
統計学演習	寺内睦博	869
毒性学	中尾晃幸	112
毒性学	中尾晃幸	114
特別研究I	河野武幸	458
特別研究II	河野武幸	460

## ナ

内分泌・代謝性疾患治療学	吉岡靖啓	152
内分泌・代謝性疾患治療学	吉岡靖啓	154
内分泌・代謝性疾患治療学	吉岡靖啓	380

## ニ

日本語会話F I	古川由理子	665
日本語会話F II	古川由理子	666
日本語会話R	古川由理子	676
日本国憲法	小宮山直子	753
日本国憲法	小宮山直子	754
日本語総合F I	藤原京佳	661
日本語総合F II	藤原京佳	662
日本語総合R	藤原京佳	674
日本語読解F I	佐々木成美	655
日本語読解F II	佐々木成美	656
日本語読解R	佐々木成美	671
日本語表現作文F I	佐々木成美	659
日本語表現作文F II	佐々木成美	660
日本語表現作文R	佐々木成美	673
日本語文法F I	佐々木成美	657
日本語文法F II	佐々木成美	658
日本語文法R	佐々木成美	672
日本事情F I	門脇薫	651
日本事情F II	門脇薫	653
日本事情R I	門脇薫	667
日本事情R II	門脇薫	669

## ハ

発達心理学	安原智久	749
発達心理学	安原智久	750

科目名	担当者	ページ
犯罪被害者の支援と法的救済	小野 晃 正	847

## ヒ

ビジネスマナー	奥田 和子	853
ビジネスマナー	奥田 和子	875
微生物学	高松 宏治	82
微生物学	高松 宏治	84
微生物学	伊藤 潔	341
病院実務実習	辻 琢己	437
病院薬学	曾根 知道	516
病態生化学	辻 琢己	168
病態生化学	辻 琢己	170
病態生理学	北谷 和之	172
病態生理学	北谷 和之	174
病態生理学	奈邊 健	384
病理学	河田 興	545

## フ

フィジカルアセスメント実習	辻 琢己	272
フィジカルアセスメント実習	辻 琢己	435
物理・化学系薬学演習	表 雅章	293
物理化学Ⅰ	佐久間 信至	34
物理化学Ⅰ	佐久間 信至	35
物理化学Ⅱ	片岡 誠	36
物理化学Ⅱ	片岡 誠	37
物理学	西田 健太郎	18
物理学	西田 健太郎	20
物理薬剤学	佐久間 信至	176
物理薬剤学	佐久間 信至	177
プレファーマシー講義	小森 浩二	404
プレファーマシー講義	高田 雅弘	531
プレファーマシー実習	高田 雅弘	268
プレファーマシー実習	高田 雅弘	431
プロポーザル・デザイン	北村 浩	851
文学	大橋 直義	741
文学	大橋 直義	743
分子構造解析学	向井 啓	483
分子細胞生物学	榎名 利津子	343
分子細胞生物学	榎名 利津子	346
分子細胞生物学Ⅰ	高松 宏治	90
分子細胞生物学Ⅰ	高松 宏治	92
分子細胞生物学Ⅰ	米山 雅紀	488
分子細胞生物学Ⅰ	米山 雅紀	490
分子細胞生物学Ⅱ	榎名 利津子	94
分子細胞生物学Ⅱ	榎名 利津子	97
文章表現法	南谷 静香	563
文章表現法	澤野 加奈	564
文章表現法	細川 知佐子	565
文章表現法	瀨中 祐子	566
文章表現法	澤野 加奈	568
文章表現法	細川 知佐子	569

科目名	担当者	ページ
-----	-----	-----

## ホ

法学入門	安藤 由香里	755
法学入門	安藤 由香里	757
放射線生物学	山岸 伸行	201
放射線生物学	山岸 伸行	203
保健衛生学	中尾 晃幸	118
保健衛生学	中尾 晃幸	120
ボランティア活動論	山口 尚	751
ボランティア活動論	山口 尚	752

## マ

マーケティングと歴史	武居 奈緒子	833
------------	--------	-----

## ミ

身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中沼 丈晃	840
--------------------	-------	-----

## メ

免疫学	吉田 侑矢	86
免疫学	吉田 侑矢	88
免疫疾患治療学	河野 武幸	156
免疫疾患治療学	河野 武幸	158

## モ

ものづくりインターンシップ基礎	坂本 淳二	837
ものづくりインターンシップ基礎	榎橋 祥一	839
ものづくりインターンシップ実践	坂本 淳二	842
ものづくり海外インターンシップ	榎橋 祥一	844

## ヤ

薬学英語	中本 明子	627
薬学英語	村木 美紀子	628
薬学英語	沢田 美保子	629
薬学英語	村木 美紀子	630
薬学英語	中本 明子	631
薬学英語	沢田 美保子	632
薬学研究Ⅰ	河野 武幸	318
薬学臨床実習	辻 琢己	275
薬剤疫学	山下 伸二	521
薬剤疫学	山下 伸二	522
薬剤師になるために	曾根 知道	11
薬事・衛生行政	奥野 智史	946
薬事・衛生行政	奥野 智史	948
薬事関連法規	小村 純子	235
薬事関連法規	小村 純子	236
薬事関連法規	小村 純子	409
役立つ金融知力	陸川 富盛	828
薬品分析学	小西 元美	38
薬品分析学	小西 元美	39
薬物治療学Ⅰ	尾中 勇祐	499
薬物治療学Ⅱ	前田 定秋	501
薬物治療学Ⅱ	前田 定秋	503
薬物治療学Ⅲ	前田 定秋	505

科目名	担当者	ページ
薬物治療学Ⅲ	前田定秋	507
薬物治療学Ⅳ	吉岡靖啓	509
薬物治療学Ⅴ	吉岡靖啓	511
薬物治療学Ⅵ	河野武幸	513
薬物動態学	山下伸二	182
薬物動態学	山下伸二	183
薬物動態学	山下伸二	519
薬物動態学	山下伸二	520
薬物動態学Ⅰ	山下伸二	386
薬物動態学Ⅰ	山下伸二	387
薬物動態学Ⅱ	山下伸二	388
薬物動態学Ⅱ	山下伸二	389
薬理学Ⅰ	米山雅紀	122
薬理学Ⅰ	米山雅紀	124
薬理学Ⅱ	奈邊健	126
薬理学Ⅱ	奈邊健	128
薬理学総論	米山雅紀	366
薬局経営・マネジメント論	砂川雅之	964
薬局経営学	砂川雅之	552
薬局実務実習	辻琢己	440
薬局方概論	菊田真穂	396

## ユ

有機化学Ⅰ	表雅章	26
有機化学Ⅰ	表雅章	28
有機化学Ⅱ	表雅章	30
有機化学Ⅱ	表雅章	32
有機化学Ⅲ	樽井敦	320

## ラ

ライフサイエンスの基礎	西矢芳昭	849
-------------	------	-----

## リ

臨床栄養学	太田壮一	198
臨床栄養学	太田壮一	199
臨床栄養学	太田壮一	394
臨床栄養学	太田壮一	395
臨床研究立案演習	小西元美	559
臨床研究立案演習	小西元美	961
臨床実務実習	辻琢己	554
臨床心理学	菊田真穂	745
臨床心理学	菊田真穂	747
臨床分析学	山岸伸行	40
臨床分析学	山岸伸行	42
臨床分析学	山岸伸行	322
臨床分析学	山岸伸行	324
臨床薬学演習	辻琢己	451
臨床薬物動態学	山下伸二	188
臨床薬物動態学	山下伸二	189

## ロ

論理学	山本幸一	779
論理学	山本幸一	780

# 基礎科目



科目名	文章表現法	科目名 (英文)	Academic Japanese
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	YJA1301a1		

コース・ ユニット・ 一般目標	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	「はじめに」 授業の内容、進め方について 「文章の書き方1」 レポート・論文の基本事項を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験
	2	「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
	3	「事実と意見」 「説明文」 事実の書き方、説明文を学ぶ事実と意見の書き分けを学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
	4	【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題の作成・提出	授業終了後の定期試験 小テスト
	5	「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
	6	「要約」 要旨の要約の作成方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
	7	「課題1 フィードバック」 課題1を見直す 「要約2」 要約文を作成する	講義と実践(要約文の作成)	課題による 作成した要約文による
	8	「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
	9	【課題2】資料(文章)を引用する	課題の作成・提出	授業終了後の定期試験 小テスト
	10	「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
	11	「意見の述べ方」 序論・本論・結論の構成で論理的な文章を書く	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
	12	【レポート】 資料(文章と図表)を引用して、序論、本論、結論の構成で意見を述べる	レポートの作成・提出	レポートによる
	13	「レポートフィードバック」 レポートの反省	講義	レポートによる

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>大学生の日本語文章表現</td> <td>摂南大学教育編</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育編		2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育編														
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価の時期・ 方法・基準	課題 (20%×2)、レポート (30%)、定期試験期間の定期試験 (30%) により総合的に評価する。
-----------------	--

学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてもらいたい。
---------------	---

担当者の 研究室等	1号館2階 (非常勤講師室)
--------------	----------------

備考、 事前・事後 学習課題	毎回の授業で学んだことを身につけて、次の授業に臨むこと。 総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----------------------	--

科目名	文章表現法	科目名(英文)	Academic Japanese
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP2△, DP4△, DP8△		
科目ナンバリング	YJA1301a1		

コース・ ユニット・ 一般目標	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。																																																										
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「はじめに」 授業の内容、進め方について 「文章の書き方1」 レポート・論文の基本事項を学ぶ</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 小テスト</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「事実と意見」 事実と意見の書き分けを学ぶ</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 小テスト</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く</td> <td>課題の作成・提出</td> <td>課題による</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「要約」 要旨の要約の作成方法を学ぶ</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 小テスト</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「課題1 フィードバック」 課題1を見直す</td> <td>課題1のフィードバック</td> <td>授業終了後の定期試験 小テスト</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 小テスト</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 小テスト</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>【課題2】資料を引用して論理的な文章を書く</td> <td>課題の作成・提出</td> <td>課題による</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 小テスト</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>「課題2 フィードバック」 レポートの書き方</td> <td>課題2のフィードバック</td> <td>授業終了後の定期試験 小テスト</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>【レポート】資料を引用して意見を述べる</td> <td>レポート作成・提出</td> <td>レポートによる</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>レポート総評</td> <td>レポートのフィードバック</td> <td>授業終了後の定期試験</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	「はじめに」 授業の内容、進め方について 「文章の書き方1」 レポート・論文の基本事項を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験	2	「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト	3	「事実と意見」 事実と意見の書き分けを学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト	4	【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題の作成・提出	課題による	5	「要約」 要旨の要約の作成方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト	6	「課題1 フィードバック」 課題1を見直す	課題1のフィードバック	授業終了後の定期試験 小テスト	7	「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト	8	「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト	9	【課題2】資料を引用して論理的な文章を書く	課題の作成・提出	課題による	10	「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト	11	「課題2 フィードバック」 レポートの書き方	課題2のフィードバック	授業終了後の定期試験 小テスト	12	【レポート】資料を引用して意見を述べる	レポート作成・提出	レポートによる	13	レポート総評	レポートのフィードバック	授業終了後の定期試験		
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																								
1	「はじめに」 授業の内容、進め方について 「文章の書き方1」 レポート・論文の基本事項を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験																																																								
2	「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト																																																								
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分けを学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト																																																								
4	【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題の作成・提出	課題による																																																								
5	「要約」 要旨の要約の作成方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト																																																								
6	「課題1 フィードバック」 課題1を見直す	課題1のフィードバック	授業終了後の定期試験 小テスト																																																								
7	「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト																																																								
8	「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト																																																								
9	【課題2】資料を引用して論理的な文章を書く	課題の作成・提出	課題による																																																								
10	「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト																																																								
11	「課題2 フィードバック」 レポートの書き方	課題2のフィードバック	授業終了後の定期試験 小テスト																																																								
12	【レポート】資料を引用して意見を述べる	レポート作成・提出	レポートによる																																																								
13	レポート総評	レポートのフィードバック	授業終了後の定期試験																																																								
関連科目	コミュニケーション論																																																										
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学生の日本語文章表現</td> <td>摂南大学教育イノベーションセンター編</td> <td>和泉書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	和泉書院	2				3																																													
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	和泉書院																																																								
2																																																											
3																																																											
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																													
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1																																																											
2																																																											
3																																																											
評価の時期・ 方法・基準	課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・定期試験期間の定期試験・小テスト(30%)により総合的に評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。																																																										
学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてもらいたい。 2回の課題は添削して返却するので、各自必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにする。																																																										
担当者の 研究室等	1号館2階(非常勤講師室)																																																										
備考、 事前・事後 学習課題	総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。																																																										

科目名	文章表現法	科目名 (英文)	Academic Japanese
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP4△, DP8△		
科目ナンバリング	YJA1301a1		

コース・ ユニット・ 一般目標	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化の際の基礎を実践的にトレーニングする。		
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題 評価
	1	「はじめに」 授業の内容、進め方について 「文章の書き方1」 レポート・論文の基本事項を学ぶ	講義 授業終了後の定期試験
	2	「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ	講義 授業終了後の定期試験 小テスト
	3	「事実と意見」 「説明文」 事実の書き方、説明文を学ぶ事実と意見の書き分けを学ぶ	講義 授業終了後の定期試験 小テスト
	4	【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題の作成・提出 授業終了後の定期試験 小テスト
	5	「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ	講義 授業終了後の定期試験 小テスト
	6	「要約」 要旨の要約の作成方法を学ぶ	講義 授業終了後の定期試験 小テスト
	7	「課題1 フィードバック」 課題1を見直す 「要約2」 要約文を作成する	講義と実践(要約文の作成) 課題による 作成した要約文による
	8	「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ	講義 授業終了後の定期試験 小テスト
	9	【課題2】資料(文章)を引用する	課題の作成・提出 授業終了後の定期試験 小テスト
	10	「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ	講義 授業終了後の定期試験 小テスト
	11	「意見の述べ方」 序論・本論・結論の構成で論理的な文章を書く	講義 授業終了後の定期試験 小テスト
	12	【レポート】 資料(文章と図表)を引用して、序論、本論、結論の構成で意見を述べる	レポートの作成・提出 レポートによる
	13	「レポートフィードバック」 レポートの反省	講義 レポートによる
関連科目	ゼミ、卒業研究		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価の時期・ 方法・基準	課題 (20%×2)、レポート (30%)、定期試験期間の定期試験 (30%) により総合的に評価する。		
学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてもらいたい。		
担当者の 研究室等	1号館2階 (非常勤講師室)		
備考、 事前・事後 学習課題	毎回の授業で学んだことを身につけて、次の授業に臨むこと。 総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。		

科目名	文章表現法	科目名 (英文)	Academic Japanese
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	濱中 祐子
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	YJA1301a1		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p><b>【授業概要・目的】</b></p> <p>文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。          大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。          考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>適切な方法を用いて、1000字程度の論理的文章を書くことができる。</p>
-----------------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	「はじめに」 授業の内容、進め方について 「文章の書き方1」 レポート・論文の基本事項を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験
	2	「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ 「事実と意見」 事実と意見の書き分けを学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
	3	ブレインストーミング 原稿用紙の使い方を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
	4	【課題1】説明文 ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題の作成・提出	課題による
	5	「構成」 文章構成を学ぶ 「要約」 要旨の要約の作成方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
	6	【課題1】フィードバック 【課題1】を見直す  要約文を作成する	講義と実践(要約文の作成)	作成した要約文による
	7	「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
	8	「意見を述べる」 考察に基づいて意見を述べる 注の書き方を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
	9	【課題2】論説文 資料(文章)を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	課題による
	10	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
	11	【課題2】フィードバック 【課題2】を見直す  図表を引用した意見文を作成する	講義と実践(図表を引用した意見文の作成)	作成した意見文による
	12	【レポート】 図表を引用してレポートを作成する	レポートの作成・提出	レポートによる
	13	【レポート】のフィードバック 講義の総括	講義	授業終了後の定期試験

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『大学生の日本語文章表現』	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準	課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・提出物・定期試験(30%)により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
-------------	--

学生へのメッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてもらいたい。 2回の課題は添削して返却するので、各自必ず見直すこと。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階(非常勤講師室)
備考、	総学習時間の目安は60時間。

事前・事後  
学習課題

提出課題については、授業中にフィードバックをします。



科目名	文章表現法	科目名(英文)	Academic Japanese
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP2△, DP4△, DP8△		
科目ナンバリング	YJA1301a1		

コース・ ユニット・ 一般目標	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。																																																										
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「はじめに」 授業の内容、進め方について 「文章の書き方1」 レポート・論文の基本事項を学ぶ</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 小テスト</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「事実と意見」 事実と意見の書き分けを学ぶ</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 小テスト</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く</td> <td>課題の作成・提出</td> <td>課題による</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「要約」 要旨の要約の作成方法を学ぶ</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 小テスト</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「課題1 フィードバック」 課題1を見直す</td> <td>課題1のフィードバック</td> <td>授業終了後の定期試験 小テスト</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 小テスト</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 小テスト</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>【課題2】資料を引用して論理的な文章を書く</td> <td>課題の作成・提出</td> <td>課題による</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 小テスト</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>「課題2 フィードバック」 レポートの書き方</td> <td>課題2のフィードバック</td> <td>授業終了後の定期試験 小テスト</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>【レポート】資料を引用して意見を述べる</td> <td>レポート作成・提出</td> <td>レポートによる</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>レポート総評</td> <td>レポートのフィードバック</td> <td>授業終了後の定期試験</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	「はじめに」 授業の内容、進め方について 「文章の書き方1」 レポート・論文の基本事項を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験	2	「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト	3	「事実と意見」 事実と意見の書き分けを学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト	4	【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題の作成・提出	課題による	5	「要約」 要旨の要約の作成方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト	6	「課題1 フィードバック」 課題1を見直す	課題1のフィードバック	授業終了後の定期試験 小テスト	7	「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト	8	「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト	9	【課題2】資料を引用して論理的な文章を書く	課題の作成・提出	課題による	10	「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト	11	「課題2 フィードバック」 レポートの書き方	課題2のフィードバック	授業終了後の定期試験 小テスト	12	【レポート】資料を引用して意見を述べる	レポート作成・提出	レポートによる	13	レポート総評	レポートのフィードバック	授業終了後の定期試験		
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																								
1	「はじめに」 授業の内容、進め方について 「文章の書き方1」 レポート・論文の基本事項を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験																																																								
2	「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト																																																								
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分けを学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト																																																								
4	【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題の作成・提出	課題による																																																								
5	「要約」 要旨の要約の作成方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト																																																								
6	「課題1 フィードバック」 課題1を見直す	課題1のフィードバック	授業終了後の定期試験 小テスト																																																								
7	「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト																																																								
8	「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト																																																								
9	【課題2】資料を引用して論理的な文章を書く	課題の作成・提出	課題による																																																								
10	「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト																																																								
11	「課題2 フィードバック」 レポートの書き方	課題2のフィードバック	授業終了後の定期試験 小テスト																																																								
12	【レポート】資料を引用して意見を述べる	レポート作成・提出	レポートによる																																																								
13	レポート総評	レポートのフィードバック	授業終了後の定期試験																																																								
関連科目	コミュニケーション論																																																										
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学生の日本語文章表現</td> <td>摂南大学教育イノベーションセンター編</td> <td>和泉書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	和泉書院	2				3																																													
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	和泉書院																																																								
2																																																											
3																																																											
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																													
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1																																																											
2																																																											
3																																																											
評価の時期・ 方法・基準	課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・定期試験期間の定期試験・小テスト(30%)により総合的に評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。																																																										
学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてもらいたい。 2回の課題は添削して返却するので、各自必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにする。																																																										
担当者の 研究室等	1号館2階(非常勤講師室)																																																										
備考、 事前・事後 学習課題	総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。																																																										

科目名	文章表現法	科目名 (英文)	Academic Japanese
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP4△, DP8△		
科目ナンバリング	YJA1301a1		

コース・ユニット・一般目標  
 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。  
 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化の際の基礎を実践的にトレーニングする。

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
2	「文章の書き方2」 わかりやすい文章の書き方を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
3	「事実と意見」 「説明文」 事実の書き方、説明文を学ぶ事実と意見の書き分けを学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
4	【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題の作成・提出	授業終了後の定期試験 小テスト
5	「構成」 レポートなどの文章構成を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
6	「要約」 要旨の要約の作成方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
7	「課題1 フィードバック」 課題1を見直す 「要約2」 要約文を作成する	講義と実践(要約文の作成)	課題による 作成した要約文による
8	「文章を引用する」 文章を引用する方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
9	【課題2】資料(文章)を引用する	課題の作成・提出	授業終了後の定期試験 小テスト
10	「図表の引用」 図表の説明と考察の方法を学ぶ	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
11	「意見の述べ方」 序論・本論・結論の構成で論理的な文章を書く	講義	授業終了後の定期試験 小テスト
12	【レポート】 資料(文章と図表)を引用して、序論、本論、結論の構成で意見を述べる	レポートの作成・提出	レポートによる
13	「レポートフィードバック」 レポートの反省	講義	レポートによる

関連科目  
ゼミ、卒業研究

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価の時期・方法・基準  
 課題 (20%×2)、レポート (30%)、定期試験期間の定期試験 (30%) により総合的に評価する。

学生へのメッセージ  
 口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてもらいたい。

担当者の研究室等  
 1号館2階(非常勤講師室)

備考、事前・事後学習課題  
 毎回の授業で学んだことを身につけて、次の授業に臨むこと。  
 総学習時間の目安は60時間。  
 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沢田 美保子
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1302c1		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>授業概要・目的： 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>到達目標： (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。 (5) TOEIC480点以上を狙える力を身につける。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>																																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Orientation TOEICの説明 Unit 1</td> <td>授業の進め方、評価など説明</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Vocabulary quiz 1 Unit 1, 2</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Voca. 2 Unit 2</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Voca. 3 Unit 3</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Voca. 4 Unit 3, 4</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Voca. 5 Unit 4</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Voca. 6 Review 1-4</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Voca. 7 Unit 5</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Voca. 8 Unit 5, 6</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Voca. 9 Unit 6, 7</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Voca. 10 Unit 7</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Voca. 11 TOEIC Bridge 模擬テスト</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Voca. 12 前期復習と定期試験準備学習</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	Orientation TOEICの説明 Unit 1	授業の進め方、評価など説明	演習、小テスト、授業参加など	2	Vocabulary quiz 1 Unit 1, 2	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	3	Voca. 2 Unit 2	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	4	Voca. 3 Unit 3	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	5	Voca. 4 Unit 3, 4	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	6	Voca. 5 Unit 4	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	7	Voca. 6 Review 1-4	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	8	Voca. 7 Unit 5	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	9	Voca. 8 Unit 5, 6	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	10	Voca. 9 Unit 6, 7	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	11	Voca. 10 Unit 7	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	12	Voca. 11 TOEIC Bridge 模擬テスト	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	13	Voca. 12 前期復習と定期試験準備学習	講義と演習、単語テスト学習
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																					
1	Orientation TOEICの説明 Unit 1	授業の進め方、評価など説明	演習、小テスト、授業参加など																																																					
2	Vocabulary quiz 1 Unit 1, 2	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																					
3	Voca. 2 Unit 2	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																					
4	Voca. 3 Unit 3	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																					
5	Voca. 4 Unit 3, 4	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																					
6	Voca. 5 Unit 4	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																					
7	Voca. 6 Review 1-4	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																					
8	Voca. 7 Unit 5	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																					
9	Voca. 8 Unit 5, 6	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																					
10	Voca. 9 Unit 6, 7	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																					
11	Voca. 10 Unit 7	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																					
12	Voca. 11 TOEIC Bridge 模擬テスト	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																					
13	Voca. 12 前期復習と定期試験準備学習	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																					
関連科目	他の英語科目																																																							
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Best practice for the TOEIC Listening and Reading Test (Revised Edition)</td> <td>Yoshizuka Hiroshi</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷恒志</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Best practice for the TOEIC Listening and Reading Test (Revised Edition)	Yoshizuka Hiroshi	SEIBIDO	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	SEIBIDO	3																																										
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																					
1	Best practice for the TOEIC Listening and Reading Test (Revised Edition)	Yoshizuka Hiroshi	SEIBIDO																																																					
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	SEIBIDO																																																					
3																																																								
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																										
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																					
1																																																								
2																																																								
3																																																								
評価の時期・ 方法・基準	<p>クラス演習、提出物、小テスト、授業参加態度 60%</p> <p>定期試験 40%</p> <p>具体的には授業で指示します。100点満点中60点以上で合格。</p>																																																							
学生への メッセージ	辞書必携																																																							
担当者の 研究室等	1号館2階（非常勤講師室）																																																							

備考、 事前・事後 学習課題	<p>毎授業に辞書を必ず持参すること。</p> <p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>
----------------------	--



科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩永 道子
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1302c1		

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>到達目標： (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。 (5) TOEIC480点以上を狙える力を身につける。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席があった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>
--------------------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業方針の説明と テキスト Unit 1 前半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	2	Unit 1 後半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	3	Unit 2 前半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	4	Unit 2 後半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	5	プリント教材によるリーディング演習	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	6	Unit 3 前半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	7	Unit 3 後半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	8	Unit 4 前半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	9	Unit 4 後半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	10	プリント教材によるリーディング演習	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	11	Unit 5 前半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	12	Unit 5 後半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	13	Unit 6	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Welcome to the TOEIC Test	Yoshio Kitahara	朝日出版
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)		
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・方法・基準	定期試験（70%）、小テスト（10%）、課題・発表点（20%）で総合的に評価する。 100点満点中60点以上で合格。3回を越える欠席があった者には原則として単位は認めない。
-------------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考、事前・事後学習課題	毎授業に辞書を必ず持参すること。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--------------	---

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	箕田 正開
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1302c1		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>「授業概要・目的」 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>「到達目標」 (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。 (5) TOEIC480点以上を狙える力を身につける。</p> <p>「授業方法と留意点」 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p>

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業方針の説明 Unit1: 研究:電子レンジ、環境も熱する	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	2	Unit2: トラック、ペルーの古代ナスカの地上絵を破損	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	3	Unit3: 企業IT技術者の確保に苦闘	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	4	Unit4: 世界の大手自動車メーカー、電気自動車の発売へ加速	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	5	Unit5: 大分の薬剤師、飲泉のガイドブックを作成	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	6	Unit6: SpaceXのロケット発射、スポーツカーを宇宙に	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	7	Unit7: 単身所帯、2040年に40%に増加見通し	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	8	Unit8: 政府、学校へのEdTech実施を計画	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	9	Unit9: 大学、低収入家庭の子供向け食堂運営を支援	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	10	Unit10: チュニジアの女子学生、制服に反旗	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	11	プリント配布	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	12	プリント配布	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	13	復習、小テスト	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World 2019	Yasuhiko Wakaari	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準	定期試験（50%）、クラス演習・提出物（50%）で総合的に評価します。具体的には授業で指示します。100点満点中60点以上で合格。
学生へのメッセージ	毎回与えられる課題は授業時間内に完成して提出が求められるので、課題に熱心に取り組んでください。
担当者の研究室等	1号館2階(非常勤講師室)
備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村木 美紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1302c1		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>授業概要・目的： 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>到達目標： (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。 (5) TOEIC480点以上を狙える力を身につける。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>																																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について</td> <td>講義・演習</td> <td>提出物 授業態度</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>① 教科書 Unit 1 (Listening: 写真描写問題, Speaking) ② ハンドアウト課題 (Reading, Writing)</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>① 教科書 Unit 6 (Reading: 品詞、動詞の時制, Writing) ② ハンドアウト課題 (Listening, Speaking)</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>① 教科書 Unit 2 (Listening: Yes/No 疑問文, WH 疑問文, Speaking) ② ハンドアウト課題 (Reading, Writing)</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>① 教科書 Unit 7 (Reading: 語彙, Writing) ② ハンドアウト課題 (Listening, Speaking)</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>① 教科書 Unit 3 (Listening: 否定疑問文、付加疑問文、選択疑問文、勧誘、事実, Speaking) ② ハンドアウト課題 (Reading, Writing)</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>① 教科書 Unit 8 (Reading: 広告・サービス・告知文の読解, Writing) ② ハンドアウト課題 (Listening, Speaking)</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>① 教科書 Unit 4 (Listening: 会話, Speaking) ② ハンドアウト課題 (Reading, Writing)</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>① 教科書 Unit 9 (Reading: 手紙等の読解, Writing) ② ハンドアウト課題 (Listening, Speaking)</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>① 教科書 Unit 5 (Listening: トーク問題, Speaking) ② ハンドアウト課題 (Reading, Writing)</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>TOEIC 実践テスト</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>TOEIC 実践テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>スピーキング演習 (プレゼンテーション)</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>スピーキング演習評価 授業態度</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>総合復習</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>授業態度</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について	講義・演習	提出物 授業態度	2	① 教科書 Unit 1 (Listening: 写真描写問題, Speaking) ② ハンドアウト課題 (Reading, Writing)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	3	① 教科書 Unit 6 (Reading: 品詞、動詞の時制, Writing) ② ハンドアウト課題 (Listening, Speaking)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	4	① 教科書 Unit 2 (Listening: Yes/No 疑問文, WH 疑問文, Speaking) ② ハンドアウト課題 (Reading, Writing)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	5	① 教科書 Unit 7 (Reading: 語彙, Writing) ② ハンドアウト課題 (Listening, Speaking)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	6	① 教科書 Unit 3 (Listening: 否定疑問文、付加疑問文、選択疑問文、勧誘、事実, Speaking) ② ハンドアウト課題 (Reading, Writing)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	7	① 教科書 Unit 8 (Reading: 広告・サービス・告知文の読解, Writing) ② ハンドアウト課題 (Listening, Speaking)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	8	① 教科書 Unit 4 (Listening: 会話, Speaking) ② ハンドアウト課題 (Reading, Writing)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	9	① 教科書 Unit 9 (Reading: 手紙等の読解, Writing) ② ハンドアウト課題 (Listening, Speaking)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	10	① 教科書 Unit 5 (Listening: トーク問題, Speaking) ② ハンドアウト課題 (Reading, Writing)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	11	TOEIC 実践テスト	事前自己学習・講義・演習	TOEIC 実践テスト 授業態度	12	スピーキング演習 (プレゼンテーション)	事前自己学習・講義・演習	スピーキング演習評価 授業態度	13	総合復習	事前自己学習・講義・演習
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																					
1	オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について	講義・演習	提出物 授業態度																																																					
2	① 教科書 Unit 1 (Listening: 写真描写問題, Speaking) ② ハンドアウト課題 (Reading, Writing)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
3	① 教科書 Unit 6 (Reading: 品詞、動詞の時制, Writing) ② ハンドアウト課題 (Listening, Speaking)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
4	① 教科書 Unit 2 (Listening: Yes/No 疑問文, WH 疑問文, Speaking) ② ハンドアウト課題 (Reading, Writing)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
5	① 教科書 Unit 7 (Reading: 語彙, Writing) ② ハンドアウト課題 (Listening, Speaking)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
6	① 教科書 Unit 3 (Listening: 否定疑問文、付加疑問文、選択疑問文、勧誘、事実, Speaking) ② ハンドアウト課題 (Reading, Writing)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
7	① 教科書 Unit 8 (Reading: 広告・サービス・告知文の読解, Writing) ② ハンドアウト課題 (Listening, Speaking)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
8	① 教科書 Unit 4 (Listening: 会話, Speaking) ② ハンドアウト課題 (Reading, Writing)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
9	① 教科書 Unit 9 (Reading: 手紙等の読解, Writing) ② ハンドアウト課題 (Listening, Speaking)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
10	① 教科書 Unit 5 (Listening: トーク問題, Speaking) ② ハンドアウト課題 (Reading, Writing)	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
11	TOEIC 実践テスト	事前自己学習・講義・演習	TOEIC 実践テスト 授業態度																																																					
12	スピーキング演習 (プレゼンテーション)	事前自己学習・講義・演習	スピーキング演習評価 授業態度																																																					
13	総合復習	事前自己学習・講義・演習	授業態度																																																					
関連科目	なし																																																							
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>TOEIC Bridge 公式ワークブック</td> <td>Educational Testing Service</td> <td>国際ビジネスコミュニケーション協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	TOEIC Bridge 公式ワークブック	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂	3																																										
	番号	書籍名	著者名	出版社名																																																				
	1	TOEIC Bridge 公式ワークブック	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会																																																				
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂																																																					
3																																																								
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																										
	番号	書籍名	著者名	出版社名																																																				
	1																																																							
2																																																								
3																																																								
評価の時期・ 方法・基準	<p>定期試験：30％ 授業中の課題（提出物・テスト・スピーキング演習）：65％ 授業態度：5％ 100点満点中60点以上で合格。</p> <p>授業中の演習と提出物・小テスト等が評価の中心となるので、3回を超える欠席者には原則として単位を認めません。</p>																																																							

<p>学生への メッセージ</p>	<p>このクラスは TOEIC Bridge の演習を中心に行いますが、実社会から得られる最新情報等も取り入れながら、実践で役立つ英語の 4 技能（読む・聴く・書く・話す）を楽しく身につけることを目指します。英語が苦手だと感じている人にも、コミュニケーションツールとしての英語を自然に使いこなせると感じてもらえるような授業を行いたいと思います。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>1号館 2階(非常勤講師室)</p>
<p>備考、 事前・事後 学習課題</p>	<p>毎授業に辞書を必ず持参すること。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内に行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井寺 利奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1302c1		

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>到達目標： (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。 (5) TOEIC480点以上を狙える力を身につける。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ※授業には必ず辞書を持参してください。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC、英検等</p>
--------------------------------	---

授業計画		回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
		1	オリエンテーション Unit 1 Our Aging Society	授業の進め方、評価など説明	演習、小テスト、授業参加など
		2	Unit 1 Our Aging Society Unit 2 Holiday Memories	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など
		3	Unit 2 Holiday Memories	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など
		4	Unit 3 Sport	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など
		5	Unit 3 Sport Unit 4 Foreign Workers	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など
		6	Unit 4 Foreign Workers	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など
		7	Unit 5 Lifestyles	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など
		8	Unit 5 Lifestyles Unit 6 Sizes	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など
		9	Unit 6 Sizes	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など
		10	Unit 7 Bathrooms	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など
		11	Unit 7 Bathrooms Unit 8 Weather and Global Warming	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など
		12	Unit 8 Weather and Global Warming	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など
		13	ユニットの復習、定期試験の準備	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	English Indicator 2	Terry O'Brien、他	南雲堂
		2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂

参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			

評価の時期・方法・基準	<p>定期試験 40% 小テスト・口頭発表・授業態度 60%</p> <p>※授業態度に問題のある場合（遅刻、居眠り、私語、携帯電話の使用、許可なく途中退席する、教科書を持参しないなど）は教室に来ていても「欠席」扱いとします。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めません。</p>
-------------	--

学生へのメッセージ	着実に英語の基礎力を身につけることができるよう、じっくりと進めていきます。積極的かつ集中して授業に臨んでください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階（非常勤講師室）
----------	---------------

備考、事前・事後学習課題	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※授業計画は進度によって変更する場合があります。</p>
--------------	---

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1302c1		

基礎科目

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>到達目標： (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。 (5) TOEIC480点以上を狙える力を身につける。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>
--------------------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	TOEIC Bridge proficiency, listening ability, vocabulary expansion, reading and cultural pattern comprehension	Task-based practice for listening, reading, comprehension	Each class task work, quiz, mini-test totals points toward a final score
	2	TOEIC Bridge proficiency, listening ability, vocabulary expansion, reading and cultural pattern comprehension	Task-based practice for listening, reading, comprehension	Each class task work, quiz, mini-test totals points toward a final score
	3	TOEIC Bridge proficiency, listening ability, vocabulary expansion, reading and cultural pattern comprehension	Task-based practice for listening, reading, comprehension	Each class task work, quiz, mini-test totals points toward a final score
	4	TOEIC Bridge proficiency, listening ability, vocabulary expansion, reading and cultural pattern comprehension	Task-based practice for listening, reading, comprehension	Each class task work, quiz, mini-test totals points toward a final score
	5	TOEIC Bridge proficiency, listening ability, vocabulary expansion, reading and cultural pattern comprehension	Task-based practice for listening, reading, comprehension	Each class task work, quiz, mini-test totals points toward a final score
	6	TOEIC Bridge proficiency, listening ability, vocabulary expansion, reading and cultural pattern comprehension	Task-based practice for listening, reading, comprehension	Each class task work, quiz, mini-test totals points toward a final score
	7	TOEIC Bridge proficiency, listening ability, vocabulary expansion, reading and cultural pattern comprehension	Task-based practice for listening, reading, comprehension	Each class task work, quiz, mini-test totals points toward a final score
	8	TOEIC Bridge proficiency, listening ability, vocabulary expansion, reading and cultural pattern comprehension	Task-based practice for listening, reading, comprehension	Each class task work, quiz, mini-test totals points toward a final score
	9	TOEIC Bridge proficiency, listening ability, vocabulary expansion, reading and cultural pattern comprehension	Task-based practice for listening, reading, comprehension	Each class task work, quiz, mini-test totals points toward a final score
	10	TOEIC Bridge proficiency, listening ability, vocabulary expansion, reading and cultural pattern comprehension	Task-based practice for listening, reading, comprehension	Each class task work, quiz, mini-test totals points toward a final score
	11	TOEIC Bridge proficiency, listening ability, vocabulary expansion, reading and cultural pattern comprehension	Task-based practice for listening, reading, comprehension	Each class task work, quiz, mini-test totals points toward a final score
	12	TOEIC Bridge proficiency, listening ability, vocabulary expansion, reading and cultural pattern comprehension	Task-based practice for listening, reading, comprehension	Each class task work, quiz, mini-test totals points toward a final score
	13	TOEIC Bridge proficiency, listening ability, vocabulary expansion, reading and cultural pattern comprehension	Task-based practice for listening, reading, comprehension	Each class task work, quiz, mini-test totals points toward a final score

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-5671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価の時期・方法・基準	Class tasks, quizzes, mini-tests 50%, Final exam 50% 100点満点中60点以上で合格。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館2階(非常勤講師室)		
備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP4△		
科目ナンバリング	YEN1303c1		

基礎科目

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>到達目標： (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>
--------------------------------	---

授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction, lists and categories</td> <td>Task-based exercises with listening, speech, reading writing</td> <td>Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Adding extra information in writing, creating appropriate questions in conversation and discussion.</td> <td>Task-based exercises with listening, speech, reading writing</td> <td>Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Order of importance, initial comparison in reading, writing, conversation.</td> <td>Task-based exercises with listening, speech, reading writing</td> <td>Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Habits and routines by self-reflection and observation.</td> <td>Task-based exercises with listening, speech, reading writing</td> <td>Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Considering the future via probability and speculation.</td> <td>Task-based exercises with listening, speech, reading writing</td> <td>Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Instructions as a process</td> <td>Task-based exercises with listening, speech, reading writing</td> <td>Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Instructions in various formats</td> <td>Task-based exercises with listening, speech, reading writing</td> <td>Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Position and relative location: spatial description</td> <td>Task-based exercises with listening, speech, reading writing</td> <td>Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Giving directions solely via language</td> <td>Task-based exercises with listening, speech, reading writing</td> <td>Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Past tense in diaries, making speculative questions</td> <td>Task-based exercises with listening, speech, reading writing</td> <td>Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Simple story formats and structures in reading, writing, speech</td> <td>Task-based exercises with listening, speech, reading writing</td> <td>Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Multi-sensory description</td> <td>Task-based exercises with listening, speech, reading writing</td> <td>Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Conversation patterns, gambits and strategies</td> <td>Task-based exercises with listening, speech, reading writing</td> <td>Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	Introduction, lists and categories	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes	2	Adding extra information in writing, creating appropriate questions in conversation and discussion.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes	3	Order of importance, initial comparison in reading, writing, conversation.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes	4	Habits and routines by self-reflection and observation.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes	5	Considering the future via probability and speculation.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes	6	Instructions as a process	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes	7	Instructions in various formats	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes	8	Position and relative location: spatial description	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes	9	Giving directions solely via language	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes	10	Past tense in diaries, making speculative questions	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes	11	Simple story formats and structures in reading, writing, speech	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes	12	Multi-sensory description	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes	13	Conversation patterns, gambits and strategies	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	Introduction, lists and categories	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes																																																						
2	Adding extra information in writing, creating appropriate questions in conversation and discussion.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes																																																						
3	Order of importance, initial comparison in reading, writing, conversation.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes																																																						
4	Habits and routines by self-reflection and observation.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes																																																						
5	Considering the future via probability and speculation.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes																																																						
6	Instructions as a process	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes																																																						
7	Instructions in various formats	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes																																																						
8	Position and relative location: spatial description	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes																																																						
9	Giving directions solely via language	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes																																																						
10	Past tense in diaries, making speculative questions	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes																																																						
11	Simple story formats and structures in reading, writing, speech	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes																																																						
12	Multi-sensory description	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes																																																						
13	Conversation patterns, gambits and strategies	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes																																																						

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト、定期試験等も含む） 70%
学生へのメッセージ	All students must attend every class.
担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	箕田 正開
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1303c1		

<p>コース・ユニット・一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>到達目標： (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>
----------------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業方針の説明 Unit1: 研究:電子レンジ、環境も熱する	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	2	Unit2: トラック、ペルーの古代ナスカの地上絵を破損	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	3	Unit3: 企業IT技術者の確保に苦闘	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	4	Unit4: 世界の大手自動車メーカー、電気自動車の発売へ加速	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	5	Unit5: 大分の薬剤師、飲泉のガイドブックを作成	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	6	Unit6: SpaceXのロケット発射、スポーツカーを宇宙に	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	7	Unit7: 単身所帯、2040年に40%に増加見通し	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	8	Unit8: 政府、学校へのEdTech実施を計画	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	9	Unit9: 大学、低収入家庭の子供向け食堂運営を支援	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	10	Unit10: チュニジアの女子学生、制服に反旗	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	11	プリント配布	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	12	プリント配布	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
13	復習、小テスト	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Meet the World 2019</td> <td>Yasuhiko Wakaari</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Meet the World 2019	Yasuhiko Wakaari	成美堂	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Meet the World 2019	Yasuhiko Wakaari	成美堂													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価の時期・方法・基準	<table> <tr> <td>全学共通英語課題 A</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>全学共通英語課題 B</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）</td> <td>35%</td> </tr> </table>	全学共通英語課題 A	20%	全学共通英語課題 B	10%	定期試験	35%	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）	35%
全学共通英語課題 A	20%								
全学共通英語課題 B	10%								
定期試験	35%								
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）	35%								
学生へのメッセージ	毎回与えられる課題は授業時間内に完成して提出が求められるので、課題に熱心に取り組んでください。								
担当者の研究室等	1号館2階(非常勤講師室)								
備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。								

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井寺 利奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1303c1		

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>「授業概要・目的」 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>「到達目標」 (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。</p> <p>「授業方法と留意点」 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ※授業には必ず辞書を持参してください。</p> <p>科目学習の効果(資格): TOEIC, 英検等</p>																																																								
<p>授業計画</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション Unit 1 Our Aging Society</td> <td>授業の進め方、評価など説明</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 Our Aging Society Unit 2 Holiday Memories</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 2 Holiday Memories</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 3 Sport</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 3 Sport Unit 4 Foreign Workers</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 4 Foreign Workers</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 5 Lifestyles</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 5 Lifestyles Unit 6 Sizes</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 6 Sizes</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 7 Bathrooms</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 7 Bathrooms Unit 8 Weather and Global Warming</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 8 Weather and Global Warming</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ユニットの復習、定期試験の準備</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加など</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	オリエンテーション Unit 1 Our Aging Society	授業の進め方、評価など説明	演習、小テスト、授業参加など	2	Unit 1 Our Aging Society Unit 2 Holiday Memories	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	3	Unit 2 Holiday Memories	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	4	Unit 3 Sport	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	5	Unit 3 Sport Unit 4 Foreign Workers	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	6	Unit 4 Foreign Workers	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	7	Unit 5 Lifestyles	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	8	Unit 5 Lifestyles Unit 6 Sizes	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	9	Unit 6 Sizes	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	10	Unit 7 Bathrooms	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	11	Unit 7 Bathrooms Unit 8 Weather and Global Warming	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	12	Unit 8 Weather and Global Warming	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など	13	ユニットの復習、定期試験の準備	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	オリエンテーション Unit 1 Our Aging Society	授業の進め方、評価など説明	演習、小テスト、授業参加など																																																						
2	Unit 1 Our Aging Society Unit 2 Holiday Memories	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																						
3	Unit 2 Holiday Memories	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																						
4	Unit 3 Sport	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																						
5	Unit 3 Sport Unit 4 Foreign Workers	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																						
6	Unit 4 Foreign Workers	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																						
7	Unit 5 Lifestyles	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																						
8	Unit 5 Lifestyles Unit 6 Sizes	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																						
9	Unit 6 Sizes	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																						
10	Unit 7 Bathrooms	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																						
11	Unit 7 Bathrooms Unit 8 Weather and Global Warming	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																						
12	Unit 8 Weather and Global Warming	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																						
13	ユニットの復習、定期試験の準備	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加など																																																						
<p>関連科目</p>	他の英語科目																																																								
<p>教科書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Indicator 2</td> <td>Terry O'Brien, 他</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Indicator 2	Terry O'Brien, 他	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																						
1	English Indicator 2	Terry O'Brien, 他	南雲堂																																																						
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																						
3																																																									
<p>参考書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																						
1																																																									
2																																																									
3																																																									
<p>評価の時期・ 方法・基準</p>	<p>全学共通英語課題 A20% 全学共通英語課題 B10% 授業への参加、貢献(小テスト、定期試験等含む) 70%</p> <p>※授業態度に問題のある場合(遅刻、居眠り、私語、携帯電話の使用、許可なく途中退席する、教科書を持参しないなど)は教室に来ていても「欠席」扱いとします。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めません。</p>																																																								
<p>学生への メッセージ</p>	着実に英語の基礎力を身につけることができるよう、じっくりと進めていきます。積極的かつ集中して授業に臨んでください。																																																								
<p>担当者の 研究室等</p>	1号館2階 非常勤講師室																																																								
<p>備考、</p>	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をお																																																								

事前・事後 学習課題	およそ 30 時間程度とする。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※授業計画は進度によって変更する場合があります。
---------------	--



科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沢田 美保子
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1303c1		

基礎科目

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>授業概要・目的： 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>到達目標： (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>																																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業方針説明 Unit 1</td> <td>講義と演習、単語クイズ学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Vocabulary quiz 1 Unit 1: Phone Dirt Reveals Personal Data</td> <td>講義と演習、単語クイズ学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Vocabulary quiz 2 Unit 2: Driverless Buses</td> <td>講義と演習、単語クイズ学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Vocabulary quiz 3 Unit 3: Stealth Keys</td> <td>講義と演習、単語クイズ学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Vocabulary quiz 4 Unit 4: Unfamiliar Sources of Energy</td> <td>講義と演習、単語クイズ学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Vocabulary quiz 5 Unit 5: Delivery by Drone</td> <td>講義と演習、単語クイズ学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Review</td> <td>まとめのテスト(1-5)</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Vocabulary quiz 6 Unit 6: Uber and its Future</td> <td>講義と演習、単語クイズ学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Vocabulary quiz 7 Unit 7: Convenience stores in Japan</td> <td>講義と演習、単語クイズ学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Vocabulary quiz 8 Unit 8: Learn English with a Robot</td> <td>講義と演習、単語クイズ学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Vocabulary quiz 9 Unit 9: Noise Level and Disease</td> <td>講義と演習、単語クイズ学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Vocabulary quiz 10 Unit 10: Reading Faces</td> <td>講義と演習、単語クイズ学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Review 定期試験準備学習</td> <td>講義と演習、単語クイズ学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	授業方針説明 Unit 1	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など	2	Vocabulary quiz 1 Unit 1: Phone Dirt Reveals Personal Data	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など	3	Vocabulary quiz 2 Unit 2: Driverless Buses	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など	4	Vocabulary quiz 3 Unit 3: Stealth Keys	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など	5	Vocabulary quiz 4 Unit 4: Unfamiliar Sources of Energy	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など	6	Vocabulary quiz 5 Unit 5: Delivery by Drone	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など	7	Review	まとめのテスト(1-5)	演習、小テスト、授業参加態度など	8	Vocabulary quiz 6 Unit 6: Uber and its Future	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など	9	Vocabulary quiz 7 Unit 7: Convenience stores in Japan	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など	10	Vocabulary quiz 8 Unit 8: Learn English with a Robot	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など	11	Vocabulary quiz 9 Unit 9: Noise Level and Disease	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など	12	Vocabulary quiz 10 Unit 10: Reading Faces	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など	13	Review 定期試験準備学習	講義と演習、単語クイズ学習
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																					
1	授業方針説明 Unit 1	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
2	Vocabulary quiz 1 Unit 1: Phone Dirt Reveals Personal Data	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
3	Vocabulary quiz 2 Unit 2: Driverless Buses	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
4	Vocabulary quiz 3 Unit 3: Stealth Keys	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
5	Vocabulary quiz 4 Unit 4: Unfamiliar Sources of Energy	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
6	Vocabulary quiz 5 Unit 5: Delivery by Drone	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
7	Review	まとめのテスト(1-5)	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
8	Vocabulary quiz 6 Unit 6: Uber and its Future	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
9	Vocabulary quiz 7 Unit 7: Convenience stores in Japan	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
10	Vocabulary quiz 8 Unit 8: Learn English with a Robot	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
11	Vocabulary quiz 9 Unit 9: Noise Level and Disease	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
12	Vocabulary quiz 10 Unit 10: Reading Faces	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
13	Review 定期試験準備学習	講義と演習、単語クイズ学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
関連科目	他の英語科目																																																							
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Science in Our Daily Life</td> <td>Kobayashi Toshihiko, Bill Benfield</td> <td>SEIBIDO 成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Science in Our Daily Life	Kobayashi Toshihiko, Bill Benfield	SEIBIDO 成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																										
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																					
1	Science in Our Daily Life	Kobayashi Toshihiko, Bill Benfield	SEIBIDO 成美堂																																																					
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																					
3																																																								
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																										
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																					
1																																																								
2																																																								
3																																																								
評価の時期・ 方法・基準	<p>全学共通英語課題 A 20%</p> <p>全学共通英語課題 B 10%</p> <p>授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト、定期試験等も含む） 70%</p>																																																							
学生への メッセージ	辞書必携																																																							
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室																																																							
備考、 事前・事後 学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																							

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩永 道子
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP4△		
科目ナンバリング	YEN1303c1		

<p>コース・ユニット・一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>到達目標： (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>
----------------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業方針の説明と テキスト Unit 1 The Origin of Life on Earth	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	2	Unit 2 Fossils	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	3	Unit 3 The Diversity of Life	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	4	プリント教材にて TOEIC の問題演習	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	5	Unit 4 Endangered and Extinct Species	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	6	Unit 5 Ancient DNA	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	7	Unit 6 Little People	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	8	プリント教材による TOEIC 問題演習	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	9	Unit 7 Waste Disposal	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	10	Unit 8 The Biggest Challenge	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	11	Unit 9 Stem Cells	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	12	プリント教材による TOEIC 問題演習	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	13	Unit 10 Malaria	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Our Unique Planet	IAN BOWRING, RUYH URBOM	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準	<p>全学共通英語課題 A 20%</p> <p>全学共通英語課題 B 10%</p> <p>授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト、定期試験等も含む） 70%</p>
-------------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--------------	---

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村木 美紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1303c1		

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>到達目標： (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>
--------------------------------	---

<p>授業計画</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について</td> <td>講義・演習</td> <td>提出物 授業態度</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Chapter 1: Telephone 1</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Chapter 2: Business E-mail</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Chapter 3: Telephone 2</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Chapter 4: Business Letter</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Chapter 5: At the Reception Desk</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Chapter 6: Corporate Websites</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Chapter 7: Company Profile</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Chapter 8: Product Advertisements</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Chapter 9: Your Job</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Chapter 10: Product Specifications</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Chapter 11: Business Plans</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Chapter 12: Operating Instructions</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について	講義・演習	提出物 授業態度	2	Chapter 1: Telephone 1	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	3	Chapter 2: Business E-mail	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	4	Chapter 3: Telephone 2	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	5	Chapter 4: Business Letter	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	6	Chapter 5: At the Reception Desk	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	7	Chapter 6: Corporate Websites	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	8	Chapter 7: Company Profile	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	9	Chapter 8: Product Advertisements	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	10	Chapter 9: Your Job	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	11	Chapter 10: Product Specifications	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	12	Chapter 11: Business Plans	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度	13	Chapter 12: Operating Instructions	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について	講義・演習	提出物 授業態度																																																						
2	Chapter 1: Telephone 1	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
3	Chapter 2: Business E-mail	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
4	Chapter 3: Telephone 2	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
5	Chapter 4: Business Letter	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
6	Chapter 5: At the Reception Desk	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
7	Chapter 6: Corporate Websites	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
8	Chapter 7: Company Profile	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
9	Chapter 8: Product Advertisements	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
10	Chapter 9: Your Job	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
11	Chapter 10: Product Specifications	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
12	Chapter 11: Business Plans	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
13	Chapter 12: Operating Instructions	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						

関連科目	他の英語科目
------	--------

<p>教科書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Getting Global! Engineer Your Future with English 将来のキャリアに生かす大学生のためのコミュニケーション英語</td> <td>辻本智子、野ロジュディー、深山晶子、棕平淳、桐村亮、村尾純子 編著</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Getting Global! Engineer Your Future with English 将来のキャリアに生かす大学生のためのコミュニケーション英語	辻本智子、野ロジュディー、深山晶子、棕平淳、桐村亮、村尾純子 編著	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Getting Global! Engineer Your Future with English 将来のキャリアに生かす大学生のためのコミュニケーション英語	辻本智子、野ロジュディー、深山晶子、棕平淳、桐村亮、村尾純子 編著	金星堂														
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂														
3																	

<p>参考書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

<p>評価の時期・ 方法・基準</p>	<p>全学共通英語課題 A 20%</p> <p>全学共通英語課題 B 10%</p> <p>定期試験 25%</p> <p>授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 45%</p>
-------------------------	---

<p>学生への メッセージ</p>	<p>将来皆さんが広く社会で活躍する場面を想定して、実践で役立つ英語運用能力を身につけることを目指します。英語が苦手だと感じている人にも、コミュニケーションツールとしての英語を自然に使いこなせると感じてもらえるような授業を行いたいと思います。 毎授業に辞書を必ず持参すること。</p>
-----------------------	--

<p>担当者の 研究室等</p>	1号館2階非常勤講師室
<p>備考、</p>	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をお

事前・事後 学習課題	およそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室に対応する。
---------------	---

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沢田 美保子
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1304c1		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>「授業概要・目的」 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>「到達目標」 (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。 (5) TOEIC480点以上を狙える力を身につける。</p> <p>「授業方法と留意点」 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>「科目学習の効果(資格)」 TOEIC, 英検等</p>																																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Orientation TOEIC 受験説明 Unit 8</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Vocabulary quiz 1 Unit 8, 9</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Vocabulary quiz 2 Unit 9</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Vocabulary quiz 3 Unit 10</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Vocabulary quiz 4 Unit 10, 11</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Vocabulary quiz 5 Unit 11</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Vocabulary quiz 6 Review 8-11</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Vocabulary quiz 7 Unit 12</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Vocabulary quiz 8 Unit 12, 13</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Vocabulary quiz 9 Unit 13</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Vocabulary quiz 10 Unit 14</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Vocabulary quiz 11 TOEIC 模擬テスト</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Vocabulary quiz 12 後期復習と試験準備学習</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	Orientation TOEIC 受験説明 Unit 8	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	2	Vocabulary quiz 1 Unit 8, 9	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	3	Vocabulary quiz 2 Unit 9	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	4	Vocabulary quiz 3 Unit 10	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	5	Vocabulary quiz 4 Unit 10, 11	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	6	Vocabulary quiz 5 Unit 11	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	7	Vocabulary quiz 6 Review 8-11	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	8	Vocabulary quiz 7 Unit 12	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	9	Vocabulary quiz 8 Unit 12, 13	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	10	Vocabulary quiz 9 Unit 13	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	11	Vocabulary quiz 10 Unit 14	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	12	Vocabulary quiz 11 TOEIC 模擬テスト	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	13	Vocabulary quiz 12 後期復習と試験準備学習	講義と演習、単語テスト 学習
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																					
1	Orientation TOEIC 受験説明 Unit 8	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																					
2	Vocabulary quiz 1 Unit 8, 9	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																					
3	Vocabulary quiz 2 Unit 9	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																					
4	Vocabulary quiz 3 Unit 10	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																					
5	Vocabulary quiz 4 Unit 10, 11	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																					
6	Vocabulary quiz 5 Unit 11	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																					
7	Vocabulary quiz 6 Review 8-11	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																					
8	Vocabulary quiz 7 Unit 12	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																					
9	Vocabulary quiz 8 Unit 12, 13	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																					
10	Vocabulary quiz 9 Unit 13	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																					
11	Vocabulary quiz 10 Unit 14	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																					
12	Vocabulary quiz 11 TOEIC 模擬テスト	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																					
13	Vocabulary quiz 12 後期復習と試験準備学習	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																					
関連科目	他の英語科目																																																							
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Best practice for the TOEIC Listening and Reading Test (Revised Edition)</td> <td>Yoshizuka Hiroshi</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td></td> <td>SEIBIDO</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Best practice for the TOEIC Listening and Reading Test (Revised Edition)	Yoshizuka Hiroshi	SEIBIDO	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		SEIBIDO																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																					
1	Best practice for the TOEIC Listening and Reading Test (Revised Edition)	Yoshizuka Hiroshi	SEIBIDO																																																					
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		SEIBIDO																																																					
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1																																																		
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																					
1																																																								
評価の時期・ 方法・基準	<p>クラス演習、提出物、小テスト、授業参加度 60%</p> <p>定期試験 40%</p> <p>具体的には授業で提示 100点満点中 60点以上で合格</p>																																																							
学生への メッセージ	辞書必携																																																							
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室																																																							
備考、 事前・事後 学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																							

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩永 道子
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1304c1		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>「授業概要・目的」 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>「到達目標」 (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。 (5) TOEIC480点以上を狙える力を身につける。</p> <p>「授業方法と留意点」 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>「科目学習の効果(資格)」 TOEIC, 英検等</p>																																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業方針の説明と テキスト Unit 7 前半</td> <td>講義・演習</td> <td>授業終了後の定期試験 演習発表</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 7 後半</td> <td>講義・演習</td> <td>授業終了後の定期試験 演習発表</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 8 前半</td> <td>講義・演習</td> <td>授業終了後の定期試験 演習発表</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 8 後半</td> <td>講義・演習</td> <td>授業終了後の定期試験 演習発表</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>プリント教材によるリーディング演習</td> <td>講義・演習</td> <td>授業終了後の定期試験 演習発表</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 9 前半</td> <td>講義・演習</td> <td>授業終了後の定期試験 演習発表</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 9 後半</td> <td>講義・演習</td> <td>授業終了後の定期試験 演習発表</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 10 前半</td> <td>講義・演習</td> <td>授業終了後の定期試験 演習発表</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 10 後半</td> <td>講義・演習</td> <td>授業終了後の定期試験 演習発表</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>プリント教材によるリーディング演習</td> <td>講義・演習</td> <td>授業終了後の定期試験 演習発表</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 11 前半</td> <td>講義・演習</td> <td>授業終了後の定期試験 演習発表</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 11 後半</td> <td>講義・演習</td> <td>授業終了後の定期試験 演習発表</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 12</td> <td>講義・演習</td> <td>授業終了後の定期試験 演習発表</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	授業方針の説明と テキスト Unit 7 前半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表	2	Unit 7 後半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表	3	Unit 8 前半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表	4	Unit 8 後半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表	5	プリント教材によるリーディング演習	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表	6	Unit 9 前半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表	7	Unit 9 後半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表	8	Unit 10 前半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表	9	Unit 10 後半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表	10	プリント教材によるリーディング演習	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表	11	Unit 11 前半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表	12	Unit 11 後半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表	13	Unit 12	講義・演習
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																					
1	授業方針の説明と テキスト Unit 7 前半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表																																																					
2	Unit 7 後半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表																																																					
3	Unit 8 前半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表																																																					
4	Unit 8 後半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表																																																					
5	プリント教材によるリーディング演習	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表																																																					
6	Unit 9 前半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表																																																					
7	Unit 9 後半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表																																																					
8	Unit 10 前半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表																																																					
9	Unit 10 後半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表																																																					
10	プリント教材によるリーディング演習	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表																																																					
11	Unit 11 前半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表																																																					
12	Unit 11 後半	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表																																																					
13	Unit 12	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表																																																					
関連科目																																																								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Welcome to the TOEIC Test</td> <td>Yoshio Kitahara</td> <td>朝日出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Welcome to the TOEIC Test	Yoshio Kitahara	朝日出版	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)			3																																										
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																					
1	Welcome to the TOEIC Test	Yoshio Kitahara	朝日出版																																																					
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)																																																							
3																																																								
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																										
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																					
1																																																								
2																																																								
3																																																								
評価の時期・ 方法・基準	定期試験(70%)、小テスト(10%)、課題・発表点(20%)で総合的に評価する。 100点満点中60点以上で合格。出席は評価に入らないが、3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																							
学生への メッセージ																																																								
担当者の 研究室等	1号館2階(非常勤講師室)																																																							
備考、 事前・事後 学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																							

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	箕田 正開
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1304c1		

基礎科目

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>「授業概要・目的」</p> <p>比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p>
	<p>「到達目標」</p> <p>(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。</p> <p>(2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。</p> <p>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。</p> <p>(4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。</p> <p>(5) TOEIC480点以上を狙える力を身につける。</p>
	<p>「授業方法と留意点」</p> <p>演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p>

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業方針の説明 Unit11: 入試に英語を加える学校が増加	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	2	Unit12: 国際機関、海底地形に日本語名を認める	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	3	Unit13: 語学学校、アジアの労働者を日本に向けのねらい	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	4	Unit14: 買い物アプリ、食品ロスを減らすため試験運用	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	5	Unit15: サウジの女性、競技場でサッカー観戦の権利を得る	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	6	Unit16: Oxfam、次の経済フォーラムで富の格差に焦点化	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	7	Unit17: 酸素不足、世界の海の珊瑚を傷つける	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	8	Unit18: 2020年向けの翻訳システム、表情を読み取る	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	9	Unit19: NASA、積雪を測るスキーヤーを求める	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	10	Unit20: 米国の州、公民権運動の史跡ツアーを促進	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	11	プリント配布	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	12	プリント配布	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	13	復習、小テスト	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World 2019	Yasuhiko Wakaari	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準	定期試験（50%）、クラス演習・提出物（50%）で総合的に評価します。具体的には授業で指示します。100点満点中60点以上で合格。
学生へのメッセージ	毎回与えられる課題は授業時間内に完成して提出が求められるので、課題に熱心に取り組んでください。
担当者の研究室等	1号館2階(非常勤講師室)
備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村木 美紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1304c1		

<p>コース・ユニット・一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。</p> <p>到達目標： (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。 (4) TOEIC480点以上を狙える力を身につける。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>
----------------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について 教科書 Unit 1 (Entertainment) Grammar Focus: 文型、名詞	講義・演習	クラス提出物、授業態度
	2	教科書 Unit 2 (Personnel) Grammar Focus: 現在形、代名詞	事前自己学習、講義・演習	クラス提出物・小テスト、授業態度
	3	教科書 Unit 3 (Office Work & Supplies) Grammar Focus: 過去形、形容詞	事前自己学習、講義・演習	クラス提出物・小テスト、授業態度
	4	教科書 Unit 4 (Office Messages) Grammar Focus: 未来形、冠詞	事前自己学習、講義・演習	クラス提出物・小テスト、授業態度
	5	教科書 Unit 5 (Eating Out) Grammar Focus: 進行形、副詞	事前自己学習、講義・演習	クラス提出物・小テスト、授業態度
	6	教科書 Unit 15 (Health) Grammar Focus: 前置詞、感嘆文	事前自己学習、講義・演習	クラス提出物・小テスト、授業態度
	7	教科書 Unit 7 (Research and Merchandise Development) Grammar Focus: 助動詞、動詞	事前自己学習、講義・演習	クラス提出物・小テスト、授業態度
	8	教科書 Unit 8 (Finance and Budgets) Grammar Focus: 受動態、不定詞	事前自己学習、講義・演習	クラス提出物・小テスト、授業態度
	9	教科書 Unit 9 (Purchases) Grammar Focus: 時制の一致、分詞	事前自己学習、講義・演習	クラス提出物・小テスト、授業態度
	10	教科書 Unit 10 (Manufacturing) Grammar Focus: 主語と動詞の呼応、動名詞	事前自己学習、講義・演習	クラス提出物・小テスト、授業態度
	11	教科書 Unit 11 (Marketing & Sales) Grammar Focus: 仮定法	事前自己学習、講義・演習	クラス提出物・小テスト、授業態度
	12	教科書 Unit 12 (Travel) Grammar Focus: 平叙文、関係詞	事前自己学習、講義・演習	クラス提出物・小テスト、授業態度
	13	教科書 Unit 13 (Contracts & Negotiations) Grammar Focus: 命令文、等位接続詞	事前自己学習、講義・演習	クラス提出物・小テスト、授業態度

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SUCCESSFUL STEPS FOR THE TOEIC L&R TEST (NEW EDITION)	Hisakazu Tsukano, Atsuko Yamamoto 他	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・方法・基準  
 定期試験：30%  
 授業中の課題（提出物・小テスト）：65%  
 授業態度：5%  
 100点満点中60点以上で合格。

学生へのメッセージ  
 このクラスでは、前期のIcで学んだことを踏まえてTOEICのスコアアップを目指した演習を中心に行いますが、writingやspeaking演習も取り入れて実践的な英語力を身につけることを目指します。製薬企業や医療機関でますます英語コミュニケーションが必要となっている現状も積極的に紹介し、演習に反映していきたいと思っております。

担当者の研究室等  
 1号館2階(非常勤講師室)

備考、事前・事後学習課題  
 毎授業に辞書を必ず持参すること。  
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井寺 利奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1304c1		

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>「授業概要・目的」 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>「到達目標」 (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。 (5) TOEIC480点以上を狙える力を身につける。</p> <p>「授業方法と留意点」 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ※授業には必ず辞書を持参してください。</p> <p>「科目学習の効果(資格)」 TOEIC, 英検等</p>
--------------------------------	--

授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション Unit 9 Recycling</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 態度</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 9 Recycling Unit 10 Commuting</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 態度</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 10 Commuting</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 態度</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 11 Crumbling Britain</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 態度</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 11 Crumbling Britain Unit 12 Advertising</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 態度</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 12 Advertising</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 態度</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 13 Technology and Us</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 態度</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 13 Technology and Us Unit 14 Cars: Transport or Status</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 態度</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 14 Cars: Transport or Status</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 態度</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 15 Our Education</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 態度</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 15 Our Education</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 態度</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>時事英語</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 態度</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>後期復習と試験準備学習</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 態度</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	オリエンテーション Unit 9 Recycling	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度	2	Unit 9 Recycling Unit 10 Commuting	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度	3	Unit 10 Commuting	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度	4	Unit 11 Crumbling Britain	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度	5	Unit 11 Crumbling Britain Unit 12 Advertising	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度	6	Unit 12 Advertising	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度	7	Unit 13 Technology and Us	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度	8	Unit 13 Technology and Us Unit 14 Cars: Transport or Status	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度	9	Unit 14 Cars: Transport or Status	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度	10	Unit 15 Our Education	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度	11	Unit 15 Our Education	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度	12	時事英語	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度	13	後期復習と試験準備学習	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	オリエンテーション Unit 9 Recycling	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度																																																						
2	Unit 9 Recycling Unit 10 Commuting	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度																																																						
3	Unit 10 Commuting	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度																																																						
4	Unit 11 Crumbling Britain	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度																																																						
5	Unit 11 Crumbling Britain Unit 12 Advertising	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度																																																						
6	Unit 12 Advertising	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度																																																						
7	Unit 13 Technology and Us	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度																																																						
8	Unit 13 Technology and Us Unit 14 Cars: Transport or Status	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度																																																						
9	Unit 14 Cars: Transport or Status	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度																																																						
10	Unit 15 Our Education	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度																																																						
11	Unit 15 Our Education	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度																																																						
12	時事英語	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度																																																						
13	後期復習と試験準備学習	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 態度																																																						

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicator 2	Terry O'Brien、他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・ 方法・基準	<p>定期試験 40% 小テスト・口頭発表・授業態度 60%</p> <p>※授業態度に問題のある場合(遅刻、居眠り、私語、携帯電話の使用、許可なく途中退席する、教科書を持参しないなど)は教室に来ていても「欠席」扱いとします。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めません。</p>
-----------------	--

学生への メッセージ	着実に英語の基礎力を身につけることができるよう、じっくりと進めていきます。積極的かつ集中して授業に臨んでください。
---------------	---

担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室
--------------	--------------

備考、 事前・事後 学習課題	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※授業計画は進度によって変更する場合があります。</p>
----------------------	---

科目名	英語 I c	科目名 (英文)	English Ic
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1304c1		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>「授業概要・目的」 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>「到達目標」 (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。 (5) TOEIC480点以上を狙える力を身につける。</p> <p>「授業方法と留意点」 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>「科目学習の効果(資格)」 TOEIC, 英検等</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	Imagination and conditional advice	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	2	Comparison using analysis	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	3	Comparison for discovery and invention	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	4	Formal opinions I: what is the best	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	5	Formal opinions II: what is good and bad with reasons	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	6	Formal opinions III: what may be true or false with reasons, sources	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	7	Criteria for explanations	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	8	Tall tales with embellishment, deception	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	9	Patterns, methods, techniques in advertising and promotion	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	10	Mass media and the news in all formats	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	11	Evaluation and review according to criteria and comparison	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	12	Research methods and process: academic, scientific, anecdotal	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	13	Rethinking history: past speculation	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価の時期・方法・基準	Class tasks, quizzes, mini-tests 50%, Final exam 50% 100点満点中60点以上で合格。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室		
備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1305c1		

基礎科目

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>到達目標： (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>
--------------------------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	Imagination and conditional advice	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	2	Comparison using analysis	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	3	Comparison for discovery and invention	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	4	Formal opinions I: what is the best	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	5	Formal opinions II: what is good and bad with reasons	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	6	Formal opinions III: what may be true or false with reasons, sources	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	7	Criteria for explanations	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	8	Tall tales with embellishment, deception	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	9	Patterns, methods, techniques in advertising and promotion	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	10	Mass media and the news in all formats	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	11	Evaluation and review according to criteria and comparison	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	12	Research methods and process: academic, scientific, anecdotal	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes
	13	Rethinking history: past speculation	Task-based exercises with listening, speech, reading writing	Each class has 3 or 4 points from in-class tasks, mini-tests, quizzes

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト、定期試験等も含む） 70%
学生へのメッセージ	All students must attend every class.
担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	箕田 正開
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1305c1		

<p>コース・ユニット・一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>到達目標： (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>
----------------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業方針の説明 Unit11: 入試に英語を加える学校が増加	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	2	Unit12: 国際機関、海底地形に日本語名を認める	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	3	Unit13: 語学学校、アジアの労働者を日本に向けてのねらい	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	4	Unit14: 買い物アプリ、食品ロスを減らすため試験運用	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	5	Unit15: サウジの女性、競技場でサッカー観戦の権利を得る	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	6	Unit16: Oxfam, 次の経済フォーラムで富の格差に焦点化	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	7	Unit17: 酸素不足、世界の海の珊瑚を傷つける	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	8	Unit18: 2020年向けの翻訳システム、表情を読み取る	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	9	Unit19: NASA, 積雪を測るスキーヤーを求める	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	10	Unit20: 米国の州、公民権運動の史跡ツアーを促進	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	11	プリント配布	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	12	プリント配布	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験
	13	復習、小テスト	講義・演習 教科書の内容を補うプリントを配布する	提出物、クラス演習、単語テスト、定期試験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World 2019	Yasuhiko Wakaari	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準	<table> <tr> <td>全学共通英語課題 A</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>全学共通英語課題 B</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）</td> <td>35%</td> </tr> </table>	全学共通英語課題 A	20%	全学共通英語課題 B	10%	定期試験	35%	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）	35%
全学共通英語課題 A	20%								
全学共通英語課題 B	10%								
定期試験	35%								
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）	35%								
学生へのメッセージ	毎回与えられる課題は授業時間内に完成して提出が求められるので、課題に熱心に取り組んでください。								
担当者の研究室等	1号館2階(非常勤講師室)								
備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。								

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井寺 利奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1305c1		

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>「授業概要・目的」 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>「到達目標」 (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。</p> <p>「授業方法と留意点」 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ※授業には必ず辞書を持参してください。</p> <p>科目学習の効果(資格): TOEIC, 英検等</p>
--------------------------------	--

授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション Unit 9 Recycling</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 9 Recycling Unit 10 Commuting</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 10 Commuting</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 11 Crumbling Britain</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 11 Crumbling Britain Unit 12 Advertising</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 12 Advertising</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 13 Technology and Us</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 13 Technology and Us Unit 14 Cars: Transport or Status</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 14 Cars: Transport or Status</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 15 Our Education</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 15 Our Education</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>時事英語</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>後期復習と試験準備学習</td> <td>講義と演習、単語テスト 学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加 度</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	オリエンテーション Unit 9 Recycling	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	2	Unit 9 Recycling Unit 10 Commuting	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	3	Unit 10 Commuting	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	4	Unit 11 Crumbling Britain	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	5	Unit 11 Crumbling Britain Unit 12 Advertising	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	6	Unit 12 Advertising	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	7	Unit 13 Technology and Us	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	8	Unit 13 Technology and Us Unit 14 Cars: Transport or Status	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	9	Unit 14 Cars: Transport or Status	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	10	Unit 15 Our Education	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	11	Unit 15 Our Education	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	12	時事英語	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度	13	後期復習と試験準備学習	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	オリエンテーション Unit 9 Recycling	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																						
2	Unit 9 Recycling Unit 10 Commuting	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																						
3	Unit 10 Commuting	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																						
4	Unit 11 Crumbling Britain	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																						
5	Unit 11 Crumbling Britain Unit 12 Advertising	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																						
6	Unit 12 Advertising	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																						
7	Unit 13 Technology and Us	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																						
8	Unit 13 Technology and Us Unit 14 Cars: Transport or Status	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																						
9	Unit 14 Cars: Transport or Status	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																						
10	Unit 15 Our Education	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																						
11	Unit 15 Our Education	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																						
12	時事英語	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																						
13	後期復習と試験準備学習	講義と演習、単語テスト 学習	演習、小テスト、授業参加 度																																																						

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Indicator 2</td> <td>Terry O'Brien, 他</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Indicator 2	Terry O'Brien, 他	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	English Indicator 2	Terry O'Brien, 他	南雲堂														
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂														
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価の時期・ 方法・基準	<p>全学共通英語課題 A20% 全学共通英語課題 B10% 授業への参加、貢献(小テスト、定期試験等含む) 70%</p> <p>※授業態度に問題のある場合(遅刻、居眠り、私語、携帯電話の使用、許可なく途中退席する、教科書を持参しないなど)は教室に来ていても「欠席」扱いとします。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めません。</p>
-----------------	--

学生への メッセージ	着実に英語の基礎力を身につけることができるよう、じっくりと進めていきます。積極的かつ集中して授業に臨んでください。
---------------	---

担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室
--------------	--------------

備考、	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をお
-----	---

事前・事後 学習課題	およそ 30 時間程度とする。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※授業計画は進度によって変更する場合があります。
---------------	--



科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沢田 美保子
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1305c1		

基礎科目

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>授業概要・目的： 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>到達目標： (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>																																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Orientation Unit11</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Vocabulary quiz 1 Unit11: Meditation and Sports</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Vocabulary quiz 2 Unit12: Digital Disabilities</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Vocabulary quiz 3 Unit 13: Euglena Dietary Supplements</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Vocabulary quiz 4 Unit14: Facts about Koalas</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Vocabulary quiz 5 Unit15: Ants</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Review</td> <td>まとめのテスト (11-15)</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Vocabulary quiz 6 Unit16: Exotic Pets</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Vocabulary quiz 7 Unit 17: Culling Feral Cats</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Vocabulary quiz 8 Unit18: When Do We Become "Old"?</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Vocabulary quiz 9 Unit19: Protecting Earth from Collisions</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Vocabulary quiz 10 Unit 20: Migration to Mars</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Review 定期試験準備学習</td> <td>講義と演習、単語テスト学習</td> <td>演習、小テスト、授業参加態度など</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	Orientation Unit11	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など	2	Vocabulary quiz 1 Unit11: Meditation and Sports	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など	3	Vocabulary quiz 2 Unit12: Digital Disabilities	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など	4	Vocabulary quiz 3 Unit 13: Euglena Dietary Supplements	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など	5	Vocabulary quiz 4 Unit14: Facts about Koalas	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など	6	Vocabulary quiz 5 Unit15: Ants	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など	7	Review	まとめのテスト (11-15)	演習、小テスト、授業参加態度など	8	Vocabulary quiz 6 Unit16: Exotic Pets	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など	9	Vocabulary quiz 7 Unit 17: Culling Feral Cats	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など	10	Vocabulary quiz 8 Unit18: When Do We Become "Old"?	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など	11	Vocabulary quiz 9 Unit19: Protecting Earth from Collisions	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など	12	Vocabulary quiz 10 Unit 20: Migration to Mars	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など	13	Review 定期試験準備学習	講義と演習、単語テスト学習
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																					
1	Orientation Unit11	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
2	Vocabulary quiz 1 Unit11: Meditation and Sports	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
3	Vocabulary quiz 2 Unit12: Digital Disabilities	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
4	Vocabulary quiz 3 Unit 13: Euglena Dietary Supplements	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
5	Vocabulary quiz 4 Unit14: Facts about Koalas	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
6	Vocabulary quiz 5 Unit15: Ants	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
7	Review	まとめのテスト (11-15)	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
8	Vocabulary quiz 6 Unit16: Exotic Pets	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
9	Vocabulary quiz 7 Unit 17: Culling Feral Cats	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
10	Vocabulary quiz 8 Unit18: When Do We Become "Old"?	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
11	Vocabulary quiz 9 Unit19: Protecting Earth from Collisions	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
12	Vocabulary quiz 10 Unit 20: Migration to Mars	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
13	Review 定期試験準備学習	講義と演習、単語テスト学習	演習、小テスト、授業参加態度など																																																					
関連科目	他の英語科目																																																							
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Science in Our Daily Life</td> <td>Kobayashi Toshihiko, Bill Benfield</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Science in Our Daily Life	Kobayashi Toshihiko, Bill Benfield	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																										
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																					
1	Science in Our Daily Life	Kobayashi Toshihiko, Bill Benfield	成美堂																																																					
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																					
3																																																								
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																										
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																					
1																																																								
2																																																								
3																																																								
評価の時期・ 方法・基準	<p>全学共通英語課題 A 20%</p> <p>全学共通英語課題 B 10%</p> <p>授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト、定期試験等も含む） 70%</p>																																																							
学生への メッセージ	辞書必携																																																							
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室																																																							
備考、 事前・事後 学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																							

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩永 道子
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP4△		
科目ナンバリング	YEN1305c1		

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>到達目標： (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>
--------------------------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業方針の説明と テキスト Unit 13 The Formation of the Solar System	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	2	Unit 14 Volcanoes	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	3	Unit 15 Tsunamis	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	4	プリント教材にて TOEIC の問題演習	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	5	Unit 16 The Atmosphere	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	6	Unit 17 Undersea Mining	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	7	Unit 18 Space Probes	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	8	プリント教材による TOEIC 問題演習	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	9	Unit 19 Lunar Laboratory	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	10	Unit 20 Detecting Planet	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	11	Unit 21 Little Particles	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	12	プリント教材による TOEIC 問題演習	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表
	13	Unit 22 Big Science	講義・演習	授業終了後の定期試験 演習発表

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Our Unique Planet	IAN BOWRING, RUTH URBOM	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・ 方法・基準	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト、定期試験等も含む） 70%
-----------------	---

学生への メッセージ	
---------------	--

担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室
--------------	-------------

備考、 事前・事後 学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----------------------	---

科目名	英語 I d	科目名 (英文)	English Id
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村木 美紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN1305c1		

<p>コース・ユニット・一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>到達目標： (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>
----------------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について	講義・演習	提出物 授業態度
	2	Chapter 13: Talking about the News	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	3	Chapter 14: Science News	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	4	Chapter 15: Tourist Information	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	5	Chapter 16: Safety Signs	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	6	Chapter 17: Dinner Talk	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	7	Chapter 18: Abstracts	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	8	Chapter 19: Preparation for Meetings	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	9	Chapter 20: Data and Graphs	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	10	Chapter 21: Presentation 1	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	11	Chapter 22: Presentation 2	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	12	Chapter 23: Various requests	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	13	Chapter 24: Patent Description	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Getting Global! Engineer Your Future with English 将来のキャリアに生かす大学生のためのコミュニケーション英語	辻本智子、野ロジュディー、深山晶子、棕平淳、桐村亮、村尾純子 編著	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	定期試験	25%
	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）	45%

学生へのメッセージ	<p>将来皆さんが広く社会で活躍する場面を想定して、実践で役立つ英語運用能力を身につけることを目指します。製薬企業や医療機関でますます英語コミュニケーションが必要となってきた現状も積極的に紹介し、演習に反映していきたいと思ひます。</p> <p>毎授業に辞書を必ず持参すること。この授業では前期（英語 Ib）で使用した教科書を引き続き使用します。</p>
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考、 事前・事後 学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----------------------	---

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	P
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP4△		
科目ナンバリング	YEN2306c1		

基礎科目

<p>コース・ユニット・一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 英語Ⅰa,Ⅰb,Ⅰc,Ⅰdで学んだ4技能の基礎力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。</p> <p>到達目標： 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。 ・TOEIC550点以上を狙える力を身につける。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>
----------------------	---

<p>授業計画</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Unit 1: The Perfect Person</td> <td>Describing Personal Qualities</td> <td>授業中に指示 (1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 2: Worldwide Bookstores</td> <td>Making Suggestions</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 3: Loser Those Pounds</td> <td>Discussing Health</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 4: Living Well on Credit</td> <td>Describing Financial Situations</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 5: The Breakup</td> <td>Expressing Surprise</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 6: The Road to Mexico</td> <td>Making and Responding to Invitations</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 7: Who's to Blame?</td> <td>Being Frank and Joking</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 8: Looking at Art</td> <td>Talking about Natural Talents</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 9: What to Watch</td> <td>Relaxing</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 10: Two Tickets to the Concert</td> <td>Discussing Success</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 11: A Big Decision</td> <td>Talking about Easy and Difficult Things</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 12: Making the Right Choice</td> <td>Expressing Function</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 13: Caught on the Web</td> <td>Sharing Information</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	Unit 1: The Perfect Person	Describing Personal Qualities	授業中に指示 (1時間)	2	Unit 2: Worldwide Bookstores	Making Suggestions	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	3	Unit 3: Loser Those Pounds	Discussing Health	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	4	Unit 4: Living Well on Credit	Describing Financial Situations	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	5	Unit 5: The Breakup	Expressing Surprise	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	6	Unit 6: The Road to Mexico	Making and Responding to Invitations	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	7	Unit 7: Who's to Blame?	Being Frank and Joking	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	8	Unit 8: Looking at Art	Talking about Natural Talents	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	9	Unit 9: What to Watch	Relaxing	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	10	Unit 10: Two Tickets to the Concert	Discussing Success	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	11	Unit 11: A Big Decision	Talking about Easy and Difficult Things	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	12	Unit 12: Making the Right Choice	Expressing Function	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	13	Unit 13: Caught on the Web	Sharing Information	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	Unit 1: The Perfect Person	Describing Personal Qualities	授業中に指示 (1時間)																																																						
2	Unit 2: Worldwide Bookstores	Making Suggestions	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
3	Unit 3: Loser Those Pounds	Discussing Health	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
4	Unit 4: Living Well on Credit	Describing Financial Situations	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
5	Unit 5: The Breakup	Expressing Surprise	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
6	Unit 6: The Road to Mexico	Making and Responding to Invitations	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
7	Unit 7: Who's to Blame?	Being Frank and Joking	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
8	Unit 8: Looking at Art	Talking about Natural Talents	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
9	Unit 9: What to Watch	Relaxing	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
10	Unit 10: Two Tickets to the Concert	Discussing Success	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
11	Unit 11: A Big Decision	Talking about Easy and Difficult Things	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
12	Unit 12: Making the Right Choice	Expressing Function	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
13	Unit 13: Caught on the Web	Sharing Information	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Connection	角山照彦, Andrey Dubinsky, David Edward Keane	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	定期試験 40% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 60%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館2階 講師控室(月) 寝屋川キャンパス7号館3階 天野研究室(火～金)			
備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	英語 II a	科目名 (英文)	English IIa
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ユヅ マクト・ケイコ
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP4△		
科目ナンバリング	YEN2306c1		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p><b>授業概要</b></p> <p>目的 英語 I a, I b, I c, I d で学んだ 4 技能の基礎力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。</p> <p><b>到達目標</b></p> <p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p> <p>・TOEIC550 点を狙える力を身につける。</p> <p><b>授業方法と留意点</b></p> <p>演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p><b>科目学習の効果 (資格)</b></p> <p>TOEIC, 英検等</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	ファッション 1	コース紹介 教科書ユニット 1 "The Guy with the Green Hair" 新しい語彙 読解とリスニング ディスカッション	学習ユニット 1 語彙 (先生のプリント) ミニプレゼンテーションを準備する
	2	ファッション 2	ユニット 1 語彙テスト ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット 3 語彙 (先生のプリント)
	3	スマートフォン中毒 1	教科書ユニット 3 "I'm not Addicted" ユニット 3 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
	4	スマートフォン中毒 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット 4 語彙 (先生のプリント) レー
	5	SNS1	教科書ユニット 4 "Social Media Star" ユニット 4 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
	6	SNS2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット 5 語彙 (先生のプリント)
	7	ジェンダー問題 1	教科書ユニット 5 "Who pays?" ユニット 5 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
	8	ジェンダー問題 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット 7 語彙 (先生のプリント)
	9	モダンファミリー問題 1	教科書ユニット 7 "Family Values" ユニット 7 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
	10	モダンファミリー問題 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット 9 語彙 (先生のプリント)
	11	モダンファミリー問題 3	教科書ユニット 9 "A Visit to Grandma" ユニット 9 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する
	12	モダンファミリー問題 4	ディスカッション ミニプレゼンテーション	クラスプレゼンテーションのための実践
	13	クラスプレゼンテーション 定期テスト準備	生徒は自分の最高のミニプレゼンテーションをクラスに提示する 学生は質問に答える 学生は質問をする	学生はコースを見直すべきです
関連科目	他の英語科目			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Impact Issues 1	Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka	Pearson (ピアソン)
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	小テスト 30% フレーズミニクイズ 20% 定期テスト 40% 授業態度 10% 100点満点中60点以上で合格。			
学生へのメッセージ	英語学習は、繰り返しが重要ですので、コツコツ取り組むように。			
担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 II a	科目名 (英文)	English IIa
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山内 浩充
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP4△		
科目ナンバリング	YEN2306c1		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>授業概要・目的： 英語 Ia, Ib, Ic, Id で学んだ 4 技能の基礎力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。</p> <p>到達目標： 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。 ・TOEIC550 点以上を狙える力を身につける。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC, 英検等</p>																																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義の進め方、評価方法を説明</td> <td>単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1</td> <td>Unit 2 の予習 時制と進行形について学習</td> <td>単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 2</td> <td>Unit 3 の予習 完了形と態について学習</td> <td>単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 3</td> <td>Unit 4 の予習 文の構造について学習</td> <td>単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 4</td> <td>Unit 5 の予習 代名詞について学習</td> <td>単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 5</td> <td>Unit 6 の予習 形容詞と限定詞について学習</td> <td>単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 6</td> <td>Unit 7 の予習 準動詞：不定詞・分詞・動名詞について学習</td> <td>単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>これまでのまとめと中間テスト</td> <td>中間テストにむけての学習</td> <td>単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 7</td> <td>Unit 8 の予習 副詞と法助動詞について学習</td> <td>単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 8</td> <td>Unit 9 の予習 仮定法について学習</td> <td>単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 9</td> <td>Unit 10 の予習 接続詞と分詞構文について学習</td> <td>単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 10</td> <td>Unit 11 の予習 完了形と完了進行形について学習</td> <td>単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 11</td> <td>Unit 12 の予習 関係詞について学習</td> <td>単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法を説明	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験	2	Unit 1	Unit 2 の予習 時制と進行形について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験	3	Unit 2	Unit 3 の予習 完了形と態について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験	4	Unit 3	Unit 4 の予習 文の構造について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験	5	Unit 4	Unit 5 の予習 代名詞について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験	6	Unit 5	Unit 6 の予習 形容詞と限定詞について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験	7	Unit 6	Unit 7 の予習 準動詞：不定詞・分詞・動名詞について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験	8	これまでのまとめと中間テスト	中間テストにむけての学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験	9	Unit 7	Unit 8 の予習 副詞と法助動詞について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験	10	Unit 8	Unit 9 の予習 仮定法について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験	11	Unit 9	Unit 10 の予習 接続詞と分詞構文について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験	12	Unit 10	Unit 11 の予習 完了形と完了進行形について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験	13	Unit 11	Unit 12 の予習 関係詞について学習
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																					
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法を説明	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験																																																					
2	Unit 1	Unit 2 の予習 時制と進行形について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験																																																					
3	Unit 2	Unit 3 の予習 完了形と態について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験																																																					
4	Unit 3	Unit 4 の予習 文の構造について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験																																																					
5	Unit 4	Unit 5 の予習 代名詞について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験																																																					
6	Unit 5	Unit 6 の予習 形容詞と限定詞について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験																																																					
7	Unit 6	Unit 7 の予習 準動詞：不定詞・分詞・動名詞について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験																																																					
8	これまでのまとめと中間テスト	中間テストにむけての学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験																																																					
9	Unit 7	Unit 8 の予習 副詞と法助動詞について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験																																																					
10	Unit 8	Unit 9 の予習 仮定法について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験																																																					
11	Unit 9	Unit 10 の予習 接続詞と分詞構文について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験																																																					
12	Unit 10	Unit 11 の予習 完了形と完了進行形について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験																																																					
13	Unit 11	Unit 12 の予習 関係詞について学習	単語テスト・観察記録・中間テスト・定期試験																																																					
関連科目	他の英語科目																																																							
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Start up Course for the TOEIC L&amp;R Test</td> <td>北山長貴/Bill Benfield</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Start up Course for the TOEIC L&R Test	北山長貴/Bill Benfield	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	3																																										
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																					
1	Start up Course for the TOEIC L&R Test	北山長貴/Bill Benfield	成美堂																																																					
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂																																																					
3																																																								
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																										
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																					
1																																																								
2																																																								
3																																																								
評価の時期・ 方法・基準	<p>定期試験以外に中間テストを実施する。 単語テスト（20%）、 観察記録（出席・予習を含めた、授業への参加）（20%）、 中間テストと期末試験の平均（60%）。 100 点満点中 60 点以上で合格。</p>																																																							
学生への メッセージ	<p>英語学習は、繰り返しが重要ですので、コツコツ取り組むように。</p> <p>英語辞書必ず持参の事</p>																																																							
担当者の 研究室等	1 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																							

備考、  
事前・事後  
学習課題

毎回の授業のためのテキストの読み込み、小テストの準備などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。



科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	S
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ヘドリックⅢ ロイ
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP4△		
科目ナンバリング	YEN2306c1		

基礎科目

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>授業概要・目的</p> <p>英語 Ia, Ib, Ic, Id で学んだ 4 技能の基礎力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。</p> <p>到達目標</p> <p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p> <p>・TOEIC550 点を狙える力を身につける。</p> <p>授業方法と留意点</p> <p>演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果 (資格)</p> <p>TOEIC, 英検等</p>																																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について ①教科書: Unit 1 Restaurant ②Handouts</td> <td>講義、演習</td> <td>提出物 授業態度</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>①教科書: Unit 2 Entertainment ②Handouts</td> <td>事前自己学習 (Unit 2)、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>①教科書: Unit 3 Business ②Handouts</td> <td>事前自己学習 (Unit 3)、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>①教科書: Unit 4 Office ②Handouts</td> <td>事前自己学習 (Unit 4)、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>①教科書: Unit 5 Telephone ②Handouts</td> <td>事前自己学習 (Unit 5)、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>①教科書: Unit 6 Letter &amp; E-mail ②Handouts</td> <td>事前自己学習 (Unit 6)、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>①教科書: Unit 7 Health ②Handouts</td> <td>事前自己学習 (Unit 7)、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>①教科書: Unit 8 Bank &amp; Post Office ②Handouts</td> <td>事前自己学習 (Unit 8)、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>①教科書: Unit 9 New Products ②Handouts</td> <td>事前自己学習 (Unit 9)、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>①教科書: Unit 10 Travel 1 ②Handouts</td> <td>事前自己学習 (Unit 10)、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>①教科書: Unit 11 Travel 2 ②Handouts</td> <td>事前自己学習 (Unit 11)、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>①教科書: Unit 12 Job Applications ②Handouts</td> <td>事前自己学習 (Unit 12)、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>①教科書: Unit 13 Shopping ②Handouts</td> <td>事前自己学習 (Unit 13)、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について ①教科書: Unit 1 Restaurant ②Handouts	講義、演習	提出物 授業態度	2	①教科書: Unit 2 Entertainment ②Handouts	事前自己学習 (Unit 2)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	3	①教科書: Unit 3 Business ②Handouts	事前自己学習 (Unit 3)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	4	①教科書: Unit 4 Office ②Handouts	事前自己学習 (Unit 4)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	5	①教科書: Unit 5 Telephone ②Handouts	事前自己学習 (Unit 5)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	6	①教科書: Unit 6 Letter & E-mail ②Handouts	事前自己学習 (Unit 6)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	7	①教科書: Unit 7 Health ②Handouts	事前自己学習 (Unit 7)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	8	①教科書: Unit 8 Bank & Post Office ②Handouts	事前自己学習 (Unit 8)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	9	①教科書: Unit 9 New Products ②Handouts	事前自己学習 (Unit 9)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	10	①教科書: Unit 10 Travel 1 ②Handouts	事前自己学習 (Unit 10)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	11	①教科書: Unit 11 Travel 2 ②Handouts	事前自己学習 (Unit 11)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	12	①教科書: Unit 12 Job Applications ②Handouts	事前自己学習 (Unit 12)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	13	①教科書: Unit 13 Shopping ②Handouts	事前自己学習 (Unit 13)、講義、演習
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																					
1	オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について ①教科書: Unit 1 Restaurant ②Handouts	講義、演習	提出物 授業態度																																																					
2	①教科書: Unit 2 Entertainment ②Handouts	事前自己学習 (Unit 2)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
3	①教科書: Unit 3 Business ②Handouts	事前自己学習 (Unit 3)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
4	①教科書: Unit 4 Office ②Handouts	事前自己学習 (Unit 4)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
5	①教科書: Unit 5 Telephone ②Handouts	事前自己学習 (Unit 5)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
6	①教科書: Unit 6 Letter & E-mail ②Handouts	事前自己学習 (Unit 6)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
7	①教科書: Unit 7 Health ②Handouts	事前自己学習 (Unit 7)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
8	①教科書: Unit 8 Bank & Post Office ②Handouts	事前自己学習 (Unit 8)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
9	①教科書: Unit 9 New Products ②Handouts	事前自己学習 (Unit 9)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
10	①教科書: Unit 10 Travel 1 ②Handouts	事前自己学習 (Unit 10)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
11	①教科書: Unit 11 Travel 2 ②Handouts	事前自己学習 (Unit 11)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
12	①教科書: Unit 12 Job Applications ②Handouts	事前自己学習 (Unit 12)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
13	①教科書: Unit 13 Shopping ②Handouts	事前自己学習 (Unit 13)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																					
関連科目	なし																																																							
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST</td> <td>吉塚 弘、Michael Schauerte</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test)</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	吉塚 弘、Michael Schauerte	成美堂	2	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test)	西谷恒志	成美堂	3																																										
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																					
1	BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	吉塚 弘、Michael Schauerte	成美堂																																																					
2	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test)	西谷恒志	成美堂																																																					
3																																																								
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																										
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																					
1																																																								
2																																																								
3																																																								
評価の時期・ 方法・基準	<p>定期試験：30%</p> <p>授業中の課題（提出物・小テスト）：65%</p> <p>授業態度：5%</p> <p>100 点満点中 60 点以上で合格。</p> <p>授業中の演習と提出物・小テスト等が評価の中心となるので、3 回を超える欠席者には原則として単位を認めません。</p>																																																							

<p>学生への メッセージ</p>	<p>指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。</p> <p>This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.</p> <p>毎授業に辞書を必ず持参すること。</p> <p>自己学習課題については授業中に事前に指示します。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>1号館2階 非常勤講師室</p>
<p>備考、 事前・事後 学習課題</p>	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>

科目名	英語 II a	科目名 (英文)	English IIa
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	T
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村木 美紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP4△		
科目ナンバリング	YEN2306c1		

<p>コース・ユニット・一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 英語 Ia, Ib, Ic, Id で学んだ 4 技能の基礎力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。</p> <p>到達目標： 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。 ・TOEIC550 点以上を狙える力を身につける。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果 (資格)： TOEIC, 英検等</p>
----------------------	---

<p>授業計画</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について</td> <td>講義、演習</td> <td>提出物 授業態度</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教科書：Unit 1(Longevity of the Hunza)</td> <td>事前自己学習、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>教科書：Unit 3 (Walking for Health)</td> <td>事前自己学習、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>教科書：Unit 7 (Vegetarianism)</td> <td>事前自己学習、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Group Project 1 (教科書 Unit 1, 3, 7)</td> <td>Group Work (アクティブラーニング)</td> <td>提出物 授業態度</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Group Project 1 (教科書 Unit 1, 3, 7) Presentation</td> <td>Group Work (アクティブラーニング)</td> <td>Group Presentation 評価</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>教科書：Unit 2 (Diabetes)</td> <td>事前自己学習、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>教科書：Unit 4 (Coping with Allergies)</td> <td>事前自己学習、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>教科書：Unit 6 (Stress)</td> <td>事前自己学習、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Group Project 2 (教科書 Unit 2, 4, 6)</td> <td>Group Work (アクティブラーニング)</td> <td>提出物 授業態度</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Group Project 2 (教科書 Unit 2, 4, 6) Presentation</td> <td>Group Work (アクティブラーニング)</td> <td>Group Presentation 評価</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>教科書：Unit 11 (Global Warming)</td> <td>事前自己学習、講義、演習</td> <td>提出物・小テスト 授業態度</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>総合演習</td> <td>事前自己学習、講義、演習</td> <td>提出物 授業態度</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について	講義、演習	提出物 授業態度	2	教科書：Unit 1(Longevity of the Hunza)	事前自己学習、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	3	教科書：Unit 3 (Walking for Health)	事前自己学習、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	4	教科書：Unit 7 (Vegetarianism)	事前自己学習、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	5	Group Project 1 (教科書 Unit 1, 3, 7)	Group Work (アクティブラーニング)	提出物 授業態度	6	Group Project 1 (教科書 Unit 1, 3, 7) Presentation	Group Work (アクティブラーニング)	Group Presentation 評価	7	教科書：Unit 2 (Diabetes)	事前自己学習、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	8	教科書：Unit 4 (Coping with Allergies)	事前自己学習、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	9	教科書：Unit 6 (Stress)	事前自己学習、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	10	Group Project 2 (教科書 Unit 2, 4, 6)	Group Work (アクティブラーニング)	提出物 授業態度	11	Group Project 2 (教科書 Unit 2, 4, 6) Presentation	Group Work (アクティブラーニング)	Group Presentation 評価	12	教科書：Unit 11 (Global Warming)	事前自己学習、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度	13	総合演習	事前自己学習、講義、演習	提出物 授業態度
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について	講義、演習	提出物 授業態度																																																						
2	教科書：Unit 1(Longevity of the Hunza)	事前自己学習、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
3	教科書：Unit 3 (Walking for Health)	事前自己学習、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
4	教科書：Unit 7 (Vegetarianism)	事前自己学習、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
5	Group Project 1 (教科書 Unit 1, 3, 7)	Group Work (アクティブラーニング)	提出物 授業態度																																																						
6	Group Project 1 (教科書 Unit 1, 3, 7) Presentation	Group Work (アクティブラーニング)	Group Presentation 評価																																																						
7	教科書：Unit 2 (Diabetes)	事前自己学習、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
8	教科書：Unit 4 (Coping with Allergies)	事前自己学習、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
9	教科書：Unit 6 (Stress)	事前自己学習、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
10	Group Project 2 (教科書 Unit 2, 4, 6)	Group Work (アクティブラーニング)	提出物 授業態度																																																						
11	Group Project 2 (教科書 Unit 2, 4, 6) Presentation	Group Work (アクティブラーニング)	Group Presentation 評価																																																						
12	教科書：Unit 11 (Global Warming)	事前自己学習、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度																																																						
13	総合演習	事前自己学習、講義、演習	提出物 授業態度																																																						

関連科目	なし
------	----

<p>教科書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Health and Ecology-TOEICリスニング&amp;リーディング対応一</td> <td>Masakazu SOMEYA, Fred FERRASCI, Paul MURRAY</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test)</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Health and Ecology-TOEICリスニング&リーディング対応一	Masakazu SOMEYA, Fred FERRASCI, Paul MURRAY	三修社	2	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test)	西谷恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Health and Ecology-TOEICリスニング&リーディング対応一	Masakazu SOMEYA, Fred FERRASCI, Paul MURRAY	三修社														
2	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test)	西谷恒志	成美堂														
3																	

<p>参考書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

<p>評価の時期・方法・基準</p>	<p>定期試験：30％ 授業中の課題（提出物・小テスト）：35％ Group Project（2回）：各15％（30％） 授業態度：5％ 100 点満点中 60 点以上で合格。</p> <p>授業中の演習と提出物・小テスト等が評価の中心となるので、3 回を超える欠席者には原則として単位を認めません。</p>
<p>学生への</p>	<p>このクラスでは健康に関するトピックスが取り上げられている教科書を使用して TOEIC 形式の演習を行うと共に、それらの健康関連トピック</p>

メッセージ	スについてのプロジェクトにグループで取り組み、その成果を英語で発表します。薬剤師として社会で活躍する場を想像しながら、実践的な英語を楽しみながら学んでください。
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 II a	科目名 (英文)	English IIa
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	U
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN2306c1		

授業概要・目的：  
英語 Ia, Ib, Ic, Id で学んだ 4 技能の基礎力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。

到達目標：  
「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。  
「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  
「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。  
・TOEIC550 点以上を狙える力を身につける。

授業方法と留意点：  
演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果（資格）：  
TOEIC, 英検等

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明	
2	趣味、娯楽に関する英文を読んだり、聞いて内容を理解することができる。	リスニング、英文の内容把握、文法事項、語彙の確認	授業内発表を受講態度として 1 評価する。
3	旅行、交通機関に関する英文を読んだり、聞いて内容を理解することができる。	リスニング、英文の内容把握、文法事項、語彙の確認	授業内発表を受講態度として 1 評価する。
4	スポーツに関する英文を読んだり、聞いて内容を理解することができる。	リスニング、英文の内容把握、文法事項、語彙の確認	授業内発表を受講態度として 1 評価する。
5	アメリカの祝祭日に関する英文を読んだり、聞いて内容を理解することができる。	リスニング、英文の内容把握、文法事項、語彙の確認	授業内発表を受講態度として 1 評価する。
6	健康に関する英文を読んだり、聞いて内容を理解することができる。	リスニング、英文の内容把握、文法事項、語彙の確認	授業内発表を受講態度として 1 評価する。
7	就職活動に関する英文を読んだり、聞いて内容を理解することができる。	リスニング、英文の内容把握、文法事項、語彙の確認	授業内発表を受講態度として 1 評価する。
8	日米の教育システムに関する英文を読んだり、聞いて内容を理解することができる。	リスニング、英文の内容把握、文法事項、語彙の確認	授業内発表を受講態度として 1 評価する。
9	地球外生命の探索に関する英文を読んだり、聞いて内容を理解することができる。	リスニング、英文の内容把握、文法事項、語彙の確認	授業内発表を受講態度として 1 評価する。
10	金融機関に関する英文を読んだり、聞いて内容を理解することができる。	リスニング、英文の内容把握、文法事項、語彙の確認	授業内発表を受講態度として 1 評価する。
11	喫煙に関する英文を読んだり、聞いて内容を理解することができる。	リスニング、英文の内容把握、文法事項、語彙の確認	授業内発表を受講態度として 1 評価する。
12	自然災害に関する英文を読んだり、聞いて内容を理解することができる。	リスニング、英文の内容把握、文法事項、語彙の確認	授業内発表を受講態度として 1 評価する。
13	発展途上国への支援に関する英文を読んだり、聞いて内容を理解することができる。	リスニング、英文の内容把握、文法事項、語彙の確認	授業内発表を受講態度として 1 評価する。

関連科目 全ての英語科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	パワーアップイングリッシュ基礎編セメスターシリーズ	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価の時期・方法・基準 定期試験 50%、授業への取り組み (受講態度) 50%

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 1号館2階非常勤講師室

備考、事前・事後学習課題 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	P
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ユヅ マクト・ケイ・ル
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP4△		
科目ナンバリング	YEN2307c1		

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。</p> <p>到達目標： 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果 (資格)： TOEIC、英検等</p>
--------------------------------	--

<p>授業計画</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ファッション 1</td> <td>コース紹介 教科書ユニット1 "The Guy with the Green Hair" 新しい語彙 読解とリスニング ディスカッション</td> <td>学習ユニット1 語彙 (先生のプリント) ミニプレゼンテーションを準備する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ファッション 2</td> <td>ユニット1 語彙テスト ディスカッション ミニプレゼンテーション</td> <td>学習ユニット3 語彙 (先生のプリント)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>スマートフォン中毒 1</td> <td>教科書ユニット3 "I'm not Addicted" ユニット3 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション</td> <td>ミニプレゼンテーションを準備する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>スマートフォン中毒 2</td> <td>ディスカッション ミニプレゼンテーション</td> <td>学習ユニット4 語彙 (先生のプリント)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>SNS1</td> <td>教科書ユニット4 "Social Media Star" ユニット4 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション</td> <td>ミニプレゼンテーションを準備する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>SNS 2</td> <td>ディスカッション ミニプレゼンテーション</td> <td>学習ユニット5 語彙 (先生のプリント)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ジェンダー問題 1</td> <td>教科書ユニット5 "Who pays?" ユニット5 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション</td> <td>ミニプレゼンテーションを準備する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ジェンダー問題 2</td> <td>ディスカッション ミニプレゼンテーション</td> <td>学習ユニット7 語彙 (先生のプリント)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>モダンファミリー問題 1</td> <td>教科書ユニット7 "Family Values" ユニット7 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション</td> <td>ミニプレゼンテーションを準備する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>モダンファミリー問題 2</td> <td>ディスカッション ミニプレゼンテーション</td> <td>学習ユニット9 語彙 (先生のプリント)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>モダンファミリー問題 3</td> <td>教科書ユニット9 "A Visit to Grandma" ユニット9 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション</td> <td>ミニプレゼンテーションを準備する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>モダンファミリー問題 4</td> <td>ディスカッション ミニプレゼンテーション</td> <td>クラスプレゼンテーションのための実践</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>クラスプレゼンテーション 定期テスト準備</td> <td>生徒は自分の最高のミニプレゼンテーションをクラスに提示する 学生は質問に答える 学生は質問をする</td> <td>学生はコースを見直すべきです</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	ファッション 1	コース紹介 教科書ユニット1 "The Guy with the Green Hair" 新しい語彙 読解とリスニング ディスカッション	学習ユニット1 語彙 (先生のプリント) ミニプレゼンテーションを準備する	2	ファッション 2	ユニット1 語彙テスト ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット3 語彙 (先生のプリント)	3	スマートフォン中毒 1	教科書ユニット3 "I'm not Addicted" ユニット3 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する	4	スマートフォン中毒 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット4 語彙 (先生のプリント)	5	SNS1	教科書ユニット4 "Social Media Star" ユニット4 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する	6	SNS 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット5 語彙 (先生のプリント)	7	ジェンダー問題 1	教科書ユニット5 "Who pays?" ユニット5 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する	8	ジェンダー問題 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット7 語彙 (先生のプリント)	9	モダンファミリー問題 1	教科書ユニット7 "Family Values" ユニット7 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する	10	モダンファミリー問題 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット9 語彙 (先生のプリント)	11	モダンファミリー問題 3	教科書ユニット9 "A Visit to Grandma" ユニット9 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する	12	モダンファミリー問題 4	ディスカッション ミニプレゼンテーション	クラスプレゼンテーションのための実践	13	クラスプレゼンテーション 定期テスト準備	生徒は自分の最高のミニプレゼンテーションをクラスに提示する 学生は質問に答える 学生は質問をする	学生はコースを見直すべきです
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	ファッション 1	コース紹介 教科書ユニット1 "The Guy with the Green Hair" 新しい語彙 読解とリスニング ディスカッション	学習ユニット1 語彙 (先生のプリント) ミニプレゼンテーションを準備する																																																						
2	ファッション 2	ユニット1 語彙テスト ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット3 語彙 (先生のプリント)																																																						
3	スマートフォン中毒 1	教科書ユニット3 "I'm not Addicted" ユニット3 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する																																																						
4	スマートフォン中毒 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット4 語彙 (先生のプリント)																																																						
5	SNS1	教科書ユニット4 "Social Media Star" ユニット4 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する																																																						
6	SNS 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット5 語彙 (先生のプリント)																																																						
7	ジェンダー問題 1	教科書ユニット5 "Who pays?" ユニット5 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する																																																						
8	ジェンダー問題 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット7 語彙 (先生のプリント)																																																						
9	モダンファミリー問題 1	教科書ユニット7 "Family Values" ユニット7 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する																																																						
10	モダンファミリー問題 2	ディスカッション ミニプレゼンテーション	学習ユニット9 語彙 (先生のプリント)																																																						
11	モダンファミリー問題 3	教科書ユニット9 "A Visit to Grandma" ユニット9 語彙テスト 読解とリスニング ディスカッション	ミニプレゼンテーションを準備する																																																						
12	モダンファミリー問題 4	ディスカッション ミニプレゼンテーション	クラスプレゼンテーションのための実践																																																						
13	クラスプレゼンテーション 定期テスト準備	生徒は自分の最高のミニプレゼンテーションをクラスに提示する 学生は質問に答える 学生は質問をする	学生はコースを見直すべきです																																																						
関連科目	他の英語科目																																																								
教科書																																																									

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Impact Issues 1	Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka	Pearson (ピアソン)
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	全学共通英語課題 A	20%		
	全学共通英語課題 B	10%		
	定期試験	30%		
	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）	40%		
学生へのメッセージ	英語学習は、繰り返しが重要ですので、コツコツ取り組むように。			
担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村木 美紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN2307c1		

<p>コース・ユニット・一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。</p> <p>到達目標： 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC、英検等</p>
----------------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について	講義・演習	提出物 授業態度
	2	Unit 1: What Country is the Fattest in the World?	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	3	Unit 2: What do we know about Sleep Talking?	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	4	Unit 3: Why Are Bug Bites Dangerous?	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	5	Group Project 1 (Unit 1, 2, 3)	Group Work (アクティブラーニング)	提出物 授業態度
	6	Group Project 1 (Unit 1, 2, 3) Presentation	Group Work (アクティブラーニング)	Group Presentation 評価
	7	Unit 5: How Much Caffeine Can we Take?	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	8	Unit 6: How Does the Love Hormone Oxytocin Work to Improve Relationships?	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	9	Unit 12: How Better to Release Your Stress?	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	10	Group Project 2 (Unit 5, 6, 12)	事前自己学習・講義・演習	提出物 授業態度
	11	Group Project 2 (Unit 5, 6, 12) Presentation	事前自己学習・講義・演習	Group Presentation 評価
	12	Unit 8: Does Gender Affect Cancer Susceptibility?	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	13	総合演習	事前自己学習・講義・演習	提出物 授業態度

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Good Health, Better Life	Toshiaki Nishihara, Mayumi Nishihara, Pino Cutrone	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・方法・基準	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	定期試験	20%
	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）	50%

学生へのメッセージ	このクラスでは、健康に関するトピックスが取り上げられている教科書を使用して、グループでプロジェクトに取り組み、その成果を英語で発表します。薬剤師として社会で活躍する場面を想像しながら、実践的な英語を楽しみながら学んでください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室に対応する。
--------------	--

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN2307c1		

**授業概要・目的：**  
1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。

**到達目標：**  
「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。  
「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。  
「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。

**授業方法と留意点：**  
演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

**科目学習の効果 (資格)：**  
TOEIC、英検等

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について Unit 1 首の痛み		提出物 授業態度
2	Unit 3: チョコレートの健康効果	事前自己学習 (Unit 2)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度
3	Unit 5: 心臓をコピーする	事前自己学習 (Unit 3)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度
4	Unit 7: マジックの癒し	事前自己学習 (Unit 4)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度
5	Unit 8: 惑星を守る医師	事前自己学習 (Unit 5)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度
6	Unit 9: アルツハイマー病	事前自己学習 (Unit 6)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度
7	Unit 10: 抗生物質と家畜	事前自己学習 (Unit 7)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度
8	Unit 11: 飛ばないのに時差ボケ	事前自己学習 (Unit 8)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度
9	Unit 12: カバと生態系	事前自己学習 (Unit 9)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度
10	Unit 13: ロボットと薬	事前自己学習 (Unit 10)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度
11	Unit 10: 明るすぎる世界	事前自己学習 (Unit 11)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度
12	Unit 15: 西洋の食習慣	事前自己学習 (Unit 12)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度
13	まとめと復習	事前自己学習 (Review)、講義、演習	提出物・小テスト 授業態度

関連科目 他の英語科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Living for Tomorrow: Health & Environment Topics from VOA	Seisuke Yasunami/Richard S. lvin	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価の時期・方法・基準	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 30% 定期試験 40%
-------------	---

学生へのメッセージ 毎授業に辞書を必ず持参すること。自己学習課題については授業中に事前に指示します。

担当者の研究室等 1号館2階非常勤講師室

備考、事前・事後学習課題 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	S
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP4△		
科目ナンバリング	YEN2307c1		

<p>コース・ユニット・一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。</p> <p>到達目標： 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC、英検等</p>
----------------------	---

<p>授業計画</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Unit 1: The Perfect Person</td> <td>Describing Personal Qualities</td> <td>授業中に指示 (1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 2: Worldwide Bookstores</td> <td>Making Suggestions</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 3: Loser Those Pounds</td> <td>Discussing Health</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 4: Living Well on Credit</td> <td>Describing Financial Situations</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 5: The Breakup</td> <td>Expressing Surprise</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 6: The Road to Mexico</td> <td>Making and Responding to Invitations</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 7: Who's to Blame?</td> <td>Being Frank and Joking</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 8: Looking at Art</td> <td>Talking about Natural Talents</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 9: What to Watch</td> <td>Relaxing</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 10: Two Tickets to the Concert</td> <td>Discussing Success</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 11: A Big Decision</td> <td>Talking about Easy and Difficult Things</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 12: Making the Right Choice</td> <td>Expressing Function</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 13: Caught on the Web</td> <td>Sharing Information</td> <td>単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	Unit 1: The Perfect Person	Describing Personal Qualities	授業中に指示 (1時間)	2	Unit 2: Worldwide Bookstores	Making Suggestions	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	3	Unit 3: Loser Those Pounds	Discussing Health	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	4	Unit 4: Living Well on Credit	Describing Financial Situations	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	5	Unit 5: The Breakup	Expressing Surprise	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	6	Unit 6: The Road to Mexico	Making and Responding to Invitations	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	7	Unit 7: Who's to Blame?	Being Frank and Joking	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	8	Unit 8: Looking at Art	Talking about Natural Talents	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	9	Unit 9: What to Watch	Relaxing	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	10	Unit 10: Two Tickets to the Concert	Discussing Success	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	11	Unit 11: A Big Decision	Talking about Easy and Difficult Things	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	12	Unit 12: Making the Right Choice	Expressing Function	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)	13	Unit 13: Caught on the Web	Sharing Information	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	Unit 1: The Perfect Person	Describing Personal Qualities	授業中に指示 (1時間)																																																						
2	Unit 2: Worldwide Bookstores	Making Suggestions	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
3	Unit 3: Loser Those Pounds	Discussing Health	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
4	Unit 4: Living Well on Credit	Describing Financial Situations	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
5	Unit 5: The Breakup	Expressing Surprise	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
6	Unit 6: The Road to Mexico	Making and Responding to Invitations	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
7	Unit 7: Who's to Blame?	Being Frank and Joking	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
8	Unit 8: Looking at Art	Talking about Natural Talents	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
9	Unit 9: What to Watch	Relaxing	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
10	Unit 10: Two Tickets to the Concert	Discussing Success	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
11	Unit 11: A Big Decision	Talking about Easy and Difficult Things	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
12	Unit 12: Making the Right Choice	Expressing Function	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
13	Unit 13: Caught on the Web	Sharing Information	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)																																																						
関連科目																																																									

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Connection	角山 照彦, Andrey Dubinsky, David Edward Keane	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・ 方法・基準	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト、定期試験等も含む）70%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	1号館2階 講師控室（月） 寝屋川キャンパス7号館3階 天野研究室（火～金）			
備考、 事前・事後 学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	T
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ヘドリック III ロイ
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN2307c1		

<p>コース・ユニット・一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。</p> <p>到達目標： 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p> <p>科目学習の効果（資格）： TOEIC、英検等</p>
----------------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション 授業の概要説明と評価方法について ①教科書：Unit 1 Restaurant ②Handouts	講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
	2	①教科書：Unit 2 Entertainment ②Handouts	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	3	①教科書：Unit 3 Business ②Handouts	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	4	①教科書：Unit 4 Office ②Handouts	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	5	①教科書：Unit 5 Telephone ②Handouts	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	6	①教科書：Unit 6 Letter & E-mail ②Handouts	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	7	①教科書：Unit 7 Health ②Handouts	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	8	①教科書：Unit 8 Bank & Post Office ②Handouts	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	9	①教科書：Unit 9 New Products ②Handouts	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	10	①教科書：Unit 10 Travel 1 ②Handouts	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	11	①教科書：Unit 11 Travel 2 ②Handouts	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	12	①教科書：Unit 12 Job Applications ②Handouts	事前自己学習・講義・演習	提出物・小テスト 授業態度
	13	①教科書：Unit 13 Shopping ②Handouts	事前自己学習・演習	提出物・小テスト 授業態度

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	吉塚 弘、Michael Schauerte	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・方法・基準	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）	70%

学生へのメッセージ	このクラスは講義中心の授業ではなく、教科書その他の教材で学んだことをベースとして、将来、皆さんが実社会で英語を使う場面を想定して課題を設定し、個別あるいはグループでReading, Listening, Speaking, Writingの演習をしていただきます。自然な英語コミュニケーションが自発的にできることを多く実感してもらえよう授業を行いたいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室に対応する。
--------------	--

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	U
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山内 浩充
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP4Δ		
科目ナンバリング	YEN2307c1		

コース・ユニット・一般目標	<p>コース：薬学準備教育                  ユニット：(3) 薬学の基礎としての英語                  一般目標：薬学分野で必要とされる英語に関する基本的事項を修得する。</p> <p>授業概要・目的                  1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。</p> <p>到達目標                  「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p> <p>授業方法と留意点                  演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p>
---------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション	教科書、英和辞典を持参すること	観察記録・中間試験・定期試験
	2	Summer Weight Gain	Unit 1「夏休みにおける体重増加」の予習	観察記録・中間試験・定期試験
	3	Sugar in Danger	Unit 2「WHOからの警告」の予習	観察記録・中間試験・定期試験
	4	Adult Diapers Outsell Baby Diapers	Unit 3「高齢化社会の影」の予習	観察記録・中間試験・定期試験
	5	Medical Robots	Unit 4「医療分野におけるロボット事情」の予習	観察記録・中間試験・定期試験
	6	Coffee Drinking Tied to Lower Risk of Suicide	Unit 5「コーヒーの抗鬱効果」の予習	観察記録・中間試験・定期試験
	7	How Emergency Rooms Work	Unit 6「救急救命室の仕組み」の予習	観察記録・中間試験・定期試験
	8	これまでのまとめと中間試験	中間試験の予習	観察記録・中間試験・定期試験
	9	Keep Your Heart Moving	Unit 7「脳卒中予防と運動」の予習	観察記録・中間試験・定期試験
	10	Teens Light Up E-Cigarettes	Unit 8「若者と電子たばこ」の予習	観察記録・中間試験・定期試験
	11	Curing Peanut Allergies	Unit 9「ピーナッツ・アレルギー治療」の予習	観察記録・中間試験・定期試験
	12	Cancer and Poverty	Unit 10「貧困とガン」の予習	観察記録・中間試験・定期試験
	13	AED	Unit 11「AEDの知識」の予習	観察記録・中間試験・定期試験

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Caregiver-New Edition-	近藤 進	朝日出版社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・方法・基準  
 全学共通英語課題 A が 20%、  
 全学共通英語課題 B が 10%、  
 授業への参加、貢献など、平常点が 20%、  
 中間テストと定期試験等の平均が 50%で  
 100点満点中、60点以上で合格。

学生へのメッセージ  
 学習は、繰り返しが重要ですので、コツコツ取り組むように。  
 英和辞典を持参するように。

担当者の研究室等  
 1号館2階(非常勤講師室)

備考、事前・事後学習課題  
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	薬学英語	科目名 (英文)	English for Pharmacist
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中本 明子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	YEN2308c1		

コース・ ユニット・ 一般目標	コース：(G) 薬学アドバンスト教育 ユニット：(1) 実用薬学英語 一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。 <b>【読解・作文】SBOs：</b> 1. 科学実験、操作、結果の説明などに関する英語表現を列記できる。(知識・技能) 2. 薬学関連分野の英語論文などの内容を説明できる。(知識・技能) 3. 薬学関連分野でよく用いられる英単語を正確に記述できる。(知識・技能) 4. 英語で論文を書くために必要な基本構文を使用できる。(知識・技能)
	医療に関わる基礎的なリーディングとライティング能力を養う。授業では毎回医療、健康、地球環境など、科学にまつわるさまざまなトピックについて書かれた短い文章を読み、内容把握、語彙の確認を行う。最後に学習した知識を応用して英作文問題に取り組んだり、扱ったテーマに関して英語で説明する訓練も行う。

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業の概要説明・評価方法についての説明 医療従事者の心得ておくべき基本に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 1の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	2	消化器系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 2の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	3	循環器系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 3の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	4	神経系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 4の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	5	泌尿器系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 5の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	6	生殖系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 6の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	7	骨格系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 7の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	8	免疫系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 8の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	9	内分泌系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 9の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	10	感染症の予防に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 10の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	11	癌検知技術に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 11の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	12	ロボット手術に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 12の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	13	遺伝子研究による個人化医療に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 13の復習及び定期試験の準備	単語テスト 確認テスト 本文の要約及び定期試験の確認

関連科目 全ての英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Understanding Health Care	西村月満他 3名	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準 単語テスト 20%、確認テスト 30% 定期試験 50%で評価する。授業態度は減点方式とする。100点満点中 60点以上で合格。

学生へのメッセージ 事前事後学習には、英単語を中心に、毎回 1時間以上かけること。英単語は意味が分かるだけでなく、スペルが書けるようにして欲しい (スペルが書けると、長く記憶にとどまるため)。休まず積極的に授業に参加していただきたい。

担当者の研究室等 非常勤講師室(1号館2階)

備考、事前・事後学習課題 辞書必携。出席日数は平常点としない。無断欠席すれば減点対象となる。予定する授業内容は上記の授業計画のとおりであるが、受講生の学習状況を考慮して進捗や内容などを調整することもある。「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	薬学英语	科目名 (英文)	English for Pharmacist
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	村木 美紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP2⑥, DP4⑥		
科目ナンバリング	YEN2308c1		

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 本授業では、将来薬剤師として製薬企業や医療現場で業務を行う際に必要となる英語コミュニケーション力を修得するため、4技能統合型の授業を行う。特に、添付文書などの医薬品情報や医学論文を読む際に重要となる医療専門用語の意味を類推できるように Affix（接頭辞・接尾辞）の知識の修得に主眼をおくと共に、患者など非医療従事者とのコミュニケーションで使用する言葉との違いについても理解する。</p> <p>到達目標： 「読解力」としては、高度な医療専門用語を含む、比較的長い文章の内容が読み取れるようになる。 「リスニング力」としては、医療専門用語の正確なイントネーションを理解して、専門的な内容のスピーチの論旨が理解できるようになる。 「会話力・ライティング力」としては、主に薬局での外国人患者応対や服薬指導を想定して、既往歴の聴取や医薬品の用法用量の説明等を正確に表現できるようになる。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業のない学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 Affix については教科書の他に別途資料を配布するので、Quiz に備えて指定範囲を十分に自己学習すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p>
--------------------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業の概要・評価方法についての説明 Unit 7: Understanding Medications and What They Do	講義・演習	提出物 授業態度
	2	Unit 15: Types of Drug Actions	事前自己学習 (Unit 15)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	3	Unit 16: What is Diabetes?	事前自己学習 (Unit 16)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	4	Unit 9: Pain: Hope Through Research	事前自己学習 (Unit 9)、講 義・演習	Affix Quiz 授業態度
	5	Unit 18: From Fish to Pharmacies: A story of Drug Development	事前自己学習 (Unit 18)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	6	Unit 6: NIH-Sponsored Research Yields Promising Malaria Drug Candidate	事前自己学習 (Unit 6)、講 義・演習	Affix Quiz 授業態度
	7	Unit 5: How DNA Works	事前自己学習 (Unit 5)、講 義・演習	Affix Quiz 授業態度
	8	Unit 11: The Influenza (Flu) Virus	事前自己学習 (Unit 11)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	9	Unit 12: The Immune System	事前自己学習 (Unit 12)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	10	Unit 19: ES Cells vs. iPS Cells	事前自己学習 (Unit 19)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	11	Unit 17: Personalized Medicine	事前自己学習 (Unit 17)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	12	Unit 2: Effective Medication Counseling: Understanding of patients' Needs and Feelings	事前自己学習 (Unit 2)、講 義・演習	Affix Quiz 授業態度
	13	総合演習	事前指定課題、講義・演習	提出物 授業態度

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Pharmaceutical English 1 (薬学英语1)	日本薬学英语研究会 (JAPE)	成美堂
	2	Affix プリント教材		
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・ 方法・基準	定期試験：50% Affix Quiz：45% 授業態度：5% 100点満点中60点以上で合格。
	授業中の演習と提出物・小テスト等が評価の中心となるので、3回を超える欠席者には原則として単位を認めません。

学生へのメッセージ  
日々めまぐるしく進化する医療の最新情報なども紹介しながら、将来薬剤師として英語を用いて活躍する現実的な場面が想像できるような授業を目指します。

担当者の研究室等  
1号館2階(非常勤講師室)

備考、  
事前・事後  
学習課題  
毎授業に辞書を必ず持参すること。  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	薬学英語	科目名(英文)	English for Pharmacist
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	沢田 美保子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	YEN2308c1		

コース・ ユニット・ 一般目標	コース：(G) 薬学アドバンスト教育 ユニット：(1) 実用薬学英語 一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。 <b>【読解・作文】SBOs：</b> 1. 科学実験、操作、結果の説明などに関する英語表現を列記できる。(知識・技能) 2. 薬学関連分野の英語論文などの内容を説明できる。(知識・技能) 3. 薬学関連分野でよく用いられる英単語を正確に記述できる。(知識・技能) 4. 英語で論文を書くために必要な基本構文を使用できる。(知識・技能)
	医療に関わる基礎的なリーディングとライティング能力を養う。授業では毎回医療、薬学に関するさまざまなトピックについて書かれた文章を読み、内容把握、語彙の確認を行う。

授業計画		回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
		1	授業の概要説明・評価方法についての説明 Unit 1,2	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
		2	Unit 3,4 What to Expect from Your Pharmacist	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
		3	Unit 5 Cell Structure & Function	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
		4	Unit 6 Host Defense Mechanisms Against Infection	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
		5	Unit 7,8	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
		6	Unit 9 The Basics of Dementia	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
		7	Unit 10 Overview of Allergic Reactions	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
		8	Unit 11 Treatments for High Blood Pressure	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
		9	Unit 12 Influenza Vaccines	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
		10	Unit 13 Clinical Diabetes Management	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
		11	Unit 14 Sinus Infection	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
		12	Unit 15 A Story of Discovery	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
		13	Unit 16 Research Ethics	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験

関連科目	すべての英語科目
------	----------

教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	English for Student Pharmacists 1 薬学生のための英語 1	日本薬学英語研究会	SEIBIDO 成美堂
		2			
		3			

参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			

評価の時期・方法・基準	平常点(受講態度、小テスト、提出物等) 60% 定期試験 40% 100点満点中60点以上で合格
-------------	--

学生へのメッセージ	辞書必携
-----------	------

担当者の研究室等	非常勤講師室
----------	--------

備考、事前・事後学習課題	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
--------------	------------------------

科目名	薬学英语	科目名 (英文)	English for Pharmacist
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	村木 美紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP2⑥, DP4⑥		
科目ナンバリング	YEN2308c1		

基礎科目

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>授業概要・目的： 本授業では、将来薬剤師として製薬企業や医療現場で業務を行う際に必要となる英語コミュニケーション力を修得するため、4技能統合型の授業を行う。特に、添付文書などの医薬品情報や医学論文を読む際に重要となる医療専門用語の意味を類推できるように Affix（接頭辞・接尾辞）の知識の修得に主眼をおくと共に、患者など非医療従事者とのコミュニケーションで使用する言葉との違いについても理解する。</p> <p>到達目標： 「読解力」としては、高度な医療専門用語を含む、比較的長い文章の内容が読み取れるようになる。 「リスニング力」としては、医療専門用語の正確なイントネーションを理解して、専門的な内容のスピーチの論旨が理解できるようになる。 「会話力・ライティング力」としては、主に薬局での外国人患者応対や服薬指導を想定して、既往歴の聴取や医薬品の用法用量の説明等を正確に表現できるようになる。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業のない学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 Affix については教科書の他に別途資料を配布するので、Quiz に備えて指定範囲を十分に自己学習すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業の概要・評価方法についての説明 Unit 7: Understanding Medications and What They Do	講義・演習	提出物 授業態度
	2	Unit 15: Types of Drug Actions	事前自己学習 (Unit 15)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	3	Unit 16: What is Diabetes?	事前自己学習 (Unit 16)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	4	Unit 9: Pain: Hope Through Research	事前自己学習 (Unit 9)、講 義・演習	Affix Quiz 授業態度
	5	Unit 18: From Fish to Pharmacies: A story of Drug Development	事前自己学習 (Unit 18)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	6	Unit 6: NIH-Sponsored Research Yields Promising Malaria Drug Candidate	事前自己学習 (Unit 6)、講 義・演習	Affix Quiz 授業態度
	7	Unit 5: How DNA Works	事前自己学習 (Unit 5)、講 義・演習	Affix Quiz 授業態度
	8	Unit 11: The Influenza (Flu) Virus	事前自己学習 (Unit 11)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	9	Unit 12: The Immune System	事前自己学習 (Unit 12)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	10	Unit 19: ES Cells vs. iPS Cells	事前自己学習 (Unit 19)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	11	Unit 17: Personalized Medicine	事前自己学習 (Unit 17)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	12	Unit 2: Effective Medication Counseling: Understanding of patients' Needs and Feelings	事前自己学習 (Unit 2)、講 義・演習	Affix Quiz 授業態度
	13	総合演習	事前指定課題、講義・演習	提出物 授業態度

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Pharmaceutical English 1 (薬学英语1)	日本薬学英语研究会 (JAPE)	成美堂
	2	Affix プリント教材		
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・ 方法・基準	<p>定期試験：50％ Affix Quiz：45％ 授業態度：5％ 100点満点中60点以上で合格。</p> <p>授業中の演習と提出物・小テスト等が評価の中心となるので、3回を超える欠席者には原則として単位を認めません。</p>
-----------------	--

学生への メッセージ	日々めまぐるしく進化する医療の最新情報なども紹介しながら、将来薬剤師として英語を用いて活躍する現実的な場面が想像できるような授業を目指します。
---------------	---

担当者の 研究室等	1号館2階(非常勤講師室)
--------------	---------------

備考、 事前・事後 学習課題	<p>毎授業に辞書を必ず持参すること。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>
----------------------	---

科目名	薬学英語	科目名 (英文)	English for Pharmacist
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中本 明子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	YEN2308c1		

コース・ユニット・一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育          ユニット：(1) 実用薬学英語</p> <p>一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。</p> <p>【読解・作文】SBOs：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科学実験、操作、結果の説明などに関する英語表現を列記できる。(知識・技能)</li> <li>2. 薬学関連分野の英語論文などの内容を説明できる。(知識・技能)</li> <li>3. 薬学関連分野でよく用いられる英単語を正確に記述できる。(知識・技能)</li> <li>4. 英語で論文を書くために必要な基本構文を使用できる。(知識・技能)</li> </ol> <p>医療に関わる基礎的なリーディングとライティング能力を養う。授業では毎回医療、健康、地球環境など、科学にまつわるさまざまなトピックについて書かれた短い文章を読み、内容把握、語彙の確認を行う。最後に学習した知識を応用して英作文問題に取り組んだり、扱ったテーマに関して英語で説明する訓練も行う。</p>
---------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業の概要説明・評価方法についての説明 医療従事者の心得ておくべき基本に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 1の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	2	消化器系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 2の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	3	循環器系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 3の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	4	神経系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 4の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	5	泌尿器系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 5の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	6	生殖系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 6の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	7	骨格系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 7の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	8	免疫系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 8の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	9	内分泌系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 9の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	10	感染症の予防に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 10の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	11	癌検知技術に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 11の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	12	ロボット手術に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 12の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	13	遺伝子研究による個人化医療に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 13の復習及び定期試験の準備	単語テスト 確認テスト 本文の要約及び定期試験の確認

関連科目	すべての英語科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Understanding Health Care	西村月満他 3名	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準	単語テスト 20%、確認テスト 30% 定期試験 50%で評価する。授業態度は減点方式とする。 100点満点中 60点以上で合格。
-------------	--

学生へのメッセージ	事前事後学習には、英単語を中心に、毎回 1 時間以上かけること。英単語は意味が分かるだけでなく、スペルが書けるようにして欲しい (スペルが書けると、長く記憶にとどまるため)。 休まず積極的に授業に参加していただきたい。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(1号館2階)
----------	---------------

備考、事前・事後学習課題	辞書必携。出席日数は平常点としない。無断欠席すれば減点対象となる。 予定する授業内容は上記の授業計画のとおりであるが、受講生の学習状況を考慮して進捗や内容などを調整することもある。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
--------------	---

科目名	薬学英語	科目名 (英文)	English for Pharmacist
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	F
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	沢田 美保子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	YEN2308c1		

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育                  ユニット：(1) 実用薬学英語                  一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学会会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。</p> <p>【読解・作文】SB0s：                  1. 科学実験、操作、結果の説明などに関する英語表現を列記できる。(知識・技能)                  2. 薬学関連分野の英語論文などの内容を説明できる。(知識・技能)                  3. 薬学関連分野でよく用いられる英単語を正確に記述できる。(知識・技能)                  4. 英語で論文を書くために必要な基本構文を使用できる。(知識・技能)</p> <p>医療に関わる基礎的なリーディングとライティング能力を養う。授業では毎回医療、薬学に関するさまざまなトピックについて書かれた文章を読み、内容把握、語彙の確認を行う。</p>																																																								
<p>授業計画</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業の概要説明・評価方法についての説明 Unit 1,2</td> <td>講義・演習</td> <td>受講態度、小テスト、定期試験</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 3,4 What to Expect from Your Pharmacist</td> <td>講義・演習</td> <td>受講態度、小テスト、定期試験</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 5 Cell Structure &amp; Function</td> <td>講義・演習</td> <td>受講態度、小テスト、定期試験</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 6 Host Defense Mechanisms Against Infection</td> <td>講義・演習</td> <td>受講態度、小テスト、定期試験</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 7,8</td> <td>講義・演習</td> <td>受講態度、小テスト、定期試験</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 9 The Basics of Dementia</td> <td>講義・演習</td> <td>受講態度、小テスト、定期試験</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 10 Overview of Allergic Reactions</td> <td>講義・演習</td> <td>受講態度、小テスト、定期試験</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 11 Treatments for High Blood Pressure</td> <td>講義・演習</td> <td>受講態度、小テスト、定期試験</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 12 Influenza Vaccines</td> <td>講義・演習</td> <td>受講態度、小テスト、定期試験</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 13 Clinical Diabetes Management</td> <td>講義・演習</td> <td>受講態度、小テスト、定期試験</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 14 Sinus Infection</td> <td>講義・演習</td> <td>受講態度、小テスト、定期試験</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 15 A Story of Discovery</td> <td>講義・演習</td> <td>受講態度、小テスト、定期試験</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 16 Research Ethics</td> <td>講義・演習</td> <td>受講態度、小テスト、定期試験</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	授業の概要説明・評価方法についての説明 Unit 1,2	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験	2	Unit 3,4 What to Expect from Your Pharmacist	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験	3	Unit 5 Cell Structure & Function	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験	4	Unit 6 Host Defense Mechanisms Against Infection	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験	5	Unit 7,8	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験	6	Unit 9 The Basics of Dementia	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験	7	Unit 10 Overview of Allergic Reactions	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験	8	Unit 11 Treatments for High Blood Pressure	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験	9	Unit 12 Influenza Vaccines	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験	10	Unit 13 Clinical Diabetes Management	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験	11	Unit 14 Sinus Infection	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験	12	Unit 15 A Story of Discovery	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験	13	Unit 16 Research Ethics	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	授業の概要説明・評価方法についての説明 Unit 1,2	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験																																																						
2	Unit 3,4 What to Expect from Your Pharmacist	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験																																																						
3	Unit 5 Cell Structure & Function	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験																																																						
4	Unit 6 Host Defense Mechanisms Against Infection	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験																																																						
5	Unit 7,8	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験																																																						
6	Unit 9 The Basics of Dementia	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験																																																						
7	Unit 10 Overview of Allergic Reactions	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験																																																						
8	Unit 11 Treatments for High Blood Pressure	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験																																																						
9	Unit 12 Influenza Vaccines	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験																																																						
10	Unit 13 Clinical Diabetes Management	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験																																																						
11	Unit 14 Sinus Infection	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験																																																						
12	Unit 15 A Story of Discovery	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験																																																						
13	Unit 16 Research Ethics	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験																																																						
<p>関連科目</p>	<p>すべての英語科目</p>																																																								
<p>教科書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English for Student Pharmacists 1 薬学生のための英語 1</td> <td>日本薬学英語研究会</td> <td>SEIBIDO 成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for Student Pharmacists 1 薬学生のための英語 1	日本薬学英語研究会	SEIBIDO 成美堂	2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																						
1	English for Student Pharmacists 1 薬学生のための英語 1	日本薬学英語研究会	SEIBIDO 成美堂																																																						
2																																																									
3																																																									
<p>参考書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																						
1																																																									
2																																																									
3																																																									
<p>評価の時期・ 方法・基準</p>	<p>平常点 (受講態度、小テスト、提出物等) 60%                  定期試験 40%                  100点満点中60点以上で合格</p>																																																								
<p>学生への メッセージ</p>	<p>辞書必携</p>																																																								
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>非常勤講師室</p>																																																								
<p>備考、 事前・事後 学習課題</p>	<p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>																																																								

科目名	医療英会話	科目名 (英文)	Medical English Conversation
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	ア
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山内 浩充
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	YEN2309c1		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育          ユニット：(1) 実用薬学英語          一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。</p> <p>【会話・ヒアリング】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べるができる。(知識・技能)</li> <li>薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> <li>医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> </ol> <p>・外国人の患者さんに対応できるように、また、海外で病気や事故にあった時に対応できるように、医療に関わる基礎的なリスニングとスピーキングを身につける。</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	ガイダンス	教科書を持参すること	観察記録・小テスト
	2	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (1)	観察記録・小テスト
	3	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (2)	観察記録・小テスト
	4	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (1)	観察記録・小テスト
	5	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (2)	観察記録・小テスト
	6	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、アレルギーの有無の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
	7	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、薬歴の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
	8	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、食事や嗜好品の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
	9	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、副作用の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト
	10	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、薬の保管方法の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト
	11	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、会計のときの会話を学習	観察記録・小テスト
	12	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (1)	観察記録・小テスト
	13	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (2)	観察記録・小テスト

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	薬剤師のための実践英会話	小宮山 貴子	じほう
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・方法・基準	講義中の観察記録 (質疑応答、授業態度など) 30%と小テスト70%で評価する。100点満点中、60点以上で合格。
-------------	---

学生へのメッセージ	新しい語句を積極的に覚えるように。 英語の学習には日々の積み重ねが必要ですので、怠らないように。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階、非常勤講師室
----------	--------------

備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室に対応する。
--------------	--

科目名	医療英会話	科目名 (英文)	Medical English Conversation
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	イ
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	YEN2309c1		

基礎科目

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育          ユニット：(1) 実用薬学英語          一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。  <b>【会話・ヒアリング】</b>          1. 平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べるができる。(知識・技能)          2. 薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)          3. 医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)          ・外国人の患者さんに対応できるように、また、海外で病気や事故にあった時に対応できるように、医療に関わる基礎的なリスニングとスピーキングを身につける。</p>																																																										
授業計画	回数	到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>教科書を持参すること</td> <td>観察記録・小テスト</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>薬局での会話</td> <td>かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (1)</td> <td>観察記録・小テスト</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>薬局での会話</td> <td>かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (2)</td> <td>観察記録・小テスト</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>薬局での会話</td> <td>目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (1)</td> <td>観察記録・小テスト</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>薬局での会話</td> <td>目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (2)</td> <td>観察記録・小テスト</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>薬局での会話</td> <td>症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、アレルギーの有無の尋ね方を学習</td> <td>観察記録・小テスト</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>薬局での会話</td> <td>症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、薬歴の尋ね方を学習</td> <td>観察記録・小テスト</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>薬局での会話</td> <td>症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、食事や嗜好品の尋ね方を学習</td> <td>観察記録・小テスト</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>薬局での会話</td> <td>症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、副作用の説明の仕方を学習</td> <td>観察記録・小テスト</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>薬局での会話</td> <td>症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、薬の保管方法の説明の仕方を学習</td> <td>観察記録・小テスト</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>薬局での会話</td> <td>症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、会計のときの会話を学習</td> <td>観察記録・小テスト</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>薬局での会話</td> <td>処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (1)</td> <td>観察記録・小テスト</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>薬局での会話</td> <td>処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (2)</td> <td>観察記録・小テスト</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	ガイダンス	教科書を持参すること	観察記録・小テスト	2	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (1)	観察記録・小テスト	3	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (2)	観察記録・小テスト	4	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (1)	観察記録・小テスト	5	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (2)	観察記録・小テスト	6	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、アレルギーの有無の尋ね方を学習	観察記録・小テスト	7	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、薬歴の尋ね方を学習	観察記録・小テスト	8	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、食事や嗜好品の尋ね方を学習	観察記録・小テスト	9	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、副作用の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト	10	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、薬の保管方法の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト	11	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、会計のときの会話を学習	観察記録・小テスト	12	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (1)	観察記録・小テスト	13	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (2)	観察記録・小テスト
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																								
1	ガイダンス	教科書を持参すること	観察記録・小テスト																																																								
2	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (1)	観察記録・小テスト																																																								
3	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (2)	観察記録・小テスト																																																								
4	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (1)	観察記録・小テスト																																																								
5	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (2)	観察記録・小テスト																																																								
6	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、アレルギーの有無の尋ね方を学習	観察記録・小テスト																																																								
7	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、薬歴の尋ね方を学習	観察記録・小テスト																																																								
8	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、食事や嗜好品の尋ね方を学習	観察記録・小テスト																																																								
9	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、副作用の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト																																																								
10	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、薬の保管方法の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト																																																								
11	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、会計のときの会話を学習	観察記録・小テスト																																																								
12	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (1)	観察記録・小テスト																																																								
13	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (2)	観察記録・小テスト																																																								
関連科目	他の英語科目																																																										
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬剤師のための実践英会話</td> <td>小宮山貴子</td> <td>じほう</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	薬剤師のための実践英会話	小宮山貴子	じほう	2																																																	
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1	薬剤師のための実践英会話	小宮山貴子	じほう																																																								
2																																																											
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1																																																					
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1																																																											
評価の時期・ 方法・基準	講義中の観察記録（質疑応答、授業態度など）50% と小テスト50%で評価する。																																																										
学生への メッセージ																																																											
担当者の 研究室等	1号館2階、非常勤講師室																																																										
備考、 事前・事後 学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																										

科目名	医療英会話	科目名 (英文)	Medical English Conversation
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	ウ
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ヘドリックⅢ ロイ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	YEN2309c1		

コース・ユニット・一般目標 国際化が進む医療現場では、英会話のできる薬剤師が求められている。そこで、薬学領域の業務に必要とされる専門用語や英語表現を習得する。

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション (授業の進め方、評価について)		
	2	Unit 1: Asking and answering personal information questions	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	3	Unit 2: Describing people	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	4	Unit 3: Asking and talking about special events	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	5	Unit 4: Asking and talking about school subjects	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	6	Unit 5: Asking and talking about a trip	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	7	Unit 6: Asking about and describing homes	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	8	Unit 7: Discussing and bargaining for customer goods	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	9	Unit 8: Asking about and describing jobs	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	10	Unit 9: Asking for information and making excuses	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	11	Unit 10: Asking for and giving tour information	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	12	Unit 11: Placing and talking orders for take-out food	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	13	Unit 15: Asking and talking about medical conditions	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Hear Me Out 2	David Nunan	Cengage
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準 授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等) で総合的に評価します。100 点満点中 60 点以上で合格。

学生へのメッセージ  
指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。  
This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.  
毎授業に辞書を必ず持参すること。  
自己学習課題については授業中に事前に指示します。

担当者の研究室等 1号館2階 非常勤講師室

備考、事前・事後学習課題 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	医療英会話	科目名 (英文)	Medical English Conversation
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	エ
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	YEN2309c1		

基礎科目

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育          ユニット：(1) 実用薬学英語          一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。</p> <p>【会話・ヒアリング】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べることができる。(知識・技能)</li> <li>薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> <li>医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> </ol> <p>・この授業では、医療にかかわる基礎的なリスニングとスピーキングの技能を身につける。日本人の薬剤師が外国人の患者と接する際に必要な英語表現や、薬学領域の業務に必要なとされる専門用語を習得する。</p>
-----------------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などを説明する。	
	2	Hospital Departments	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	3	Application Forms	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	4	Parts of the Body	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	5	Illnesses	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	6	Review 1	復習	復習、授業態度
	7	Daily Routine	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	8	Hospital Objects	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	9	Locations of Hospital Objects	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	10	Hospital Directions and Instructions	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	11	Directions (Outside the Hospital)	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	12	Chatting with a Patient	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	13	Review Test 2	これまでの復習と理解度チェックを行う。	Review、授業態度

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Vital Signs (Revised Edition)	Vivian Morooka, Terri Sugiura	南雲堂
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・ 方法・基準	授業内での発表と授業態度および理解度チェックで総合的に評価する。100点満点中60点以上で合格。
-----------------	--

学生への メッセージ	Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.
---------------	---

担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室
--------------	--------------

備考、 事前・事後 学習課題	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、テキストと英和辞書を持参してください。</li> <li>・出席日数は平常点としません。</li> <li>・授業内容・進度は、受講生の学習状況を考慮して調整することもあります。</li> </ul>
----------------------	--

科目名	医療英会話	科目名 (英文)	Medical English Conversation
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	才
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	YEN2309c1		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育          ユニット：(1) 実用薬学英語          一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。</p> <p>【会話・ヒアリング】</p> <p>1. 平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べることができる。(知識・技能)          2. 薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)          3. 医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)          ・医療に関わる基礎的な listening と speaking を身につける。</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション	ソフトウェアの利用方法を理解し、使えるようになる。	ソフトウェアの利用
	2	服薬指導 1 (症状の聴解)	テキスト指定ページの発音病気の症状を英語で聞いて理解できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	3	服薬指導 2 (薬分野名の発音)	テキスト指定ページの発音薬分野の名前を知り、日本語を見ても英語で発音できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	4	服薬指導 3 (薬分野名の発音)	テキスト指定ページの発音前回と同様に薬分野の名前を知り、日本語をみても英語で発音できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	5	服薬指導 4 (薬分野名と実際の薬の発音)	テキスト指定ページの発音覚えた薬分野の名前と実際に利用されている薬の名前を含めて患者さんに英語で説明できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	6	服薬指導 5 (薬分野の簡単な説明発音)	テキスト指定ページの発音薬の簡単な英語で説明をすることができる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	7	復習テスト 1 (リスニング・スピーキング)	復習テストの準備	復習テスト
	8	服薬指導 6 (薬分野の簡単な説明発音)	テキスト指定ページの発音 6 回目授業に引き続き薬の簡単な説明を英語ですることができる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	9	服薬指導 7 (服用方法と注意事項)	テキスト指定ページの発音服用方法と摂取時の注意事項を英語で説明できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	10	服薬指導 8 (調剤薬局薬剤師の会話)	テキスト指定ページの発音一般的な調剤薬局の薬剤師が話す内容を英語で説明できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	11	服薬指導 9 (病院の薬剤師の会話)	テキスト指定ページの発音病院の薬剤師が患者さんの入院時に話す内容を英語で話すことができる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	12	服薬指導 10 (副作用の発音)	テキスト指定ページの発音	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	13	復習テスト 2 (リスニング・スピーキング)	復習テストの準備	復習テスト

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	5 分間 英語発音	関根応之 著	南雲堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・ 方法・基準	<p>授業期間に行う復習テスト 1 と 2 (各 25%)、          授業内スピーキング課題 (35%)          情報レポート (15%)          計 100 点満点中 60 点以上で合格</p>
-----------------	---

学生への メッセージ	自分の英語での発音を改善する努力をソフトウェアを利用しながら進めることができること。
---------------	--

担当者の 研究室等	1 号館 2 階 非常勤講師室
--------------	-----------------

備考、 事前・事後 学習課題	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。          期末試験は行わない。</p>
----------------------	--

科目名	医療英会話	科目名 (英文)	Medical English Conversation
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	カ
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ユヅ マクト <sup>ウ</sup> カ <sup>ル</sup>
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	YEN2309c1		

基礎科目

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育          ユニット：(1) 実用薬学英語          一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。  <b>【会話・ヒアリング】</b>          1. 平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べることができる。(知識・技能)          2. 薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)          3. 医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)          ・医療に関わる基礎的な listening と speaking を身につける。</p>																																																										
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>シラバス説明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Dialog 1</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Dialog 2</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Dialog 3</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Dialog 4</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Dialog 5</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>発表 1</td> <td>発表</td> <td>発表</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Dialog 6</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Dialog 7</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Dialog 8</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Dialog 9</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Dialog 10</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発表 2</td> <td>発表</td> <td>発表</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	オリエンテーション	シラバス説明		2	Dialog 1	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	3	Dialog 2	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	4	Dialog 3	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	5	Dialog 4	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	6	Dialog 5	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	7	発表 1	発表	発表	8	Dialog 6	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	9	Dialog 7	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	10	Dialog 8	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	11	Dialog 9	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	12	Dialog 10	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	13	発表 2	発表	発表		
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																								
1	オリエンテーション	シラバス説明																																																									
2	Dialog 1	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
3	Dialog 2	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
4	Dialog 3	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
5	Dialog 4	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
6	Dialog 5	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
7	発表 1	発表	発表																																																								
8	Dialog 6	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
9	Dialog 7	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
10	Dialog 8	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
11	Dialog 9	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
12	Dialog 10	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
13	発表 2	発表	発表																																																								
関連科目																																																											
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プリント教材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント教材			2				3																																													
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1	プリント教材																																																										
2																																																											
3																																																											
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																													
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1																																																											
2																																																											
3																																																											
評価の時期・ 方法・基準	発表 1 30% 発表 2 30% 小テスト 30% 授業態度 (毎回のダイアログパフォーマンス、ダイアログ作成への取り組みを含む) 10%																																																										
学生への メッセージ	自分の英語での発音を改善する努力をソフトウェアを利用しながら進めることができること。																																																										
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室																																																										
備考、 事前・事後 学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																										

科目名	医療英会話	科目名 (英文)	Medical English Conversation
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	キ
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	YEN2309c1		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育          ユニット：(1) 実用薬学英語          一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。</p> <p>【会話・ヒアリング】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べることができる。(知識・技能)</li> <li>薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> <li>医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> </ol> <p>・外国人の患者さんに対応できるように、また、海外で病気や事故にあった時に対応できるように、医療に関わる基礎的なリスニングとスピーキングを身につける。</p>
-----------------------	--

授業計画				
	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	ガイダンス	教科書を持参すること	観察記録・小テスト
	2	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (1)	観察記録・小テスト
	3	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (2)	観察記録・小テスト
	4	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (1)	観察記録・小テスト
	5	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (2)	観察記録・小テスト
	6	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、アレルギーの有無の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
	7	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、薬歴の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
	8	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、食事や嗜好品の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
	9	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、副作用の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト
	10	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、薬の保管方法の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト
	11	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、会計のときの会話を学習	観察記録・小テスト
	12	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (1)	観察記録・小テスト
13	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (2)	観察記録・小テスト	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	薬剤師のための実践英会話	小宮山貴子	じほう
	2			

参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・方法・基準	講義中の観察記録（質疑応答、授業態度など）50% と小テスト50%で評価する。
-------------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階、非常勤講師室
----------	--------------

備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--------------	---

科目名	医療英会話	科目名 (英文)	Medical English Conversation
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	ク
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	YEN2309c1		

コース・ ユニット・ 一般目標	コース：(G) 薬学アドバンスト教育 ユニット：(1) 実用薬学英語 一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。 <b>【会話・ヒアリング】</b> 1. 平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べることができる。(知識・技能) 2. 薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能) 3. 医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能) ・この授業では、医療にかかわる基礎的なリスニングとスピーキングの技能を身につける。日本人の薬剤師が外国人の患者と接する際に必要な英語表現や、薬学領域の業務に必要なとされる専門用語を習得する。
-----------------------	---

授業計画				
	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などを説明する。	
	2	Hospital Departments	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	3	Application Forms	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	4	Parts of the Body	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	5	Illnesses	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	6	Review 1	復習	復習、授業態度
	7	Daily Routine	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	8	Hospital Objects	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	9	Locations of Hospital Objects	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	10	Hospital Directions and Instructions	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	11	Directions (Outside the Hospital)	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	12	Chatting with a Patient	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
13	Review Test 2	これまでの復習と理解度チェックを行う。	Review、授業態度	

関連科目	
------	--

教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Vital Signs (Revised Edition)	Vivian Morooka, Terri Sugiura	南雲堂

参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・方法・基準	授業内での発表と授業態度および理解度チェックで総合的に評価する。100点満点中60点以上で合格。
-------------	--

学生へのメッセージ	Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ・毎回、テキストと英和辞書を持参してください。 ・出席日数は平常点としません。 ・授業内容・進度は、受講生の学習状況を考慮して調整することもあります。
--------------	--

科目名	医療英会話	科目名(英文)	Medical English Conversation
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	ケ
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ヘドリックⅢ ロイ
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	YEN2309c1		

コース・ユニット・一般目標 国際化が進む医療現場では、英会話のできる薬剤師が求められている。そこで、薬学領域の業務に必要とされる専門用語や英語表現を習得する。

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション(授業の進め方、評価について)		
	2	Unit 1: Asking and answering personal information questions	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	3	Unit 2: Describing people	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	4	Unit 3: Asking and talking about special events	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	5	Unit 4: Asking and talking about school subjects	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	6	Unit 5: Asking and talking about a trip	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	7	Unit 6: Asking about and describing homes	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	8	Unit 7: Discussing and bargaining for customer goods	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	9	Unit 8: Asking about and describing jobs	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	10	Unit 9: Asking for information and making excuses	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	11	Unit 10: Asking for and giving tour information	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	12	Unit 11: Placing and talking orders for take-out food	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	13	Unit 15: Asking and talking about medical conditions	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Hear Me Out 2	David Nunan	Cengage
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準 授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)で総合的に評価します。100点満点中60点以上で合格。

学生へのメッセージ  
 指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。  
 This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.  
 毎授業に辞書を必ず持参すること。  
 自己学習課題については授業中に事前に指示します。

担当者の研究室等 1号館2階 非常勤講師室

備考、事前・事後学習課題 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	医療英会話	科目名 (英文)	Medical English Conversation
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	コ
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ユン マクトウカール
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	YEN2309c1		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育          ユニット：(1) 実用薬学英語          一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。  <b>【会話・ヒアリング】</b>          1. 平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べることができる。(知識・技能)          2. 薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)          3. 医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)          ・医療に関わる基礎的な listening と speaking を身につける。</p>																																																										
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>シラバス説明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Dialog 1</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Dialog 2</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Dialog 3</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Dialog 4</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Dialog 5</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>発表 1</td> <td>発表</td> <td>発表</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Dialog 6</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Dialog 7</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Dialog 8</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Dialog 9</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Dialog 10</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発表 2</td> <td>発表</td> <td>発表</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	オリエンテーション	シラバス説明		2	Dialog 1	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	3	Dialog 2	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	4	Dialog 3	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	5	Dialog 4	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	6	Dialog 5	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	7	発表 1	発表	発表	8	Dialog 6	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	9	Dialog 7	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	10	Dialog 8	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	11	Dialog 9	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	12	Dialog 10	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	13	発表 2	発表	発表		
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																								
1	オリエンテーション	シラバス説明																																																									
2	Dialog 1	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
3	Dialog 2	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
4	Dialog 3	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
5	Dialog 4	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
6	Dialog 5	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
7	発表 1	発表	発表																																																								
8	Dialog 6	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
9	Dialog 7	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
10	Dialog 8	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
11	Dialog 9	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
12	Dialog 10	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
13	発表 2	発表	発表																																																								
関連科目																																																											
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プリント教材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント教材			2				3																																													
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1	プリント教材																																																										
2																																																											
3																																																											
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																													
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1																																																											
2																																																											
3																																																											
評価の時期・ 方法・基準	発表 1 30% 発表 2 30% 小テスト 30% 授業態度 (毎回のダイアログパフォーマンス、ダイアログ作成への取り組みを含む) 10%																																																										
学生への メッセージ	自分の英語での発音を改善する努力をソフトウェアを利用しながら進めることができること。																																																										
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室																																																										
備考、 事前・事後 学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																										

科目名	医療英会話	科目名 (英文)	Medical English Conversation
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	サ
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	YEN2309c1		

コース・ユニット・一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育          ユニット：(1) 実用薬学英语          一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。  <b>【会話・ヒアリング】</b>          1. 平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べるができる。(知識・技能)          2. 薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)          3. 医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)          ・医療に関わる基礎的な listening と speaking を身につける。</p>			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション	ソフトウェアの利用方法を理解し、使えるようになる。	ソフトウェアの利用
	2	服薬指導 1 (症状の聴解)	テキスト指定ページの発音病気の症状を英語で聞いて理解できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	3	服薬指導 2 (薬分野名の発音)	テキスト指定ページの発音薬分野の名前を知り、日本語を見ても英語で発音できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	4	服薬指導 3 (薬分野名の発音)	テキスト指定ページの発音前回と同様に薬分野の名前を知り、日本語をみても英語で発音できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	5	服薬指導 4 (薬分野名と実際の薬の発音)	テキスト指定ページの発音覚えた薬分野の名前と実際に利用されている薬の名前を含めて患者さんに英語で説明できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	6	服薬指導 5 (薬分野の簡単な説明発音)	テキスト指定ページの発音薬の簡単な英語で説明をすることができる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	7	復習テスト 1 (リスニング・スピーキング)	復習テストの準備	復習テスト
	8	服薬指導 6 (薬分野の簡単な説明発音)	テキスト指定ページの発音 6 回目授業に引き続き薬の簡単な説明を英語ですることができる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	9	服薬指導 7 (服用方法と注意事項)	テキスト指定ページの発音服用方法と摂取時の注意事項を英語で説明できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	10	服薬指導 8 (調剤薬局薬剤師の会話)	テキスト指定ページの発音一般的な調剤薬局の薬剤師が話す内容を英語で説明できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	11	服薬指導 9 (病院の薬剤師の会話)	テキスト指定ページの発音病院の薬剤師が患者さんの入院時に話す内容を英語で話すことができる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	12	服薬指導 10 (副作用の発音)	テキスト指定ページの発音	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	13	復習テスト 2 (リスニング・スピーキング)	復習テストの準備	復習テスト
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	5 分間 英語発音	関根応之 著	南雲堂
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価の時期・方法・基準	授業期間に行う復習テスト 1 と 2 (各 25%)、 授業内スピーキング課題 (35%) 情報レポート (15%) 計 100 点満点中 60 点以上で合格			
学生へのメッセージ	自分の英語での発音を改善する努力をソフトウェアを利用しながら進めることができること。			
担当者の研究室等	1 号館 2 階 非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 期末試験は行わない。			

科目名	医療英会話	科目名 (英文)	Medical English Conversation
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	シ
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山内 浩充
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎		
科目ナンバリング	YEN2309c1		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育          ユニット：(1) 実用薬学英語          一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。</p> <p>【会話・ヒアリング】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べることができる。(知識・技能)</li> <li>薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> <li>医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> </ol> <p>・外国人の患者さんに対応できるように、また、海外で病気や事故にあった時に対応できるように、医療に関わる基礎的なリスニングとスピーキングを身につける。</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	ガイダンス	教科書を持参すること	観察記録・小テスト
	2	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (1)	観察記録・小テスト
	3	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (2)	観察記録・小テスト
	4	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (1)	観察記録・小テスト
	5	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (2)	観察記録・小テスト
	6	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、アレルギーの有無の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
	7	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、薬歴の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
	8	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、食事や嗜好品の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
	9	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、副作用の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト
	10	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、薬の保管方法の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト
	11	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や使用法を復習するとともに、会計のときの会話を学習	観察記録・小テスト
	12	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (1)	観察記録・小テスト
	13	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (2)	観察記録・小テスト

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	薬剤師のための実践英会話	小宮山 貴子	じほう
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・ 方法・基準	講義中の観察記録（質疑応答、授業態度など）30%と小テスト70%で評価する。 100点満点中、60点以上で合格。
-----------------	---

学生への メッセージ	新しい語句を積極的に覚えるように。 英語の学習には日々の積み重ねが必要ですので、怠らないように。
---------------	---

担当者の 研究室等	1号館2階、非常勤講師室
--------------	--------------

備考、 事前・事後 学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室に対応する。
----------------------	--

科目名	海外語学研修	科目名(英文)	Overseas Language Training
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP2△		
科目ナンバリング	YEN2310c1		

<p>コース・ユニット・一般目標</p>	<p>外国語の運用能力(語学力)と、異文化環境で適切なコミュニケーションと行動をとる力(異文化間能力)の向上を目的とする。募集ガイダンスへの参加からはじまる事前学習、海外研修先での実地学習、帰国後の成果報告を含む事後学習で構成される。研修先での授業は月曜日から金曜日に開講され、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊・費用等の詳細は募集ガイダンスで周知する。</p> <p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外研修の目的と安全管理に関するガイダンスの受講と内容理解の確認</li> <li>多読、会話演習など、学内の教材や設備を使った語学演習、ICTを活用した自主練習(ガイダンス時に説明)</li> <li>渡航先の社会事情、歴史、文化に関する情報収集(ガイダンス時に説明)</li> <li>研修中の目標と行動計画の策定。漠然と「語学力を上げたい」「話せるようになりたい」ではなく、「滞在中に・・・をする」という具体的な行動目標を立てること。</li> </ul> <p>海外研修中</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標と行動計画に従い、授業に真摯に取り組むことはもちろん、授業外でも積極的に講師、スタッフ、ホストファミリーなど周囲の人々に話しかけ、コミュニケーションを進めること。</li> <li>事前に情報収集して得た知識を活用して目標に向けて行動し、日々の成果と反省点について記録をつけながら過ごすこと。</li> </ul> <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同時期に開催される他の研修参加者と合同での成果報告会が開催されるので、そこで研修の成果と反省点についてのプレゼンテーションを行う。</li> <li>成果と反省点をまとめたレポート(報告書)を作成して提出する。</li> </ul> <p>※このシラバスの以下の授業計画では夏に研修をする場合(A)と、春に研修をする場合(B)の2とおりのスケジュールを併記していますが、年度によって開催時期が異なる場合があります。募集ガイダンスで確認してください。</p>
----------------------	---

<p>授業計画</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>A: 4月 / B: 9~10月 募集ガイダンス(日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する)</td> <td>出席・質疑応答</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>A: 5月 / B: 11~12月 申込書の提出  A: 5月下旬 / B: 11~12月 派遣学生の決定および履修申請</td> <td>必要書類の提出</td> <td>提出書類の検討と面談</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>A: 6月~8月 / B: 12~1月  事前ガイダンス(全3回)</td> <td>出席・質疑応答 必要書類の提出</td> <td>事前のガイダンス出席が義務付けられている</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>A: 8月上旬 / B: 2月上旬 結団式</td> <td>出席</td> <td>事前のガイダンス出席が義務付けられている</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>&lt;研修スケジュール&gt; A: 8月中旬~9月上旬 B: 3月上旬~中旬 上記の中の2週間</td> <td>学習活動への参加</td> <td>研修先機関による成績評価</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>研修</td> <td>学習活動への参加</td> <td>研修先機関による成績評価</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>研修</td> <td>学習活動への参加</td> <td>研修先機関による成績評価</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>研修</td> <td>学習活動への参加</td> <td>研修先機関による成績評価</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>研修</td> <td>学習活動への参加</td> <td>研修先機関による成績評価</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>研修</td> <td>学習活動への参加</td> <td>研修先機関による成績評価</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>研修</td> <td>学習活動への参加</td> <td>研修先機関による成績評価</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>研修</td> <td>学習活動への参加</td> <td>研修先機関による成績評価</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>研修</td> <td>学習活動への参加</td> <td>研修先機関による成績評価</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>A: 9月下旬~10月上旬(予定) B: 3月下旬(予定)</td> <td>成果報告会</td> <td>成果報告会でのプレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>A: 9月下旬~10月上旬(予定) B: 3月下旬(予定)</td> <td>レポート提出</td> <td>レポート提出</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	A: 4月 / B: 9~10月 募集ガイダンス(日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する)	出席・質疑応答	なし	2	A: 5月 / B: 11~12月 申込書の提出  A: 5月下旬 / B: 11~12月 派遣学生の決定および履修申請	必要書類の提出	提出書類の検討と面談	3	A: 6月~8月 / B: 12~1月  事前ガイダンス(全3回)	出席・質疑応答 必要書類の提出	事前のガイダンス出席が義務付けられている	4	A: 8月上旬 / B: 2月上旬 結団式	出席	事前のガイダンス出席が義務付けられている	5	<研修スケジュール> A: 8月中旬~9月上旬 B: 3月上旬~中旬 上記の中の2週間	学習活動への参加	研修先機関による成績評価	6	研修	学習活動への参加	研修先機関による成績評価	7	研修	学習活動への参加	研修先機関による成績評価	8	研修	学習活動への参加	研修先機関による成績評価	9	研修	学習活動への参加	研修先機関による成績評価	10	研修	学習活動への参加	研修先機関による成績評価	11	研修	学習活動への参加	研修先機関による成績評価	12	研修	学習活動への参加	研修先機関による成績評価	13	研修	学習活動への参加	研修先機関による成績評価	14	A: 9月下旬~10月上旬(予定) B: 3月下旬(予定)	成果報告会	成果報告会でのプレゼンテーション	15	A: 9月下旬~10月上旬(予定) B: 3月下旬(予定)	レポート提出	レポート提出
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																														
1	A: 4月 / B: 9~10月 募集ガイダンス(日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する)	出席・質疑応答	なし																																																														
2	A: 5月 / B: 11~12月 申込書の提出  A: 5月下旬 / B: 11~12月 派遣学生の決定および履修申請	必要書類の提出	提出書類の検討と面談																																																														
3	A: 6月~8月 / B: 12~1月  事前ガイダンス(全3回)	出席・質疑応答 必要書類の提出	事前のガイダンス出席が義務付けられている																																																														
4	A: 8月上旬 / B: 2月上旬 結団式	出席	事前のガイダンス出席が義務付けられている																																																														
5	<研修スケジュール> A: 8月中旬~9月上旬 B: 3月上旬~中旬 上記の中の2週間	学習活動への参加	研修先機関による成績評価																																																														
6	研修	学習活動への参加	研修先機関による成績評価																																																														
7	研修	学習活動への参加	研修先機関による成績評価																																																														
8	研修	学習活動への参加	研修先機関による成績評価																																																														
9	研修	学習活動への参加	研修先機関による成績評価																																																														
10	研修	学習活動への参加	研修先機関による成績評価																																																														
11	研修	学習活動への参加	研修先機関による成績評価																																																														
12	研修	学習活動への参加	研修先機関による成績評価																																																														
13	研修	学習活動への参加	研修先機関による成績評価																																																														
14	A: 9月下旬~10月上旬(予定) B: 3月下旬(予定)	成果報告会	成果報告会でのプレゼンテーション																																																														
15	A: 9月下旬~10月上旬(予定) B: 3月下旬(予定)	レポート提出	レポート提出																																																														

関連科目	英語その他外国語科目、研修先の地域に関する科目
------	-------------------------

<p>教科書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

<p>参考書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価の時期・	事前学習・成果報告会のプレゼン・レポート(30%)
--------	---------------------------

方法・基準	研修先での成績（70％）
学生へのメッセージ	大学生になったら一度は海外に出て自分を鍛えましょう。迷ったら国際交流センターに相談を。
担当者の研究室等	国際交流センター
備考、事前・事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。欠席の場合は、事前に国際交流センターへ連絡をしてください。</li> <li>・事前に参加申込みをし、参加許可を得た者に限り履修できる。通常の履修申請とは方法が異なるので注意。</li> <li>・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上、履修を検討すること。学部・学年によっては、今年度は受講できない場合もあります。</li> </ul>

科目名	スポーツ科学	科目名 (英文)	Sports Sciences
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP5△, DP8△		
科目ナンバリング	YPH1311a1		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、体力の維持・増進、スポーツ技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツを実践する能力を育成することを目的としている。</p> <p>授業担当者は医療機関等における運動指導経験から、様々な年代の人々や有疾患者における運動が心身の健康にどのように貢献するか、対話を通して理解を深めてきた。このことを本授業に活用し、健康に関する課題解決的な学びや、学生自身のみならず様々な背景を持つ人々の健康に対する多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。</p> <p>&lt;一般目標&gt;</p> <p>①健康の維持・増進をはかる。 ②運動技能を向上させることができる。 ③マナーやルールを理解し、実践することができる。 ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる。</p> <p>授業は実技形式で行う（雨天の場合、講義形式で行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおり バレーボール、サッカー、フットサル、テニス、ニュースポーツなど。 なお各種目の人数が多過ぎる場合は、他の種目に移動してもらうことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行うので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は事前に、寝屋川キャンパス総合体育館事務室（072-839-9187）へ連絡してください。</p>
-----------------------	---

授業計画				
	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	運動・スポーツ実施の重要性を理解すると共に、スポーツによる人間力の向上について理解できる。	講義（講義室）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	2	現在の自分の体力を知ることができる。	大阪工業大情報科学部 体育館（体力測定 体育館種目）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	3	現在の自分の体力を知ることができる。	グラウンド（体力測定 屋外種目）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	4	現在の自分の体力を評価し、今後の課題と解決方法について理解することができる。	体力測定集計・評価（講義室）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	5	スポーツのルールやマナーを理解すると共に、基礎技術を修得することができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（各スポーツルールの説明、基礎技術練習）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	6	スポーツの基礎技術を修得することができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（基礎技術練習）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	7	スポーツの攻防技術を修得することができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（攻防技術練習）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	8	スポーツ技術を修得すると共に、ルールやマナーを守りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	9	スポーツ技術を修得すると共に、ルールやマナーを守りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	10	スポーツ技術を修得すると共に、チームメンバーとコミュニケーションを図りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	11	スポーツ技術を修得すると共に、チームメンバーとコミュニケーションを図りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	12	チームメンバーとコミュニケーションを図り、またリーダーシップを執りながら、楽しく円滑にゲームを進めることができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
13	チームメンバーとコミュニケーションを図り、またリーダーシップを執りながら、楽しく円滑にゲームを進めることができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）	

関連科目	
------	--

教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価の時期・方法・基準	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、活動点とは授業への参加意欲を、態度点とは積極性・集中度を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間にグリーンハウス体育教員室へ来てください。ただし開講日以外は、寝屋川キャンパス総合体育館1F体育館事務室(072-839-9187)へ連絡してください。
担当者の研究室等	枚方キャンパスグリーンハウス(体育準備室)。ただし授業開講曜日のみ。 他の曜日は、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室。
備考、事前・事後学習課題	【共同担当者】渡部 将之、山方 諒平

科目名	スポーツ科学	科目名 (英文)	Sports Sciences
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	DEF
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP5△, DP8△		
科目ナンバリング	YPH1311a1		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、体力の維持・増進、スポーツ技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツを実践する能力を育成することを目的としている。</p> <p>授業担当者は医療機関等における運動指導経験から、様々な年代の人々や有疾患者における運動が心身の健康にどのように貢献するか、対話を通して理解を深めてきた。このことを本授業に活用し、健康に関する課題解決的な学びや、学生自身のみならず様々な背景を持つ人々の健康に対する多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。</p> <p>&lt;一般目標&gt; ①健康の維持・増進をはかる。 ②運動技能を向上させることができる。 ③マナーやルールを理解し、実践することができる。 ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる。</p> <p>授業は実技形式で行う（雨天の場合、講義形式で行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおり バレーボール、サッカー、フットサル、テニス、ニュースポーツなど。 なお各種目の人数が多過ぎる場合は、他の種目に移動してもらうことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行うので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は事前に、寝屋川キャンパス総合体育館事務室（072-839-9187）へ連絡してください。</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	運動・スポーツ実施の重要性を理解すると共に、スポーツによる人間力の向上について理解できる。	講義（講義室）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	2	現在の自分の体力を知ることができる。	大阪工業大情報科学部 体育館（体力測定 体育館種目）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	3	現在の自分の体力を知ることができる。	グラウンド（体力測定 屋外種目）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	4	現在の自分の体力を評価し、今後の課題と解決方法について理解することができる。	体力測定集計・評価（講義室）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	5	スポーツのルールやマナーを理解すると共に、基礎技術を修得することができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（各スポーツルールの説明、基礎技術練習）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	6	スポーツの基礎技術を修得することができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（基礎技術練習）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	7	スポーツの攻防技術を修得することができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（攻防技術練習）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	8	スポーツ技術を修得すると共に、ルールやマナーを守りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	9	スポーツ技術を修得すると共に、ルールやマナーを守りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	10	スポーツ技術を修得すると共に、チームメンバーとコミュニケーションを図りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	11	スポーツ技術を修得すると共に、チームメンバーとコミュニケーションを図りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	12	チームメンバーとコミュニケーションを図り、またリーダーシップを執りながら、楽しく円滑にゲームを進めることができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	13	チームメンバーとコミュニケーションを図り、またリーダーシップを執りながら、楽しく円滑にゲームを進めることができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、活動点とは授業への参加意欲を、態度点とは積極性・集中度を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間にグリーンハウス体育教員室へ来てください。ただし開講日以外は、寝屋川キャンパス総合体育館1F体育館事務室(072-839-9187)へ連絡してください。
担当者の研究室等	枚方キャンパスグリーンハウス(体育準備室)。ただし授業開講曜日のみ。 他の曜日は、寝屋川キャンパス総合体育館1階 体育館事務室。
備考、事前・事後学習課題	【共同担当者】渡部 将之、山方 諒平

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : B O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 Δ, DP2 O, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, DP7 O, W 科 : DP1 O, DP7 O, N 科 : DP1 O, DP8 ΔN : DP1 O, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (11 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (11 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (11 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (10 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画 4 : 「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
13	映画 4 : 「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
14	映画 4 : 「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
15	テーマ 3・4 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。			
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。			
担当者の 研究室等	7号館4階(門協研究室)			
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。			

科目名	日本事情FⅡ	科目名(英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:B〇,C科:Ⅲ〇,VⅠ〇,L科:DP1△,DP2〇,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP7〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1)映画についての情報・その他背景知識について説明 (2)映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3)テーマについてディスカッション (4)「書く」練習
科目学習の効果(資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習(2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(1.5時間)
2	映画1:テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
3	映画1:テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
4	映画1:テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(4章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
5	映画2:テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計2時間)
6	映画2:テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習(11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
7	映画2:テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
9	映画3:テーマ「趣味とスポーツ」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計2時間)
10	映画3:テーマ「趣味とスポーツ」	内容理解、タスク	テキスト予習(2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
11	映画3:テーマ「趣味とスポーツ」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
12	映画4:「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
13	映画4:「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習(10章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
14	映画4:「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間)
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。			
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。			
担当者の 研究室等	7号館4階(門協研究室)			
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。			

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP8○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP8○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	4	背理法①	読解、内容理解	復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	ついでに何を？①	読解、内容理解	復習
	9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	復習
	11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, DP8◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	復習
	13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
	14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
----	---

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP8○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。
----	---

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1○, DP7△, DP8△, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP8○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・読んだ内容を要約できる。</li> <li>・段落分けして書ける。</li> <li>・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習	5	段落②	実践練習	復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習	13	要約②	実践練習	復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習	15	総復習	総復習	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習																																																																
5	段落②	実践練習	復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習																																																																
13	要約②	実践練習	復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習																																																																
15	総復習	総復習	復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</p>																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP8〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通して、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・レポート・論文の書き方を守って書ける。</li> <li>・アウトラインに沿って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集められる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>復習 資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習	8	序論②	序論を書く	復習	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習	11	本論③	本論を書く	復習	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習	13	結論②	結論を書く	復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習																																																																
8	序論②	序論を書く	復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習																																																																
11	本論③	本論を書く	復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習																																																																
13	結論②	結論を書く	復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、レポート(30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP7○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	<p>授業では特定のテーマに関する資料を用い、以下の4点を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料で使用されている語彙や表現を学ぶ</li> <li>2. 資料の内容を理解する</li> <li>3. 資料の内容について意見交換を行う</li> <li>4. 必要に応じて資料の要約や意見文を書く</li> </ol> <p>日本語の語彙力、読解力、口頭コミュニケーション能力、ライティング力を総合的に養うことを目的とする。</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論説文に特徴的な表現や語彙を理解することができる。</li> <li>2. 社会的・専門的テーマに関する資料を読んで理解することができる。</li> <li>3. 特定のテーマについて他者と議論・対話を行うことができる。</li> <li>4. 適切な文体・表現を用いて文章を書くことができる。</li> </ol>																																																																		
授業方法と留意点	社会的・専門的テーマに関する資料を読んでいくが、内容理解にとどまらず、内容を踏まえた上で自身の考えを深めることが求められる。したがって、授業では語彙・表現等の説明も行うが、意見交換を重視する。また、自分の考えを一方向的に述べるだけでなく、異なる意見をもつ他者とのように話し合いを進めていくかということにも意識的に取り組んでいく。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>自己紹介 授業の概要説明</td> <td>自己紹介文を書く</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>テーマ1</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>テーマ2</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ3</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>確認</td> <td>テーマ1から3の学習内容に関する確認・小テスト</td> <td>テーマ1から3のうち1つ選んで、意見文を書く</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>テーマ4</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>テーマ5</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>テーマ6</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>確認</td> <td>テーマ4から6の学習内容に関する確認・小テスト</td> <td>テーマ4から6のうち1つ選んで、意見文を書く</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>テーマ7</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>テーマ8</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>テーマ9</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>確認</td> <td>テーマ7から9の学習内容に関する確認・小テスト</td> <td>テーマ7から9のうち1つ選んで、意見文を書く</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>レポート作成準備</td> <td>レポートの書き方</td> <td>これまで扱ったテーマの中から1つ選びレポートを作成する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>発表・フィードバック</td> <td>レポート内容の発表および話し合い</td> <td>返却されたレポートの訂正箇所について確認する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	自己紹介 授業の概要説明	自己紹介文を書く	2	テーマ1	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する	3	テーマ2	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する	4	テーマ3	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する	5	確認	テーマ1から3の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ1から3のうち1つ選んで、意見文を書く	6	テーマ4	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する	7	テーマ5	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する	8	テーマ6	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する	9	確認	テーマ4から6の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ4から6のうち1つ選んで、意見文を書く	10	テーマ7	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する	11	テーマ8	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する	12	テーマ9	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する	13	確認	テーマ7から9の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ7から9のうち1つ選んで、意見文を書く	14	レポート作成準備	レポートの書き方	これまで扱ったテーマの中から1つ選びレポートを作成する	15	発表・フィードバック	レポート内容の発表および話し合い	返却されたレポートの訂正箇所について確認する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	自己紹介 授業の概要説明	自己紹介文を書く																																																																
2	テーマ1	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する																																																																
3	テーマ2	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する																																																																
4	テーマ3	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する																																																																
5	確認	テーマ1から3の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ1から3のうち1つ選んで、意見文を書く																																																																
6	テーマ4	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する																																																																
7	テーマ5	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する																																																																
8	テーマ6	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する																																																																
9	確認	テーマ4から6の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ4から6のうち1つ選んで、意見文を書く																																																																
10	テーマ7	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する																																																																
11	テーマ8	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する																																																																
12	テーマ9	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する																																																																
13	確認	テーマ7から9の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ7から9のうち1つ選んで、意見文を書く																																																																
14	レポート作成準備	レポートの書き方	これまで扱ったテーマの中から1つ選びレポートを作成する																																																																
15	発表・フィードバック	レポート内容の発表および話し合い	返却されたレポートの訂正箇所について確認する																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み 30%、小テスト 30%、レポート 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講者の日本語レベルにより授業内容を調整・変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	国際交流センター講師控室 (3号館4階)																																																																		
備考	<p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。          受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。          授業では学生同士の話し合いを観察し、教師が適宜フィードバックを行う。</p>																																																																		

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP7〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	日本や国際社会における社会・時事問題への理解を深めると同時に、問題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	1. 社会的な問題について論理的に自分の意見を述べるができる。 2. 他者の意見に耳を傾け、建設的に議論を進めていくことができる。
授業方法と留意点	日本・国際社会の問題に関するニュースや新聞(生教材)を使い、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	2	トピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	3	トピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	4	トピック④	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	5	トピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	6	トピック⑥	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	7	トピック⑦	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	8	トピック⑧	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	9	学生持ち寄りのトピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	10	学生持ち寄りのトピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	11	学生持ち寄りのトピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	翌週行う自分の持ち寄りトピックに関する資料収集
	14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに絞り込み、発表資料を作成する	発表練習
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	発表のフィードバックシートを用い、改善点等を確認する	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。 議論を行ううえで不明な語彙や表現がある場合は教師が適宜サポート・フィードバックします。

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRで必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	ビジネスにおけるEメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションで必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
15	総復習・確認テスト	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業の参加度 (10%)、課題 (30%)、テスト (60%) により総合的に判断する。
学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
担当者の研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)
備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 1-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 4-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 5-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 5-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>発表資料の作り方</td> <td>発表資料の作り方について学ぶ</td> <td>発表テーマを決めておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発表準備 1</td> <td>発表資料の作成</td> <td>発表資料の作成 (残り)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発表準備 2</td> <td>発表資料の修正</td> <td>発表練習 (文体に気を付ける)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>口頭発表</td> <td>発表 質疑応答 振り返り</td> <td>質疑応答の仕方について復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。																																																																		

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (11章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5時間)
2	映画1: テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
3	映画1: テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
4	映画1: テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)
5	映画2: テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2時間)
6	映画2: テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (4章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
7	映画2: テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)
9	映画3: テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2時間)
10	映画3: テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (10章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
11	映画3: テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)
12	映画4: 「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)
13	映画4: 「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習 (4章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
14	映画4: 「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間)
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。			
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。			
担当者の 研究室等	7号館4階(門協研究室)			
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。			

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5時間)
2	映画1: テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
3	映画1: テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
4	映画1: テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)
5	映画2: テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2時間)
6	映画2: テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
7	映画2: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)
9	映画3: テーマ「趣味とスポーツ」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2時間)
10	映画3: テーマ「趣味とスポーツ」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
11	映画3: テーマ「趣味とスポーツ」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)
12	映画4: 「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)
13	映画4: 「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (10章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
14	映画4: 「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間)
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。			
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。			
担当者の 研究室等	7号館4階(門協研究室)			
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。			

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語文法R	科目名(英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認(復習)。目安は毎週1時間。 (4)小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。
----	--

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1○, DP7△, DP8△, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・読んだ内容を要約できる。</li> <li>・段落分けして書ける。</li> <li>・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習	5	段落②	実践練習	復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習	13	要約②	実践練習	復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習	15	総復習	総復習	復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習																																																																
5	段落②	実践練習	復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習																																																																
13	要約②	実践練習	復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習																																																																
15	総復習	総復習	復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</p>																																																																		

科目名	日本語総合R	科目名(英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	日本や国際社会における社会・時事問題への理解を深めると同時に、問題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	1. 社会的な問題について論理的に自分の意見を述べるができる。 2. 他者の意見に耳を傾け、建設的に議論を進めていくことができる。
授業方法と留意点	日本・国際社会の問題に関するニュースや新聞(生教材)を使い、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄り、話し合う。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	2	トピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	3	トピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	4	トピック④	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	5	トピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	6	トピック⑥	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	7	トピック⑦	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	8	トピック⑧	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	9	学生持ち寄りのトピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	10	学生持ち寄りのトピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	11	学生持ち寄りのトピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	翌週行う自分の持ち寄りトピックに関する資料収集
	14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに絞り込み、発表資料を作成する	発表練習
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	発表のフィードバックシートを用い、改善点等を確認する	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。 議論を行ううえで不明な語彙や表現がある場合は教師が適宜サポート・フィードバックします。

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRで必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRで必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本語会話R	科目名(英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成(残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習(文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室(7号館2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	英語Ⅲ a	科目名 (英文)	English IIIa
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	A B C D E F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ユニット・一般目標	<p>コース：(F) 薬学準備教育          ユニット：(2) 薬学英語入門</p> <p>一般目標：薬学を中心とした自然科学の分野で必要とされる英語の基礎力を身につけるために、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基礎的知識と技能を修得する。</p> <p>【読む】、【書く】、【聞く・話す】本授業では、近年話題の幹細胞研究の変遷に関する話題を中心として、医薬品の開発の現状と課題、今後発展する新しい医療について取り上げる。その中から、製薬企業や医療業界で就業する際に必要となる実践的な英語コミュニケーション能力や語彙形成を目指す。</p> <p>・予定する授業内容は授業計画の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度や内容など調整することもある。</p>
---------------	--

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業の進め方についての説明 人体各部の名称について知り、英語で発音できる。 (p. 180-185)	講義・演習
2	Listening/ Reading 課題 病気の名前について英語で知り、発音できる。 (p. 150-156)	講義・演習	提出物、クラス演習
3	Listening/ Reading 課題 2回目の授業に引き続き、それぞれの病気の症状を英語で表現する。 (p. 142-145, 150-156)	講義・演習	提出物、クラス演習
4	Listening/ Reading 課題 病気の症状の表現を英語で確認し、発音できる。さらに、詳しく症状について調べる。 (p. 142-145, 150-156)	講義・演習	提出物、クラス演習
5	病気の症状についての発表	講義・演習	クラス発表
6	Listening/ Reading 課題 診療科・メディカルスタッフの名称、または医療現場でよく使用される略語を知り、発音できる。 (p. 157-163)	講義・演習	提出物、クラス演習
7	Listening/ Reading 課題 薬の種類について英語で知り、発音できる。 (p. 164, 138-141)	講義・演習	提出物、クラス演習
8	Listening/ Reading 課題 薬の種類についてさらに詳しく英語で知り、覚えることができる。 (p. 164, 138-141)	講義・演習	提出物、クラス演習
9	Listening/ Reading 課題 薬の薬効説明について動詞を中心に英語で理解し、さらに調べる。 (p. 164, 138-141, 116-120)	講義・演習	提出物、クラス演習
10	Listening/ Reading 課題 前回に続き、薬の薬効説明について動詞を中心に英語で理解し、さらに調べる。 (p. 164, 138-141, 116-120)	講義・演習	提出物、クラス演習
11	薬効についての発表	講義・演習	クラス発表
12	Listening/ Reading 課題 保険調剤薬局での英語慣用表現を確認する。 (p. 148)	講義・演習	提出物、クラス演習
13	Listening/ Reading 課題 薬の剤形と用法についての英語表現を確認し、発音できる。 (p. 139-141)	講義・演習	提出物、クラス演習
14	Listening/ Reading 課題 数値・単位等とその読み方を知る。 (p. 146-147)	講義・演習	提出物、クラス演習
15	前期のまとめ	講義・演習	クラス演習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	薬剤師のための実践英会話	小宮山 貴子編著	じほう出版
評価の時期・方法・基準	クラス発表 (20%)、定期試験 (50%)、クラス演習・提出物 (30%) で総合的に評価します。具体的には授業で指示します。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館2階(非常勤講師室)			
備考、事前・事後学習課題	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語Ⅲ b	科目名 (英文)	English IIIb
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	A B C D E F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ユニット・一般目標	<p>コース：(F) 薬学準備教育          ユニット：(2) 薬学英語入門          一般目標：薬学を中心とした自然科学の分野で必要とされる英語の基礎力を身につけるために、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基礎的知識と技能を修得する。</p> <p>【読む】、【書く】、【聞く・話す】本授業では、近年話題の幹細胞研究の変遷に関する話題を中心として、医薬品の開発の現状と課題、今後発展する新しい医療について取り上げる。その中から、製薬企業や医療業界で就業する際に必要となる実践的な英語コミュニケーション能力や語彙形成を目指す。</p> <p>・予定する授業内容は授業計画の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度や内容など調整することもある。</p>
---------------	--

授業計画										
	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価						
	1	授業の進め方についての説明 舌下錠の服用方法についてテキストから復習し、実際に発音する。 (p. 26)	講義・演習	クラス演習						
	2	Listening/ Reading 課題 吸入薬の吸入方法についてテキストから復習し、さらにさまざまな例を知る。 (p. 30)	講義・演習	提出物、クラス演習						
	3	Listening/ Reading 課題 ワーファリン服用中の食べ物に関する指導についてテキストから復習し、さらにビタミン K について詳しく知る。 (p. 44)	講義・演習	提出物、クラス演習						
	4	Listening/ Reading 課題 日光過敏症になりやすい薬についてテキストから復習し、さらにさまざまな例を知る。 (p. 46)	講義・演習	提出物、クラス演習						
	5	授業内レポート 薬アレルギーについてテキストから復習し、さらにはどのようなアレルギー反応が見られるかを調べる。 (p. 60)	講義・演習	授業内レポート						
	6	Listening/ Reading 課題 副作用の可能性の説明についてテキストから確認し、さらに薬の副作用について調べる。 (p. 58)	講義・演習	提出物、クラス演習						
	7	Listening/ Reading 課題 OTC 薬の服用についてテキストから復習し、さらに OTC 薬についての説明ができる準備をする。 (p. 66)	講義・演習	提出物、クラス演習						
	8	Listening/ Reading 課題 前回に引き続き、日本の薬局で見られる OTC 薬、またはその他の医療品を取り上げ、その説明を英語で行う。 (p. 66)	講義・演習	提出物、クラス演習						
	9	OTC 薬についての発表	講義・演習	クラス内発表						
	10	Listening/ Reading 課題 在宅患者へ薬を届けることについてテキストから確認し、英会話を確認する。 (p. 88-93)	講義・演習	提出物、クラス演習						
	11	Listening/ Reading 課題 退院時服薬指導についてテキストから確認し、服薬指導について必要な事柄を英語で確認する。 (p. 80)	講義・演習	クラス発表						
	12	Listening/ Reading 課題 薬に関する Q & A より	講義・演習	提出物、クラス演習						
	13	Listening/ Reading 課題 薬に関する Q & A より	講義・演習	提出物、クラス演習						
	14	薬に関する Q & A からの知識を利用して授業内レポートを行う。	講義・演習	授業内レポート						
15	後期のまとめ	講義・演習	クラス演習							

関連科目

教科書							
	番号	書籍名	著者名	出版社名			
	1	プリント教材					
	2						
	3						

参考書							
	番号	書籍名	著者名	出版社名			
	1	薬剤師のための実践英会話	小宮山 貴子編著	じほう出版			

	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	クラス発表・クラスレポート (20%)、定期試験 (50%)、クラス演習・提出物 (30%) で総合的に評価します。具体的には授業で指示します。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館2階(非常勤講師室)			
備考、事前・事後学習課題	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	中国語	科目名 (英文)	Chinese
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ユニット・一般目標  
 ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、基本句型を使った日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を味わうことができる。

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	発音、ピンイン、単語を学ぶことができる。 ・中国語の音節 ・声調 (アクセント) ・母音 (単母音、複母音)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第1～2課の単語とフレーズを流暢に読み、また正確に書く練習をすること。p2、p5、p6、p9.	正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。
2	発音、ピンイン、単語を学ぶことができる。 ・子音 (無気音と有気音、そり下音) ・母音 (鼻母音) ・声調記号の付け方 ・r化音	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第3～4課の単語とフレーズを流暢に読み、また正確に書く練習をすること。p10、p13、p14、p17.	正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。
3	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・判断を表す「是 (だ)」 ・省略疑問文 ・助詞「的 (の)」 ・会話 (パーティーで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第5課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p18、p20、21.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
4	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動詞構文の基本語順 ・疑問詞疑問文 ・選択疑問文 ・会話 (喫茶店で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第6課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p22、p24-25.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
5	第1-6課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・復習 ・単元テスト1	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第1-6課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト1 (1～6課)の準備をすること。	単元テストの成績で評価する。
6	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・年月日・曜日の言い方 ・時刻の言い方 ・連動文 ・会話 (昼休みに)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p26、p28-29.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
7	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動詞「在」 ・動詞「有①」 ・年齢の言い方 ・会話 (倶楽部かジムで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第8課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p30、p32-33.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
8	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・形容詞述語文 ・助動詞「想 (～たい)」 ・時間量の言い方 ・会話 (キャンパスで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第9課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p34、p36-37.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
9	第7-9課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・復習 ・単元テスト2	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7-9課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト2 (7～9課)の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
10	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動詞「有②」 ・方位詞 ・前置詞「從 (から)、離 (から、まで)」 ・会話 (街角で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第10課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p38、p40-41.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
11	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動作の進行と状態持続を表す表現 ・助動詞「会 (できる)」 ・助詞「過 (～たことがある)」 ・会話 (パソコンの前で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第11課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p42、p44-45.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
12	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・量詞 ・助動詞「能 (することができる)、可以 (～てよい)」 ・前置詞「在 (で)」 ・会話 (観光地の店で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第12課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p46、p48-49.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
13	第10-12課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・復習 ・単元テスト3	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7-9課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト3 (10～12課)の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	楽々学習 初級中国語 12 課	陳淑梅・胡興智	同学社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	小テスト(20%)、単元テスト(50%)と期末試験(30%)で評価する。100点満点中60点以上で合格。			
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の研究室等	非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	グローバルコミュニケーション(中国語) Bクラスの授業担当者:松田 郁子 グローバルコミュニケーション(中国語) Cクラスの授業担当者:兪 鳴蒙  「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習(テキストを読む。1時間x13回)、 復習(講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間x13回)、 自己学習(講義プリントに記載されている確認問題を解答する。)			

科目名	中国語	科目名 (英文)	Chinese
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松田 郁子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ユニット・一般目標	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、基本句型を使った日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を味わうことができる。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	発音、ピンイン、単語を学ぶことができる。 ・中国語の音節 ・声調 (アクセント) ・母音 (単母音、複母音)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第1～2課の単語とフレーズを流暢に読み、また正確に書く練習をすること。p2、p5、p6、p9.	正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。
	2	発音、ピンイン、単語を学ぶことができる。 ・子音 (無気音と有気音、そり下音) ・母音 (鼻母音) ・声調記号の付け方 ・r化音	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第3～4課の単語とフレーズを流暢に読み、また正確に書く練習をすること。p10、p13、p14、p17.	正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。
	3	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・判断を表す「是 (だ)」 ・省略疑問文 ・助詞「的 (の)」 ・会話 (パーティーで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第5課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p18、p20、21.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	4	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動詞構文の基本語順 ・疑問詞疑問文 ・選択疑問文 ・会話 (喫茶店で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第6課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p22、p24-25.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	5	第1-6課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・復習 ・単元テスト1	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第1-6課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト1 (1～6課)の準備をすること。	単元テストの成績で評価する。
	6	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・年月日・曜日の言い方 ・時刻の言い方 ・連動文 ・会話 (昼休みに)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p26、p28-29.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	7	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動詞「在」 ・動詞「有①」 ・年齢の言い方 ・会話 (倶楽部かジムで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第8課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p30、p32-33.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	8	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・形容詞述語文 ・助動詞「想 (～たい)」 ・時間量の言い方 ・会話 (キャンパスで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第9課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p34、p36-37.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	9	第7-9課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・復習 ・単元テスト2	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7-9課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト2 (7～9課)の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	10	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動詞「有②」 ・方位詞 ・前置詞「從 (から)、離 (から、まで)」 ・会話 (街角で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第10課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p38、p40-41.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	11	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動作の進行と状態持続を表す表現 ・助動詞「会 (できる)」 ・助詞「過 (～たことがある)」 ・会話 (パソコンの前で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第11課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p42、p44-45.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	12	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・量詞 ・助動詞「能 (することができる)、可以 (～てよい)」 ・前置詞「在 (で)」 ・会話 (観光地の店で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第12課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p46、p48-49.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
13	第10-12課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・復習 ・単元テスト3	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7-9課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト3 (10～12課)の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	楽々学習 初級中国語 12 課	陳淑梅・胡興智	同学社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	小テスト(20%)、単元テスト(50%)と期末試験(30%)で評価する。100点満点中60点以上で合格。			
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の研究室等	非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	グローバルコミュニケーション(中国語) Aクラスの授業担当者:段 飛虹 グローバルコミュニケーション(中国語) Cクラスの授業担当者:兪 鳴蒙  「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習(テキストを読む。1時間x13回)、 復習(講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間x13回)、 自己学習(講義プリントに記載されている確認問題を解答する。)			

科目名	中国語	科目名 (英文)	Chinese
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	俞 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

基礎科目

コース・ユニット・一般目標	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、基本句型を使った日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を味わうことができる。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	発音、ピンイン、単語を学ぶことができる。 ・ 中国語の音節 ・ 声調 (アクセント) ・ 母音 (単母音、複母音)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第1～2課の単語とフレーズを流暢に読み、また正確に書く練習をすること。p2、p5、p6、p9.	正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。
	2	発音、ピンイン、単語を学ぶことができる。 ・ 子音 (無気音と有気音、そり下音) ・ 母音 (鼻母音) ・ 声調記号の付け方 ・ r 化音	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第3～4課の単語とフレーズを流暢に読み、また正確に書く練習をすること。p10、p13、p14、p17.	正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。
	3	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・ 判断を表す「是 (だ)」 ・ 省略疑問文 ・ 助詞「的 (の)」 ・ 会話 (パーティーで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第5課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p18、p20、21.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	4	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・ 動詞構文の基本語順 ・ 疑問詞疑問文 ・ 選択疑問文 ・ 会話 (喫茶店で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第6課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p22、p24-25.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	5	第1-6課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・ 復習 ・ 単元テスト1	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第1-6課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト1 (1～6課)の準備をすること。	単元テストの成績で評価する。
	6	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・ 年月日・曜日の言い方 ・ 時刻の言い方 ・ 連動文 ・ 会話 (昼休みに)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p26、p28-29.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	7	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・ 動詞「在」 ・ 動詞「有①」 ・ 年齢の言い方 ・ 会話 (倶楽部かジムで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第8課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p30、p32-33.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	8	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・ 形容詞述語文 ・ 助動詞「想 (～たい)」 ・ 時間量の言い方 ・ 会話 (キャンパスで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第9課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p34、p36-37.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	9	第7-9課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・ 復習 ・ 単元テスト2	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7-9課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト2 (7～9課)の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	10	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・ 動詞「有②」 ・ 方位詞 ・ 前置詞「從 (から)、離 (から、まで)」 ・ 会話 (街角で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第10課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p38、p40-41.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	11	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・ 動作の進行と状態持続を表す表現 ・ 助動詞「会 (できる)」 ・ 助詞「過 (～たことがある)」 ・ 会話 (パソコンの前で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第11課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p42、p44-45.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	12	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・ 量詞 ・ 助動詞「能 (することができる)、可以 (～てよい)」 ・ 前置詞「在 (で)」 ・ 会話 (観光地の店で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第12課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p46、p48-49.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
13	第10-12課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・ 復習 ・ 単元テスト3	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7-9課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト3 (10～12課)の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	楽々学習 初級中国語 12 課	陳淑梅・胡興智	同学社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	小テスト(20%)、単元テスト(50%)と期末試験(30%)で評価する。100点満点中60点以上で合格。			
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の研究室等	非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	グローバルコミュニケーション(中国語) Aクラスの授業担当者:段 飛虹 グローバルコミュニケーション(中国語) Bクラスの授業担当者:松田 郁子  「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習(テキストを読む。1時間x13回)、 復習(講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間x13回)、 自己学習(講義プリントに記載されている確認問題を解答する。)			

科目名	中国語	科目名 (英文)	Chinese
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

基礎科目

コース・ユニット・一般目標	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、基本句型を使った日常会話の練習を行うことで、外国語学習の達成感を味わうことができる。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	発音とピンインを習うことができる。 ・中国語の仕組み ・単母音 ・声調 (アクセント) とその付け方 ・子音 (1) ・複合母音	授業形式。自己学習: CD を聞いて、第 1～2 課の発音を練習すること。p8-11.	正しく発音できる。
	2	発音、ピンイン、単語を習うことができる。 ・子音 (2) ・鼻母音 ・声調変化 ・隔音記号 ・r 化音 ・声調の変化 ・数字の読み方 ・人称代名詞	授業形式。自己学習: CD を聞いて、第 1～2 課の発音を練習すること。p12-15.	正しく発音できる。数を数えられる。
	3	単語、文法、会話を習うことができる。 ・判断動詞「是」 ・名前の尋ね方と答え方 ・疑問詞疑問文 ・副詞「也」 ・会話 (お名前は)	授業形式。自己学習: 第 5 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p20、p21、p23.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読める。
	4	単語、文法、会話を習うことができる。 ・動詞述語文 ・助詞「的」 ・疑問詞「?」 ・会話 (専攻は何ですか)	授業形式。自己学習: 第 6 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p24、p25、p27.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読める。
	5	単語、文法、会話を習うことができる。 ・所有を表す「有」 ・指示代名詞 ・年齢の尋ね方 ・「几」と「多少」 ・会話 (何人家族ですか)	授業形式。自己学習: 第 7 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p28、p29、p31。 単元テスト 1 (5～7 課) の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	6	単語、文法、会話を習うことができる。 ・単元テスト 1 ・年月日 ・語気助詞「?」 ・選択質問文 ・前置詞「在」 ・会話 (誕生日はいつですか)	授業形式。自己学習: 第 8 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p32、p33、p35.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	7	単語、文法、会話を習うことができる。 ・助動詞「想」 ・形容詞述語文 ・時間名詞 ・「量詞」の用法 ・会話 (この辞書はいかがですか)	授業形式。自己学習: 第 9 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p36、p37、p39.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	8	単語、文法、会話を習うことができる。 ・場所代名詞と方位詞 ・存在を表す「有」 ・存在を表す「在」 ・反復疑問文 ・会話 (学校の近くにコンビニがありますか)	授業形式。自己学習: 第 10 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p40、p41、p43.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	9	単語、文法、会話を習うことができる。 ・連動文 ・変化・語気の「了」 ・動作の完了を表す「了」 ・動作の「時間量」 ・会話 (お腹がすきましたか)	第 11 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p44、p45、p47。 単元テスト 2 (8～11 課) の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	10	単語、文法、会話を習うことができる。 ・単元テスト 2 ・前置詞「从」「到」 ・前置詞「離」 ・疑問詞「怎?」 ・助動詞「要」 ・会話 (家は学校から遠いですか)	授業形式。自己学習: 第 12 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p48、p49、p51.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
11	単語、文法、会話を習うことができる。 ・動詞の進行を表す「在」 ・「快～了」変化表現の表現 ・動詞の重ね型	授業形式。自己学習: 第 13 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p52、p53、p55.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞「得」</li> <li>・会話（何をしていますか）</li> </ul>																		
	12 単語、文法、会話を習うことができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・動作継続の「了」</li> <li>・経験の「過」</li> <li>・「是への」構文</li> <li>・会話（中国へ行ったことがありますか）</li> </ul>	授業形式。自己学習：第14課の単語、会話を覚え、練習問題を解答する。p56、p57、p59。 単元テスト3（12～14課）の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。																
	13 単語、文法、会話を習うことができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト3</li> <li>・お金の言い方</li> <li>・比較の表現</li> <li>・「有点儿」と「一点儿」</li> <li>・前置詞「給」</li> <li>・会話（誰に買ってあげるのでですか）</li> </ul>	授業形式。自己学習：第15課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。 p60、p61、p63。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。																
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>自然に身につく基礎中国語</td> <td>劔重依子・杜金楓</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	自然に身につく基礎中国語	劔重依子・杜金楓	朝日出版社	2				3					
	番号	書籍名	著者名	出版社名															
	1	自然に身につく基礎中国語	劔重依子・杜金楓	朝日出版社															
	2																		
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中日辞典 第3版</td> <td>北京商務印書館・小学館</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館	2				3					
	番号	書籍名	著者名	出版社名															
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館															
	2																		
3																			
評価の時期・方法・基準	小テスト(20%)、単元テスト(50%)と期末試験(30%)で評価する。100点満点中60点以上で合格。																		
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。																		
担当者の研究室等	非常勤講師室																		
備考、事前・事後学習課題	グローバルコミュニケーション（中国語）Eクラスの授業担当者：松田 郁子 グローバルコミュニケーション（中国語）Fクラスの授業担当者：兪 鳴蒙  「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習（テキストを読む。1時間 x13回）、 復習（講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間 X13回）、 自己学習（講義プリントに記載されている確認問題を解答する。）																		

科目名	中国語	科目名 (英文)	Chinese
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松田 郁子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

基礎科目

コース・ ユニット・ 一般目標	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・文型を学ぶ。また、基本文型を使った日常会話の練習を行うことで、外国語学習の達成感を味わうことができる。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	発音とピンインを習うことができる。 ・中国語の仕組み ・単母音 ・声調 (アクセント) とその付け方 ・子音 (1) ・複合母音	授業形式。自己学習: CD を聞いて、第1～2課の発音を練習すること。p8-11.	正しく発音できる。
	2	発音、ピンイン、単語を習うことができる。 ・子音 (2) ・鼻母音 ・声調変化 ・隔音記号 ・r 化音 ・声調の変化 ・数字の読み方 ・人称代名詞	授業形式。自己学習: CD を聞いて、第1～2課の発音を練習すること。p12-15.	正しく発音できる。数を数えられる。
	3	単語、文法、会話を習うことができる。 ・判断動詞「是」 ・名前の尋ね方と答え方 ・疑問詞疑問文 ・副詞「也」 ・会話 (お名前は)	授業形式。自己学習: 第5課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p20、p21、p23.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読める。
	4	単語、文法、会話を習うことができる。 ・動詞述語文 ・助詞「的」 ・疑問詞「?」 ・会話 (専攻は何ですか)	授業形式。自己学習: 第6課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p24、p25、p27.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読める。
	5	単語、文法、会話を習うことができる。 ・所有を表す「有」 ・指示代名詞 ・年齢の尋ね方 ・「几」と「多少」 ・会話 (何人家族ですか)	授業形式。自己学習: 第7課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p28、p29、p31。 単元テスト1 (5～7課) の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	6	単語、文法、会話を習うことができる。 ・単元テスト1 ・年月日 ・語気助詞「?」 ・選択質問文 ・前置詞「在」 ・会話 (誕生日はいつですか)	授業形式。自己学習: 第8課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p32、p33、p35.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	7	単語、文法、会話を習うことができる。 ・助動詞「想」 ・形容詞述語文 ・時間名詞 ・「量詞」の用法 ・会話 (この辞書はいかがですか)	授業形式。自己学習: 第9課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p36、p37、p39.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	8	単語、文法、会話を習うことができる。 ・場所代名詞と方位詞 ・存在を表す「有」 ・存在を表す「在」 ・反復疑問文 ・会話 (学校の近くにコンビニがありますか)	授業形式。自己学習: 第10課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p40、p41、p43.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	9	単語、文法、会話を習うことができる。 ・連動文 ・変化・語気の「了」 ・動作の完了を表す「了」 ・動作の「時間量」 ・会話 (お腹がすきましたか)	第11課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p44、p45、p47。 単元テスト2 (8～11課) の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	10	単語、文法、会話を習うことができる。 ・単元テスト2 ・前置詞「从」「到」 ・前置詞「離」 ・疑問詞「怎?」 ・助動詞「要」 ・会話 (家は学校から遠いですか)	授業形式。自己学習: 第12課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p48、p49、p51.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
11	単語、文法、会話を習うことができる。 ・動詞の進行を表す「在」 ・「快～了」変化表現の表現 ・動詞の重ね型	授業形式。自己学習: 第13課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p52、p53、p55.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞「得」</li> <li>・会話（何をしていますか）</li> </ul>			
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語、文法、会話を習うことができる。</li> <li>・動作継続の「了」</li> <li>・経験の「過」</li> <li>・「是への」構文</li> <li>・会話（中国へ行ったことがありますか）</li> </ul>	授業形式。自己学習：第14課の単語、会話を覚え、練習問題を解答する。p56、p57、p59。 単元テスト3（12～14課）の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語、文法、会話を習うことができる。</li> <li>・単元テスト3</li> <li>・お金の言い方</li> <li>・比較の表現</li> <li>・「有点儿」と「一点儿」</li> <li>・前置詞「給」</li> <li>・会話（誰に買ってあげるのですか）</li> </ul>	授業形式。自己学習：第15課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。 p60、p61、p63。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	自然に身につく基礎中国語	劔重依子・杜金楓	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	小テスト(20%)、単元テスト(50%)と期末試験(30%)で評価する。100点満点中60点以上で合格。			
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の研究室等	非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	グローバルコミュニケーション（中国語）Dクラスの授業担当者：段 飛虹 グローバルコミュニケーション（中国語）Fクラスの授業担当者：兪 鳴蒙  「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習（テキストを読む。1時間 x13回）、 復習（講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間 X13回）、 自己学習（講義プリントに記載されている確認問題を解答する。）			

科目名	中国語	科目名 (英文)	Chinese
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	俞 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、基本句型を使った日常会話の練習を行うことで、外国語学習の達成感を味わうことができる。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	発音とピンインを習うことができる。 ・中国語の仕組み ・単母音 ・声調 (アクセント) とその付け方 ・子音 (1) ・複合母音	授業形式。自己学習: CD を聞いて、第 1～2 課の発音を練習すること。p8-11.	正しく発音できる。
	2	発音、ピンイン、単語を習うことができる。 ・子音 (2) ・鼻母音 ・声調変化 ・隔音記号 ・r 化音 ・声調の変化 ・数字の読み方 ・人称代名詞	授業形式。自己学習: CD を聞いて、第 1～2 課の発音を練習すること。p12-15.	正しく発音できる。数を数えられる。
	3	単語、文法、会話を習うことができる。 ・判断動詞「是」 ・名前の尋ね方と答え方 ・疑問詞疑問文 ・副詞「也」 ・会話 (お名前は)	授業形式。自己学習: 第 5 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p20、p21、p23.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読める。
	4	単語、文法、会話を習うことができる。 ・動詞述語文 ・助詞「的」 ・疑問詞「?」 ・会話 (専攻は何ですか)	授業形式。自己学習: 第 6 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p24、p25、p27.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読める。
	5	単語、文法、会話を習うことができる。 ・所有を表す「有」 ・指示代名詞 ・年齢の尋ね方 ・「几」と「多少」 ・会話 (何人家族ですか)	授業形式。自己学習: 第 7 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p28、p29、p31。 単元テスト 1 (5～7 課) の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	6	単語、文法、会話を習うことができる。 ・単元テスト 1 ・年月日 ・語気助詞「?」 ・選択質問文 ・前置詞「在」 ・会話 (誕生日はいつですか)	授業形式。自己学習: 第 8 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p32、p33、p35.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	7	単語、文法、会話を習うことができる。 ・助動詞「想」 ・形容詞述語文 ・時間名詞 ・「量詞」の用法 ・会話 (この辞書はいかがですか)	授業形式。自己学習: 第 9 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p36、p37、p39.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	8	単語、文法、会話を習うことができる。 ・場所代名詞と方位詞 ・存在を表す「有」 ・存在を表す「在」 ・反復疑問文 ・会話 (学校の近くにコンビニがありますか)	授業形式。自己学習: 第 10 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p40、p41、p43.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	9	単語、文法、会話を習うことができる。 ・連動文 ・変化・語気の「了」 ・動作の完了を表す「了」 ・動作の「時間量」 ・会話 (お腹がすきましたか)	第 11 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p44、p45、p47。 単元テスト 2 (8～11 課) の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	10	単語、文法、会話を習うことができる。 ・単元テスト 2 ・前置詞「从」「到」 ・前置詞「離」 ・疑問詞「怎?」 ・助動詞「要」 ・会話 (家は学校から遠いですか)	授業形式。自己学習: 第 12 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p48、p49、p51.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
11	単語、文法、会話を習うことができる。 ・動詞の進行を表す「在」 ・「快～了」変化表現の表現 ・動詞の重ね型	授業形式。自己学習: 第 13 課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p52、p53、p55.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞「得」</li> <li>・会話（何をしていますか）</li> </ul>																		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>12 単語、文法、会話を習うことができる。</li> <li>・動作継続の「了」</li> <li>・経験の「過」</li> <li>・「是への」構文</li> <li>・会話（中国へ行ったことがありますか）</li> </ul>	<p>授業形式。自己学習：第14課の単語、会話を覚え、練習問題を解答する。p56、p57、p59。 単元テスト3（12～14課）の準備をすること。</p>	<p>単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。</p>																
	<ul style="list-style-type: none"> <li>13 単語、文法、会話を習うことができる。</li> <li>・単元テスト3</li> <li>・お金の言い方</li> <li>・比較の表現</li> <li>・「有点儿」と「一点儿」</li> <li>・前置詞「給」</li> <li>・会話（誰に買ってあげますか）</li> </ul>	<p>授業形式。自己学習：第15課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。 p60、p61、p63。</p>	<p>単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。</p>																
関連科目																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>自然に身につく基礎中国語</td> <td>劔重依子・杜金楓</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	自然に身につく基礎中国語	劔重依子・杜金楓	朝日出版社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	自然に身につく基礎中国語	劔重依子・杜金楓	朝日出版社																
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中日辞典 第3版</td> <td>北京商務印書館・小学館</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館																
2																			
3																			
評価の時期・方法・基準	小テスト(20%)、単元テスト(50%)と期末試験(30%)で評価する。100点満点中60点以上で合格。																		
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。																		
担当者の研究室等	非常勤講師室																		
備考、事前・事後学習課題	<p>グローバルコミュニケーション（中国語）Dクラスの授業担当者：段 飛虹 グローバルコミュニケーション（中国語）Eクラスの授業担当者：松田 郁子</p> <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習（テキストを読む。1時間 x13回）、 復習（講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間 X13回）、 自己学習（講義プリントに記載されている確認問題を解答する。）</p>																		

科目名	韓国語	科目名(英文)	Korean
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

コース・ユニット・一般目標  
 不慣れな姿のハングルを知り韓国語を学ぶことで、日本語と韓国語のもつ類似点、そして同じ漢字文化圏なので、様々な言葉や表現の共通点を発見することが出来る。隣の国、韓国を真の意味で近い国として実感し、韓国の歴史や文化に興味を深めることと、両国がより近い関係に回復できるきっかけとなってほしいと望みます。外国語である日本語を習得する過程から得られた私の経験を踏まえ、初めて韓国語を学習する人でも楽しくやさしく学ぶことが出来るように心掛けます。

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	韓国語とハングル文字について理解する。	韓国語の歴史、文字構成を説明。 授業の進め方についてのガイダンス及び、受講生の希望を伺うなど、韓国語をめぐる受講生とのコミュニケーション。	
2	ハングル 1 基本母音 6つ 基本子音 5つを学ぶ。	子音一つ、母音一つを組み合わせて30文字を読み書きする。そして30文字でできる単語を学ぶ。	
3	ハングル 2 重母音 4つ、基本子音 5つお勉強する。	p 18 単語テスト(発音記号、意味) これまで学んだ母音 10 と子音 10 を組み合わせて100文字を読み書きの練習 100文字を使った韓国語の単語を学ぶ。	単語テスト
4	ハングル 3、4 二重母音 5つ、激音子音 4つ、濃音子音 5つを学び、単語を勉強する。	p 25 単語テスト(発音記号、意味) テキスト p. 28, 29, 33, 35, 36	単語テスト
5	子音 19、母音 15を覚えよう 1	p 29, 30 単語テスト(発音記号、意味) 日本のひらがなの音をハングルで書いてみる。 自分の名前や家族、友達の名前を書いてみる。	単語テスト ひらがな表プリント
6	子音 19、母音 15を覚えよう 2	p 35 単語テスト(発音記号、意味) ラインをとおしてハングルによる会話	単語テスト ハングルによるアンケート提出
7	二重母音残り 6つ	韓国の外来語を読んで意味を予測する。 p 30 の二重母音の単語の読み書きの練習と意味調べ。	単語テスト 外来語プリント提出
8	ハングル 5 バッチム バッチムの仕組みを勉強する。	p 30 単語テスト(発音記号、意味) 日本語では使うことの無かった発音を、細かく分析、観察、理解し徹底して練習する。	単語テスト
9	ハングル文字総合まとめ 韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる。	バッチム前半単語テスト。 p 43 国の名前や首都の名前を読む。 二重母音の特に発音が難しい単語を読む。	単語テスト
10	これまで文字を勉強する際に出てきた全ての単語をまとめて総合単語テストの後、韓国の映画を見る。	p 18, 25, 29, 30, 35, 36, 43, 44 の単語テスト 「カンナさん大成功です!」	単語テスト
11	韓国の映画を見る。	「カンナさん大成功です!」 音読テスト用の文書を配布 ～です/～ですかについて勉強する。 7種類の助詞表を書く 名前は何か。 職業は何か。 の会話の練習	単語テスト
12	p 47～50 第6課 こんにちは。	～が、～はの助詞を使った	各助詞を使った作文を提出
13	前期総合まとめ		初めて会う人との簡単な挨拶

		作文をする。(プリント) 前期定期試験の準備	の会話プリントを提出
関連科目	韓国語基礎会話		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	美しい韓国語 1-1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価の時期・方法・基準	授業態度、提出物、小テスト 50% 定期試験 50%		
学生へのメッセージ	楽しく韓国語を習いましょう。積み重ねが大切ですので遅刻・欠席しないでください。安価で韓国へ渡航して、授業で学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生生活の最高の思い出になるでしょう！		
担当者の研究室等	非常勤講師室		
備考、事前・事後学習課題	講義前の予習 (テキストを読む。1時間 x 2回)		

科目名	韓国語	科目名 (英文)	Korean
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小石 佳子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

<p>コース・ユニット・一般目標</p>	<p>授業は、学期の前半には、韓国語の文字を正確に発音し、書けるように練習すると同時に、挨拶を含む基本会話を楽しく勉強していけるよう心掛ける。学期の後半には、韓国語の基本的な文法の勉強と練習に重点をおく。</p> <p>授業の目標は、初めて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の発音、文法を学び、基本的な読み書きと簡単な会話ができるようにする。合わせて、韓国語の背景である韓国社会、文化、慣習についても触れていくことで、言葉の勉強だけでなく、韓国についても学ぶ機会を提供したい。</p>																																								
<p>授業計画</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンスを通じて、授業の目標と進め方が分かるようになる。韓国語の基本である、母音が読めるようになる。</td> <td>ガイダンス 発音と文字の仕組み①母音 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>子音と複合母音が読めるようになる。少し難しくなるが、パッチムが分かるようになると、文字は読めるようになる。</td> <td>発音と文字の仕組み②子音と複合母音、パッチム 発音の変化 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>会話の基本である、自己紹介と挨拶ができるようになる。職業の名前を覚える。</td> <td>自己紹介と挨拶① 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>出身を含むもう少し詳しい自己紹介が出来るようになる。地名の勉強も合わせてする。</td> <td>自己紹介と挨拶② 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>否定文、否定形の表現が使えるようになる。会話の幅が広がる。</td> <td>否定文と否定形について学ぶ ある/ない、する/しない 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>日本語の漢数詞に似ている表現の他に、韓国語固有の数詞についても言えるようになる。時計の読みが出来るようになる。</td> <td>漢数詞、固有数詞、時計の読み方について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>敬語は韓国語の勉強において大事な部分、敬語の表現が使えるようになる。</td> <td>敬語を学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>過去形が分かるようになる。会話の幅が広がるようになる。</td> <td>過去形について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>過去形の表現とリンクするが、現在進行形、未来形の表現が身に付くと会話の幅がもっと広がるようになる。</td> <td>現在進行形、未来形について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	ガイダンスを通じて、授業の目標と進め方が分かるようになる。韓国語の基本である、母音が読めるようになる。	ガイダンス 発音と文字の仕組み①母音 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。	2	子音と複合母音が読めるようになる。少し難しくなるが、パッチムが分かるようになると、文字は読めるようになる。	発音と文字の仕組み②子音と複合母音、パッチム 発音の変化 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。	3	会話の基本である、自己紹介と挨拶ができるようになる。職業の名前を覚える。	自己紹介と挨拶① 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。	4	出身を含むもう少し詳しい自己紹介が出来るようになる。地名の勉強も合わせてする。	自己紹介と挨拶② 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。	5	否定文、否定形の表現が使えるようになる。会話の幅が広がる。	否定文と否定形について学ぶ ある/ない、する/しない 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。	6	日本語の漢数詞に似ている表現の他に、韓国語固有の数詞についても言えるようになる。時計の読みが出来るようになる。	漢数詞、固有数詞、時計の読み方について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。	7	敬語は韓国語の勉強において大事な部分、敬語の表現が使えるようになる。	敬語を学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。	8	過去形が分かるようになる。会話の幅が広がるようになる。	過去形について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。	9	過去形の表現とリンクするが、現在進行形、未来形の表現が身に付くと会話の幅がもっと広がるようになる。	現在進行形、未来形について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																						
1	ガイダンスを通じて、授業の目標と進め方が分かるようになる。韓国語の基本である、母音が読めるようになる。	ガイダンス 発音と文字の仕組み①母音 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						
2	子音と複合母音が読めるようになる。少し難しくなるが、パッチムが分かるようになると、文字は読めるようになる。	発音と文字の仕組み②子音と複合母音、パッチム 発音の変化 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						
3	会話の基本である、自己紹介と挨拶ができるようになる。職業の名前を覚える。	自己紹介と挨拶① 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						
4	出身を含むもう少し詳しい自己紹介が出来るようになる。地名の勉強も合わせてする。	自己紹介と挨拶② 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						
5	否定文、否定形の表現が使えるようになる。会話の幅が広がる。	否定文と否定形について学ぶ ある/ない、する/しない 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						
6	日本語の漢数詞に似ている表現の他に、韓国語固有の数詞についても言えるようになる。時計の読みが出来るようになる。	漢数詞、固有数詞、時計の読み方について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						
7	敬語は韓国語の勉強において大事な部分、敬語の表現が使えるようになる。	敬語を学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						
8	過去形が分かるようになる。会話の幅が広がるようになる。	過去形について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						
9	過去形の表現とリンクするが、現在進行形、未来形の表現が身に付くと会話の幅がもっと広がるようになる。	現在進行形、未来形について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						

	10	ここまで勉強すると、簡単な会話はできるようになる。	可能/不可能の表現について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつくので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	11	内容的に徐々に難しくなるが、気持ちの表現ができるようになる。	願望、禁止の表現について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつくので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	12	もっと難しくなるが、気持ちの表現の幅が広がるようになる。	義務、意志、推量の表現について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつくので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	13	全体の纏めと定期テストを通じて、一学期の総括ができる。簡単な読み書きと会話ができるようになる。	全体の纏め、定期テスト 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつくので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「基礎から学ぶ」韓国語講座(初級)(改訂版)	木内明	国書刊行会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。 小テストは3回実施予定。			
学生へのメッセージ	欠席せず、積極的な参加をお願いしたい。授業中は受け身にならず、一緒に学んでいく姿勢を見せてほしい。特に予習は必要ないが、習ったことはしっかり復讐して次回の授業に臨んでもらいたい。			
担当者の研究室等				
備考、事前・事後学習課題	質問等は出講時に教室および非常勤講師室にて対応する;予習は特に必要ないが、平常授業に合わせて復習は1.5時間×13回;3回の小テスト対策として2時間×3回の自宅学習が最低必要になる。			

科目名	韓国語	科目名(英文)	Korean
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	周 相勲
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	世界で一番日本語に似ている言葉である韓国語だからこそ、日本人が一番学びやすい言葉でもある。 両言葉の共通点と相違点に注意しながら授業を進める。 ハングル文字の読み書きから初級レベルの日常会話ができることを目指していく。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	ハングルの文字 基本母音や子音(1)	ハングル文字の仕組みを理解する	特になし
	2	基本母音や子音(2)	基本母音の文字を覚える	教科書 p. 6～11
	3	子音(激音と濃音) 複合母音	子音の発音変化を理解する	教科書 p. 12～15
	4	終声(パッチム) 発音変化	パッチムの区別練習	教科書 p. 16～19
	5	韓国人ですか。	自己紹介練習	教科書 p. 20～25
	6	学生ですか	～は、 ～です、 ～ですか	教科書 p. 28～31
	7	何時ですか。	時間の言い方 数詞を覚える	教科書 p. 32～35
	8	野球選手ではありません。	～ではありません	教科書 p. 36～39
	9	これは何ですか。	指示代名詞を使った表現	教科書 p. 40～43
	10	どこにありますか。	あります、 ありません	教科書 p. 44～49
	11	何をしますか。	しますか、 します	教科書 p. 50～53
	12	何時に起きますか。	一日の生活表現練習	教科書 p. 54～57
	13	朝ご飯は食べません。	用言の否定形	教科書 p. 58～61
関連科目	韓国語			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	かんたん！韓国語	金殷模、権来順、宋貞喜	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・ 方法・基準	定期試験 50% 小テスト 30% 提出物 20%			
学生への メッセージ	韓国旅行に行ってもハングル文字に戸惑わず、文字を読んだり基本会話ができるよう韓国語を身に着けましょう！			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考、 事前・事後 学習課題	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	韓国語	科目名 (英文)	Korean
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	不慣れな姿のハングルを知り韓国語を学ぶことで、日本語と韓国語のもつ類似点、そして同じ漢字文化圏なので、様々な言葉や表現の共通点を発見することが出来る。隣の国、韓国を真の意味で近い国として実感し、韓国の歴史や文化に興味を深めることと、両国がより近い関係に回復できるきっかけとなってほしいと望みます。外国語である日本語を習得する過程から得られた私の経験を踏まえ、初めて韓国語を学習する人でも楽しくやさしく学ぶことが出来るように心掛けます。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	韓国語とハングル文字について理解する。	韓国語の歴史、文字構成を説明。 授業の進め方についてのガイダンス及び、 受講生の希望を伺うなど、 韓国語をめぐる受講生とのコミュニケーション。	
	2	ハングル 1 基本母音 6つ 基本子音 5つを学ぶ。	子音一つ、母音一つを組み合わせて30文字を読み書きする。そして30文字でできる単語を学ぶ。	
	3	ハングル 2 重母音 4つ、基本子音 5つを勉強する。	p 18 単語テスト (発音記号、意味) これまで学んだ母音 10 と子音 10 を組み合わせて100文字を読み書きの練習 100文字を使った韓国語の単語を学ぶ。	単語テスト
	4	ハングル 3、4 二重母音 5つ、激音子音 4つ、濃音子音 5つを学び、単語を勉強する。	p 25 単語テスト (発音記号、意味) テキスト p. 28, 29, 33, 35, 36	単語テスト
	5	子音 19、母音 15を覚えよう 1	p 29, 30 単語テスト (発音記号、意味) 日本のひらがなの音をハングルで書いてみる。 自分の名前や家族、友達の名前を書いてみる。	単語テスト ひらがな表プリント
	6	子音 19、母音 15を覚えよう 2	p 35 単語テスト (発音記号、意味) ラインをとおしてハングルによる会話	単語テスト ハングルによるアンケート提出
	7	二重母音残り 6つ	韓国の外来語を読んで意味を予測する。 p 30 の二重母音の単語の読み書きの練習と意味調べ。	単語テスト 外来語プリント提出
	8	ハングル 5 バッチム バッチムの仕組みを勉強する。	p 30 単語テスト (発音記号、意味) 日本語では使うことの無かった発音を、細かく分析、観察、理解し徹底して練習する。	単語テスト
	9	ハングル文字総合まとめ 韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる。	バッチム前半単語テスト。 p 43 国の名前や首都の名前を読む。 二重母音の特に発音が難しい単語を読む。	単語テスト
	10	これまで文字を勉強する際に出てきた全ての単語をまとめて総合単語テストの後、韓国の映画を見る。	p 18, 25, 29, 30, 35, 36, 43, 44 の単語テスト  「カンナさん大成功です！」	単語テスト
	11	韓国の映画を見る。	「カンナさん大成功です！」  音読テスト用の文書を配布	単語テスト
	12	p 47~50 第6課 こんにちは。	～です/～ですかについて勉強する。 7種類の助詞表を書く 名前は何かですか。 職業は何かですか。 の会話の練習	各助詞を使った作文を提出
13	前期総合まとめ	～が、～はの助詞を使った	初めて会う人との簡単な挨拶	

		作文をする。(プリント) 前期定期試験の準備	の会話プリントを提出
関連科目	韓国語基礎会話		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	美しい韓国語 1-1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価の時期・方法・基準	授業態度、提出物、小テスト 50% 定期試験 50%		
学生へのメッセージ	楽しく韓国語を習いましょう。積み重ねが大切ですので遅刻・欠席しないでください。安価で韓国へ渡航して、授業で学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生生活の最高の思い出になるでしょう！		
担当者の研究室等	非常勤講師室		
備考、事前・事後学習課題	講義前の予習 (テキストを読む。1時間 x 2回)		

科目名	韓国語	科目名 (英文)	Korean
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小石 佳子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

<p>コース・ユニット・一般目標</p>	<p>授業は、学期の前半には、韓国語の文字を正確に発音し、書けるように練習すると同時に、挨拶を含む基本会話を楽しく勉強していけるよう心掛ける。学期の後半には、韓国語の基本的な文法の勉強と練習に重点をおく。</p> <p>授業の目標は、初めて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の発音、文法を学び、基本的な読み書きと簡単な会話ができるようにする。合わせて、韓国語の背景である韓国社会、文化、慣習についても触れていくことで、言葉の勉強だけでなく、韓国についても学べる機会を提供したい。</p>																																								
<p>授業計画</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンスを通じて、授業の目標と進め方が分かるようになる。韓国語の基本である、母音が読めるようになる。</td> <td>ガイダンス 発音と文字の仕組み①母音 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>子音と複合母音が読めるようになる。少し難しくなるが、パッチムが分かるようになると、文字は読めるようになる。</td> <td>発音と文字の仕組み②子音と複合母音、パッチム 発音の変化 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>会話の基本である、自己紹介と挨拶ができるようになる。職業の名前を覚える。</td> <td>自己紹介と挨拶① 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>出身を含むもう少し詳しい自己紹介が出来るようになる。地名の勉強も合わせてする。</td> <td>自己紹介と挨拶② 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>否定文、否定形の表現が使えるようになる。会話の幅が広がる。</td> <td>否定文と否定形について学ぶ ある/ない、する/しない 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>日本語の漢数詞に似ている表現の他に、韓国語固有の数詞についても言えるようになる。時計の読みが出来るようになる。</td> <td>漢数詞、固有数詞、時計の読み方について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>敬語は韓国語の勉強において大事な部分、敬語の表現が使えるようになる。</td> <td>敬語を学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>過去形が分かるようになる。会話の幅が広がるようになる。</td> <td>過去形について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>過去形の表現とリンクするが、現在進行形、未来形の表現が身に付くと会話の幅がもっと広がるようになる。</td> <td>現在進行形、未来形について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。</td> <td>出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	ガイダンスを通じて、授業の目標と進め方が分かるようになる。韓国語の基本である、母音が読めるようになる。	ガイダンス 発音と文字の仕組み①母音 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。	2	子音と複合母音が読めるようになる。少し難しくなるが、パッチムが分かるようになると、文字は読めるようになる。	発音と文字の仕組み②子音と複合母音、パッチム 発音の変化 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。	3	会話の基本である、自己紹介と挨拶ができるようになる。職業の名前を覚える。	自己紹介と挨拶① 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。	4	出身を含むもう少し詳しい自己紹介が出来るようになる。地名の勉強も合わせてする。	自己紹介と挨拶② 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。	5	否定文、否定形の表現が使えるようになる。会話の幅が広がる。	否定文と否定形について学ぶ ある/ない、する/しない 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。	6	日本語の漢数詞に似ている表現の他に、韓国語固有の数詞についても言えるようになる。時計の読みが出来るようになる。	漢数詞、固有数詞、時計の読み方について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。	7	敬語は韓国語の勉強において大事な部分、敬語の表現が使えるようになる。	敬語を学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。	8	過去形が分かるようになる。会話の幅が広がるようになる。	過去形について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。	9	過去形の表現とリンクするが、現在進行形、未来形の表現が身に付くと会話の幅がもっと広がるようになる。	現在進行形、未来形について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																						
1	ガイダンスを通じて、授業の目標と進め方が分かるようになる。韓国語の基本である、母音が読めるようになる。	ガイダンス 発音と文字の仕組み①母音 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						
2	子音と複合母音が読めるようになる。少し難しくなるが、パッチムが分かるようになると、文字は読めるようになる。	発音と文字の仕組み②子音と複合母音、パッチム 発音の変化 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						
3	会話の基本である、自己紹介と挨拶ができるようになる。職業の名前を覚える。	自己紹介と挨拶① 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						
4	出身を含むもう少し詳しい自己紹介が出来るようになる。地名の勉強も合わせてする。	自己紹介と挨拶② 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						
5	否定文、否定形の表現が使えるようになる。会話の幅が広がる。	否定文と否定形について学ぶ ある/ない、する/しない 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						
6	日本語の漢数詞に似ている表現の他に、韓国語固有の数詞についても言えるようになる。時計の読みが出来るようになる。	漢数詞、固有数詞、時計の読み方について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						
7	敬語は韓国語の勉強において大事な部分、敬語の表現が使えるようになる。	敬語を学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						
8	過去形が分かるようになる。会話の幅が広がるようになる。	過去形について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						
9	過去形の表現とリンクするが、現在進行形、未来形の表現が身に付くと会話の幅がもっと広がるようになる。	現在進行形、未来形について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。																																						

	10	ここまで勉強すると、簡単な会話はできるようになる。	可能/不可能の表現について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつくので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	11	内容的に徐々に難しくなるが、気持ちの表現ができるようになる。	願望、禁止の表現について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつくので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	12	もっと難しくなるが、気持ちの表現の幅が広がるようになる。	義務、意志、推量の表現について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつくので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	13	全体の纏めと定期テストを通じて、一学期の総括ができる。簡単な読み書きと会話ができるようになる。	全体の纏め、定期テスト 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつくので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「基礎から学ぶ」韓国語講座(初級)(改訂版)	木内明	国書刊行会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。 小テストは3回実施予定。			
学生へのメッセージ	欠席せず、積極的な参加をお願いしたい。授業中は受け身にならず、一緒に学んでいく姿勢を見せてほしい。特に予習は必要ないが、習ったことはしっかり復讐して次回の授業に臨んでもらいたい。			
担当者の研究室等				
備考、事前・事後学習課題	質問等は出講時に教室および非常勤講師室にて対応する;予習は特に必要ないが、平常授業に合わせて復習は1.5時間×13回;3回の小テスト対策として2時間×3回の自宅学習が最低必要になる。			

科目名	韓国語	科目名(英文)	Korean
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	周 相勲
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	世界で一番日本語に似ている言葉である韓国語だからこそ、日本人が一番学びやすい言葉でもある。 両言葉の共通点と相違点に注意しながら授業を進める。 ハングル文字の読み書きから初級レベルの日常会話ができることを目指していく。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	ハングルの文字 基本母音や子音(1)	ハングル文字の仕組みを理解する	特になし
	2	基本母音や子音(2)	基本母音の文字を覚える	教科書 p. 6～11
	3	子音(激音と濃音) 複合母音	子音の発音変化を理解する	教科書 p. 12～15
	4	終声(パッチム) 発音変化	パッチムの区別練習	教科書 p. 16～19
	5	韓国人ですか。	自己紹介練習	教科書 p. 20～25
	6	学生ですか	～は、 ～です、 ～ですか	教科書 p. 28～31
	7	何時ですか。	時間の言い方 数詞を覚える	教科書 p. 32～35
	8	野球選手ではありません。	～ではありません	教科書 p. 36～39
	9	これは何ですか。	指示代名詞を使った表現	教科書 p. 40～43
	10	どこにありますか。	あります、 ありません	教科書 p. 44～49
	11	何をしますか。	しますか、 します	教科書 p. 50～53
	12	何時に起きますか。	一日の生活表現練習	教科書 p. 54～57
	13	朝ご飯は食べません。	用言の否定形	教科書 p. 58～61
関連科目	韓国語			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	かんたん！韓国語	金殷模、権来順、宋貞喜	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・ 方法・基準	定期試験 50% 小テスト 30% 提出物 20%			
学生への メッセージ	韓国旅行に行ってもハングル文字に戸惑わず、文字を読んだり基本会話ができるよう韓国語を身に着けましょう！			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考、 事前・事後 学習課題	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山内 浩充
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育                  ユニット：(1) 実用薬学英語                  一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。</p> <p>【会話・ヒアリング】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べるができる。(知識・技能)</li> <li>薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> <li>医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> </ol> <p>・外国人の患者さんに対応できるように、また、海外で病気や事故にあった時に対応できるように、医療に関わる基礎的なリスニングとスピーキングを身につける。</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	ガイダンス	教科書を持参すること	観察記録・小テスト
	2	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (1)	観察記録・小テスト
	3	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (2)	観察記録・小テスト
	4	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (1)	観察記録・小テスト
	5	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (2)	観察記録・小テスト
	6	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、アレルギーの有無の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
	7	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、薬歴の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
	8	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、食事や嗜好品の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
	9	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、副作用の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト
	10	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、薬の保管方法の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト
	11	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、会計のときの会話を学習	観察記録・小テスト
	12	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (1)	観察記録・小テスト
	13	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (2)	観察記録・小テスト

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	薬剤師のための実践英会話	小宮山 貴子	じほう
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・ 方法・基準	講義中の観察記録（質疑応答、授業態度など）30%と小テスト70%で評価する。 100点満点中、60点以上で合格。
-----------------	---

学生への メッセージ	新しい語句を積極的に覚えるように。  英語の学習には日々の積み重ねが必要ですので、怠らないように。
---------------	---

担当者の 研究室等	1号館2階、非常勤講師室
--------------	--------------

備考、	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をお
-----	---

事前・事後 学習課題	およそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室に対応する。
---------------	---

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース：(G) 薬学アドバンスト教育  
 ユニット：(1) 実用薬学英語  
 一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。  
**【会話・ヒアリング】**  
 1. 平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べることができる。(知識・技能)  
 2. 薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)  
 3. 医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)  
 ・外国人の患者さんに対応できるように、また、海外で病気や事故にあった時に対応できるように、医療に関わる基礎的なリスニングとスピーキングを身につける。

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	ガイダンス	教科書を持参すること	観察記録・小テスト
2	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (1)	観察記録・小テスト
3	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (2)	観察記録・小テスト
4	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (1)	観察記録・小テスト
5	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (2)	観察記録・小テスト
6	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、アレルギーの有無の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
7	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、薬歴の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
8	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、食事や嗜好品の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
9	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、副作用の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト
10	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、薬の保管方法の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト
11	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、会計のときの会話を学習	観察記録・小テスト
12	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (1)	観察記録・小テスト
13	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (2)	観察記録・小テスト

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		薬剤師のための実践英会話	小宮山貴子
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価の時期・方法・基準 講義中の観察記録 (質疑応答、授業態度など) 50% と小テスト50%で評価する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 1号館2階、非常勤講師室

備考、事前・事後 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室に



科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ヘドリック III ロイ
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ユニット・一般目標	国際化が進む医療現場では、英会話のできる薬剤師が求められている。そこで、薬学領域の業務に必要とされる専門用語や英語表現を習得する。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション (授業の進め方、評価について)		
	2	Unit 1: Asking and answering personal information questions	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	3	Unit 2: Describing people	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	4	Unit 3: Asking and talking about special events	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	5	Unit 4: Asking and talking about school subjects	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	6	Unit 5: Asking and talking about a trip	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	7	Unit 6: Asking about and describing homes	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	8	Unit 7: Discussing and bargaining for customer goods	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	9	Unit 8: Asking about and describing jobs	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	10	Unit 9: Asking for information and making excuses	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	11	Unit 10: Asking for and giving tour information	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	12	Unit 11: Placing and talking orders for take-out food	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
	13	Unit 15: Asking and talking about medical conditions	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等)
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Hear Me Out 2	David Nunan	Cengage
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	授業への参加、貢献 (小テスト、課題、発表等) で総合的に評価します。100 点満点中 60 点以上で合格。			
学生へのメッセージ	指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。  This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.  毎授業に辞書を必ず持参すること。  自己学習課題については授業中に事前に指示します。			
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育                  ユニット：(1) 実用薬学英語                  一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。  <b>【会話・ヒアリング】</b>                  1. 平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べるができる。(知識・技能)                  2. 薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)                  3. 医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)                  ・この授業では、医療にかかわる基礎的なリスニングとスピーキングの技能を身につける。日本人の薬剤師が外国人の患者と接する際に必要な英語表現や、薬学領域の業務に必要なとされる専門用語を習得する。</p>																																																								
<p>授業計画</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方、評価方法などを説明する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Hospital Departments</td> <td>・読解 ・リスニング ・スピーキング</td> <td>発表、授業態度</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Application Forms</td> <td>・読解 ・リスニング ・スピーキング</td> <td>発表、授業態度</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Parts of the Body</td> <td>・読解 ・リスニング ・スピーキング</td> <td>発表、授業態度</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Illnesses</td> <td>・読解 ・リスニング ・スピーキング</td> <td>発表、授業態度</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Review 1</td> <td>復習</td> <td>復習、授業態度</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Daily Routine</td> <td>・読解 ・リスニング ・スピーキング</td> <td>発表、授業態度</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Hospital Objects</td> <td>・読解 ・リスニング ・スピーキング</td> <td>発表、授業態度</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Locations of Hospital Objects</td> <td>・読解 ・リスニング ・スピーキング</td> <td>発表、授業態度</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Hospital Directions and Instructions</td> <td>・読解 ・リスニング ・スピーキング</td> <td>発表、授業態度</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Directions (Outside the Hospital)</td> <td>・読解 ・リスニング ・スピーキング</td> <td>発表、授業態度</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Chatting with a Patient</td> <td>・読解 ・リスニング ・スピーキング</td> <td>発表、授業態度</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Review Test 2</td> <td>これまでの復習と理解度チェックを行う。</td> <td>Review、授業態度</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などを説明する。		2	Hospital Departments	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度	3	Application Forms	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度	4	Parts of the Body	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度	5	Illnesses	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度	6	Review 1	復習	復習、授業態度	7	Daily Routine	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度	8	Hospital Objects	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度	9	Locations of Hospital Objects	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度	10	Hospital Directions and Instructions	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度	11	Directions (Outside the Hospital)	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度	12	Chatting with a Patient	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度	13	Review Test 2	これまでの復習と理解度チェックを行う。	Review、授業態度
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などを説明する。																																																							
2	Hospital Departments	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度																																																						
3	Application Forms	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度																																																						
4	Parts of the Body	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度																																																						
5	Illnesses	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度																																																						
6	Review 1	復習	復習、授業態度																																																						
7	Daily Routine	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度																																																						
8	Hospital Objects	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度																																																						
9	Locations of Hospital Objects	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度																																																						
10	Hospital Directions and Instructions	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度																																																						
11	Directions (Outside the Hospital)	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度																																																						
12	Chatting with a Patient	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度																																																						
13	Review Test 2	これまでの復習と理解度チェックを行う。	Review、授業態度																																																						
<p>関連科目</p>																																																									
<p>教科書</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Vital Signs (Revised Edition)</td> <td>Vivian Morooka, Terri Sugiura</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Vital Signs (Revised Edition)	Vivian Morooka, Terri Sugiura	南雲堂	2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																						
1	Vital Signs (Revised Edition)	Vivian Morooka, Terri Sugiura	南雲堂																																																						
2																																																									
3																																																									
<p>参考書</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																						
1																																																									
2																																																									
3																																																									
<p>評価の時期・ 方法・基準</p>	<p>授業内での発表と授業態度および理解度チェックで総合的に評価する。100点満点中60点以上で合格。</p>																																																								
<p>学生への メッセージ</p>	<p>Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.</p>																																																								
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>1号館2階 非常勤講師室</p>																																																								
<p>備考・ 事前・事後 学習課題</p>	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。                  ・毎回、テキストと英和辞書を持参してください。</p>																																																								

- |  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・出席日数は平常点としません。</li><li>・授業内容・進度は、受講生の学習状況を考慮して調整することもあります。</li></ul> |
|--|---|

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	才
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育          ユニット：(1) 実用薬学英语          一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。</p> <p>【会話・ヒアリング】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べることができる。(知識・技能)</li> <li>薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> <li>医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> </ol> <p>・医療に関わる基礎的な listening と speaking を身につける。</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション	ソフトウェアの利用方法を理解し、使えるようになる。	ソフトウェアの利用
	2	服薬指導 1 (症状の聴解)	テキスト指定ページの発音病気の症状を英語で聞いて理解できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	3	服薬指導 2 (薬分野名の発音)	テキスト指定ページの発音薬分野の名前を知り、日本語を見ても英語で発音できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	4	服薬指導 3 (薬分野名の発音)	テキスト指定ページの発音前回と同様に薬分野の名前を知り、日本語をみても英語で発音できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	5	服薬指導 4 (薬分野名と実際の薬の発音)	テキスト指定ページの発音覚えた薬分野の名前と実際に利用されている薬の名前を含めて患者さんに英語で説明できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	6	服薬指導 5 (薬分野の簡単な説明発音)	テキスト指定ページの発音薬の簡単な英語で説明をすることができる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	7	復習テスト 1 (リスニング・スピーキング)	復習テストの準備	復習テスト
	8	服薬指導 6 (薬分野の簡単な説明発音)	テキスト指定ページの発音 6 回目授業に引き続き薬の簡単な説明を英語ですることができる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	9	服薬指導 7 (服用方法と注意事項)	テキスト指定ページの発音服用方法と摂取時の注意事項を英語で説明できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	10	服薬指導 8 (調剤薬局薬剤師の会話)	テキスト指定ページの発音一般的な調剤薬局の薬剤師が話す内容を英語で説明できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	11	服薬指導 9 (病院の薬剤師の会話)	テキスト指定ページの発音病院の薬剤師が患者さんの入院時に話す内容を英語で話すことができる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	12	服薬指導 10 (副作用の発音)	テキスト指定ページの発音	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	13	復習テスト 2 (リスニング・スピーキング)	復習テストの準備	復習テスト

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	5 分間 英語発音	関根応之 著	南雲堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・方法・基準  
 授業期間に行う復習テスト 1 と 2 (各 25%)、  
 授業内スピーキング課題 (35%)  
 情報レポート (15%)  
 計 100 点満点中 60 点以上で合格

学生へのメッセージ  
 自分の英語での発音を改善する努力をソフトウェアを利用しながら進めることができること。

担当者の研究室等  
 1 号館 2 階 非常勤講師室

備考、事前・事後学習課題  
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。  
 期末試験は行わない。

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	カ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ユヅ マクト <sup>1</sup> ・カ <sup>2</sup> ル
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育          ユニット：(1) 実用薬学英語          一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。</p> <p>【会話・ヒアリング】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べることができる。(知識・技能)</li> <li>薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> <li>医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> </ol> <p>・医療に関わる基礎的な listening と speaking を身につける。</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション	シラバス説明	
	2	Dialog 1	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み
	3	Dialog 2	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み
	4	Dialog 3	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み
	5	Dialog 4	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み
	6	Dialog 5	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み
	7	発表 1	発表	発表
	8	Dialog 6	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み
	9	Dialog 7	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み
	10	Dialog 8	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み
	11	Dialog 9	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み
	12	Dialog 10	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み
	13	発表 2	発表	発表

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・ 方法・基準	発表 1      30% 発表 2      30% 小テスト    30% 授業態度 (毎回のダイアログパフォーマンス、ダイアログ作成への取り組みを含む)    10%
-----------------	---

学生へのメッセージ  
自分の英語での発音を改善する努力をソフトウェアを利用しながら進めることができること。

担当者の研究室等  
1号館2階 非常勤講師室

備考、事前・事後学習課題  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	キ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	コース：(G) 薬学アドバンスト教育 ユニット：(1) 実用薬学英語 一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。 <b>【会話・ヒアリング】</b> 1. 平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べることができる。(知識・技能) 2. 薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能) 3. 医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能) ・外国人の患者さんに対応できるように、また、海外で病気や事故にあった時に対応できるように、医療に関わる基礎的なリスニングとスピーキングを身につける。
-----------------------	--

授業計画		回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
		1	ガイダンス	教科書を持参すること	観察記録・小テスト
		2	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (1)	観察記録・小テスト
		3	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (2)	観察記録・小テスト
		4	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (1)	観察記録・小テスト
		5	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (2)	観察記録・小テスト
		6	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、アレルギーの有無の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
		7	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、薬歴の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
		8	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、食事や嗜好品の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
		9	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、副作用の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト
		10	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、薬の保管方法の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト
		11	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、会計のときの会話を学習	観察記録・小テスト
		12	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (1)	観察記録・小テスト
		13	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (2)	観察記録・小テスト

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	薬剤師のための実践英会話	小宮山貴子	じほう
		2			
		3			

参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			

評価の時期・方法・基準	講義中の観察記録 (質疑応答、授業態度など) 50% と小テスト 50% で評価する。
-------------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階、非常勤講師室
----------	--------------

備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室に対応する。
--------------	--

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	ク
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	コース：(G) 薬学アドバンスト教育 ユニット：(1) 実用薬学英語 一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。 <b>【会話・ヒアリング】</b> 1. 平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べることができる。(知識・技能) 2. 薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能) 3. 医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能) ・この授業では、医療にかかわる基礎的なリスニングとスピーキングの技能を身につける。日本人の薬剤師が外国人の患者と接する際に必要な英語表現や、薬学領域の業務に必要なとされる専門用語を習得する。
-----------------------	---

授業計画				
	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などを説明する。	
	2	Hospital Departments	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	3	Application Forms	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	4	Parts of the Body	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	5	Illnesses	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	6	Review 1	復習	復習、授業態度
	7	Daily Routine	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	8	Hospital Objects	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	9	Locations of Hospital Objects	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	10	Hospital Directions and Instructions	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	11	Directions (Outside the Hospital)	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
	12	Chatting with a Patient	・読解 ・リスニング ・スピーキング	発表、授業態度
13	Review Test 2	これまでの復習と理解度チェックを行う。	Review、授業態度	

関連科目	
------	--

教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Vital Signs (Revised Edition)	Vivian Morooka, Terri Sugiura	南雲堂
	2			

参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価の時期・方法・基準	授業内での発表と授業態度および理解度チェックで総合的に評価する。100点満点中60点以上で合格。
-------------	--

学生へのメッセージ	Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、テキストと英和辞書を持参してください。</li> <li>・出席日数は平常点としません。</li> <li>・授業内容・進度は、受講生の学習状況を考慮して調整することもあります。</li> </ul>
--------------	--

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	ケ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ヘドリックⅢ ロイ
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

コース・ユニット・一般目標	国際化が進む医療現場では、英会話のできる薬剤師が求められている。そこで、薬学領域の業務に必要とされる専門用語や英語表現を習得する。
---------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション(授業の進め方、評価について)		
	2	Unit 1: Asking and answering personal information questions	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	3	Unit 2: Describing people	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	4	Unit 3: Asking and talking about special events	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	5	Unit 4: Asking and talking about school subjects	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	6	Unit 5: Asking and talking about a trip	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	7	Unit 6: Asking about and describing homes	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	8	Unit 7: Discussing and bargaining for customer goods	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	9	Unit 8: Asking about and describing jobs	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	10	Unit 9: Asking for information and making excuses	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	11	Unit 10: Asking for and giving tour information	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	12	Unit 11: Placing and talking orders for take-out food	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)
	13	Unit 15: Asking and talking about medical conditions	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Hear Me Out 2	David Nunan	Cengage
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準	授業への参加、貢献(小テスト、課題、発表等)で総合的に評価します。100点満点中60点以上で合格。
-------------	---

学生へのメッセージ	指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。  This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.  毎授業に辞書を必ず持参すること。  自己学習課題については授業中に事前に指示します。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考、事前・事後学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--------------	---

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	コ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ユヅ マクト <sup>1</sup> ・カ <sup>2</sup> ル
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育          ユニット：(1) 実用薬学英語          一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。  <b>【会話・ヒアリング】</b>          1. 平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べることができる。(知識・技能)          2. 薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)          3. 医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)          ・医療に関わる基礎的な listening と speaking を身につける。</p>																																																										
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>シラバス説明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Dialog 1</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Dialog 2</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Dialog 3</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Dialog 4</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Dialog 5</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>発表 1</td> <td>発表</td> <td>発表</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Dialog 6</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Dialog 7</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Dialog 8</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Dialog 9</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Dialog 10</td> <td>単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成</td> <td>小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発表 2</td> <td>発表</td> <td>発表</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	オリエンテーション	シラバス説明		2	Dialog 1	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	3	Dialog 2	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	4	Dialog 3	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	5	Dialog 4	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	6	Dialog 5	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	7	発表 1	発表	発表	8	Dialog 6	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	9	Dialog 7	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	10	Dialog 8	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	11	Dialog 9	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	12	Dialog 10	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み	13	発表 2	発表	発表		
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																								
1	オリエンテーション	シラバス説明																																																									
2	Dialog 1	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
3	Dialog 2	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
4	Dialog 3	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
5	Dialog 4	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
6	Dialog 5	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
7	発表 1	発表	発表																																																								
8	Dialog 6	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
9	Dialog 7	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
10	Dialog 8	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
11	Dialog 9	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
12	Dialog 10	単語小テスト ダイアログ練習 オリジナルダイアログ作成	小テスト ダイアログパフォーマンス ダイアログ作成への取り組み																																																								
13	発表 2	発表	発表																																																								
関連科目																																																											
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プリント教材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント教材			2				3																																													
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1	プリント教材																																																										
2																																																											
3																																																											
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																													
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1																																																											
2																																																											
3																																																											
評価の時期・ 方法・基準	発表 1 30% 発表 2 30% 小テスト 30% 授業態度 (毎回のダイアログパフォーマンス、ダイアログ作成への取り組みを含む) 10%																																																										
学生への メッセージ	自分の英語での発音を改善する努力をソフトウェアを利用しながら進めることができること。																																																										
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室																																																										
備考、 事前・事後 学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																										

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	サ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育          ユニット：(1) 実用薬学英語          一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。</p> <p>【会話・ヒアリング】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べることができる。(知識・技能)</li> <li>薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> <li>医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> </ol> <p>・医療に関わる基礎的な listening と speaking を身につける。</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション	ソフトウェアの利用方法を理解し、使えるようになる。	ソフトウェアの利用
	2	服薬指導 1 (症状の聴解)	テキスト指定ページの発音病気の症状を英語で聞いて理解できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	3	服薬指導 2 (薬分野名の発音)	テキスト指定ページの発音薬分野の名前を知り、日本語を見ても英語で発音できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	4	服薬指導 3 (薬分野名の発音)	テキスト指定ページの発音前回と同様に薬分野の名前を知り、日本語をみても英語で発音できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	5	服薬指導 4 (薬分野名と実際の薬の発音)	テキスト指定ページの発音覚えた薬分野の名前と実際に利用されている薬の名前を含めて患者さんに英語で説明できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	6	服薬指導 5 (薬分野の簡単な説明発音)	テキスト指定ページの発音薬の簡単な英語で説明をすることができる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	7	復習テスト 1 (リスニング・スピーキング)	復習テストの準備	復習テスト
	8	服薬指導 6 (薬分野の簡単な説明発音)	テキスト指定ページの発音 6 回目授業に引き続き薬の簡単な説明を英語ですることができる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	9	服薬指導 7 (服用方法と注意事項)	テキスト指定ページの発音服用方法と摂取時の注意事項を英語で説明できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	10	服薬指導 8 (調剤薬局薬剤師の会話)	テキスト指定ページの発音一般的な調剤薬局の薬剤師が話す内容を英語で説明できる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	11	服薬指導 9 (病院の薬剤師の会話)	テキスト指定ページの発音病院の薬剤師が患者さんの入院時に話す内容を英語で話すことができる。	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	12	服薬指導 10 (副作用の発音)	テキスト指定ページの発音	指定の聴解または発音ができ課題提出とします。
	13	復習テスト 2 (リスニング・スピーキング)	復習テストの準備	復習テスト

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	5 分間 英語発音	関根応之 著	南雲堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・ 方法・基準	<p>授業期間に行う復習テスト 1 と 2 (各 25%)、          授業内スピーキング課題 (35%)          情報レポート (15%)          計 100 点満点中 60 点以上で合格</p>
-----------------	---

学生への メッセージ	自分の英語での発音を改善する努力をソフトウェアを利用しながら進めることができること。
---------------	--

担当者の 研究室等	1 号館 2 階 非常勤講師室
--------------	-----------------

備考、 事前・事後 学習課題	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。          期末試験は行わない。</p>
----------------------	--

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	シ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山内 浩充
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育          ユニット：(1) 実用薬学英語          一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。</p> <p>【会話・ヒアリング】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べるができる。(知識・技能)</li> <li>薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> <li>医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</li> </ol> <p>・外国人の患者さんに対応できるように、また、海外で病気や事故にあった時に対応できるように、医療に関わる基礎的なリスニングとスピーキングを身につける。</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	ガイダンス	教科書を持参すること	観察記録・小テスト
	2	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (1)	観察記録・小テスト
	3	薬局での会話	かぜの症状や、気分が悪いときの表現と、症状の尋ね方を学習 (2)	観察記録・小テスト
	4	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (1)	観察記録・小テスト
	5	薬局での会話	目や皮膚の症状を表す表現と、薬効や薬の正しい使い方を学習 (2)	観察記録・小テスト
	6	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、アレルギーの有無の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
	7	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、薬歴の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
	8	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、食事や嗜好品の尋ね方を学習	観察記録・小テスト
	9	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、副作用の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト
	10	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、薬の保管方法の説明の仕方を学習	観察記録・小テスト
	11	薬局での会話	症状の表現と薬の効能や用法を復習するとともに、会計のときの会話を学習	観察記録・小テスト
	12	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (1)	観察記録・小テスト
	13	薬局での会話	処方箋の受付時と引渡し時の会話を学習 (2)	観察記録・小テスト

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	薬剤師のための実践英会話	小宮山 貴子	じほう

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・ 方法・基準	講義中の観察記録（質疑応答、授業態度など）30%と小テスト70%で評価する。 100点満点中、60点以上で合格。
-----------------	---

学生への メッセージ	新しい語句を積極的に覚えるように。 英語の学習には日々の積み重ねが必要ですので、怠らないように。
---------------	---

担当者の 研究室等	1号館2階、非常勤講師室
--------------	--------------

備考、 事前・事後 学習課題	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----------------------	---

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中本 明子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

<p>コース・ユニット・一般目標</p>	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育                  ユニット：(1) 実用薬学英语                  一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。</p> <p>【読解・作文】SBOs：                  1. 科学実験、操作、結果の説明などに関する英語表現を列記できる。(知識・技能)                  2. 薬学関連分野の英語論文などの内容を説明できる。(知識・技能)                  3. 薬学関連分野でよく用いられる英単語を正確に記述できる。(知識・技能)                  4. 英語で論文を書くために必要な基本構文を使用できる。(知識・技能)</p> <p>医療に関わる基礎的なリーディングとライティング能力を養う。授業では毎回医療、健康、地球環境など、科学にまつわるさまざまなトピックについて書かれた短い文章を読み、内容把握、語彙の確認を行う。最後に学習した知識を応用して英作文問題に取り組んだり、扱ったテーマに関して英語で説明する訓練も行う。</p>
----------------------	---

授業計画				
	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業の概要説明・評価方法についての説明 医療従事者の心得ておくべき基本に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 1の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	2	消化器系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 2の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	3	循環器系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 3の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	4	神経系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 4の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	5	泌尿器系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 5の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	6	生殖系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 6の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	7	骨格系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 7の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	8	免疫系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 8の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	9	内分泌系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 9の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	10	感染症の予防に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 10の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	11	癌検知技術に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 11の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
	12	ロボット手術に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 12の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
13	遺伝子研究による個人化医療に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 13の復習及び定期試験の準備	単語テスト 確認テスト 本文の要約及び定期試験の確認	

関連科目 全ての英語科目

教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Understanding Health Care	西村月満他 3名	朝日出版社
	2			
3				

参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
3				

評価の時期・方法・基準 単語テスト 20%、確認テスト 30% 定期試験 50%で評価する。授業態度は減点方式とする。100点満点中 60点以上で合格。

学生へのメッセージ 事前事後学習には、英単語を中心に、毎回 1時間以上かけること。英単語は意味が分かるだけでなく、スペルが書けるようにして欲しい (スペルが書けると、長く記憶にとどまるため)。休まず積極的に授業に参加していただきたい。

担当者の研究室等 非常勤講師室(1号館2階)

備考、事前・事後学習課題 辞書必携。出席日数は平常点としない。無断欠席すれば減点対象となる。予定する授業内容は上記の授業計画のとおりであるが、受講生の学習状況を考慮して進捗や内容などを調整することもある。「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村木 美紀子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

<p>コース・ユニット・一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 本授業では、将来薬剤師として製薬企業や医療現場で業務を行う際に必要となる英語コミュニケーション力を修得するため、4技能統合型の授業を行う。特に、添付文書などの医薬品情報や医学論文を読む際に重要となる医療専門用語の意味を類推できるように Affix (接頭辞・接尾辞) の知識の修得に主眼をおくと共に、患者など非医療従事者とのコミュニケーションで使用する言葉との違いについても理解する。</p> <p>到達目標： 「読解力」としては、高度な医療専門用語を含む、比較的長い文章の内容が読み取れるようになる。 「リスニング力」としては、医療専門用語の正確なイントネーションを理解して、専門的な内容のスピーチの論旨が理解できるようになる。 「会話力・ライティング力」としては、主に薬局での外国人患者応対や服薬指導を想定して、既往歴の聴取や医薬品の用法用量の説明等を正確に表現できるようになる。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業のない学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 Affix については教科書の他に別途資料を配布するので、Quiz に備えて指定範囲を十分に自己学習すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p>
----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業の概要・評価方法についての説明 Unit 7: Understanding Medications and What They Do	講義・演習	提出物 授業態度
	2	Unit 15: Types of Drug Actions	事前自己学習 (Unit 15)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	3	Unit 16: What is Diabetes?	事前自己学習 (Unit 16)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	4	Unit 9: Pain: Hope Through Research	事前自己学習 (Unit 9)、講 義・演習	Affix Quiz 授業態度
	5	Unit 18: From Fish to Pharmacies: A story of Drug Development	事前自己学習 (Unit 18)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	6	Unit 6: NIH-Sponsored Research Yields Promising Malaria Drug Candidate	事前自己学習 (Unit 6)、講 義・演習	Affix Quiz 授業態度
	7	Unit 5: How DNA Works	事前自己学習 (Unit 5)、講 義・演習	Affix Quiz 授業態度
	8	Unit 11: The Influenza (Flu) Virus	事前自己学習 (Unit 11)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	9	Unit 12: The Immune System	事前自己学習 (Unit 12)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	10	Unit 19: ES Cells vs. iPS Cells	事前自己学習 (Unit 19)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	11	Unit 17: Personalized Medicine	事前自己学習 (Unit 17)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	12	Unit 2: Effective Medication Counseling: Understanding of patients' Needs and Feelings	事前自己学習 (Unit 2)、講 義・演習	Affix Quiz 授業態度
	13	総合演習	事前指定課題、講義・演習	提出物 授業態度

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Pharmaceutical English 1 (薬学英語 1)	日本薬学英語研究会 (JAPE)	成美堂
	2	Affix プリント教材		
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準	定期試験：50% Affix Quiz：45% 授業態度：5% 100点満点中60点以上で合格。
	授業中の演習と提出物・小テスト等が評価の中心となるので、3回を超える欠席者には原則として単位を認めません。

学生へのメッセージ  
日々めまぐるしく進化する医療の最新情報なども紹介しながら、将来薬剤師として英語を用いて活躍する現実的な場面が想像できるような授業を目指します。

担当者の研究室等  
1号館2階(非常勤講師室)

備考、事前・事後学習課題  
毎授業に辞書を必ず持参すること。  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沢田 美保子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育                  ユニット：(1) 実用薬学英語                  一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。</p> <p>【読解・作文】SBOs：                  1. 科学実験、操作、結果の説明などに関する英語表現を列記できる。(知識・技能)                  2. 薬学関連分野の英語論文などの内容を説明できる。(知識・技能)                  3. 薬学関連分野でよく用いられる英単語を正確に記述できる。(知識・技能)                  4. 英語で論文を書くために必要な基本構文を使用できる。(知識・技能)</p> <p>医療に関わる基礎的なリーディングとライティング能力を養う。授業では毎回医療、薬学に関するさまざまなトピックについて書かれた文章を読み、内容把握、語彙の確認を行う。</p>
--------------------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業の概要説明・評価方法についての説明 Unit 1,2	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	2	Unit 3,4 What to Expect from Your Pharmacist	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	3	Unit 5 Cell Structure & Function	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	4	Unit 6 Host Defense Mechanisms Against Infection	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	5	Unit 7,8	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	6	Unit 9 The Basics of Dementia	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	7	Unit 10 Overview of Allergic Reactions	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	8	Unit 11 Treatments for High Blood Pressure	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	9	Unit 12 Influenza Vaccines	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	10	Unit 13 Clinical Diabetes Management	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	11	Unit 14 Sinus Infection	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	12	Unit 15 A Story of Discovery	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	13	Unit 16 Research Ethics	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験

関連科目	すべての英語科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English for Student Pharmacists 1 薬学生のための英語 1	日本薬学英語研究会	SEIBIDO 成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準	平常点 (受講態度、小テスト、提出物等) 60% 定期試験 40% 100点満点中 60点以上で合格
-------------	--

学生へのメッセージ	辞書必携
-----------	------

担当者の研究室等	非常勤講師室
----------	--------

備考、事前・事後学習課題	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
--------------	------------------------

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村木 美紀子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>授業概要・目的： 本授業では、将来薬剤師として製薬企業や医療現場で業務を行う際に必要となる英語コミュニケーション力を修得するため、4技能統合型の授業を行う。特に、添付文書などの医薬品情報や医学論文を読む際に重要となる医療専門用語の意味を類推できるように Affix (接頭辞・接尾辞) の知識の修得に主眼をおくと共に、患者など非医療従事者とのコミュニケーションで使用する言葉との違いについても理解する。</p> <p>到達目標： 「読解力」としては、高度な医療専門用語を含む、比較的長い文章の内容が読み取れるようになる。 「リスニング力」としては、医療専門用語の正確なイントネーションを理解して、専門的な内容のスピーチの論旨が理解できるようになる。 「会話力・ライティング力」としては、主に薬局での外国人患者応対や服薬指導を想定して、既往歴の聴取や医薬品の用法用量の説明等を正確に表現できるようになる。</p> <p>授業方法と留意点： 演習型の授業を行うので、授業のない学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 Affix については教科書の他に別途資料を配布するので、Quiz に備えて指定範囲を十分に自己学習すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p>
--------------------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業の概要・評価方法についての説明 Unit 7: Understanding Medications and What They Do	講義・演習	提出物 授業態度
	2	Unit 15: Types of Drug Actions	事前自己学習 (Unit 15)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	3	Unit 16: What is Diabetes?	事前自己学習 (Unit 16)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	4	Unit 9: Pain: Hope Through Research	事前自己学習 (Unit 9)、講 義・演習	Affix Quiz 授業態度
	5	Unit 18: From Fish to Pharmacies: A story of Drug Development	事前自己学習 (Unit 18)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	6	Unit 6: NIH-Sponsored Research Yields Promising Malaria Drug Candidate	事前自己学習 (Unit 6)、講 義・演習	Affix Quiz 授業態度
	7	Unit 5: How DNA Works	事前自己学習 (Unit 5)、講 義・演習	Affix Quiz 授業態度
	8	Unit 11: The Influenza (Flu) Virus	事前自己学習 (Unit 11)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	9	Unit 12: The Immune System	事前自己学習 (Unit 12)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	10	Unit 19: ES Cells vs. iPS Cells	事前自己学習 (Unit 19)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	11	Unit 17: Personalized Medicine	事前自己学習 (Unit 17)、 講義・演習	Affix Quiz 授業態度
	12	Unit 2: Effective Medication Counseling: Understanding of patients' Needs and Feelings	事前自己学習 (Unit 2)、講 義・演習	Affix Quiz 授業態度
	13	総合演習	事前指定課題、講義・演習	提出物 授業態度

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Pharmaceutical English 1 (薬学英語 1)	日本薬学英語研究会 (JAPE)	成美堂
	2	Affix プリント教材		
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・ 方法・基準	定期試験：50% Affix Quiz：45% 授業態度：5% 100点満点中60点以上で合格。
	授業中の演習と提出物・小テスト等が評価の中心となるので、3回を超える欠席者には原則として単位を認めません。

学生へのメッセージ  
日々めまぐるしく進化する医療の最新情報なども紹介しながら、将来薬剤師として英語を用いて活躍する現実的な場面が想像できるような授業を目指します。

担当者の研究室等  
1号館2階(非常勤講師室)

備考、  
事前・事後  
学習課題  
毎授業に辞書を必ず持参すること。  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English II d
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中本 明子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース：(G) 薬学アドバンスト教育  
 ユニット：(1) 実用薬学英语  
 一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。  
**【読解・作文】SBOs：**  
 1. 科学実験、操作、結果の説明などに関する英語表現を列記できる。(知識・技能)  
 2. 薬学関連分野の英語論文などの内容を説明できる。(知識・技能)  
 3. 薬学関連分野でよく用いられる英単語を正確に記述できる。(知識・技能)  
 4. 英語で論文を書くために必要な基本構文を使用できる。(知識・技能)

医療に関わる基礎的なリーディングとライティング能力を養う。授業では毎回医療、健康、地球環境など、科学にまつわるさまざまなトピックについて書かれた短い文章を読み、内容把握、語彙の確認を行う。最後に学習した知識を応用して英作文問題に取り組んだり、扱ったテーマに関して英語で説明する訓練も行う。

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	授業の概要説明・評価方法についての説明 医療従事者の心得ておくべき基本に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 1の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
2	消化器系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 2の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
3	循環器系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 3の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
4	神経系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 4の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
5	泌尿器系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 5の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
6	生殖系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 6の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
7	骨格系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 7の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
8	免疫系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 8の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
9	内分泌系に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 9の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
10	感染症の予防に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 10の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
11	癌検知技術に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 11の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
12	ロボット手術に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 12の予習と復習	単語テスト 確認テスト 本文の要約
13	遺伝子研究による個人化医療に関する語彙・表現を修得し、英語で説明することができる。	講義と演習・Unit 13の復習及び定期試験の準備	単語テスト 確認テスト 本文の要約及び定期試験の確認

関連科目 全ての英語科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Understanding Health Care	西村月満他3名	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価の時期・方法・基準 単語テスト20%、確認テスト30% 定期試験50%で評価する。授業態度は減点方式とする。100点満点中60点以上で合格。

学生へのメッセージ 事前事後学習には、英単語を中心に、毎回1時間以上かけること。英単語は意味が分かるだけでなく、スペルが書けるようにして欲しい(スペルが書けると、長く記憶にとどまるため)。休まず積極的に授業に参加していただきたい。

担当者の研究室等 非常勤講師室(1号館2階)

備考、事前・事後学習課題 辞書必携。出席日数は平常点としない。無断欠席すれば減点対象となる。予定する授業内容は上記の授業計画のとおりであるが、受講生の学習状況を考慮して進捗や内容などを調整することもある。「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English IId
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沢田 美保子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：(G) 薬学アドバンスト教育                  ユニット：(1) 実用薬学英語                  一般目標：薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。</p> <p>【読解・作文】SBOs：                  1. 科学実験、操作、結果の説明などに関する英語表現を列記できる。(知識・技能)                  2. 薬学関連分野の英語論文などの内容を説明できる。(知識・技能)                  3. 薬学関連分野でよく用いられる英単語を正確に記述できる。(知識・技能)                  4. 英語で論文を書くために必要な基本構文を使用できる。(知識・技能)</p> <p>医療に関わる基礎的なリーディングとライティング能力を養う。授業では毎回医療、薬学に関するさまざまなトピックについて書かれた文章を読み、内容把握、語彙の確認を行う。</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業の概要説明・評価方法についての説明 Unit 1,2	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	2	Unit 3,4 What to Expect from Your Pharmacist	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	3	Unit 5 Cell Structure & Function	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	4	Unit 6 Host Defense Mechanisms Against Infection	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	5	Unit 7,8	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	6	Unit 9 The Basics of Dementia	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	7	Unit 10 Overview of Allergic Reactions	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	8	Unit 11 Treatments for High Blood Pressure	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	9	Unit 12 Influenza Vaccines	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	10	Unit 13 Clinical Diabetes Management	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	11	Unit 14 Sinus Infection	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	12	Unit 15 A Story of Discovery	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験
	13	Unit 16 Research Ethics	講義・演習	受講態度、小テスト、定期試験

関連科目	すべての英語科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English for Student Pharmacists 1 薬学生のための英語 1	日本薬学英語研究会	SEIBIDO 成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・ 方法・基準	平常点 (受講態度、小テスト、提出物等) 60% 定期試験 40% 100点満点中 60点以上で合格
学生への メッセージ	辞書必携
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考、 事前・事後 学習課題	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practice of Sports Science I
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、体力の維持・増進、スポーツ技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツを実践する能力を育成することを目的としている。</p> <p>授業担当者は医療機関等における運動指導経験から、様々な年代の人々や有疾患者における運動が心身の健康にどのように貢献するか、対話を通して理解を深めてきた。このことを本授業に活用し、健康に関する課題解決的な学びや、学生自身のみならず様々な背景を持つ人々の健康に対する多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。</p> <p>&lt;一般目標&gt; ①健康の維持・増進をはかる。 ②運動技能を向上させることができる。 ③マナーやルールを理解し、実践することができる。 ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる。</p> <p>授業は実技形式で行う（雨天の場合、講義形式で行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおり バレーボール、サッカー、フットサル、テニス、ニュースポーツなど。 なお各種目の人数が多過ぎる場合は、他の種目に移動してもらうことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行うので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は事前に、寝屋川キャンパス総合体育館事務室（072-839-9187）へ連絡してください。</p>
--------------------------------	--

<p>授業計画</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>運動・スポーツ実施の重要性を理解すると共に、スポーツによる人間力の向上について理解できる。</td> <td>講義（講義室）</td> <td>活動点、態度点、技能点（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>現在の自分の体力を知ることができる。</td> <td>大阪工業大情報科学部 体育館（体力測定 体育館種目）</td> <td>活動点、態度点、技能点（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>現在の自分の体力を知ることができる。</td> <td>グラウンド（体力測定 屋外種目）</td> <td>活動点、態度点、技能点（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>現在の自分の体力を評価し、今後の課題と解決方法について理解することができる。</td> <td>体力測定集計・評価（講義室）</td> <td>活動点、態度点、技能点（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>スポーツのルールやマナーを理解すると共に、基礎技術を修得することができる。</td> <td>グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（各スポーツルールの説明、基礎技術練習）</td> <td>活動点、態度点、技能点（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>スポーツの基礎技術を修得することができる。</td> <td>グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（基礎技術練習）</td> <td>活動点、態度点、技能点（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>スポーツの攻防技術を修得することができる。</td> <td>グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（攻防技術練習）</td> <td>活動点、態度点、技能点（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>スポーツ技術を修得すると共に、ルールやマナーを守りながらゲームを行うことができる。</td> <td>グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）</td> <td>活動点、態度点、技能点（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>スポーツ技術を修得すると共に、ルールやマナーを守りながらゲームを行うことができる。</td> <td>グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）</td> <td>活動点、態度点、技能点（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>スポーツ技術を修得すると共に、チームメンバーとコミュニケーションを図りながらゲームを行うことができる。</td> <td>グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）</td> <td>活動点、態度点、技能点（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>スポーツ技術を修得すると共に、チームメンバーとコミュニケーションを図りながらゲームを行うことができる。</td> <td>グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）</td> <td>活動点、態度点、技能点（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>チームメンバーとコミュニケーションを図り、またリーダーシップを執りながら、楽しく円滑にゲームを進めることができる。</td> <td>グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）</td> <td>活動点、態度点、技能点（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>チームメンバーとコミュニケーションを図り、またリーダーシップを執りながら、楽しく円滑にゲームを進めることができる。</td> <td>グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）</td> <td>活動点、態度点、技能点（総括的評価）</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	運動・スポーツ実施の重要性を理解すると共に、スポーツによる人間力の向上について理解できる。	講義（講義室）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）	2	現在の自分の体力を知ることができる。	大阪工業大情報科学部 体育館（体力測定 体育館種目）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）	3	現在の自分の体力を知ることができる。	グラウンド（体力測定 屋外種目）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）	4	現在の自分の体力を評価し、今後の課題と解決方法について理解することができる。	体力測定集計・評価（講義室）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）	5	スポーツのルールやマナーを理解すると共に、基礎技術を修得することができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（各スポーツルールの説明、基礎技術練習）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）	6	スポーツの基礎技術を修得することができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（基礎技術練習）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）	7	スポーツの攻防技術を修得することができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（攻防技術練習）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）	8	スポーツ技術を修得すると共に、ルールやマナーを守りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）	9	スポーツ技術を修得すると共に、ルールやマナーを守りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）	10	スポーツ技術を修得すると共に、チームメンバーとコミュニケーションを図りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）	11	スポーツ技術を修得すると共に、チームメンバーとコミュニケーションを図りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）	12	チームメンバーとコミュニケーションを図り、またリーダーシップを執りながら、楽しく円滑にゲームを進めることができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）	13	チームメンバーとコミュニケーションを図り、またリーダーシップを執りながら、楽しく円滑にゲームを進めることができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	運動・スポーツ実施の重要性を理解すると共に、スポーツによる人間力の向上について理解できる。	講義（講義室）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）																																																						
2	現在の自分の体力を知ることができる。	大阪工業大情報科学部 体育館（体力測定 体育館種目）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）																																																						
3	現在の自分の体力を知ることができる。	グラウンド（体力測定 屋外種目）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）																																																						
4	現在の自分の体力を評価し、今後の課題と解決方法について理解することができる。	体力測定集計・評価（講義室）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）																																																						
5	スポーツのルールやマナーを理解すると共に、基礎技術を修得することができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（各スポーツルールの説明、基礎技術練習）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）																																																						
6	スポーツの基礎技術を修得することができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（基礎技術練習）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）																																																						
7	スポーツの攻防技術を修得することができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（攻防技術練習）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）																																																						
8	スポーツ技術を修得すると共に、ルールやマナーを守りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）																																																						
9	スポーツ技術を修得すると共に、ルールやマナーを守りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）																																																						
10	スポーツ技術を修得すると共に、チームメンバーとコミュニケーションを図りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）																																																						
11	スポーツ技術を修得すると共に、チームメンバーとコミュニケーションを図りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）																																																						
12	チームメンバーとコミュニケーションを図り、またリーダーシップを執りながら、楽しく円滑にゲームを進めることができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）																																																						
13	チームメンバーとコミュニケーションを図り、またリーダーシップを執りながら、楽しく円滑にゲームを進めることができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）																																																						

関連科目	
------	--

<p>教科書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

<p>参考書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価の時期・方法・基準	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、活動点とは授業への参加意欲を、態度点とは積極性・集中度を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間にグリーンハウス体育教員室へ来てください。ただし開講日以外は、寝屋川キャンパス総合体育館1F体育館事務室(072-839-9187)へ連絡してください。
担当者の研究室等	枚方キャンパスグリーンハウス(体育準備室)。ただし授業開講曜日のみ。 他の曜日は、寝屋川キャンパス総合体育館1階 体育館事務室。
備考、事前・事後学習課題	【共同担当者】渡部 将之、山方 諒平

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice of Sports Science II
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、体力の維持・増進、スポーツ技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツを実践する能力を育成することを目的としている。</p> <p>授業担当者は医療機関等における運動指導経験から、様々な年代の人々や有疾患者における運動が心身の健康にどのように貢献するか、対話を通して理解を深めてきた。このことを本授業に活用し、健康に関する課題解決的な学びや、学生自身のみならず様々な背景を持つ人々の健康に対する多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。</p> <p>&lt;一般目標&gt; ①健康の維持・増進をはかる。 ②運動技能を向上させることができる。 ③マナーやルールを理解し、実践することができる。 ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる。</p> <p>授業は実技形式で行う（雨天の場合、講義形式で行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおり バレーボール、サッカー、フットサル、テニス、ニュースポーツなど。 なお各種目の人数が多過ぎる場合は、他の種目に移動してもらうことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行うので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は事前に、寝屋川キャンパス総合体育館事務室（072-839-9187）へ連絡してください。</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	運動・スポーツ実施の重要性を理解すると共に、スポーツによる人間力の向上について理解できる。	講義（講義室）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	2	現在の自分の体力を知ることができる。	大阪工業大情報科学部 体育館（体力測定 体育館種目）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	3	現在の自分の体力を知ることができる。	グラウンド（体力測定 屋外種目）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	4	現在の自分の体力を評価し、今後の課題と解決方法について理解することができる。	体力測定集計・評価（講義室）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	5	スポーツのルールやマナーを理解すると共に、基礎技術を修得することができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（各スポーツルールの説明、基礎技術練習）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	6	スポーツの基礎技術を修得することができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（基礎技術練習）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	7	スポーツの攻防技術を修得することができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（攻防技術練習）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	8	スポーツ技術を修得すると共に、ルールやマナーを守りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	9	スポーツ技術を修得すると共に、ルールやマナーを守りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	10	スポーツ技術を修得すると共に、チームメンバーとコミュニケーションを図りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	11	スポーツ技術を修得すると共に、チームメンバーとコミュニケーションを図りながらゲームを行うことができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	12	チームメンバーとコミュニケーションを図り、またリーダーシップを執りながら、楽しく円滑にゲームを進めることができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）
	13	チームメンバーとコミュニケーションを図り、またリーダーシップを執りながら、楽しく円滑にゲームを進めることができる。	グラウンド・大阪工業大情報科学部 体育館（技術練習とゲーム）	活動点、態度点、技能点（総括的評価）

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、活動点とは授業への参加意欲を、態度点とは積極性・集中度を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間にグリーンハウス体育教員室へ来てください。ただし開講日以外は、寝屋川キャンパス総合体育館1F体育館事務室(072-839-9187)へ連絡してください。
担当者の研究室等	枚方キャンパスグリーンハウス(体育準備室)。ただし授業開講曜日のみ。 他の曜日は、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室。
備考、事前・事後学習課題	【共同担当者】渡部 将之、山方 諒平

# 教 養 科 目



科目名	コミュニケーション論	科目名(英文)	Study of Communication
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP6△, DP8△		
科目ナンバリング	YHU1401a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	ユニット 基本事項 コース (3) 信頼関係の構築 一般目標 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。 (1) コミュニケーション 1. 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。 2. 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。 3. 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。 4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。 この講義では、わたしたちが日常的におこなっているコミュニケーションの特性や仕組みを知り、そのうえで表現のスキルを向上させていくことをめざしています。 わたしたちは日々、ことばを話し、読み、書き、そうして周囲の人びととコミュニケーションしつつ生活をしています。コミュニケーションの諸場面に生じる問題をとおして、円滑な意志疎通のあり方を探っていくことにしましょう。																																																								
授業計画	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>コミュニケーションとは何か①</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コミュニケーションとは何か②</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>言語コミュニケーション①</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>言語コミュニケーション②</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>言語コミュニケーション③</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>非言語コミュニケーション①</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>非言語コミュニケーション②</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>非言語コミュニケーション③</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>非言語コミュニケーション④</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>コミュニケーションと文化①</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>コミュニケーションと文化②</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>コミュニケーションと文化③</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	イントロダクション	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	2	コミュニケーションとは何か①	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	3	コミュニケーションとは何か②	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	4	言語コミュニケーション①	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	5	言語コミュニケーション②	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	6	言語コミュニケーション③	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	7	非言語コミュニケーション①	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	8	非言語コミュニケーション②	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	9	非言語コミュニケーション③	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	10	非言語コミュニケーション④	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	11	コミュニケーションと文化①	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	12	コミュニケーションと文化②	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	13	コミュニケーションと文化③	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	イントロダクション	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
2	コミュニケーションとは何か①	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
3	コミュニケーションとは何か②	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
4	言語コミュニケーション①	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
5	言語コミュニケーション②	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
6	言語コミュニケーション③	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
7	非言語コミュニケーション①	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
8	非言語コミュニケーション②	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
9	非言語コミュニケーション③	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
10	非言語コミュニケーション④	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
11	コミュニケーションと文化①	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
12	コミュニケーションと文化②	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
13	コミュニケーションと文化③	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
関連科目	国語学, 言語学, 日本語学, 社会学, コミュニケーション学など																																																								
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																						
1																																																									
2																																																									
3																																																									
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																						
1																																																									
2																																																									
3																																																									
評価の時期・ 方法・基準	平常点と試験によって、総合的に評価します。平常点10点、定期試験90点。なお、平常点は、提出物、授業における態度などをもとに総合的に評価するため、出席点は含みません。																																																								
学生への メッセージ	積極的な参加を求めます。																																																								
担当者の 研究室等	1号館2階(非常勤講師室)																																																								
備考、 事前・事後 学習課題	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する																																																								

科目名	コミュニケーション論	科目名(英文)	Study of Communication
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金 瑛
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP6△, DP8△		
科目ナンバリング	YHU1401a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	ユニット 基本事項 コース (3) 信頼関係の構築 一般目標 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。 (1) コミュニケーション 1. 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。 2. 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。 3. 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。 4. 対人関係に影響を及ぼす心理的・社会的要因について概説できる。 5. グループ・ディスカッションやプレゼンテーションを通して、適切な話し方を身につける。																																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td>講義と演習</td><td>授業内での課題と定期試験</td></tr> <tr><td>2</td><td>コミュニケーションとは何か</td><td>講義と演習</td><td>授業内での課題と定期試験</td></tr> <tr><td>3</td><td>言語コミュニケーションの特徴</td><td>講義と演習</td><td>授業内での課題と定期試験</td></tr> <tr><td>4</td><td>言語とミスコミュニケーション</td><td>講義と演習</td><td>授業内での課題と定期試験</td></tr> <tr><td>5</td><td>非言語コミュニケーションの種類と特徴</td><td>講義と演習</td><td>授業内での課題と定期試験</td></tr> <tr><td>6</td><td>メディアの影響</td><td>講義と演習</td><td>授業内での課題と定期試験</td></tr> <tr><td>7</td><td>メディアの悪影響</td><td>講義と演習</td><td>授業内での課題と定期試験</td></tr> <tr><td>8</td><td>メディア・リテラシーについて考える</td><td>講義と演習</td><td>授業内での課題と定期試験</td></tr> <tr><td>9</td><td>現代社会におけるコミュニケーションをめぐる問題</td><td>講義と演習</td><td>授業内での課題と定期試験</td></tr> <tr><td>10</td><td>感性を活かすコミュニケーション</td><td>講義と演習</td><td>授業内での課題と定期試験</td></tr> <tr><td>11</td><td>論理的・理性的なコミュニケーション</td><td>講義と演習</td><td>授業内での課題と定期試験</td></tr> <tr><td>12</td><td>グループ・ディスカッションへ向けて</td><td>講義と演習</td><td>授業内での課題と定期試験</td></tr> <tr><td>13</td><td>グループディスカッションの実践</td><td>講義と演習</td><td>授業内での課題と定期試験</td></tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	イントロダクション	講義と演習	授業内での課題と定期試験	2	コミュニケーションとは何か	講義と演習	授業内での課題と定期試験	3	言語コミュニケーションの特徴	講義と演習	授業内での課題と定期試験	4	言語とミスコミュニケーション	講義と演習	授業内での課題と定期試験	5	非言語コミュニケーションの種類と特徴	講義と演習	授業内での課題と定期試験	6	メディアの影響	講義と演習	授業内での課題と定期試験	7	メディアの悪影響	講義と演習	授業内での課題と定期試験	8	メディア・リテラシーについて考える	講義と演習	授業内での課題と定期試験	9	現代社会におけるコミュニケーションをめぐる問題	講義と演習	授業内での課題と定期試験	10	感性を活かすコミュニケーション	講義と演習	授業内での課題と定期試験	11	論理的・理性的なコミュニケーション	講義と演習	授業内での課題と定期試験	12	グループ・ディスカッションへ向けて	講義と演習	授業内での課題と定期試験	13	グループディスカッションの実践	講義と演習
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																					
1	イントロダクション	講義と演習	授業内での課題と定期試験																																																					
2	コミュニケーションとは何か	講義と演習	授業内での課題と定期試験																																																					
3	言語コミュニケーションの特徴	講義と演習	授業内での課題と定期試験																																																					
4	言語とミスコミュニケーション	講義と演習	授業内での課題と定期試験																																																					
5	非言語コミュニケーションの種類と特徴	講義と演習	授業内での課題と定期試験																																																					
6	メディアの影響	講義と演習	授業内での課題と定期試験																																																					
7	メディアの悪影響	講義と演習	授業内での課題と定期試験																																																					
8	メディア・リテラシーについて考える	講義と演習	授業内での課題と定期試験																																																					
9	現代社会におけるコミュニケーションをめぐる問題	講義と演習	授業内での課題と定期試験																																																					
10	感性を活かすコミュニケーション	講義と演習	授業内での課題と定期試験																																																					
11	論理的・理性的なコミュニケーション	講義と演習	授業内での課題と定期試験																																																					
12	グループ・ディスカッションへ向けて	講義と演習	授業内での課題と定期試験																																																					
13	グループディスカッションの実践	講義と演習	授業内での課題と定期試験																																																					
関連科目	日本語表現、言語学、心理学、社会心理学、社会学など																																																							
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																										
	番号	書籍名	著者名	出版社名																																																				
	1																																																							
	2																																																							
3																																																								
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																										
	番号	書籍名	著者名	出版社名																																																				
	1																																																							
	2																																																							
3																																																								
評価の時期・ 方法・基準	授業時に行う課題に基づく平常点(40点)と定期試験(60点)によって総合的に評価する。 総合点60点以上で合格。																																																							
学生への メッセージ	積極的な参加を求めます。																																																							
担当者の 研究室等	1号館2階(非常勤講師室)																																																							
備考、 事前・事後 学習課題	講義前の予習(関連資料を読む。1時間×13回) 復習(講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間×13回) 授業時に行う課題については、提出以降の授業において解説や解答例の紹介といったフィードバックを行う。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																							

科目名	コミュニケーション論	科目名(英文)	Study of Communication
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP6△, DP8△		
科目ナンバリング	YHU1401a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	ユニット 基本事項 コース (3) 信頼関係の構築 一般目標 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。 (1) コミュニケーション 1. 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。 2. 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。 3. 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。 4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。 この講義では、わたしたちが日常的におこなっているコミュニケーションの特性や仕組みを知り、そのうえで表現のスキルを向上させていくことをめざしています。 わたしたちは日々、ことばを話し、読み、書き、そうして周囲の人びととコミュニケートしつつ生活をしています。コミュニケーションの諸場面に生じる問題をとおして、円滑な意思疎通のあり方を探っていくことにしましょう。																																																								
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 45%;">到達目標</th> <th style="width: 30%;">学習方法・自己学習課題</th> <th style="width: 15%;">評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>コミュニケーションとは何か①</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コミュニケーションとは何か②</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>言語コミュニケーション①</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>言語コミュニケーション②</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>言語コミュニケーション③</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>非言語コミュニケーション①</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>非言語コミュニケーション②</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>非言語コミュニケーション③</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>非言語コミュニケーション④</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>コミュニケーションと文化①</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>コミュニケーションと文化②</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>コミュニケーションと文化③</td> <td>講義と演習 講義内容の復習と自己学習</td> <td>平常点と定期試験</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	イントロダクション	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	2	コミュニケーションとは何か①	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	3	コミュニケーションとは何か②	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	4	言語コミュニケーション①	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	5	言語コミュニケーション②	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	6	言語コミュニケーション③	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	7	非言語コミュニケーション①	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	8	非言語コミュニケーション②	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	9	非言語コミュニケーション③	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	10	非言語コミュニケーション④	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	11	コミュニケーションと文化①	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	12	コミュニケーションと文化②	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験	13	コミュニケーションと文化③	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	イントロダクション	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
2	コミュニケーションとは何か①	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
3	コミュニケーションとは何か②	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
4	言語コミュニケーション①	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
5	言語コミュニケーション②	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
6	言語コミュニケーション③	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
7	非言語コミュニケーション①	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
8	非言語コミュニケーション②	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
9	非言語コミュニケーション③	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
10	非言語コミュニケーション④	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
11	コミュニケーションと文化①	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
12	コミュニケーションと文化②	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
13	コミュニケーションと文化③	講義と演習 講義内容の復習と自己学習	平常点と定期試験																																																						
関連科目	国語学, 言語学, 日本語学, 社会学, コミュニケーション学など																																																								
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																						
1																																																									
2																																																									
3																																																									
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																						
1																																																									
2																																																									
3																																																									
評価の時期・ 方法・基準	平常点と試験によって、総合的に評価します。平常点10点、定期試験90点。なお、平常点は、提出物、授業における態度などをもとに総合的に評価するため、出席点は含みません。																																																								
学生への メッセージ	積極的な参加を求めます。																																																								
担当者の 研究室等	1号館2階(非常勤講師室)																																																								
備考、 事前・事後 学習課題	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する																																																								

科目名	コミュニケーション論	科目名(英文)	Study of Communication
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	4
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金 瑛
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP6△, DP8△		
科目ナンバリング	YHU1401a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	ユニット 基本事項 コース (3) 信頼関係の構築 一般目標 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。 (1) コミュニケーション 1. 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。 2. 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。 3. 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。 4. 対人関係に影響を及ぼす心理的・社会的要因について概説できる。 5. グループ・ディスカッションやプレゼンテーションを通して、適切な話し方を身につける。			
	授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題
	1	イントロダクション	講義と演習	授業内での課題と定期試験
	2	コミュニケーションとは何か	講義と演習	授業内での課題と定期試験
	3	言語コミュニケーションの特徴	講義と演習	授業内での課題と定期試験
	4	言語とミスコミュニケーション	講義と演習	授業内での課題と定期試験
	5	非言語コミュニケーションの種類と特徴	講義と演習	授業内での課題と定期試験
	6	メディアの影響力	講義と演習	授業内での課題と定期試験
	7	メディアの悪影響	講義と演習	授業内での課題と定期試験
	8	メディア・リテラシーについて考える	講義と演習	授業内での課題と定期試験
	9	現代社会におけるコミュニケーションをめぐる問題	講義と演習	授業内での課題と定期試験
	10	感性を活かすコミュニケーション	講義と演習	授業内での課題と定期試験
	11	論理的・理性的なコミュニケーション	講義と演習	授業内での課題と定期試験
	12	グループ・ディスカッションへ向けて	講義と演習	授業内での課題と定期試験
	13	グループディスカッションの実践	講義と演習	授業内での課題と定期試験
関連科目	日本語表現、言語学、心理学、社会心理学、社会学など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・ 方法・基準	授業時に行う課題に基づく平常点(40点)と定期試験(60点)によって総合的に評価する。 総合点60点以上で合格。			
学生への メッセージ	積極的な参加を求めます。			
担当者の 研究室等	1号館2階(非常勤講師室)			
備考、 事前・事後 学習課題	講義前の予習(関連資料を読む。1時間×13回) 復習(講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間×13回) 授業時に行う課題については、提出以降の授業において解説や解答例の紹介といったフィードバックを行う。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小牧 一裕
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP8△		
科目ナンバリング	YHU1402a2		

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>ユニット 基本事項 コース (3) 信頼関係の構築 一般目標 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。 ①コミュニケーション 4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。 到達領域の変更項目 (一般目標) 1. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応することの重要性を説明できる。 2. 自分の心理状態を意識して、他者と接することの重要性を説明できる。</p> <p>ユニット 薬学と社会 一般目標 人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。 コース (1) 人と社会に関わる薬剤師 一般目標 人の行動や考え、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤師の関わりを認識する。 1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。 到達領域の変更項目 (一般目標) 1. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について説明できる。</p> <p>心理学とは、われわれが周囲のさまざまな環境とのかかわりの中でとる行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。現代社会での実際的な問題、日常的な話題を多く取り上げ、個人・対人間・集団関係での行動と心理の理解を目指す。</p>
--------------------------------	---

<p>授業計画</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>さまざまなパーソナリティの理論について説明することができる。また、パーソナリティを測定して自分を客観的に把握し、分析することができる。</td> <td>講義 自己のパーソナリティについての分析</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>パーソナリティの形成に影響を与える外的要因として、文化と家庭の視点から学び、われわれがいかにして現在の自分になったのかについて説明できる。</td> <td>講義 どのような要因が自己の形成に影響を与えたのかについての分析</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>人が人間関係を含む行動をするとき、その原因である動機づけについて理解し、生活に活用することができる。</td> <td>講義 動機づけを高める要因についての分析</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>青年期の人間関係、特に友人関係に焦点を当て、特徴とその背景について理解し、対人関係に活用することができる。</td> <td>講義 自己の友人関係の分析</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ジョハリの窓を使って自分のことを振り返り、自分の気づかない盲点を知り、自己開示の活用などで自己の理解を深め、それを活用することができる。</td> <td>講義 ジョハリの窓と自己の理解</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>われわれが人と良い関係を築いていくためには、まず自分をとり巻く環境や他者を知ることが必要となる。そのプロセスを理解し説明できる。</td> <td>講義 対人関係における他者認知の手がかり</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>人に対する好意的や非好意的な態度である対人魅力の規定因についての知識を深め、それを説明できる。</td> <td>講義 親密な人間関係における対人魅力の分析</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>コミュニケーションの阻害や歪みについての知識を得て、その原因を理解し、より良い人間関係を築くことができる。</td> <td>講義 伝わらない原因の分析</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>人を助ける、あるいは怒りや攻撃についての知識を学び、怒りのコントロールができるようになる。</td> <td>講義 自己の怒りをコントロールする方法</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>人間関係の展開3：自分と意見が違う人を説得し、他者に影響を与える要因についての知識を得て活用できる。</td> <td>講義 説得的コミュニケーション 依頼と説得への応用</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>集団におけるまとまり (凝集性)、リーダーシップ、集団への適応について学び、その知識を生活の中で活用できる。</td> <td>講義 集団への適応とその方法</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ストレスの仕組みとその予防について学び、ストレスに強くなる方法について知識を得て、現実の生活に活用できる。</td> <td>講義 ストレスと心の健康 精神的回復力</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ポジティブ心理学の視点から、幸せについて学び、幸せになるためにはどのような条件が必要であるのかを理解し、説明できる。</td> <td>講義 幸せの要因を分析する</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	さまざまなパーソナリティの理論について説明することができる。また、パーソナリティを測定して自分を客観的に把握し、分析することができる。	講義 自己のパーソナリティについての分析	授業終了後のレポート・学習態度	2	パーソナリティの形成に影響を与える外的要因として、文化と家庭の視点から学び、われわれがいかにして現在の自分になったのかについて説明できる。	講義 どのような要因が自己の形成に影響を与えたのかについての分析	授業終了後のレポート・学習態度	3	人が人間関係を含む行動をするとき、その原因である動機づけについて理解し、生活に活用することができる。	講義 動機づけを高める要因についての分析	授業終了後のレポート・学習態度	4	青年期の人間関係、特に友人関係に焦点を当て、特徴とその背景について理解し、対人関係に活用することができる。	講義 自己の友人関係の分析	授業終了後のレポート・学習態度	5	ジョハリの窓を使って自分のことを振り返り、自分の気づかない盲点を知り、自己開示の活用などで自己の理解を深め、それを活用することができる。	講義 ジョハリの窓と自己の理解	授業終了後のレポート・学習態度	6	われわれが人と良い関係を築いていくためには、まず自分をとり巻く環境や他者を知ることが必要となる。そのプロセスを理解し説明できる。	講義 対人関係における他者認知の手がかり	授業終了後のレポート・学習態度	7	人に対する好意的や非好意的な態度である対人魅力の規定因についての知識を深め、それを説明できる。	講義 親密な人間関係における対人魅力の分析	授業終了後のレポート・学習態度	8	コミュニケーションの阻害や歪みについての知識を得て、その原因を理解し、より良い人間関係を築くことができる。	講義 伝わらない原因の分析	授業終了後のレポート・学習態度	9	人を助ける、あるいは怒りや攻撃についての知識を学び、怒りのコントロールができるようになる。	講義 自己の怒りをコントロールする方法	授業終了後のレポート・学習態度	10	人間関係の展開3：自分と意見が違う人を説得し、他者に影響を与える要因についての知識を得て活用できる。	講義 説得的コミュニケーション 依頼と説得への応用	授業終了後のレポート・学習態度	11	集団におけるまとまり (凝集性)、リーダーシップ、集団への適応について学び、その知識を生活の中で活用できる。	講義 集団への適応とその方法	授業終了後のレポート・学習態度	12	ストレスの仕組みとその予防について学び、ストレスに強くなる方法について知識を得て、現実の生活に活用できる。	講義 ストレスと心の健康 精神的回復力	授業終了後のレポート・学習態度	13	ポジティブ心理学の視点から、幸せについて学び、幸せになるためにはどのような条件が必要であるのかを理解し、説明できる。	講義 幸せの要因を分析する	授業終了後のレポート・学習態度
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	さまざまなパーソナリティの理論について説明することができる。また、パーソナリティを測定して自分を客観的に把握し、分析することができる。	講義 自己のパーソナリティについての分析	授業終了後のレポート・学習態度																																																						
2	パーソナリティの形成に影響を与える外的要因として、文化と家庭の視点から学び、われわれがいかにして現在の自分になったのかについて説明できる。	講義 どのような要因が自己の形成に影響を与えたのかについての分析	授業終了後のレポート・学習態度																																																						
3	人が人間関係を含む行動をするとき、その原因である動機づけについて理解し、生活に活用することができる。	講義 動機づけを高める要因についての分析	授業終了後のレポート・学習態度																																																						
4	青年期の人間関係、特に友人関係に焦点を当て、特徴とその背景について理解し、対人関係に活用することができる。	講義 自己の友人関係の分析	授業終了後のレポート・学習態度																																																						
5	ジョハリの窓を使って自分のことを振り返り、自分の気づかない盲点を知り、自己開示の活用などで自己の理解を深め、それを活用することができる。	講義 ジョハリの窓と自己の理解	授業終了後のレポート・学習態度																																																						
6	われわれが人と良い関係を築いていくためには、まず自分をとり巻く環境や他者を知ることが必要となる。そのプロセスを理解し説明できる。	講義 対人関係における他者認知の手がかり	授業終了後のレポート・学習態度																																																						
7	人に対する好意的や非好意的な態度である対人魅力の規定因についての知識を深め、それを説明できる。	講義 親密な人間関係における対人魅力の分析	授業終了後のレポート・学習態度																																																						
8	コミュニケーションの阻害や歪みについての知識を得て、その原因を理解し、より良い人間関係を築くことができる。	講義 伝わらない原因の分析	授業終了後のレポート・学習態度																																																						
9	人を助ける、あるいは怒りや攻撃についての知識を学び、怒りのコントロールができるようになる。	講義 自己の怒りをコントロールする方法	授業終了後のレポート・学習態度																																																						
10	人間関係の展開3：自分と意見が違う人を説得し、他者に影響を与える要因についての知識を得て活用できる。	講義 説得的コミュニケーション 依頼と説得への応用	授業終了後のレポート・学習態度																																																						
11	集団におけるまとまり (凝集性)、リーダーシップ、集団への適応について学び、その知識を生活の中で活用できる。	講義 集団への適応とその方法	授業終了後のレポート・学習態度																																																						
12	ストレスの仕組みとその予防について学び、ストレスに強くなる方法について知識を得て、現実の生活に活用できる。	講義 ストレスと心の健康 精神的回復力	授業終了後のレポート・学習態度																																																						
13	ポジティブ心理学の視点から、幸せについて学び、幸せになるためにはどのような条件が必要であるのかを理解し、説明できる。	講義 幸せの要因を分析する	授業終了後のレポート・学習態度																																																						
<p>関連科目</p>																																																									

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間関係を学ぶ心理学	川端啓之、安藤明人他	福村出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	定期試験 50%、大レポート 15%、毎回の提出物 35%を総合して評価する。100 点満点中 60 点以上で合格とする。			
学生へのメッセージ	心理学を学んで、自分のこと、相手のこと、社会のできごとを客観的に見る力を磨きましょう。			
担当者の研究室等	1 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考、事前・事後学習課題	毎回の提出物について、次回の授業の中で結果報告として概要を説明する。 授業の下調べおよび指定した教科書を事前に読んでおくこと（1 時間） 授業終了時に示す課題についてレポートを作成する（2 時間）			

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	DEF
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小牧 一裕
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP8△		
科目ナンバリング	YHU1402a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>ユニット 基本事項 コース (3) 信頼関係の構築 一般目標 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。 ①コミュニケーション 4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。 到達領域の変更項目 (一般目標) 1. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応することの重要性を説明できる。 2. 自分の心理状態を意識して、他者と接することの重要性を説明できる。</p> <p>コース ユニット 薬学と社会 一般目標 人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。 コース (1) 人と社会に関わる薬剤師 一般目標 人の行動や考え、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤師の関わりを認識する。 1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。 到達領域の変更項目 (一般目標) 1. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について説明できる。</p> <p>心理学とは、われわれが周囲のさまざまな環境とのかかわりの中でとる行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。現代社会での実際的な問題、日常的な話題を多く取り上げ、個人・対人間・集団関係での行動と心理の理解を目指す。</p>																																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>さまざまなパーソナリティの理論について説明することができる。また、パーソナリティを測定して自分を客観的に把握し、分析することができる。</td> <td>講義 自己のパーソナリティについての分析</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>パーソナリティの形成に影響を与える外的要因として、文化と家庭の視点から学び、われわれがいかにして現在の自分になったのかについて説明できる。</td> <td>講義 どのような要因が自己の形成に影響を与えたのかについての分析</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>人が人間関係を含む行動をするとき、その原因である動機づけについて理解し、生活に活用することができる。</td> <td>講義 動機づけを高める要因についての分析</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>青年期の人間関係、特に友人関係に焦点を当て、特徴とその背景について理解し、対人関係に活用することができる。</td> <td>講義 自己の友人関係の分析</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ジョハリの窓を使って自分のことを振り返り、自分の気づかない盲点を知り、自己開示の活用などで自己の理解を深め、それを活用することができる。</td> <td>講義 ジョハリの窓と自己の理解</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>われわれが人と良い関係を築いていくためには、まず自分をとり巻く環境や他者を知ることが必要となる。そのプロセスを理解し説明できる。</td> <td>講義 対人関係における他者認知の手がかり</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>人に対する好意的や非好意的な態度である対人魅力の規定因についての知識を深め、それを説明できる。</td> <td>講義 親密な人間関係における対人魅力の分析</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>コミュニケーションの阻害や歪みについての知識を得て、その原因を理解し、より良い人間関係を築くことができる。</td> <td>講義 伝わらない原因の分析</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>人を助ける、あるいは怒りや攻撃についての知識を学び、怒りのコントロールができるようになる。</td> <td>講義 自己の怒りをコントロールする方法</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>人間関係の展開3：自分と意見が違う人を説得し、他者に影響を与える要因についての知識を得て活用できる。</td> <td>講義 説得的コミュニケーション 依頼と説得への応用</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>集団におけるまとまり (凝集性)、リーダーシップ、集団への適応について学び、その知識を生活の中で活用できる。</td> <td>講義 集団への適応とその方法</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ストレスの仕組みとその予防について学び、ストレスに強くなる方法について知識を得て、現実の生活に活用できる。</td> <td>講義 ストレスと心の健康 精神的回復力</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ポジティブ心理学の視点から、幸せについて学び、幸せになるためにはどのような条件が必要であるのかを理解し、説明できる。</td> <td>講義 幸せの要因を分析する</td> <td>授業終了後のレポート・学習態度</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	さまざまなパーソナリティの理論について説明することができる。また、パーソナリティを測定して自分を客観的に把握し、分析することができる。	講義 自己のパーソナリティについての分析	授業終了後のレポート・学習態度	2	パーソナリティの形成に影響を与える外的要因として、文化と家庭の視点から学び、われわれがいかにして現在の自分になったのかについて説明できる。	講義 どのような要因が自己の形成に影響を与えたのかについての分析	授業終了後のレポート・学習態度	3	人が人間関係を含む行動をするとき、その原因である動機づけについて理解し、生活に活用することができる。	講義 動機づけを高める要因についての分析	授業終了後のレポート・学習態度	4	青年期の人間関係、特に友人関係に焦点を当て、特徴とその背景について理解し、対人関係に活用することができる。	講義 自己の友人関係の分析	授業終了後のレポート・学習態度	5	ジョハリの窓を使って自分のことを振り返り、自分の気づかない盲点を知り、自己開示の活用などで自己の理解を深め、それを活用することができる。	講義 ジョハリの窓と自己の理解	授業終了後のレポート・学習態度	6	われわれが人と良い関係を築いていくためには、まず自分をとり巻く環境や他者を知ることが必要となる。そのプロセスを理解し説明できる。	講義 対人関係における他者認知の手がかり	授業終了後のレポート・学習態度	7	人に対する好意的や非好意的な態度である対人魅力の規定因についての知識を深め、それを説明できる。	講義 親密な人間関係における対人魅力の分析	授業終了後のレポート・学習態度	8	コミュニケーションの阻害や歪みについての知識を得て、その原因を理解し、より良い人間関係を築くことができる。	講義 伝わらない原因の分析	授業終了後のレポート・学習態度	9	人を助ける、あるいは怒りや攻撃についての知識を学び、怒りのコントロールができるようになる。	講義 自己の怒りをコントロールする方法	授業終了後のレポート・学習態度	10	人間関係の展開3：自分と意見が違う人を説得し、他者に影響を与える要因についての知識を得て活用できる。	講義 説得的コミュニケーション 依頼と説得への応用	授業終了後のレポート・学習態度	11	集団におけるまとまり (凝集性)、リーダーシップ、集団への適応について学び、その知識を生活の中で活用できる。	講義 集団への適応とその方法	授業終了後のレポート・学習態度	12	ストレスの仕組みとその予防について学び、ストレスに強くなる方法について知識を得て、現実の生活に活用できる。	講義 ストレスと心の健康 精神的回復力	授業終了後のレポート・学習態度	13	ポジティブ心理学の視点から、幸せについて学び、幸せになるためにはどのような条件が必要であるのかを理解し、説明できる。	講義 幸せの要因を分析する
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																					
1	さまざまなパーソナリティの理論について説明することができる。また、パーソナリティを測定して自分を客観的に把握し、分析することができる。	講義 自己のパーソナリティについての分析	授業終了後のレポート・学習態度																																																					
2	パーソナリティの形成に影響を与える外的要因として、文化と家庭の視点から学び、われわれがいかにして現在の自分になったのかについて説明できる。	講義 どのような要因が自己の形成に影響を与えたのかについての分析	授業終了後のレポート・学習態度																																																					
3	人が人間関係を含む行動をするとき、その原因である動機づけについて理解し、生活に活用することができる。	講義 動機づけを高める要因についての分析	授業終了後のレポート・学習態度																																																					
4	青年期の人間関係、特に友人関係に焦点を当て、特徴とその背景について理解し、対人関係に活用することができる。	講義 自己の友人関係の分析	授業終了後のレポート・学習態度																																																					
5	ジョハリの窓を使って自分のことを振り返り、自分の気づかない盲点を知り、自己開示の活用などで自己の理解を深め、それを活用することができる。	講義 ジョハリの窓と自己の理解	授業終了後のレポート・学習態度																																																					
6	われわれが人と良い関係を築いていくためには、まず自分をとり巻く環境や他者を知ることが必要となる。そのプロセスを理解し説明できる。	講義 対人関係における他者認知の手がかり	授業終了後のレポート・学習態度																																																					
7	人に対する好意的や非好意的な態度である対人魅力の規定因についての知識を深め、それを説明できる。	講義 親密な人間関係における対人魅力の分析	授業終了後のレポート・学習態度																																																					
8	コミュニケーションの阻害や歪みについての知識を得て、その原因を理解し、より良い人間関係を築くことができる。	講義 伝わらない原因の分析	授業終了後のレポート・学習態度																																																					
9	人を助ける、あるいは怒りや攻撃についての知識を学び、怒りのコントロールができるようになる。	講義 自己の怒りをコントロールする方法	授業終了後のレポート・学習態度																																																					
10	人間関係の展開3：自分と意見が違う人を説得し、他者に影響を与える要因についての知識を得て活用できる。	講義 説得的コミュニケーション 依頼と説得への応用	授業終了後のレポート・学習態度																																																					
11	集団におけるまとまり (凝集性)、リーダーシップ、集団への適応について学び、その知識を生活の中で活用できる。	講義 集団への適応とその方法	授業終了後のレポート・学習態度																																																					
12	ストレスの仕組みとその予防について学び、ストレスに強くなる方法について知識を得て、現実の生活に活用できる。	講義 ストレスと心の健康 精神的回復力	授業終了後のレポート・学習態度																																																					
13	ポジティブ心理学の視点から、幸せについて学び、幸せになるためにはどのような条件が必要であるのかを理解し、説明できる。	講義 幸せの要因を分析する	授業終了後のレポート・学習態度																																																					
関連科目																																																								

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間関係を学ぶ心理学	川端啓之、安藤明人他	福村出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	定期試験 50%、大レポート 15%、毎回の提出物 35%を総合して評価する。100 点満点中 60 点以上で合格とする。			
学生へのメッセージ	心理学を学んで、自分のこと、相手のこと、社会のできごとを客観的に見る力を磨きましょう。			
担当者の研究室等	1 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考、事前・事後学習課題	毎回の提出物について、次回の授業の中で結果報告として概要を説明する。 授業の下調べおよび指定した教科書を事前に読んでおくこと（1 時間） 授業終了時に示す課題についてレポートを作成する（2 時間）			

科目名	哲学	科目名 (英文)	philosophy
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	濱 良祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	YHU1403a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>薬学準備教育 (1) 人と文化</p> <p>一般目標：薬学領域の学習と併行して、人文科学、社会科学および自然科学などを広く学び、知識を獲得し、さまざまな考え方や感じ方にふれ、物事を多角的にみる能力を養う。そして見識のある人間としての基礎を築くために、自分自身についての洞察を深め、生涯にわたって自己研鑽に努める習慣を身につける。</p> <p>この授業では、上記の目標を達成するために「哲学」について学習する。「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」、「他者とは何か」、「幸福とは何か」など、人間存在に根本的に関わる哲学的な難問に出会うことになる。この授業は、そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。</p> <p>この授業では、西洋近代の哲学思想史をたどり、人間存在や社会に関わる諸問題に取り組むことを通して、現代を主体的に生きるための批判的思考力・哲学的洞察力を養うことを目標とする。</p>
-----------------------	--

授業計画				
	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	
	1	授業の進め方、授業全体の目的等について理解すること。「哲学」することの意義について自分自身で考察してみる。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
	2	古代ギリシアの思想についての知識を習得し、「知」の可能性について自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
	3	ソクラテスの思想についての知識を習得し、「知」の探求の意義について自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
	4	西洋近代の自然観と人間観についての知識を習得し、近代科学の哲学的基礎について自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
	5	F. ベーコンの思想についての知識を習得し、人間の本性に根差した「偏見」について自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
	6	デカルトの思想についての知識を習得し、「私」とは何かについて自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
	7	引き続きデカルトの思想についての知識を習得し、哲学における「世界」や「神」について自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
	8	ロックの思想についての知識を習得し、「認識」の仕組みについて自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
	9	ヒュームの思想についての知識を習得し、経験から得られる真理とは何かを自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
10	カントの認識論についての知識を習得し、批判的思考のあり方について自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。	

	11	引き続きカントの認識論についての知識を習得し、認識における真理の所在のについて自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点（受講態度、授業後の質問、小テストなど）を40%、 期末定期試験の結果を60%として総合的に評価する。
	12	引き続きカントの認識論についての知識を習得し、人間理性の限界について自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点（受講態度、授業後の質問、小テストなど）を40%、 期末定期試験の結果を60%として総合的に評価する。
	13	授業全体を振り返り、改めて「哲学」することの意義について自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。	平常点（受講態度、授業後の質問、小テストなど）を40%、 期末定期試験の結果を60%として総合的に評価する。
関連科目	生命倫理学、医療倫理、社会と人権、コミュニケーション論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	平常点（受講態度、授業後の質問、小テストなど）を40%、期末定期試験の結果を60%として総合的に評価し、100点満点中60点以上で合格とする			
学生へのメッセージ	授業中の私語、携帯の使用などで授業を妨害した者には退席を命じ、欠席扱いとします。大学生にふさわしい態度で授業に臨んでください。			
担当者の研究室等	非常勤講師控室（枚方キャンパス1号館2F）  授業担当者メールアドレス： xhamaryo@edu.setsunan.ac.jp			
備考、事前・事後学習課題	<p>〈事前学習〉前回までの内容をふまえて講義するので、ノートや資料に改めて目を通し、それまでの学習内容を確認しておくこと。 〈事後学習〉各授業後に、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、次の授業までに目を通しておくこと。</p> <p>授業外学習の目安は、予習復習を合わせて毎回1時間程度とする。</p> <p>提出物についての全体的な講評は授業内で行う。具体的な評価に関する問い合わせには、授業時間の前後に対応することができる。授業時間外での質問等は出講時に非常勤講師室にて対応することができる。</p>			

科目名	哲学	科目名 (英文)	philosophy
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	DEF
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	濱 良祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	YHU1403a2		

コース・ユニット・一般目標	<p>薬学準備教育 (1) 人と文化</p> <p>一般目標：薬学領域の学習と併行して、人文科学、社会科学および自然科学などを広く学び、知識を獲得し、さまざまな考え方や感じ方にふれ、物事を多角的にみる能力を養う。そして見識のある人間としての基礎を築くために、自分自身についての洞察を深め、生涯にわたって自己研鑽に努める習慣を身につける。</p> <p>この授業では、上記の目標を達成するために「哲学」について学習する。「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」、「他者とは何か」、「幸福とは何か」など、人間存在に根本的に関わる哲学的な難問に出会うことになる。この授業は、そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。</p> <p>この授業では、西洋近代の哲学思想史をたどり、人間存在や社会に関わる諸問題に取り組むことを通して、現代を主体的に生きるための批判的思考力・哲学的洞察力を養うことを目標とする。</p>
---------------	--

授業計画				
	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	授業の進め方、授業全体の目的等について理解すること。「哲学」することの意義について自分自身で考察してみる。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
	2	古代ギリシアの思想についての知識を習得し、「知」の可能性について自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
	3	ソクラテスの思想についての知識を習得し、「知」の探求の意義について自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
	4	西洋近代の自然観と人間観についての知識を習得し、近代科学の哲学的基礎について自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
	5	F. ベーコンの思想についての知識を習得し、人間の本性に根差した「偏見」について自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
	6	デカルトの思想についての知識を習得し、「私」とは何かについて自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
	7	引き続きデカルトの思想についての知識を習得し、哲学における「世界」や「神」について自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
	8	ロックの思想についての知識を習得し、「認識」の仕組みについて自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
	9	ヒュームの思想についての知識を習得し、経験から得られる真理とは何かを自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。
10	カントの認識論についての知識を習得し、批判的思考のあり方について自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点 (受講態度、授業後の質問、小テストなど) を 40%、 期末定期試験の結果を 60% として総合的に評価する。	

	11	引き続きカントの認識論についての知識を習得し、認識における真理の所在のについて自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点（受講態度、授業後の質問、小テストなど）を40%、 期末定期試験の結果を60%として総合的に評価する。
	12	引き続きカントの認識論についての知識を習得し、人間理性の限界について自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。 ノート・資料を整理し、次回以降の授業に備える。	平常点（受講態度、授業後の質問、小テストなど）を40%、 期末定期試験の結果を60%として総合的に評価する。
	13	授業全体を振り返り、改めて「哲学」することの意義について自らで考察すること。	講義を聴き、講義内容をノート等へ書き留める。疑問や不明な点があれば授業後に質問する。	平常点（受講態度、授業後の質問、小テストなど）を40%、 期末定期試験の結果を60%として総合的に評価する。
関連科目	生命倫理学、医療倫理、社会と人権、コミュニケーション論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	平常点（受講態度、授業後の質問、小テストなど）を40%、期末定期試験の結果を60%として総合的に評価し、100点満点中60点以上で合格とする			
学生へのメッセージ	授業中の私語、携帯の使用などで授業を妨害した者には退席を命じ、欠席扱いとします。大学生にふさわしい態度で授業に臨んでください。			
担当者の研究室等	非常勤講師控室（枚方キャンパス1号館2F）  授業担当者メールアドレス： xhamaryo@edu.setsunan.ac.jp			
備考、事前・事後学習課題	<p>〈事前学習〉前回までの内容をふまえて講義するので、ノートや資料に改めて目を通し、それまでの学習内容を確認しておくこと。 〈事後学習〉各授業後に、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、次の授業までに目を通しておくこと。</p> <p>授業外学習の目安は、予習復習を合わせて毎回1時間程度とする。</p> <p>提出物についての全体的な講評は授業内で行う。具体的な評価に関する問い合わせには、授業時間の前後に対応することができる。授業時間外での質問等は出講時に非常勤講師室にて対応することができる。</p>			

科目名	文学	科目名 (英文)	Literature
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	A B C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大橋 直義
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP8△		
科目ナンバリング	YHU1404a2		

薬学準備教育 (1) 人と文化

一般目標：みなさんの多くがおそらくは共通して抱えているであろう、「現代社会において古典文学を学ぶ意味はどこにあるのか」との問いの根底には、「古典文学は役に立たない」という観念が横たわっています。このような問いを突きつけられたとき、たとえば「自国の文化・文芸についての教養を身に付けていることが国際社会では常識だから」といった回答で人はその身をかわしますが、結局のところ、「役に立たないかもしれないけれど」と留保しつつ、「読んでおいたほうがよい」という自己目的的な知識増大の礼賛—教養主義に陥っているにすぎず、その意味でこれまでの古典文学研究あるいは教育は、この種の問題から目をそらしつつけてきたと言わざるをえません。たしかに古典文学は、現代の社会システム—たとえば企業経済活動に代表される効率化を是とする社会においては、ほとんど「役に立たない」のです。この授業が問題の出発点としたいのは、なぜ我々は古典文学が「役に立たない」と感じてしまうのか、ということです。そのような判断を下しているのは、1945年8月15日正午以後（あるいは明治維新以後）、日本社会の様々な局面に累々と積み上げられてきた価値規範に他なりません。つまり、古典文学が描く世界は、この価値規範によって排除され、どこか遠い世界の物語として断絶させられてしまっているのです。現代の日本がこれまでの価値規範の見直し・再構築を迫られている現状にあることは我々が肌で感じている通りですが、このような状況は、現代に限ったことではありませんでした。戦乱・地震・大火・台風などの未曾有の災厄を経た、たとえば鎌倉時代最初期も同様であったとすることができます。そのような時代、新たな価値規範を再構築するにあたって、常に「古典」が共同体の物語として再認識されてきたのです。このことは、この時期、藤原俊成によってなされた「源氏見ざる歌詠みは遺恨のことなり」との警鐘にも読み取ることができますし、西洋世界における古典（人文）復興—ルネサンスとも通底するでしょう。この授業が目指すのは、今後、価値規範が再構築されるであろう現代日本において、顧みられることになる「古典文学」とそこに内在する、時に「呪縛」ともなってしまう共同体の物語の力、ことばの力のありかたを明らかにすることです。そのことを通じ、現代において「古典文学」を学ぶ意味を考えることをこの授業の目標とします。

コース・  
ユニット・  
一般目標

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	ガイダンス・現代に息づく「古典文学」「地域社会と文学」	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
2	「古典」とは何か、「文学」とは何か	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
3	書物と図書館	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
4	「説話」と「物語」と「歴史叙述」と	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
5	『平家物語』を読む(1)	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
6	『平家物語』を読む(2)	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
7	『平家物語』を読む(3)	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
8	『平家物語』を読む(4)	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
9	『平家物語』を読む(5)	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
10	『平家物語』を読む(6)	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
11	『平家物語』を読む(7)	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
12	『平家物語』を読む(8)	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
13	『平家物語』を読む(9) まとめ	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー

授業計画

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>平家物語一(～四)</td> <td>梶原正昭・山下宏明</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	平家物語一(～四)	梶原正昭・山下宏明	岩波書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	平家物語一(～四)	梶原正昭・山下宏明	岩波書店														
2																	
3																	

評価の時期・ 授業への取り組み・リアクションペーパー(20%)、定期試験(80%)により、総合的に評価する。

方法・基準	100 点満点中 60 点以上で合格。
学生へのメッセージ	高等学校の「古文」が苦手だった人も歓迎します。古典文法や古文単語を覚えていなくても全く問題ありません。
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考、事前・事後学習課題	履修上の注意点、レポートのテーマなどは初回授業時に指示します。授業前後の自主学習は、授業内で配布する資料を熟読しておくこと、また授業内で得た知見を自身をめざす研究・学習や日常に活かすよう、意識することです。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	文学	科目名 (英文)	Literature
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	DEF
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大橋 直義
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP8△		
科目ナンバリング	YHU1404a2		

薬学準備教育 (1) 人と文化

一般目標：みなさんの多くがおそらくは共通して抱えているであろう、「現代社会において古典文学を学ぶ意味はどこにあるのか」との問いの根底には、「古典文学は役に立たない」という観念が横たわっています。このような問いを突きつけられたとき、たとえば「自国の文化・文芸についての教養を身に付けていることが国際社会では常識だから」といった回答で人はその身をかわしますが、結局のところ、「役に立たないかもしれないけれど」と留保しつつ、「読んでおいたほうがよい」という自己目的的な知識増大の礼賛—教養主義に陥っているにすぎず、その意味でこれまでの古典文学研究あるいは教育は、この種の問題から目をそらしつつけてきたと言わざるをえません。たしかに古典文学は、現代の社会システム—たとえば企業経済活動に代表される効率化を是とする社会においては、ほとんど「役に立たない」のです。この授業が問題の出発点としたいのは、なぜ我々は古典文学が「役に立たない」と感じてしまうのか、ということです。そのような判断を下しているのは、1945年8月15日正午以後（あるいは明治維新以後）、日本社会の様々な局面に累々と積み上げられてきた価値規範に他なりません。つまり、古典文学が描く世界は、この価値規範によって排除され、どこか遠い世界の物語として断絶させられてしまっているのです。現代の日本がこれまでの価値規範の見直し・再構築を迫られている現状にあることは我々が肌で感じている通りですが、このような状況は、現代に限ったことではありませんでした。戦乱・地震・大火・台風などの未曾有の災厄を経た、たとえば鎌倉時代最初期も同様であったとすることができます。そのような時代、新たな価値規範を再構築するにあたって、常に「古典」が共同体の物語として再認識されてきたのです。このことは、この時期、藤原俊成によってなされた「源氏見ざる歌詠みは遺恨のことなり」との警鐘にも読み取ることができますし、西洋世界における古典（人文）復興—ルネサンスとも通底するでしょう。この授業が目指すのは、今後、価値規範が再構築されるであろう現代日本において、顧みられることになる「古典文学」とそこに内在する、時に「呪縛」ともなってしまう共同体の物語の力、ことばの力のありかたを明らかにすることです。そのことを通じ、現代において「古典文学」を学ぶ意味を考えることをこの授業の目標とします。

コース・  
ユニット・  
一般目標

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	ガイダンス・現代に息づく「古典文学」「地域社会と文学」	講義 配布プリントを読む	リアクションペーパー
2	「古典」とは何か、「文学」とは何か	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
3	書物と図書館	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
4	「説話」と「物語」と「歴史叙述」と	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
5	『平家物語』を読む(1)	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
6	『平家物語』を読む(2)	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
7	『平家物語』を読む(3)	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
8	『平家物語』を読む(4)	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
9	『平家物語』を読む(5)	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
10	『平家物語』を読む(6)	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
11	『平家物語』を読む(7)	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
12	『平家物語』を読む(8)	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー
13	『平家物語』を読む(9) まとめ	講義 DVD鑑賞・配布プリントを読む	リアクションペーパー

授業計画

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>平家物語一(～四)</td> <td>梶原正昭・山下宏明</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	平家物語一(～四)	梶原正昭・山下宏明	岩波書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	平家物語一(～四)	梶原正昭・山下宏明	岩波書店														
2																	
3																	

評価の時期・ 授業への取り組み・リアクションペーパー(20%)、定期試験(80%)により、総合的に評価する。

方法・基準	100点満点中60点以上で合格。
学生へのメッセージ	高等学校の「古文」が苦手だった人も歓迎します。古典文法や古文単語を覚えていなくても全く問題ありません。
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考、事前・事後学習課題	履修上の注意点、レポートのテーマなどは初回授業時に指示します。授業前後の自主学習は、授業内で配布する資料を熟読しておくこと、また授業内で得た知見を自身をめざす研究・学習や日常に活かすよう、意識することです。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	臨床心理学	科目名 (英文)	Clinical Psychology
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	A B C
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菊田 真徳, 石田 拓也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP6◎, DP8◎		
科目ナンバリング	YHU1405a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	コース：A. 基本事項 ユニット：(3) 信頼関係の構築 一般目標：患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。  <b>【①コミュニケーション】</b> 4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。 5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度) 6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)  <b>【②患者・生活者と薬剤師】</b> 1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。 2. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)
-----------------------	---

授業計画				
	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	ガイダンス 臨床心理学について概説できる。	講義とディスカッション 講義前後の予復習 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	2	子どもと発達① アタッチメントについて概説できる。	講義と映像資料を基にディスカッション 授業内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	3	子どもと発達② 各発達段階におけるアタッチメントについて説明できる。	講義 授業内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	4	家族関係 システム論の視点から家族について説明することが出来る。	講義 授業内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	5	対象喪失 対象喪失における心理的变化について理解している。	講義 授業内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	6	災害と心理援助① 災害が心身に及ぼす影響について理解している。	講義 授業内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	7	災害と心理援助② 災害時の基礎的な心理的援助の方法論を習得する。	講義とグループワーク、プレゼンテーション 講義前後のグループ討議 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	8	虐待とその支援 虐待、および支援のための社会的資源について理解している。	講義 授業内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	9	障害と支援 障害を抱える本人、家族への支援について説明することが出来る。	講義 授業内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	10	心理療法 心理療法の基本的態度について理解している。	講義とグループワーク 講義前後のグループ討議 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	11	心理検査 基礎的な心理検査について、説明することが出来る。	講義とグループワーク 講義前後のグループ討議 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
12	心理援助総論 心理学的視点から支援対象者についてアセスメントすることが出来る。	講義とグループワーク、ディスカッション 講義前後のグループ討議 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)	
13	まとめ	講義	受講態度 定期試験 (総括的評価)	

	各論について、自身の考えを述べる事が出来る。	授業内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習 (2時間)	
関連科目	心理学、発達心理学など		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	看護師・コメディカルのための医療心理学入門	野口 普子
	2		
	3		
評価の時期・方法・基準	<p>定期試験期間に実施する定期試験により評価する。 100点満点中60点以上で合格とする。 但し、受講態度不良の場合、減点することがある。 グループワークやディスカッションについての、評価とフィードバックは授業内で行う。</p>		
学生へのメッセージ	<p>常に臨床を意識した講義を行いますので、議論やロールプレイなど積極的に参加してください。</p> <p>授業担当者の石田拓也は、総合病院精神科外来、精神科病院病棟勤務を経て、たちメンタルクリニック（精神科・心療内科）にて7年勤務した経験から、心理学についての知識にとどまらず、その方法論について実務的な教育を行う。</p> <p>授業担当者の菊田真穂は、星ヶ丘厚生年金病院（現、JCHO 星ヶ丘医療センター）で病院薬剤師として12年間勤務した経験から、患者や家族の心理状態に配慮したコミュニケーションに関する実践的な教育を行う。</p>		
担当者の研究室等	<p>石田：1号館2階（非常勤講師室） 菊田：6号館3階（医療薬学研究室1）</p>		
備考、事前・事後学習課題	<p>学習方法・自己学習課題の欄を参照（2時間×13回=26時間）</p>		

科目名	臨床心理学	科目名 (英文)	Clinical Psychology
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	DEF
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菊田 真徳, 石田 拓也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP6◎, DP8◎		
科目ナンバリング	YHU1405a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	コース：A. 基本事項 ユニット：(3) 信頼関係の構築 一般目標：患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。  <b>【①コミュニケーション】</b> 4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。 5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度) 6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)  <b>【②患者・生活者と薬剤師】</b> 1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。 2. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)
-----------------------	---

授業計画				
	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	
	1	ガイダンス 臨床心理学について概説できる。	講義とディスカッション 講義前後の予復習 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	2	子どもと発達① アタッチメントについて概説できる。	講義と映像資料を基にディスカッション 授業内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	3	子どもと発達② 各発達段階におけるアタッチメントについて説明できる。	講義 授業内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	4	家族関係 システム論の視点から家族について説明することが出来る。	講義 授業内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	5	対象喪失 対象喪失における心理的变化について理解している。	講義 授業内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	6	災害と心理援助① 災害が心身に及ぼす影響について理解している。	講義 授業内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	7	災害と心理援助② 災害時の基礎的な心理的援助の方法論を習得する。	講義とグループワーク、プレゼンテーション 講義前後のグループ討議 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	8	虐待とその支援 虐待、および支援のための社会的資源について理解している。	講義 授業内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	9	障害と支援 障害を抱える本人、家族への支援について説明することが出来る。	講義 授業内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	10	心理療法 心理療法の基本的態度について理解している。	講義とグループワーク 講義前後のグループ討議 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
	11	心理検査 基礎的な心理検査について、説明することが出来る。	講義とグループワーク 講義前後のグループ討議 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)
12	心理援助総論 心理学的視点から支援対象者についてアセスメントすることが出来る。	講義とグループワーク、ディスカッション 講義前後のグループ討議 (2時間)	受講態度 定期試験 (総括的評価)	
13	まとめ	講義	受講態度 定期試験 (総括的評価)	

	各論について、自身の考えを述べる事が出来る。	授業内で提示する参考図書を用いての講義前後の予復習 (2時間)	
関連科目	心理学、発達心理学など		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	看護師・コメディカルのための医療心理学入門	野口 善子
	2		
	3		
評価の時期・方法・基準	<p>定期試験期間に実施する定期試験により評価する。 100点満点中60点以上で合格とする。 但し、受講態度不良の場合、減点することがある。 グループワークやディスカッションについての、評価とフィードバックは授業内で行う。</p>		
学生へのメッセージ	<p>常に臨床を意識した講義を行いますので、議論やロールプレイなど積極的に参加してください。</p> <p>授業担当者の石田拓也は、総合病院精神科外来、精神科病院病棟勤務を経て、たちメンタルクリニック（精神科・心療内科）にて7年勤務した経験から、心理学についての知識にとどまらず、その方法論について実務的な教育を行う。</p> <p>授業担当者の菊田真穂は、星ヶ丘厚生年金病院（現、JCHO 星ヶ丘医療センター）で病院薬剤師として12年間勤務した経験から、患者や家族の心理状態に配慮したコミュニケーションに関する実践的な教育を行う。</p>		
担当者の研究室等	<p>石田：1号館2階（非常勤講師室） 菊田：6号館3階（医療薬学研究室1）</p>		
備考、事前・事後学習課題	学習方法・自己学習課題の欄を参照（2時間×13回=26時間）		

科目名	発達心理学	科目名 (英文)	Developmental Psychology
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	A B C
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安原 智久
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8◎		
科目ナンバリング	YHU1406a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	独自の項目 (一般目標) 1. 人の障害を通じた精神的な成長を俯瞰して捉えるために、発達心理学の基本を理解する。 2. 他者にそのときに必要でかつ受容可能な支援を提供するために、ライフ・スパンの視点から人の発達を理解する。 3. 合理的配慮に基づく適切な支援を子なうために、発達障害とその周辺で生じる問題に関して理解する。 4. 臨床現場で出会う発達障害を有する方に対して適切な対応を行うために、発達臨床に関わる人々と発達臨床の現場を理解する。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	我が国の小児保健・医療の課題を概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)
	2	発達心理学とは何かを概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)
	3	我が国の社会における個性と共通性がもたらす人との関係を概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)
	4	希望はどこに宿るのかについて考えを述べる。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)
	5	周産期・新生児の発達について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)
	6	幼児期の発達について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)
	7	学齢期 (低学年) の発達について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)
	8	学齢期 (高学年) の発達について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)
	9	障害とその周辺に関して理解する 1 注意欠陥多動性障害について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)
	10	障害とその周辺に関して理解する 2 学習障害について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)
	11	障害とその周辺に関して理解する 3 アスペルガー症候群について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)
	12	障害とその周辺に関して理解する 4 幼児・児童虐待について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)
	13	発達心理と障害を総括的に議論する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)
関連科目	心理学、臨床心理学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかる臨床発達心理学	麻生 武 他	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	臨床発達心理学・理論と実践 1～5	本郷 一夫 他	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
評価の時期・ 方法・基準	各回の個人レポートを成績に反映させるので必ず毎回提出すること。 上述の前提条件を満たした者を、提出課題の評価 (40%)、及び定期試験 (60%) で評価を行う。100点満点中、60点以上で合格。			
学生への メッセージ	本科目は、教養科目であるので、積極的な興味をもって能動的に受講・学習していただくことが何よりも自分のためになると思います。			
担当者の 研究室等	安原：1号館2階 薬学教育学研究室			
備考、 事前・事後 学習課題	本科目は予習を前提とした講義・演習となるため、必ずあらかじめ指定された範囲の予習を入念に行うこと (90分×13)。また、講義・演習後に理解が不十分な問題等に関しては、自己学習により理解を深めること (90分×13)。レポート作成に関しては、授業時間のみでは不足が予想されるため、自発的にプロダクト作成の時間を設けること (90分×6)。			

科目名	発達心理学	科目名 (英文)	Developmental Psychology
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	DEF
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安原 智久
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8◎		
科目ナンバリング	YHU1406a2		

教養科目

コース・ ユニット・ 一般目標	独自の項目 (一般目標) 1. 人の障害を通じた精神的な成長を俯瞰して捉えるために、発達心理学の基本を理解する。 2. 他者にそのときに必要でかつ受容可能な支援を提供するために、ライフ・スパンの視点から人の発達を理解する。 3. 合理的配慮に基づく適切な支援を子なうために、発達障害とその周辺で生じる問題に関して理解する。 4. 臨床現場で出会う発達障害を有する方に対して適切な対応を行うために、発達臨床に関わる人々と発達臨床の現場を理解する。																																																								
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>我が国の小児保健・医療の課題を概説する。</td> <td>講義・課題演習</td> <td>定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>発達心理学とは何かを概説する。</td> <td>講義・課題演習</td> <td>定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>我が国の社会における個性と共通性がもたらす人との関係を概説する。</td> <td>講義・課題演習</td> <td>定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>希望はどこに宿るのかについて考えを述べる。</td> <td>講義・課題演習</td> <td>定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>周産期・新生児の発達について概説する。</td> <td>講義・課題演習</td> <td>定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>幼児期の発達について概説する。</td> <td>講義・課題演習</td> <td>定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学齢期 (低学年) の発達について概説する。</td> <td>講義・課題演習</td> <td>定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学齢期 (高学年) の発達について概説する。</td> <td>講義・課題演習</td> <td>定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>障害とその周辺に関して理解する 1 注意欠陥多動性障害について概説する。</td> <td>講義・課題演習</td> <td>定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>障害とその周辺に関して理解する 2 学習障害について概説する。</td> <td>講義・課題演習</td> <td>定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>障害とその周辺に関して理解する 3 アスペルガー症候群について概説する。</td> <td>講義・課題演習</td> <td>定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>障害とその周辺に関して理解する 4 幼児・児童虐待について概説する。</td> <td>講義・課題演習</td> <td>定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発達心理と障害を総括的に議論する。</td> <td>講義・課題演習</td> <td>定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	我が国の小児保健・医療の課題を概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)	2	発達心理学とは何かを概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)	3	我が国の社会における個性と共通性がもたらす人との関係を概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)	4	希望はどこに宿るのかについて考えを述べる。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)	5	周産期・新生児の発達について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)	6	幼児期の発達について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)	7	学齢期 (低学年) の発達について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)	8	学齢期 (高学年) の発達について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)	9	障害とその周辺に関して理解する 1 注意欠陥多動性障害について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)	10	障害とその周辺に関して理解する 2 学習障害について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)	11	障害とその周辺に関して理解する 3 アスペルガー症候群について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)	12	障害とその周辺に関して理解する 4 幼児・児童虐待について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)	13	発達心理と障害を総括的に議論する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	我が国の小児保健・医療の課題を概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)																																																						
2	発達心理学とは何かを概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)																																																						
3	我が国の社会における個性と共通性がもたらす人との関係を概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)																																																						
4	希望はどこに宿るのかについて考えを述べる。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)																																																						
5	周産期・新生児の発達について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)																																																						
6	幼児期の発達について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)																																																						
7	学齢期 (低学年) の発達について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)																																																						
8	学齢期 (高学年) の発達について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)																																																						
9	障害とその周辺に関して理解する 1 注意欠陥多動性障害について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)																																																						
10	障害とその周辺に関して理解する 2 学習障害について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)																																																						
11	障害とその周辺に関して理解する 3 アスペルガー症候群について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)																																																						
12	障害とその周辺に関して理解する 4 幼児・児童虐待について概説する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)																																																						
13	発達心理と障害を総括的に議論する。	講義・課題演習	定期試験 (総括的評価) 課題提出 (総括的評価)																																																						
関連科目	心理学、臨床心理学																																																								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>よくわかる臨床発達心理学</td> <td>麻生 武 他</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	よくわかる臨床発達心理学	麻生 武 他	ミネルヴァ書房	2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																						
1	よくわかる臨床発達心理学	麻生 武 他	ミネルヴァ書房																																																						
2																																																									
3																																																									
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>臨床発達心理学・理論と実践 1～5</td> <td>本郷 一夫 他</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	臨床発達心理学・理論と実践 1～5	本郷 一夫 他	ミネルヴァ書房	2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																						
1	臨床発達心理学・理論と実践 1～5	本郷 一夫 他	ミネルヴァ書房																																																						
2																																																									
3																																																									
評価の時期・ 方法・基準	各回の個人レポートを成績に反映させるので必ず毎回提出すること。 上述の前提条件を満たした者を、提出課題の評価 (40%)、及び定期試験 (60%) で評価を行う。100 点満点中、60 点以上で合格。																																																								
学生への メッセージ	本科目は、教養科目であるので、積極的な興味をもって能動的に受講・学習していただくことが何よりも自分のためになると思います。																																																								
担当者の 研究室等	安原：1号館2階 薬学教育学研究室																																																								
備考、 事前・事後 学習課題	本科目は予習を前提とした講義・演習となるため、必ずあらかじめ指定された範囲の予習を入念に行うこと (90分×13)。また、講義・演習後に理解が不十分な問題等に関しては、自己学習により理解を深めること (90分×13)。レポート作成に関しては、授業時間のみでは不足が予想されるため、自発的にプロダクト作成の時間を設けること (90分×6)。																																																								

科目名	ボランティア活動論	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 尚
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP5△, DP8△		
科目ナンバリング	YS01407a2		

コース・ユニット・一般目標  
 本講義は、「ボランティアとは何か」をさまざまな角度から考察することを通じて、自己と社会の関係の理解を深めることを目指します。とりわけ、ボランティア活動の意義に関する複数の理解の各々を批判的に考察しながら、根本的な意味で〈互いに支え合う存在〉であるところの人間存在のあり方をつかむことを目標とします。本講義を通じて、現在行なわれているさまざまなボランティア活動の具体的な内容を知るだけでなく、ボランティアの意義の理解を深めることによって人間理解（すなわち私たちの自己理解）も深めることができるでしょう。

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	イントロダクション: 災害とボランティア—講義の全体像を把握する。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
2	障害者とボランティア—「ニーズ」という概念の内容を掴み、なぜ困っている人を助けねばならないのかの理解を深める。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
3	高齢者とボランティア (1)—高齢化問題について考察することを通じて、「ケア」の精神がどのようなものかを学ぶ。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
4	高齢者とボランティア (2)—「グループホーム」という試みについて考察することを通じて、「ケア」の精神がどのようなものかの理解を深める。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
5	医療とボランティア—アメリカの医療保険問題の考察を通じて、ニーズへの適切な向き合い方がどのようなものかを学ぶ。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
6	貧困とボランティア (1)—いわゆる「ひとり親家庭」の問題の考察を通じて、「貧困や生活苦が社会構造から生み出される」という事態の理解を深める。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
7	貧困とボランティア (2)—おカネと福祉の関係をめぐる問題を考察し、社会的セーフティネットの重要性の理解を深める。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
8	貧困とボランティア (3)—「日雇い派遣問題」の考察を通じて、「人的つながりもまた重要な資産・財産なのだ」という点の理解を深める。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
9	貧困とボランティア (4)—「パーソナル・サポート」という試みの考察を通じて、自立と人的つながりの関係の理解を深める。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
10	子どもとボランティア—児童労働の問題の考察を通じて、「フェアトレード」という大人の収入を守る仕組みが却って児童労働を減らす点などを理解する。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
11	国際ボランティア—途上国支援の問題の考察を通じて、その重要性和難しさの両面を理解する。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
12	ボランティアの哲学—「ボランティア精神」とは何かを理解する。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
13	総括	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。[以上のコメントペーパーと定期試験を総合して評価する。]

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価の時期・方法・基準  
 毎時間提出 (予定) のコメントペーパーの記述内容 (40%) および定期試験 (60%) を総合して評価する。  
 100点満点中60点以上で合格。

学生へのメッセージ  
 随時プリントを配布し、板書を中心に授業を進めます。

担当者の研究室等  
 非常勤講師室

備考、事前・事後学習課題  
 日頃から新聞等を読み、ボランティア活動に関わる内容やニュースについての情報を収集する習慣をつけておく。質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。また、予習復習については、各回の講義ノートの重要な点をまとめなおし、次回予告に即して関連する事柄を調べたりしながらノートしておく (1.5時間 X13回)。

科目名	ボランティア活動論	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	DEF
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 尚
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP5△, DP8△		
科目ナンバリング	YS01407a2		

コース・ユニット・一般目標  
 本講義は、「ボランティアとは何か」をさまざまな角度から考察することを通じて、自己と社会の関係の理解を深めることを目指します。とりわけ、ボランティア活動の意義に関する複数の理解の各々を批判的に考察しながら、根本的な意味で〈互いに支え合う存在〉であるところの人間存在のあり方をつかむことを目標とします。本講義を通じて、現在行なわれているさまざまなボランティア活動の具体的な内容を知るだけでなく、ボランティアの意義の理解を深めることによって人間理解 (すなわち私たちの自己理解) も深めることができるでしょう。

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	イントロダクション: 災害とボランティア—講義の全体像を把握する。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
2	障害者とボランティア—「ニーズ」という概念の内容を掴み、なぜ困っている人を助けねばならないのかの理解を深める。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
3	高齢者とボランティア (1)—高齢化問題について考察することを通じて、「ケア」の精神がどのようなものかを学ぶ。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
4	高齢者とボランティア (2)—「グループホーム」という試みについて考察することを通じて、「ケア」の精神がどのようなものかの理解を深める。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
5	医療とボランティア—アメリカの医療保険問題の考察を通じて、ニーズへの適切な向き合い方がどのようなものかを学ぶ。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
6	貧困とボランティア (1)—いわゆる「ひとり親家庭」の問題の考察を通じて、《貧困や生活苦が社会構造から生み出される》という事態の理解を深める。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
7	貧困とボランティア (2)—おカネと福祉の関係をめぐる問題を考察し、社会的セーフティネットの重要性の理解を深める。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
8	貧困とボランティア (3)—「日雇い派遣問題」の考察を通じて、「人的つながりもまた重要な資産・財産なのだ」という点の理解を深める。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
9	貧困とボランティア (4)—「パーソナル・サポート」という試みの考察を通じて、自立と人的つながりの関係の理解を深める。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
10	子どもとボランティア—児童労働の問題の考察を通じて、「フェアトレード」という大人の収入を守る仕組みが却って児童労働を減らす点などを理解する。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
11	国際ボランティア—途上国支援の問題の考察を通じて、その重要性和難しさの両面を理解する。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
12	ボランティアの哲学—「ボランティア精神」とは何かを理解する。	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。
13	総括	講義、ミニワーク・アクティビティ	コメントペーパーの内容によって評価する。[以上のコメントペーパーと定期試験を総合して評価する。]

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価の時期・方法・基準  
 毎時間提出 (予定) のコメントペーパーの記述内容 (40%) および定期試験 (60%) を総合して評価する。  
 100点満点中60点以上で合格。

学生へのメッセージ  
 随時プリントを配布し、板書を中心に授業を進めます。

担当者の研究室等  
 非常勤講師室

備考、事前・事後学習課題  
 日頃から新聞等を読み、ボランティア活動に関わる内容やニュースについての情報を収集する習慣をつけておく。質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。また、予習復習については、各回の講義ノートの重要な点をまとめなおし、次回予告に即して関連する事柄を調べたりしながらノートしておく (1.5時間 X13回)。

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Constitutional Law
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP8△		
科目ナンバリング	YS01408a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>薬学準備教育 (1) 人と文化</p> <p>一般目標：薬学領域の学習と併行して、人文科学、社会科学および自然科学などを広く学び、知識を獲得し、さまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養う。そして見識のある人間としての基礎を築くために、自分自身についての洞察を深め、生涯にわたって自己研鑽に努める習慣を身につける。</p> <p>本講義では、日本国憲法の基礎的知識を習得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。</p>
-----------------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	はじめに 現代日本の法制度の概要、及び、近代憲法の特徴について理解する。	講義 日本法全体における憲法の位置を確認しておく。	定期試験・平常点
	2	日本における憲法： 明治憲法の特徴及び日本国憲法の歴史を理解する。	講義 日本国憲法全文を読む。	定期試験・平常点
	3	日本国憲法の基本原理： 国民主権・平和主義を中心に考察する。	講義 明治憲法と日本国憲法の違いについて整理する。	定期試験・平常点
	4	統治規定の基礎 国会のしくみ及び裁判所・違憲審査制度の基本を理解する。	講義 違憲審査制度について整理する。	定期試験・平常点
	5	人権規定の基礎 憲法における人権保障の意義、限界などを理解する。	講義 人権規定の分類を整理する。	定期試験・平常点
	6	自由権 (1) 表現の自由：表現の自由の重要性とその限界について、判例・近年の動きを通して考える。	講義 表現の自由に関する重要判例を整理する。	定期試験・平常点
	7	自由権 (2) 刑事手続きに関する諸権利について考察する。	講義 近年の冤罪事件について調べる。	定期試験・平常点
	8	社会権 生存権と生活保護：生存権をめぐる判例から、支え合う社会について考える。	講義 社会権が登場する歴史的背景について整理する。	定期試験・平常点
	9	法の下での平等 (1) 憲法で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。14条に関わる重要判例を検討する。	講義 平等の意義について整理する。	定期試験・平常点
	10	法の下での平等 (2) 14条・24条にめぐる重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題を憲法を通して考える。	講義 憲法に関する新聞記事を調べる。	定期試験・平常点
	11	新しい人権 プライバシー権、自己決定権など新しい人権をめぐる諸問題・判例を考察する。	講義 憲法に関する新聞記事を調べる。	定期試験・平常点
	12	平和主義、憲法改正の問題 憲法改正をめぐる諸問題を考察する。	講義 9条をめぐる様々な議論、憲法改正に関する近年の動向を整理する。	定期試験・平常点
	13	まとめと復習 全体の再確認および憲法問題に関する今後の展望を考える。	講義 これまで取り上げた憲法に関する重要判例を整理する。	定期試験・平常点

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法 (第6版)	芦部信喜	岩波書店

評価の時期・ 方法・基準	定期試験90%、平常点 (レポート・学習態度など) 10%によって総合的に評価します。 詳しくは初回の講義で説明します。 100点満点中60点以上で合格。
-----------------	---

学生への メッセージ	
---------------	--

担当者の 研究室等	1号館2階 (非常勤講師室)
--------------	----------------

備考、 事前・事後 学習課題	事前学習：前回までの学習内容を資料等を通して確認しておく。各テーマに関連する参考文献や新聞記事を読む。 事後学習：配布資料の重要事項を見直した上で、各回の自己学習課題に取り組む。(図書館等も活用すること) 参考文献は授業の中で随時紹介します。
----------------------	---

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Constitutional Law
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	DEF
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP8△		
科目ナンバリング	YS01408a2		

教養科目

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>薬学準備教育 (1) 人と文化</p> <p>一般目標：薬学領域の学習と併行して、人文科学、社会科学および自然科学などを広く学び、知識を獲得し、さまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養う。そして見識のある人間としての基礎を築くために、自分自身についての洞察を深め、生涯にわたって自己研鑽に努める習慣を身につける。</p> <p>本講義では、日本国憲法の基礎的知識を習得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。</p>																																																								
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに 現代日本の法制度の概要、及び、近代憲法の特徴について理解する。</td> <td>講義 日本法全体における憲法の位置を確認しておく。</td> <td>定期試験・平常点</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本における憲法： 明治憲法の特徴及び日本国憲法の歴史を理解する。</td> <td>講義 日本国憲法全文を読む。</td> <td>定期試験・平常点</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本国憲法の基本原理： 国民主権・平和主義を中心に考察する。</td> <td>講義 明治憲法と日本国憲法の違いについて整理する。</td> <td>定期試験・平常点</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>統治規定の基礎 国会のしくみ及び裁判所・違憲審査制度の基本を理解する。</td> <td>講義 違憲審査制度について整理する。</td> <td>定期試験・平常点</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人権規定の基礎 憲法における人権保障の意義、限界などを理解する。</td> <td>講義 人権規定の分類を整理する。</td> <td>定期試験・平常点</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>自由権 (1) 表現の自由：表現の自由の重要性とその限界について、判例・近年の動きを通して考える。</td> <td>講義 表現の自由に関する重要判例を整理する。</td> <td>定期試験・平常点</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>自由権 (2) 刑事手続きに関する諸権利について考察する。</td> <td>講義 近年の冤罪事件について調べる。</td> <td>定期試験・平常点</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>社会権 生存権と生活保護：生存権をめぐる判例から、支え合う社会について考える。</td> <td>講義 社会権が登場する歴史的背景について整理する。</td> <td>定期試験・平常点</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>法の下での平等 (1) 憲法で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。14条に関わる重要判例を検討する。</td> <td>講義 平等の意義について整理する。</td> <td>定期試験・平常点</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>法の下での平等 (2) 14条・24条にめぐる重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題を憲法を通して考える。</td> <td>講義 憲法に関する新聞記事を調べる。</td> <td>定期試験・平常点</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>新しい人権 プライバシー権、自己決定権など新しい人権をめぐる諸問題・判例を考察する。</td> <td>講義 憲法に関する新聞記事を調べる。</td> <td>定期試験・平常点</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>平和主義、憲法改正の問題 憲法改正をめぐる諸問題を考察する。</td> <td>講義 9条をめぐる様々な議論、憲法改正に関する近年の動向を整理する。</td> <td>定期試験・平常点</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>まとめと復習 全体の再確認および憲法問題に関する今後の展望を考える。</td> <td>講義 これまで取り上げた憲法に関する重要判例を整理する。</td> <td>定期試験・平常点</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	はじめに 現代日本の法制度の概要、及び、近代憲法の特徴について理解する。	講義 日本法全体における憲法の位置を確認しておく。	定期試験・平常点	2	日本における憲法： 明治憲法の特徴及び日本国憲法の歴史を理解する。	講義 日本国憲法全文を読む。	定期試験・平常点	3	日本国憲法の基本原理： 国民主権・平和主義を中心に考察する。	講義 明治憲法と日本国憲法の違いについて整理する。	定期試験・平常点	4	統治規定の基礎 国会のしくみ及び裁判所・違憲審査制度の基本を理解する。	講義 違憲審査制度について整理する。	定期試験・平常点	5	人権規定の基礎 憲法における人権保障の意義、限界などを理解する。	講義 人権規定の分類を整理する。	定期試験・平常点	6	自由権 (1) 表現の自由：表現の自由の重要性とその限界について、判例・近年の動きを通して考える。	講義 表現の自由に関する重要判例を整理する。	定期試験・平常点	7	自由権 (2) 刑事手続きに関する諸権利について考察する。	講義 近年の冤罪事件について調べる。	定期試験・平常点	8	社会権 生存権と生活保護：生存権をめぐる判例から、支え合う社会について考える。	講義 社会権が登場する歴史的背景について整理する。	定期試験・平常点	9	法の下での平等 (1) 憲法で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。14条に関わる重要判例を検討する。	講義 平等の意義について整理する。	定期試験・平常点	10	法の下での平等 (2) 14条・24条にめぐる重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題を憲法を通して考える。	講義 憲法に関する新聞記事を調べる。	定期試験・平常点	11	新しい人権 プライバシー権、自己決定権など新しい人権をめぐる諸問題・判例を考察する。	講義 憲法に関する新聞記事を調べる。	定期試験・平常点	12	平和主義、憲法改正の問題 憲法改正をめぐる諸問題を考察する。	講義 9条をめぐる様々な議論、憲法改正に関する近年の動向を整理する。	定期試験・平常点	13	まとめと復習 全体の再確認および憲法問題に関する今後の展望を考える。	講義 これまで取り上げた憲法に関する重要判例を整理する。	定期試験・平常点
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	はじめに 現代日本の法制度の概要、及び、近代憲法の特徴について理解する。	講義 日本法全体における憲法の位置を確認しておく。	定期試験・平常点																																																						
2	日本における憲法： 明治憲法の特徴及び日本国憲法の歴史を理解する。	講義 日本国憲法全文を読む。	定期試験・平常点																																																						
3	日本国憲法の基本原理： 国民主権・平和主義を中心に考察する。	講義 明治憲法と日本国憲法の違いについて整理する。	定期試験・平常点																																																						
4	統治規定の基礎 国会のしくみ及び裁判所・違憲審査制度の基本を理解する。	講義 違憲審査制度について整理する。	定期試験・平常点																																																						
5	人権規定の基礎 憲法における人権保障の意義、限界などを理解する。	講義 人権規定の分類を整理する。	定期試験・平常点																																																						
6	自由権 (1) 表現の自由：表現の自由の重要性とその限界について、判例・近年の動きを通して考える。	講義 表現の自由に関する重要判例を整理する。	定期試験・平常点																																																						
7	自由権 (2) 刑事手続きに関する諸権利について考察する。	講義 近年の冤罪事件について調べる。	定期試験・平常点																																																						
8	社会権 生存権と生活保護：生存権をめぐる判例から、支え合う社会について考える。	講義 社会権が登場する歴史的背景について整理する。	定期試験・平常点																																																						
9	法の下での平等 (1) 憲法で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。14条に関わる重要判例を検討する。	講義 平等の意義について整理する。	定期試験・平常点																																																						
10	法の下での平等 (2) 14条・24条にめぐる重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題を憲法を通して考える。	講義 憲法に関する新聞記事を調べる。	定期試験・平常点																																																						
11	新しい人権 プライバシー権、自己決定権など新しい人権をめぐる諸問題・判例を考察する。	講義 憲法に関する新聞記事を調べる。	定期試験・平常点																																																						
12	平和主義、憲法改正の問題 憲法改正をめぐる諸問題を考察する。	講義 9条をめぐる様々な議論、憲法改正に関する近年の動向を整理する。	定期試験・平常点																																																						
13	まとめと復習 全体の再確認および憲法問題に関する今後の展望を考える。	講義 これまで取り上げた憲法に関する重要判例を整理する。	定期試験・平常点																																																						
関連科目																																																									
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2																																															
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																						
1																																																									
2																																																									
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>憲法 (第6版)</td> <td>芦部信喜</td> <td>岩波書店</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	憲法 (第6版)	芦部信喜	岩波書店																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																						
1	憲法 (第6版)	芦部信喜	岩波書店																																																						
評価の時期・ 方法・基準	定期試験90%、平常点 (レポート・学習態度など) 10%によって総合的に評価します。 詳しくは初回の講義で説明します。 100点満点中60点以上で合格。																																																								
学生への メッセージ																																																									
担当者の 研究室等	1号館2階 (非常勤講師室)																																																								
備考、 事前・事後 学習課題	事前学習：前回までの学習内容を資料等を通して確認しておく。各テーマに関連する参考文献や新聞記事を読む。 事後学習：配布資料の重要事項を見直した上で、各回の自己学習課題に取り組む。(図書館等も活用すること) 参考文献は授業の中で随時紹介します。																																																								

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	A B C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安藤 由香里
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	YS01409a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>本授業は、皆さんの「日常生活」および「医療従事者」として、法がどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会における法の役割について理解する。</li> <li>2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。</li> <li>3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。</li> </ol> <p>教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎週、講義と関連する事件・ニュースの新聞記事を持参する。 授業冒頭で、近くの席の人に自分の印刷した記事を見せ、事件の概要となぜその記事を選んだかを説明する。</p> <p>法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、医療従事者としての社会生活そして日常生活に必ず役立ちます！</p>
-----------------------	---

授業計画				
	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	法ってなんだろう？	講義の目的、進め方、成績評価／私たちの生活と法	
	2	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権(1)	基本的人権、プライバシー、自己決定権、信教の自由	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	3	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権(2)	表現の自由、生存権、法の下での平等	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験のための復習、定期試験
	4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	7	家族と法－結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、親権、監護権	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	8	家族と法－親子関係	扶養、相続、遺言	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	9	日常生活のアクシデント－交通事故	交通事故、自動車、自転車	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	10	日常生活のアクシデント－医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	11	罪と罰－犯罪(1)	脳死・臓器移植、インフォームドコンセント	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	12	罪と罰－犯罪(2)	インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死と刑法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
13	労働・社会保障と法	労働契約、解雇・失業、子育て、介護	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験	

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ワンステップ法学	國友順市、畑雅弘(編著)	嵯峨野書院
	2			
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	1. 定期試験 50% 2. 積極的に討議し、コメント用紙に記入し提出する。 50%			
学生へのメッセージ	法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。医療従事者として知らなかったではすまされない基礎知識があります。本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。			
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室 Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp			
備考、事前・事後学習課題	1. 講義前の予習（教科書を読む。1時間×13回） 2. 復習（講義の重要事項をまとめる。1.5時間×13回） 3. 自己学習（講義に関連する新聞記事を読み、次週に持参する）			

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	DEF
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安藤 由香里
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	YS01409a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>本授業は、皆さんの「日常生活」および「医療従事者」として、法がどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会における法の役割について理解する。</li> <li>2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。</li> <li>3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。</li> </ol> <p>教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎週、講義と関連する事件・ニュースの新聞記事を持参する。 授業冒頭で、近くの席の人に自分の印刷した記事を見せ、事件の概要となぜその記事を選んだかを説明する。</p> <p>法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、医療従事者としての社会生活そして日常生活に必ず役立ちます！</p>
-----------------------	---

授業計画				
	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	法ってなんだろう？	講義の目的、進め方、成績評価／私たちの生活と法	
	2	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権(1)	基本的人権、プライバシー、自己決定権、信教の自由	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	3	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権(2)	表現の自由、生存権、法の下平等	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験のための復習、定期試験
	4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	7	家族と法－結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、親権、監護権	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	8	家族と法－親子関係	扶養、相続、遺言	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	9	日常生活のアクシデント－交通事故	交通事故、自動車、自転車	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	10	日常生活のアクシデント－医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	11	罪と罰－犯罪(1)	脳死・臓器移植、インフォームドコンセント	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
	12	罪と罰－犯罪(2)	インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死と刑法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験
13	労働・社会保障と法	労働契約、解雇・失業、子育て、介護	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認、定期試験	

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ワンステップ法学	國友順市、畑雅弘(編著)	嵯峨野書院
	2			
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	1. 定期試験 50% 2. 積極的に討議し、コメント用紙に記入し提出する。 50%			
学生へのメッセージ	法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。医療従事者として知らなかったではすまされない基礎知識があります。本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。			
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室 Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp			
備考、事前・事後学習課題	1. 講義前の予習（教科書を読む。1時間×13回） 2. 復習（講義の重要事項をまとめる。1.5時間×13回） 3. 自己学習（講義に関連する新聞記事を読み、次週に持参する）			

科目名	経済学	科目名 (英文)	Economics
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	A B C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	南 慎二郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	YS01410a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p><b>【授業概要】</b> 経済学は特に近代以降の科学や産業の発展と共に進歩してきた学問であり、私たちの社会の豊かさや直面する課題解決(貧困、社会保障、環境問題など)を求めていく上で、経済学の考え方やそれに基づく政策は密接に関わっています。本講義では経済学の歴史に即して基礎的な考えを学習した上で、現実の具体的な動向や問題のトピックを通じて理解を深めていきます。</p>
	<p><b>【講義の目標】</b> 一般教養としての経済学の知識を俯瞰的に把握し、その知識に基づいて社会経済や時事問題を理解して自らで考えられるようになることが目標です。</p>

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	はじめに：講義の全体や進行について 経済学の一般的な考え方、経済学史の流れ	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
2	経済循環をめぐる歴史：主に古典派経済学とマルクス、シュンペーター	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
3	価値や価格はどのようにして決まるか：価値説と限界効用説、リカードから新古典派へ	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
4	ケインズ革命：ケインズの研究・思想とその影響について	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
5	現代経済学の概観：戦後の経済学の流れ、現代の経済学派の関係	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
6	制度学派：現実社会の制度（慣習や経験・心理に影響される人間行動を含む）を重視する経済学の系譜	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
7	行動経済学：認知心理学をベースとした新たな経済学の展開	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
8	戦後の日本経済史：私たちが生活している社会経済の背景として	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
9	労働について：雇用と賃金の決まり方、日本の労働市場、格差や雇用形態や労働災害の問題	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
10	公害・環境問題について①：利潤追求と節約、外部性と社会的費用、環境問題に対する経済学的アプローチ	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
11	公害・環境問題について②：日本の公害・環境問題の歴史と教訓、具体的な環境問題で考えてみる	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
12	経済学と政府の役割：社会保障制度と福祉国家の盛衰、市場の失敗と政府の失敗	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
13	まとめとして：これまでの講義の振り返り、社会を見る手がかりとしての経済思想	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 経済学の歴史	根井雅弘	筑摩書房(ちくま新書)

	2	日本経済論	宮川努、細野薫、細谷圭、川上淳之	中央経済社
	3			
評価の時期・方法・基準	期末試験 60%、講義期間中に実施する小レポート 40%			
学生へのメッセージ	経済学というと競争社会での合理性や効率性を追求するといった冷たいイメージも伴いますが、現実の社会を取り扱うものですから、道徳倫理や公正を重視して、万人の幸福や厚生を求める思想も根幹に持ちます。特に薬剤師や医療関係の進路であれば、人の生命や尊厳、幸福に関わる仕事ですので、経済学の知識やその思想を学ぶことは有意義といえます。経済学や数学の予備知識を前提とはせずに授業進行を行います。			
担当者の研究室等	非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	<p>配布するレジュメおよびスライド資料を元に講義を行います。</p> <p>各回の事前・事後学習として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で使用した資料による復習。(30分)</li> <li>・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)</li> </ul> <p>授業時間内に口頭もしくは紙により質問を受け付けるようにし、次回講義時にフィードバックします。</p> <p>授業時間外の質問についてはメール等で対応します(初回時にアナウンス)。</p>			

科目名	経済学	科目名 (英文)	Economics
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	D E F
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	南 慎二郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	YS01410a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p><b>【授業概要】</b> 経済学は特に近代以降の科学や産業の発展と共に進歩してきた学問であり、私たちの社会の豊かさや直面する課題解決(貧困、社会保障、環境問題など)を求めていく上で、経済学の考え方やそれに基づく政策は密接に関わっています。本講義では経済学の歴史に即して基礎的な考えを学習した上で、現実の具体的な動向や問題のトピックを通じて理解を深めていきます。</p>
	<p><b>【講義の目標】</b> 一般教養としての経済学の知識を俯瞰的に把握し、その知識に基づいて社会経済や時事問題を理解して自らで考えられるようになることが目標です。</p>

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	はじめに：講義の全体や進行について 経済学の一般的な考え方、経済学史の流れ	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
2	経済循環をめぐる歴史：主に古典派経済学とマルクス、シュンペーター	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
3	価値や価格はどのようにして決まるか：価値説と限界効用説、リカードから新古典派へ	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
4	ケインズ革命：ケインズの研究・思想とその影響について	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
5	現代経済学の概観：戦後の経済学の流れ、現代の経済学派の関係	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
6	制度学派：現実社会の制度（慣習や経験・心理に影響される人間行動を含む）を重視する経済学の系譜	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
7	行動経済学：認知心理学をベースとした新たな経済学の展開	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
8	戦後の日本経済史：私たちが生活している社会経済の背景として	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
9	労働について：雇用と賃金の決まり方、日本の労働市場、格差や雇用形態や労働災害の問題	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
10	公害・環境問題について①：利潤追求と節約、外部性と社会的費用、環境問題に対する経済学的アプローチ	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
11	公害・環境問題について②：日本の公害・環境問題の歴史と教訓、具体的な環境問題で考えてみる	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
12	経済学と政府の役割：社会保障制度と福祉国家の盛衰、市場の失敗と政府の失敗	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。
13	まとめとして：これまでの講義の振り返り、社会を見る手がかりとしての経済思想	講義、および配布するレジュメやスライド資料、紹介する参考文献を利用した復習・自習	講義期間中のレポート課題および期末試験により理解度・習熟度を評価します。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 経済学の歴史	根井雅弘	筑摩書房(ちくま新書)

	2	日本経済論	宮川努、細野薫、細谷圭、川上淳之	中央経済社
	3			
評価の時期・方法・基準	期末試験 60%、講義期間中に実施する小レポート 40%			
学生へのメッセージ	経済学というと競争社会での合理性や効率性を追求するといった冷たいイメージも伴いますが、現実の社会を取り扱うものですから、道徳倫理や公正を重視して、万人の幸福や厚生を求める思想も根幹に持ちます。特に薬剤師や医療関係の進路であれば、人の生命や尊厳、幸福に関わる仕事ですので、経済学の知識やその思想を学ぶことは有意義といえます。経済学や数学の予備知識を前提とはせずに授業進行を行います。			
担当者の研究室等	非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	<p>配布するレジュメおよびスライド資料を元に講義を行います。</p> <p>各回の事前・事後学習として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で使用した資料による復習。(30分)</li> <li>・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)</li> </ul> <p>授業時間内に口頭もしくは紙により質問を受け付けるようにし、次回講義時にフィードバックします。</p> <p>授業時間外の質問についてはメール等で対応します(初回時にアナウンス)。</p>			

科目名	女性学	科目名 (英文)	Women's Studies
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△, DP8△		
科目ナンバリング	YS01411a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	コース：ヒューマニズムについて学ぶ ユニット：(3) 信頼関係の確立を目指して 一般目標：医療の担い手の一員である薬学専門家として、患者、同僚、地域社会との信頼関係を確立できるようになるために、相手の心理、立場、環境を理解するための基本的知識、技能、態度を修得する。 <b>【コミュニケーション】、【相手の気持ちに配慮する】、【患者の気持ちに配慮する】</b> 女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人格」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降現在に至るまでの、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解し、その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的にを行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語るができるようになることを目標とする。
-----------------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	イントロダクション／女性学とは何かを知る	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	授業内レポート（授業内容の理解と自分の意見を書く）。
	2	メディアの中の男女のイメージを観る（1）	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているのか、またなぜそうなっているのかについて考える。配布プリントの復習と意識的なメディア視聴をし、次回の準備とする。	授業内レポート（授業内容の理解と自分の意見を書く）。
	3	メディアの中の男女のイメージを観る（2）	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。配布プリントの復習と、意識的なメディア視聴をする。	授業内レポート（授業内容の理解と自分の意見を書く）。
	4	恋愛・結婚・家族とジェンダーについて考える（1）	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的問題の背景にある社会のしくみを知る。配布プリントの復習を行う。	授業内レポート（授業内容の理解と自分の意見を書く）。
	5	恋愛・結婚・家族とジェンダーについて考える（2）	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。配布プリントの復習を行う。	授業内レポート（授業内容の理解と自分の意見を書く）。
	6	恋愛・結婚・家族とジェンダーについて考える（3）	家族とは何か。現在私たちがあたりまえの制度としてとらえている家族の歴史や変化について学習する。配布プリントの復習を行う。	授業内レポート（授業内容の理解と自分の意見を書く）。
	7	女性運動から学ぶ	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。配布プリントの復習を行う。	授業内レポート（授業内容の理解と自分の意見を書く）。
	8	個人の外見と身体と社会との関係性を知る	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。配布プリントの復習を行う。	授業内レポート（授業内容の理解と自分の意見を書く）。
	9	身体と性を考える	出産・健康・医療をめぐり、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。配布プリントの復習を行う。	授業内レポート（授業内容の理解と自分の意見を書く）。
	10	セクシュアリティとジェンダーを考える	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。配布プリントの復習を行う。	授業内レポート（授業内容の理解と自分の意見を書く）。

			う。	
	11	労働と社会のしくみを知る (1)	個人が生きていくための仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。配布プリントの復習、事例に基づくレポート課題を行う。	授業内レポート (授業内容の理解と自分の意見を書く)。
	12	労働と社会のしくみを知る (2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。配布プリントの復習を行う。	授業内レポート (授業内容の理解と自分の意見を書く)。
	13	ジェンダーに関する今日的課題	性の多様性、格差社会など、近年の社会の様々な課題をこれまで学んだジェンダーの視点を使い考える。配布プリントの復習を行う。	授業内レポート (授業内容の理解と自分の意見を書く)。
関連科目	社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	授業内レポートおよび課題レポート (30点)、定期試験 (70点) により総合評価する。100点満点中60点以上で合格。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	配布プリントの復習 (1時間×13回)・意識的にニュース、新聞記事などを予習し次回に備える (1時間×13回)を学習課題とします。難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起きているのだろうか、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。			

科目名	教育学	科目名 (英文)	Pedagogy
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安原 智久, 串畑 太郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP8△		
科目ナンバリング	YS01412a2		

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>A 基本事項</p> <p>(3) 信頼関係の構築 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。</p> <p>【①コミュニケーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)</li> <li>自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)</li> <li>適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)</li> <li>適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)</li> <li>他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)</li> </ol> <p>(4) 多職種連携協働とチーム医療 医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)</li> <li>チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)</li> </ol> <p>(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成 生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と行動力を身につける。</p> <p>【①学習の在り方】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)</li> <li>講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)</li> <li>必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)</li> <li>得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)</li> <li>インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)</li> </ol> <p>【②薬学教育の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。</li> <li>薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)</li> </ol> <p>【④次世代を担う人材の育成】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)</li> <li>後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)</li> </ol> <p>独自の項目</p> <p>(1) 教育力の向上 教育に関する基本的な理論とカリキュラムの構成を理解し、模擬的なカリキュラムを立案する。</p> <p>【①教育思想と教育方法の歴史】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>近代教育思想と教育学について概説できる。</li> <li>教育学の体系化と授業の組織化について概説できる。</li> <li>カリキュラム立案の原理について概説できる。</li> </ol> <p>【②日本の教育改革と教育方法の歴史】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>近代学校制度と授業について概説できる。</li> <li>授業の定型化と授業改造の試みについて概説できる。</li> </ol> <p>【③現代教育方法額の論点と課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「学力」について討議できる。</li> <li>「問題解決学習」について討議できる。</li> <li>「たのしい授業」について討議できる。</li> <li>「教育技術」について討議できる。</li> </ol> <p>【④何を学ぶか】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教育目標に課する基本的な説明が出来る。</li> <li>簡単な教育目標を作成できる。</li> </ol> <p>【⑤学習とは何か】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学習をめぐる3つの理論を説明できる。</li> <li>学習理論に基づく学習方法を説明できる。</li> <li>学習における他者の役割を説明できる。</li> </ol> <p>【⑥学力をどう高めるか】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学力をどうとらえるかについて討議できる。</li> <li>「できる学力」と「わかる学力」を比較して説明できる。</li> </ol> <p>【⑦授業をどうデザインするか】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>授業デザインについて概説できる。</li> <li>対話的・協同的な学び合いについて討議できる。</li> <li>学びのための指導・支援の在り方について討議できる。</li> <li>簡単な教育方略を作成できる。</li> </ol> <p>【⑧教育の道具・素材・環境】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教材づくりについて討議できる。</li> <li>教材としてのメディアについて討議できる。</li> <li>学習環境としての時空間について討議できる。</li> </ol> <p>【⑨何をどう評価するのか】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「目標に準拠した評価」について討議できる。</li> <li>「形成的評価」と「自己評価」の意義を説明できる。</li> <li>「パフォーマンス評価」と「ポートフォリオ評価」について説明できる。</li> <li>教育評価としての「実践記録」の意義を説明できる。</li> <li>簡単な教育評価計画を作成できる。</li> </ol> <p>【⑩教科外教育活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教科外教育の意義について説明できる。</li> <li>教科外教育を取り入れた教育方略を作成できる。</li> </ol> <p>【⑪どのような先導的薬剤師を目指すか】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「技術的熟達者モデル」と「反省的実践家モデル」について説明できる。</li> <li>薬剤師としての成長に関して討議する。</li> </ol>
--------------------------------	---

3. 優れた薬剤師について持論を展開する。				
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	イントロダクション 学習観について	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	2	現代教育方法額の論点と課題	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	3	学力とはなにか	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	4	学習とは何か	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	5	問題解決能力とは何か	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	6	教育目標とは何か	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	7	教育目標の作成	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	8	教育評価とは何か	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	9	教育評価の作成	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	10	教育計画を立案する 1	講義・課題演習	プロダクト提出（総括的評価） 観察記録（総括的評価）
	11	教育方略とは何か	講義・課題演習	プロダクト提出（総括的評価） 観察記録（総括的評価）
	12	教育方略の作成	講義・課題演習	プロダクト提出（総括的評価） 観察記録（総括的評価）
	13	我が国の教育の現状	講義・課題演習	プロダクト提出（総括的評価） 観察記録（総括的評価）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣アルマ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	拡張による学習—活動理論からのアプローチ	ユーリア エングストローム	新曜社
	2	あなたへの社会構成主義	ケネス・J・ガーゲン	ナカニシヤ出版
	3			
評価の時期・方法・基準	各回の個人レポートとグループプロダクトを成績に反映させるので必ず毎回参加すること。演習回への出席と積極的なグループワークへの参加が単位認定の前提条件となる。 上述の前提条件を満たした者を、提出課題の評価（個人課題、グループプロダクト、30%）、観察記録（ピア評価、教員による観察、20%）、及び定期試験（50%）で評価を行う。100点満点中、60点以上で合格。			
学生へのメッセージ	本科目は、課題自己学習と講義、参加型学習法であるグループワークにより行う。尚、進行に合わせて、内容や日程の変更や追加を行う場合があるので注意すること。			
担当者の研究室等	串畑、安原：1号館2階 薬学教育学研究室			
備考、事前・事後学習課題	本科目は予習を前提とした講義・演習となるため、必ずあらかじめ指定された範囲の予習を入念に行い、課題を提出すること（90分×10）。尚、【②日本の教育改革と教育方法の歴史】および【⑧教育の道具・素材・環境】の項目に関しては自己学習による修得を前提としている（90分×6）。また、演習後に理解が不十分な問題等に関しては、自己学習により理解を深めること（90分×10）。グループワークのプロダクト作成に関しては、授業時間のみでは不足が予想されるため、グループ単位で自発的にプロダクト作成の時間を設けること（90分×6）。			

科目名	教育学	科目名 (英文)	Pedagogy
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年度	1年	クラス	DEF
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安原 智久, 串畑 太郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	YS01412a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>A 基本事項</p> <p>(3) 信頼関係の構築 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。</p> <p>【①コミュニケーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)</li> <li>自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)</li> <li>適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)</li> <li>適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)</li> <li>他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)</li> </ol> <p>(4) 多職種連携協働とチーム医療 医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)</li> <li>チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)</li> </ol> <p>(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成 生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と行動力を身につける。</p> <p>【①学習の在り方】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)</li> <li>講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)</li> <li>必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)</li> <li>得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)</li> <li>インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)</li> </ol> <p>【②薬学教育の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。</li> <li>薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)</li> </ol> <p>【④次世代を担う人材の育成】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)</li> <li>後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)</li> </ol> <p>独自の項目</p> <p>(1) 教育力の向上 教育に関する基本的な理論とカリキュラムの構成を理解し、模擬的なカリキュラムを立案する。</p> <p>【①教育思想と教育方法の歴史】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>近代教育思想と教育学について概説できる。</li> <li>教育学の体系化と授業の組織化について概説できる。</li> <li>カリキュラム立案の原理について概説できる。</li> </ol> <p>【②日本の教育改革と教育方法の歴史】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>近代学校制度と授業について概説できる。</li> <li>授業の定型化と授業改造の試みについて概説できる。</li> </ol> <p>【③現代教育方法額の論点と課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「学力」について討議できる。</li> <li>「問題解決学習」について討議できる。</li> <li>「たのしい授業」について討議できる。</li> <li>「教育技術」について討議できる。</li> </ol> <p>【④何を学ぶか】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教育目標に課する基本的な説明が出来る。</li> <li>簡単な教育目標を作成できる。</li> </ol> <p>【⑤学習とは何か】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学習をめぐる3つの理論を説明できる。</li> <li>学習理論に基づく学習方法を説明できる。</li> <li>学習における他者の役割を説明できる。</li> </ol> <p>【⑥学力をどう高めるか】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学力をどうとらえるかについて討議できる。</li> <li>「できる学力」と「わかる学力」を比較して説明できる。</li> </ol> <p>【⑦授業をどうデザインするか】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>授業デザインについて概説できる。</li> <li>対話的・協同的な学び合いについて討議できる。</li> <li>学びのための指導・支援の在り方について討議できる。</li> <li>簡単な教育方略を作成できる。</li> </ol> <p>【⑧教育の道具・素材・環境】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教材づくりについて討議できる。</li> <li>教材としてのメディアについて討議できる。</li> <li>学習環境としての時空間について討議できる。</li> </ol> <p>【⑨何をどう評価するのか】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「目標に準拠した評価」について討議できる。</li> <li>「形成的評価」と「自己評価」の意義を説明できる。</li> <li>「パフォーマンス評価」と「ポートフォリオ評価」について説明できる。</li> <li>教育評価としての「実践記録」の意義を説明できる。</li> <li>簡単な教育評価計画を作成できる。</li> </ol> <p>【⑩教科外教育活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教科外教育の意義について説明できる。</li> <li>教科外教育を取り入れた教育方略を作成できる。</li> </ol> <p>【⑪どのような先導的薬剤師を目指すか】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「技術的熟達者モデル」と「反省的実践家モデル」について説明できる。</li> <li>薬剤師としての成長に関して討議する。</li> </ol>
-----------------------	---

3. 優れた薬剤師について持論を展開する。				
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	イントロダクション 学習観について	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	2	現代教育方法額の論点と課題	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	3	学力とはなにか	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	4	学習とは何か	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	5	問題解決能力とは何か	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	6	教育目標とは何か	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	7	教育目標の作成	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	8	教育評価とは何か	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	9	教育評価の作成	講義・課題演習	定期試験（総括的評価） 課題提出（総括的評価）
	10	教育計画を立案する 1	講義・課題演習	プロダクト提出（総括的評価） 観察記録（総括的評価）
	11	教育方略とは何か	講義・課題演習	プロダクト提出（総括的評価） 観察記録（総括的評価）
	12	教育方略の作成	講義・課題演習	プロダクト提出（総括的評価） 観察記録（総括的評価）
	13	我が国の教育の現状	講義・課題演習	プロダクト提出（総括的評価） 観察記録（総括的評価）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣アルマ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	拡張による学習—活動理論からのアプローチ	ユーリア エングストローム	新曜社
	2	あなたへの社会構成主義	ケネス・J・ガーゲン	ナカニシヤ出版
	3			
評価の時期・方法・基準	各回の個人レポートとグループプロダクトを成績に反映させるので必ず毎回参加すること。演習回への出席と積極的なグループワークへの参加が単位認定の前提条件となる。 上述の前提条件を満たした者を、提出課題の評価（個人課題、グループプロダクト、30%）、観察記録（ピア評価、教員による観察、20%）、及び定期試験（50%）で評価を行う。100点満点中、60点以上で合格。			
学生へのメッセージ	本科目は、課題自己学習と講義、参加型学習法であるグループワークにより行う。尚、進行に合わせて、内容や日程の変更や追加を行う場合があるので注意すること。			
担当者の研究室等	串畑、安原：1号館2階 薬学教育学研究室			
備考、事前・事後学習課題	本科目は予習を前提とした講義・演習となるため、必ずあらかじめ指定された範囲の予習を入念に行い、課題を提出すること（90分×10）。尚、【②日本の教育改革と教育方法の歴史】および【⑧教育の道具・素材・環境】の項目に関しては自己学習による修得を前提としている（90分×6）。また、演習後に理解が不十分な問題等に関しては、自己学習により理解を深めること（90分×10）。グループワークのプロダクト作成に関しては、授業時間のみでは不足が予想されるため、グループ単位で自発的にプロダクト作成の時間を設けること（90分×6）。			

科目名	観光学	科目名 (英文)	Tourism Studies
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	持永 政人, 伊藤 優
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP8△		
科目ナンバリング	YS01413a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>少子高齢化の時代を迎え、交流人口の増加を期待できる観光振興は日本の成長戦略に位置付けられ、我々はこれから日本の魅力をさらに磨き、発信していくことが求められます。特に日本の先進的な医療や質の高い医薬品は重要な観光資源のひとつになりつつあります。この授業では薬学を志す学生が観光振興の意義を理解し、さまざまな観光現象について説明するために必要な基礎的な知識の習得を目標とします。</p>																																																								
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「はじめに」 授業の内容、進め方について</td> <td>講義 プレテストの実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「観光と観光学」 何故、今、観光が注目されるのか理解する</td> <td>講義</td> <td>第8回時に実施の小テスト① 定期試験</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「観光の歴史」① 観光の歴史（古代～近世）を学ぶ</td> <td>講義</td> <td>第8回時に実施の小テスト① 定期試験</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「観光の歴史」② 観光の歴史（近代～現代）を学ぶ</td> <td>講義</td> <td>第8回時に実施の小テスト① 定期試験</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「観光と行動」 観光行動の形と仕組みについて理解する</td> <td>講義</td> <td>第8回時に実施の小テスト① 定期試験</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「観光と経済」① 観光の持つ経済的なインパクトを考える</td> <td>講義</td> <td>第8回時に実施の小テスト① 定期試験</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「観光と経済」② 経済の一般理論と観光の関係について考える</td> <td>講義 課題レポートの作成と提出</td> <td>第8回時に実施の小テスト① 定期試験</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>「観光と観光情報」 観光における情報の重要性を理解する</td> <td>講義</td> <td>小テスト①の実施 定期試験</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>「観光と交通」 交通が観光に果たす役割を理解する</td> <td>講義</td> <td>第13回時に行う小テスト② 定期試験</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>「観光と観光資源」 観光資源の特徴と要件を理解する</td> <td>講義</td> <td>第13回時に行う小テスト② 定期試験</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>「観光と法律」 観光関連政策と関連法規について学ぶ</td> <td>講義</td> <td>第13回時に行う小テスト② 定期試験</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>「観光と観光産業」 観光に関連する産業について考える</td> <td>講義</td> <td>第13回時に行う小テスト② 定期試験</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「新しい観光と観光政策」 新しい観光のかたちと対応する観光政策を学ぶ</td> <td>講義</td> <td>小テスト②の実施 定期試験</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	「はじめに」 授業の内容、進め方について	講義 プレテストの実施		2	「観光と観光学」 何故、今、観光が注目されるのか理解する	講義	第8回時に実施の小テスト① 定期試験	3	「観光の歴史」① 観光の歴史（古代～近世）を学ぶ	講義	第8回時に実施の小テスト① 定期試験	4	「観光の歴史」② 観光の歴史（近代～現代）を学ぶ	講義	第8回時に実施の小テスト① 定期試験	5	「観光と行動」 観光行動の形と仕組みについて理解する	講義	第8回時に実施の小テスト① 定期試験	6	「観光と経済」① 観光の持つ経済的なインパクトを考える	講義	第8回時に実施の小テスト① 定期試験	7	「観光と経済」② 経済の一般理論と観光の関係について考える	講義 課題レポートの作成と提出	第8回時に実施の小テスト① 定期試験	8	「観光と観光情報」 観光における情報の重要性を理解する	講義	小テスト①の実施 定期試験	9	「観光と交通」 交通が観光に果たす役割を理解する	講義	第13回時に行う小テスト② 定期試験	10	「観光と観光資源」 観光資源の特徴と要件を理解する	講義	第13回時に行う小テスト② 定期試験	11	「観光と法律」 観光関連政策と関連法規について学ぶ	講義	第13回時に行う小テスト② 定期試験	12	「観光と観光産業」 観光に関連する産業について考える	講義	第13回時に行う小テスト② 定期試験	13	「新しい観光と観光政策」 新しい観光のかたちと対応する観光政策を学ぶ	講義	小テスト②の実施 定期試験
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																						
1	「はじめに」 授業の内容、進め方について	講義 プレテストの実施																																																							
2	「観光と観光学」 何故、今、観光が注目されるのか理解する	講義	第8回時に実施の小テスト① 定期試験																																																						
3	「観光の歴史」① 観光の歴史（古代～近世）を学ぶ	講義	第8回時に実施の小テスト① 定期試験																																																						
4	「観光の歴史」② 観光の歴史（近代～現代）を学ぶ	講義	第8回時に実施の小テスト① 定期試験																																																						
5	「観光と行動」 観光行動の形と仕組みについて理解する	講義	第8回時に実施の小テスト① 定期試験																																																						
6	「観光と経済」① 観光の持つ経済的なインパクトを考える	講義	第8回時に実施の小テスト① 定期試験																																																						
7	「観光と経済」② 経済の一般理論と観光の関係について考える	講義 課題レポートの作成と提出	第8回時に実施の小テスト① 定期試験																																																						
8	「観光と観光情報」 観光における情報の重要性を理解する	講義	小テスト①の実施 定期試験																																																						
9	「観光と交通」 交通が観光に果たす役割を理解する	講義	第13回時に行う小テスト② 定期試験																																																						
10	「観光と観光資源」 観光資源の特徴と要件を理解する	講義	第13回時に行う小テスト② 定期試験																																																						
11	「観光と法律」 観光関連政策と関連法規について学ぶ	講義	第13回時に行う小テスト② 定期試験																																																						
12	「観光と観光産業」 観光に関連する産業について考える	講義	第13回時に行う小テスト② 定期試験																																																						
13	「新しい観光と観光政策」 新しい観光のかたちと対応する観光政策を学ぶ	講義	小テスト②の実施 定期試験																																																						
関連科目																																																									
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																						
1																																																									
2																																																									
3																																																									
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																						
1																																																									
2																																																									
3																																																									
評価の時期・ 方法・基準	授業への取組及び課題レポート（1回）10%、小テスト（2回）30%、定期試験60%により総合的に評価する。																																																								
学生への メッセージ	観光はさまざまなニュースや記事に取り上げられています。普段から幅広い時事問題にも触れるよう心掛けて下さい。また、授業担当者の持永は観光事業会社での29年間の観光事業全般の運営・マネジメント経験から得た知見をふまえ、観光に関する実践的な教育を行う。																																																								
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス1号館7階 持永教授室（経済学部）																																																								
備考、 事前・事後 学習課題	復習：講義時配布プリントに記載事項をまとめる。（1時間×12回） 自己学習：各講義で指摘した「観光用語」について内容を確認・理解する。（30分×12回）																																																								

科目名	観光学	科目名 (英文)	Tourism Studies
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	DEF
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	持永 政人, 伊藤 優
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP8△		
科目ナンバリング	YS01413a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	少子高齢化の時代を迎え、交流人口の増加を期待できる観光振興は日本の成長戦略に位置付けられ、我々はこれから日本の魅力をさらに磨き、発信していくことが求められます。特に日本の先進的な医療や質の高い医薬品は重要な観光資源のひとつになりつつあります。この授業では薬学を志す学生が観光振興の意義を理解し、さまざまな観光現象について説明するために必要な基礎的な知識の習得を目標とします。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	「はじめに」 授業の内容、進め方について	講義 プレテストの実施	
	2	「観光と観光学」 何故、今、観光が注目されるのか理解する	講義	第8回時に実施の小テスト① 定期試験
	3	「観光の歴史」① 観光の歴史 (古代～近世) を学ぶ	講義	第8回時に実施の小テスト① 定期試験
	4	「観光の歴史」② 観光の歴史 (近代～現代) を学ぶ	講義	第8回時に実施の小テスト① 定期試験
	5	「観光と行動」 観光行動の形と仕組みについて理解する	講義	第8回時に実施の小テスト① 定期試験
	6	「観光と経済」① 観光の持つ経済的なインパクトを考える	講義	第8回時に実施の小テスト① 定期試験
	7	「観光と経済」② 経済の一般理論と観光の関係について考える	講義 課題レポートの作成と提出	第8回時に実施の小テスト① 定期試験
	8	「観光と観光情報」 観光における情報の重要性を理解する	講義	小テスト①の実施 定期試験
	9	「観光と交通」 交通が観光に果たす役割を理解する	講義	第13回時に行う小テスト② 定期試験
	10	「観光と観光資源」 観光資源の特徴と要件を理解する	講義	第13回時に行う小テスト② 定期試験
	11	「観光と法律」 観光関連政策と関連法規について学ぶ	講義	第13回時に行う小テスト② 定期試験
	12	「観光と観光産業」 観光に関連する産業について考える	講義	第13回時に行う小テスト② 定期試験
	13	「新しい観光と観光政策」 新しい観光のかたちと対応する観光政策を学ぶ	講義	小テスト②の実施 定期試験
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・ 方法・基準	授業への取組及び課題レポート (1回) 10%、小テスト (2回) 30%、定期試験 60%により総合的に評価する。			
学生への メッセージ	観光はさまざまなニュースや記事に取り上げられています。普段から幅広い時事問題にも触れるよう心掛けて下さい。また、授業担当者の持永は観光事業会社での29年間の観光事業全般の運営・マネジメント経験から得た知見をふまえ、観光に関する実践的な教育を行う。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 1号館 7階 持永教授室 (経済学部)			
備考、 事前・事後 学習課題	復習：講義時配布プリントに記載事項をまとめる。(1時間×12回) 自己学習：各講義で指摘した「観光用語」について内容を確認・理解する。(30分×12回)			

科目名	生命倫理学	科目名 (英文)	Bioethics
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩崎 綾乃
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP3◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	YNA1414a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	コース：A 基本事項 ユニット：(2) 薬剤師に求められる倫理観 一般目標：倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。 <b>【①生命倫理】</b> 1. 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 2. 生命倫理の諸原則 (自律尊重、無危害、善行、正義等) について説明できる。 3. 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 4. 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 <b>【②医療倫理】</b> 3. 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。
-----------------------	--

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	1 回 ●みんなちがってみんないい ～あなたが生きる「いのち」～  生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	講義、レポート、クラスディスカッション、グループワーク	定期試験+レポート+成果物ワーク
2	2 回 ●生命倫理って？ ～あなたの「いのち」はだれのもの？～  生命倫理の諸原則 (自律尊重、無危害、善行、正義等) について説明できる。 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	レポート、グループワーク、プレゼンテーション、講義、	定期試験+レポート+成果物
3	3～6 回 ●「薬」と「生命倫理」 ～「いのち」を守る～  薬害、スポーツファーマシスト、疾患をもって生きる、高齢者医療について考えを述べる。 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	講義、レポート、グループワーク	定期試験+レポート+成果物ワーク
4	7～9 回 ●「うまれること」「うまれてきたこと」「いきること」 ～つながる「いのち」～  生殖、遺伝子に関係する医療技術について考えを述べる。 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	レポート、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、講義、	定期試験+レポート+成果物
5	10～13 回 ●「死ぬということ」「死に向かうこと」「いきていること」 ～尊厳ってなんだ～  脳死と臓器移植、再生医療、安楽死と尊厳死について考えを述べる。 生命倫理に関わる主な歴史と宣言について説明できる (知識)。 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	レポート、グループワーク、グループディスカッション、ディベート、講義、	定期試験+レポート+成果物
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

関連科目	薬剤師になるために、患者安全、患者コミュニケーション、社会薬学、薬事関連法規、分子細胞生物学、キャリア形成、哲学他			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生物と生命倫理の基本ノート 改訂3版	西沢いづみ著	金芳堂
	2	薬学総論 I 薬剤師としての基本事項	日本薬学会編	東京化学同人
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	授業中の個人ワーク、レポートの提出内容、Moodle 等での課題提出および発表用資料等の成果物 50 点、定期試験 50 点。100 点満点の 60 点以上で合格。			
学生へのメッセージ	<p>土曜日等に学外者（病院薬剤師、スポーツファーマシスト）の講演、講義を聴講させることがある。その場合は事前に連絡するので必ず聴講すること。</p> <p>●講義1回目の注意点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループをつくり、チームビルディングを行う。</li> <li>2. 講義時にシラバスを説明するので、シラバスを印刷して持ってくること。</li> <li>3. Moodle の登録を行うので、各自電子媒体（スマートフォン、タブレット等）を持参すること。なお、電子媒体を持っていない場合には、1回目の時に申し出ること。</li> </ol> <p>授業担当の岩崎綾乃は、国立の研究機関における2年間の特別研究員の経験を活かし、現代社会の健康と科学技術に関する実践的教育を行う。</p>			
担当者の研究室等	1号館4階 統合薬学分野：岩崎講師室			
備考、事前・事後学習課題	<p>講義前の予習（教科書（上記番号1、2）、予習プリントを読む、グループディスカッションのための事前準備等 2.5時間 x 13回、講義及び自己学習課題の復習（1時間 x 13回）</p> <p>教科書（上記番号2）「薬学総論 I 薬剤師としての基本事項」は、「薬剤師になるために」で使用したものと同じです。必ず持ってきてください。また、前期の「薬剤師になるために」の授業、「早期体験学習」での講演会、「SGD2」と関連が大変深いので、生命倫理学を履修する前に復習を必ず行ってください。</p> <p>レポート等、課題については、提出後の授業内のディスカッションで用い、理解を深めます。</p>			

科目名	生命倫理学	科目名 (英文)	Bioethics
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	DEF
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩崎 綾乃
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP3◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	YNA1414a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	コース：A 基本事項 ユニット：(2) 薬剤師に求められる倫理観 一般目標：倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。 <b>【①生命倫理】</b> 1. 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 2. 生命倫理の諸原則 (自律尊重、無危害、善行、正義等) について説明できる。 3. 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 4. 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 <b>【②医療倫理】</b> 3. 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。
-----------------------	--

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	1 回 ●みんなちがってみんないい ～あなたが生きる「いのち」～  生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	講義、レポート、クラスディスカッション、グループワーク	定期試験+レポート+成果物ワーク
2	2 回 ●生命倫理って？ ～あなたの「いのち」はだれのもの？～  生命倫理の諸原則 (自律尊重、無危害、善行、正義等) について説明できる。 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	レポート、グループワーク、プレゼンテーション、講義、	定期試験+レポート+成果物
3	3～6 回 ●「薬」と「生命倫理」 ～「いのち」を守る～  薬害、スポーツファーマシスト、疾患をもって生きる、高齢者医療について考えを述べる。 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	講義、レポート、グループワーク	定期試験+レポート+成果物ワーク
4	7～9 回 ●「うまれること」「うまれてきたこと」「いきること」 ～つながる「いのち」～  生殖、遺伝子に関係する医療技術について考えを述べる。 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	レポート、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、講義、	定期試験+レポート+成果物
5	10～13 回 ●「死ぬということ」「死に向かうこと」「いきていること」 ～尊厳ってなんだ～  脳死と臓器移植、再生医療、安楽死と尊厳死について考えを述べる。 生命倫理に関わる主な歴史と宣言について説明できる (知識)。 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	レポート、グループワーク、グループディスカッション、ディベート、講義、	定期試験+レポート+成果物
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

関連科目	薬剤師になるために、患者安全、患者コミュニケーション、社会薬学、薬事関連法規、分子細胞生物学、キャリア形成、哲学他			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生物と生命倫理の基本ノート 改訂3版	西沢いづみ著	金芳堂
	2	薬学総論 I 薬剤師としての基本事項	日本薬学会編	東京化学同人
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	授業中の個人ワーク、レポートの提出内容、Moodle 等での課題提出および発表用資料等の成果物 50 点、定期試験 50 点。100 点満点の 60 点以上で合格。			
学生へのメッセージ	<p>土曜日等に学外者（病院薬剤師、スポーツファーマシスト）の講演、講義を聴講させることがある。その場合は事前に連絡するので必ず聴講すること。</p> <p>●講義1回目の注意点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループをつくり、チームビルディングを行う。</li> <li>2. 講義時にシラバスを説明するので、シラバスを印刷して持ってくること。</li> <li>3. Moodle の登録を行うので、各自電子媒体（スマートフォン、タブレット等）を持参すること。なお、電子媒体を持っていない場合には、1回目の時に申し出ること。</li> </ol> <p>授業担当の岩崎綾乃は、国立の研究機関における2年間の特別研究員の経験を活かし、現代社会の健康と科学技術に関する実践的教育を行う。</p>			
担当者の研究室等	1号館4階 統合薬学分野：岩崎講師室			
備考、事前・事後学習課題	<p>講義前の予習（教科書（上記番号1、2）、予習プリントを読む、グループディスカッションのための事前準備等 2.5時間 x 13回、講義及び自己学習課題の復習（1時間 x 13回）</p> <p>教科書（上記番号2）「薬学総論 I 薬剤師としての基本事項」は、「薬剤師になるために」で使用したものと同じです。必ず持ってきてください。また、前期の「薬剤師になるために」の授業、「早期体験学習」での講演会、「SGD2」と関連が大変深いので、生命倫理学を履修する前に復習を必ず行ってください。</p> <p>レポート等、課題については、提出後の授業内のディスカッションで用い、理解を深めます。</p>			

科目名	数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP8◎		
科目ナンバリング	YMA1415a2		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース : 本学独自の薬学専門教育          ユニット : 薬学準備教育ガイドライン (7) 薬学の基礎としての数学・統計学          一般目標 : 薬学を学ぶ上で基礎となる数学・統計学に関する基礎知識を習得し、それらの薬学領域で応用するための基本的技能を身につける。          補足説明 : 理工学薬学等で使われる微分積分の基礎を講義する。高校の数学の数 III は仮定せずに講義を進める。数学 II の範囲で十分である。道具としての数学を目指すので、厳密さは時には犠牲にしても、直観的なわかり易い説明を優先する。また時間の許す限り様々な応用も例示したい。          到達目標 (1) 微積分の基本的計算の習得 (2) 簡単な微分方程式の解法の習熟</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	[微分法の基本] 微分、積分の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・接線と微分係数 ・導関数	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	2	[微分法の基本] 微分、積分の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・微分計算の公式 ・1次近似式	講義・演習	1, 2の小テスト (総括的評価)
	3	[微分法の基本] 微分、積分の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・関数の増減 ・速度と加速度	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	4	[指数関数と対数関数] 指数関数、対数関数の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・指数法則と対数法則 ・グラフ	講義・演習	3, 4の小テスト (総括的評価)
	5	[指数関数と対数関数] 指数関数、対数関数の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・簡単な微分方程式	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	6	[3角関数] 三角関数の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・3角関数の復習 ・グラフ	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	7	[3角関数] 三角関数の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・加法定理 ・3角関数の微分	講義・演習	5, 6, 7の小テスト (総括的評価)
	8	不定積分 ・基礎的な公式	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	9	不定積分 ・置換積分 ・部分積分	講義・演習	8, 9の小テスト (総括的評価)
	10	定積分 ・不定積分と定積分 ・面積と定積分	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	11	定積分 ・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	講義・演習	10, 11の小テスト (総括的評価)
	12	定積分 ・表面積と回転体の体積	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
13	[微分方程式] 基本的な微分方程式の計算ができる。(技能) 変数分離型 ・1階線型	講義・演習	12, 13の小テスト (総括的評価)	

関連科目	物理, 化学等
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	薬学部 数学	摂南大学 基礎理工学機 構編	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・ 方法・基準	課題・小テスト 30%、定期テスト(期末)で 70%で判定し評価する。小テストは約 2 週毎に実施するが、講義の進度によって前後する場合もある。100 点満点中 60 点以上で合格。
-----------------	---

学生への メッセージ	証明はしないが、説明はします。まずは使ってみて答えが出るように練習しましょう。消化の仕組みを理解しなくても、美味しいと分かることは可能です。そして微分積分学のアイディア自体は、単純そのものなのだどこかの時点で気付いて頂ければ有り難い。
---------------	---

担当者の 研究室等	島田 : 寝屋川学舎 3 号館 3 階(数学研究室) shimada@mpg.setsunan.ac.jp
--------------	---

備考、 事前・事後 学習課題	講義前の予習 : 1 回 1 章の内容で教科書を編集しています。次回の章を読んでやる内容の見当をつけておきましょう (1 時間 x13 回)。 復習 : 講義の重要事項をまとめ、例題を解き直しましょう (1.5 時間 X13 回)。 自己学習 : 先ずは小テストに関連する教科書の練習問題を解きましょう。余裕があれば講義で触れることが出来なかった章の内容を見て欲しい。 学習課題 : 採点して返却し、適宜講義中に解説する。
----------------------	--

教養科目

科目名	数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田畑 謙二
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP8◎		
科目ナンバリング	YMA1415a2		

教養科目

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース : 本学独自の薬学専門教育          ユニット : 薬学準備教育ガイドライン (7) 薬学の基礎としての数学・統計学          一般目標 : 薬学を学ぶ上で基礎となる数学・統計学に関する基礎知識を習得し、それらの薬学領域で応用するための基本的技能を身につける。          補足説明 : 理工学薬学等で使われる微分積分の基礎を講義する。高校の数学の数 III は仮定せずに講義を進める。数学 II の範囲で十分である。          道具としての数学を目指すので、厳密さは時には犠牲にしても、直観的なわかり易い説明を優先する。また時間の許す限り様々な応用も例示したい。          到達目標 (1) 微積分の基本的計算の習得 (2) 簡単な微分方程式の解法の習熟</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	[微分法の基本] 微分、積分の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・接線と微分係数 ・導関数	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	2	[微分法の基本] 微分、積分の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・微分計算の公式 ・1次近似式	講義・演習	1, 2の小テスト (総括的評価)
	3	[微分法の基本] 微分、積分の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・関数の増減 ・速度と加速度	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	4	[指数関数と対数関数] 指数関数、対数関数の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・指数法則と対数法則 ・グラフ	講義・演習	3, 4の小テスト (総括的評価)
	5	[指数関数と対数関数] 指数関数、対数関数の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・簡単な微分方程式	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	6	[3角関数] 三角関数の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・3角関数の復習 ・グラフ	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	7	[3角関数] 三角関数の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・加法定理 ・3角関数の微分	講義・演習	5, 6, 7の小テスト (総括的評価)
	8	不定積分 ・基礎的な公式	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	9	不定積分 ・置換積分 ・部分積分	講義・演習	8, 9の小テスト (総括的評価)
	10	定積分 ・不定積分と定積分 ・面積と定積分	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	11	定積分 ・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	講義・演習	10, 11の小テスト (総括的評価)
	12	定積分 ・表面積と回転体の体積	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
13	[微分方程式] 基本的な微分方程式の計算ができる。(技能) 変数分離型 ・1階線型	講義・演習	12, 13の小テスト (総括的評価)	

関連科目	物理, 化学等
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	薬学部 数学	摂南大学 基礎理工学機構編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・方法・基準	課題・小テスト 30%、定期テスト(期末)で70%で判定し評価する。小テストは約2週毎に実施するが、講義の進度によって前後する場合もある。100点満点中60点以上で合格。
-------------	---

学生へのメッセージ	証明はしないが、説明はします。まずは使ってみて答えが出るように練習しましょう。消化の仕組みを理解しなくても、美味しいと分かることは可能です。そして微分積分学のアイディア自体は、単純そのものなのだどこかの時点で気付いて頂ければ有り難い。
-----------	---

担当者の研究室等	田畑 : 寝屋川学舎 3号館 3階(数学準備室) tabata@osaka-pct.ac.jp
----------	---

備考、事前・事後学習課題	講義前の予習 : 1回1章の内容で教科書を編集しています。次回の章を読んでやる内容の見当をつけておきましょう(1時間x13回)。 復習 : 講義の重要事項をまとめ、例題を解き直しましょう(1.5時間x13回)。 自己学習 : 先ずは小テストに関連する教科書の練習問題を解きましょう。余裕があれば講義で触れることが出来なかった章の内容を見て欲しい。 学習課題 : 採点して返却し、適宜講義中に解説する。
--------------	---

科目名	数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP8◎		
科目ナンバリング	YMA1415a2		

コース : 本学独自の薬学専門教育  
 ユニット : 薬学準備教育ガイドライン (7) 薬学の基礎としての数学・統計学  
 一般目標 : 薬学を学ぶ上で基礎となる数学・統計学に関する基礎知識を習得し、それらの薬学領域で応用するための基本的技能を身につける。  
 補足説明 : 物理学薬学等で使われる微分積分の基礎を講義する。高校の数学の数 III は仮定せずに講義を進める。数学 II の範囲で十分である。道具としての数学を目指すので、厳密さは時には犠牲にしても、直観的なわかり易い説明を優先する。また時間の許す限り様々な応用も例示したい。  
 到達目標 (1) 微積分の基本的計算の習得 (2) 簡単な微分方程式の解法の習熟

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
2	[微分法の基本] 微分、積分の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・微分計算の公式 ・1次近似式	講義・演習	1, 2の小テスト (総括的評価)
3	[微分法の基本] 微分、積分の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・関数の増減 ・速度と加速度	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
4	[指数関数と対数関数] 指数関数、対数関数の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・指数法則と対数法則 ・グラフ	講義・演習	3, 4の小テスト (総括的評価)
5	[指数関数と対数関数] 指数関数、対数関数の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・簡単な微分方程式	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
6	[3角関数] 三角関数の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・3角関数の復習 ・グラフ	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
7	[3角関数] 三角関数の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・加法定理 ・3角関数の微分	講義・演習	5, 6, 7の小テスト (総括的評価)
8	不定積分 ・基礎的な公式	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
9	不定積分 ・置換積分 ・部分積分	講義・演習	8, 9の小テスト (総括的評価)
10	定積分 ・不定積分と定積分 ・面積と定積分	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
11	定積分 ・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	講義・演習	10, 11の小テスト (総括的評価)
12	定積分 ・表面積と回転体の体積	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
13	[微分方程式] 基本的な微分方程式の計算ができる。(技能) 変数分離型 ・1階線型	講義・演習	12, 13の小テスト (総括的評価)

関連科目 物理, 化学等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	薬学部 数学	摂南大学 基礎理工学機構編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価の時期・方法・基準 課題・小テスト 30%、定期テスト(期末)で 70%で判定し評価する。小テストは約 2 週毎に実施するが、講義の進度によって前後する場合もある。100 点満点中 60 点以上で合格。

学生へのメッセージ 証明はしないが、説明はします。まずは使ってみて答えが出るように練習しましょう。消化の仕組みを理解しなくても、美味しいと分かることは可能です。そして微分積分学のアイディア自体は、単純そのものなのだどこかの時点で気付いて頂ければ有り難い。

担当者の研究室等 島田 : 寝屋川学舎 3 号館 3 階(数学研究室) shimada@mpg.setsunan.ac.jp

備考、事前・事後学習課題 講義前の予習 : 1 回 1 章の内容で教科書を編集しています。次回の章を読んでやる内容の見当をつけておきましょう(1 時間 x13 回)。  
 復習 : 講義の重要事項をまとめ、例題を解き直しましょう(1.5 時間 X13 回)。  
 自己学習 : 先ずは小テストに関連する教科書の練習問題を解きましょう。余裕があれば講義で触れることが出来なかった章の内容を見て欲しい。  
 学習課題 : 採点して返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	4
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田畑 謙二
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP8◎		
科目ナンバリング	YMA1415a2		

教養科目

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース : 本学独自の薬学専門教育          ユニット : 薬学準備教育ガイドライン (7) 薬学の基礎としての数学・統計学          一般目標 : 薬学を学ぶ上で基礎となる数学・統計学に関する基礎知識を習得し、それらの薬学領域で応用するための基本的技能を身につける。          補足説明 : 理工学薬学等で使われる微分積分の基礎を講義する。高校の数学の数 III は仮定せずに講義を進める。数学 II の範囲で十分である。道具としての数学を目指すので、厳密さは時には犠牲にしても、直観的なわかり易い説明を優先する。また時間の許す限り様々な応用も例示したい。          到達目標 (1) 微積分の基本的計算の習得 (2) 簡単な微分方程式の解法の習熟</p>			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	[微分法の基本] 微分、積分の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・接線と微分係数 ・導関数	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	2	[微分法の基本] 微分、積分の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・微分計算の公式 ・1次近似式	講義・演習	1, 2の小テスト (総括的評価)
	3	[微分法の基本] 微分、積分の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・関数の増減 ・速度と加速度	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	4	[指数関数と対数関数] 指数関数、対数関数の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・指数法則と対数法則 ・グラフ	講義・演習	3, 4の小テスト (総括的評価)
	5	[指数関数と対数関数] 指数関数、対数関数の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・簡単な微分方程式	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	6	[3角関数] 三角関数の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・3角関数の復習 ・グラフ	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	7	[3角関数] 三角関数の基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能) ・加法定理 ・3角関数の微分	講義・演習	5, 6, 7の小テスト (総括的評価)
	8	不定積分 ・基礎的な公式	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	9	不定積分 ・置換積分 ・部分積分	講義・演習	8, 9の小テスト (総括的評価)
	10	定積分 ・不定積分と定積分 ・面積と定積分	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	11	定積分 ・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	講義・演習	10, 11の小テスト (総括的評価)
	12	定積分 ・表面積と回転体の体積	講義・演習	定期テスト (総括的評価)
	13	[微分方程式] 基本的な微分方程式の計算ができる。(技能) 変数分離型 ・1階線型	講義・演習	12, 13の小テスト (総括的評価)
関連科目	物理, 化学等			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	薬学部 数学	摂南大学 基礎理工学機構編	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・ 方法・基準	課題・小テスト 30%、定期テスト(期末)で70%で判定し評価する。小テストは約2週毎に実施するが、講義の進度によって前後する場合もある。100点満点中60点以上で合格。			
学生への メッセージ	証明はしないが、説明はします。まずは使ってみて答えが出るように練習しましょう。消化の仕組みを理解しなくても、美味しいと分かることは可能です。そして微分積分学のアイデア自体は、単純そのものなのだとどこかの時点で気付いて頂ければ有り難い。			
担当者の 研究室等	田畑 : 寝屋川学舎3号館3階(数学準備室) tabata@osaka-pct.ac.jp			
備考、 事前・事後 学習課題	講義前の予習 : 1回1章の内容で教科書を編集しています。次回の章を読んでやる内容の見当をつけておきましょう(1時間x13回)。 復習 : 講義の重要事項をまとめ、例題を解き直しましょう(1.5時間X13回)。 自己学習 : 先ずは小テストに関連する教科書の練習問題を解きましょう。余裕があれば講義で触れることが出来なかった章の内容を見て欲しい。 学習課題 : 採点して返却し、適宜講義中に解説する。			

科目名	論理学	科目名 (英文)	Logic
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	A B C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 幸一
ディプロマポリシー (DP)	DP8Δ		
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	<p><b>【授業概要・目的】</b> 社会に存在する様々な課題の解決、あるいは対人交渉等、多くの場面において論理的思考力は必須の能力といえます。その論理的思考力を養う上でベースとなる文章力や基礎的数学力を、算数・数学の問題を解きながら身につけることを目的としています。社会人になれば算数・数学が必要な場面は意外と多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく出てきますので、筆記試験対策にもなります。</p> <p><b>【到達目標】</b> 社会人に必要な論理的思考力を養う上でベースとなる文章力や基礎的数学力を身につける</p> <p><b>【授業方法と留意点】</b> 授業はオリジナル教材を元に行います。「例題を解いてみる」→「解説を聞く」→「類題を解く」という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。毎回異なる内容に取り組むので、各回ごとに疑問点を残さないようにしてください。</p> <p><b>【科目学習の効果 (資格)】</b> 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養が身につく、論理的思考力のベースが形成される。</p>
-----------------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション・実力テスト	講義概要説明・実力テスト	実力テスト
	2	文章力を養う算数・数学①	割合と比・濃度算	小テスト
	3	文章力を養う算数・数学②	損益算	小テスト
	4	文章力を養う算数・数学③	仕事算・分割払い	小テスト
	5	文章力を養う算数・数学④	代金の精算・料金の割引	小テスト
	6	文章力を養う算数・数学⑤	速度算①	小テスト
	7	文章力を養う算数・数学⑥・中テスト	速度算②・中間テスト	中テスト
	8	論理的思考力を養う算数・数学①	集合	小テスト
	9	論理的思考力を養う算数・数学②	場合の数・確率	小テスト
	10	論理的思考力を養う算数・数学③	資料解釈	小テスト
	11	論理的思考力を養う算数・数学④	推論①	小テスト
	12	論理的思考力を養う算数・数学⑤	推論②	小テスト
	13	論理的思考力を養う算数・数学⑤・復習テスト	推論③・総復習テスト	小テスト、定期試験

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ASHITANE 数的思考アドバンス	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・ 方法・基準	小テスト：40点、中テスト：30点、定期テスト：30点。 その他授業態度などで加減します。
学生への メッセージ	算数や数学が苦手な人にも丁寧に説明します。ただし「与えられるもの」ではなく、自ら積極的に取り組む意識をもってください。わからないことがあれば、些細なことでも質問OKです。
担当者の 研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
備考、 事前・事後 学習課題	復習（講義プリントの重要事項を見直し・解き直し）。 講義1回あたり、1時間程度（合計13回）を予定しています。

科目名	論理学	科目名 (英文)	Logic
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	DEF
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 幸一
ディプロマポリシー(DP)	DP8Δ		
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	<p><b>【授業概要・目的】</b> 社会に存在する様々な課題の解決、あるいは対人交渉等、多くの場面において論理的思考力は必須の能力といえます。その論理的思考力を養う上でベースとなる文章力や基礎的数学力を、算数・数学の問題を解きながら身につけることを目的としています。社会人になれば算数・数学が必要な場面は意外と多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく出てきますので、筆記試験対策にもなります。</p> <p><b>【到達目標】</b> 社会人に必要な論理的思考力を養う上でベースとなる文章力や基礎的数学力を身につける</p> <p><b>【授業方法と留意点】</b> 授業はオリジナル教材を元に行います。「例題を解いてみる」→「解説を聞く」→「類題を解く」という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。毎回異なる内容に取り組むので、各回ごとに疑問点を残さないようにしてください。</p> <p><b>【科目学習の効果(資格)】</b> 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養が身につく、論理的思考力のベースが形成される。</p>																																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション・実力テスト</td> <td>講義概要説明・実力テスト</td> <td>実力テスト</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文章力を養う算数・数学①</td> <td>割合と比・濃度算</td> <td>小テスト</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文章力を養う算数・数学②</td> <td>損益算</td> <td>小テスト</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章力を養う算数・数学③</td> <td>仕事算・分割払い</td> <td>小テスト</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>文章力を養う算数・数学④</td> <td>代金の精算・料金の割引</td> <td>小テスト</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>文章力を養う算数・数学⑤</td> <td>速度算①</td> <td>小テスト</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>文章力を養う算数・数学⑥・中テスト</td> <td>速度算②・中間テスト</td> <td>中テスト</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>論理的思考力を養う算数・数学①</td> <td>集合</td> <td>小テスト</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>論理的思考力を養う算数・数学②</td> <td>場合の数・確率</td> <td>小テスト</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論理的思考力を養う算数・数学③</td> <td>資料解釈</td> <td>小テスト</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論理的思考力を養う算数・数学④</td> <td>推論①</td> <td>小テスト</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>論理的思考力を養う算数・数学⑤</td> <td>推論②</td> <td>小テスト</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>論理的思考力を養う算数・数学⑤・復習テスト</td> <td>推論③・総復習テスト</td> <td>小テスト、定期試験</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	オリエンテーション・実力テスト	講義概要説明・実力テスト	実力テスト	2	文章力を養う算数・数学①	割合と比・濃度算	小テスト	3	文章力を養う算数・数学②	損益算	小テスト	4	文章力を養う算数・数学③	仕事算・分割払い	小テスト	5	文章力を養う算数・数学④	代金の精算・料金の割引	小テスト	6	文章力を養う算数・数学⑤	速度算①	小テスト	7	文章力を養う算数・数学⑥・中テスト	速度算②・中間テスト	中テスト	8	論理的思考力を養う算数・数学①	集合	小テスト	9	論理的思考力を養う算数・数学②	場合の数・確率	小テスト	10	論理的思考力を養う算数・数学③	資料解釈	小テスト	11	論理的思考力を養う算数・数学④	推論①	小テスト	12	論理的思考力を養う算数・数学⑤	推論②	小テスト	13	論理的思考力を養う算数・数学⑤・復習テスト	推論③・総復習テスト
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																					
1	オリエンテーション・実力テスト	講義概要説明・実力テスト	実力テスト																																																					
2	文章力を養う算数・数学①	割合と比・濃度算	小テスト																																																					
3	文章力を養う算数・数学②	損益算	小テスト																																																					
4	文章力を養う算数・数学③	仕事算・分割払い	小テスト																																																					
5	文章力を養う算数・数学④	代金の精算・料金の割引	小テスト																																																					
6	文章力を養う算数・数学⑤	速度算①	小テスト																																																					
7	文章力を養う算数・数学⑥・中テスト	速度算②・中間テスト	中テスト																																																					
8	論理的思考力を養う算数・数学①	集合	小テスト																																																					
9	論理的思考力を養う算数・数学②	場合の数・確率	小テスト																																																					
10	論理的思考力を養う算数・数学③	資料解釈	小テスト																																																					
11	論理的思考力を養う算数・数学④	推論①	小テスト																																																					
12	論理的思考力を養う算数・数学⑤	推論②	小テスト																																																					
13	論理的思考力を養う算数・数学⑤・復習テスト	推論③・総復習テスト	小テスト、定期試験																																																					
関連科目	特になし																																																							
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ASHITANE 数的思考アドバンス</td> <td>(一社) キャリアラボ</td> <td>(一社) キャリアラボ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ASHITANE 数的思考アドバンス	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ	2				3																																										
	番号	書籍名	著者名	出版社名																																																				
	1	ASHITANE 数的思考アドバンス	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ																																																				
	2																																																							
3																																																								
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																										
	番号	書籍名	著者名	出版社名																																																				
	1																																																							
	2																																																							
3																																																								
評価の時期・ 方法・基準	小テスト：40点、中テスト：30点、定期テスト：30点。 その他授業態度などで加減します。																																																							
学生への メッセージ	算数や数学が苦手な人にも丁寧に説明します。ただし「与えられるもの」ではなく、自ら積極的に取り組む意識をもってください。わからないことがあれば、些細なことでも質問OKです。																																																							
担当者の 研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室																																																							
備考、 事前・事後 学習課題	復習（講義プリントの重要事項を見直し・解き直し）。 講義1回あたり、1時間程度（合計13回）を予定しています。																																																							

科目名	地域と私	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 稲地 秀介, 上野山 裕士, 久保 貞也, 田中 結華, 藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01435a2, L科: LL01416a2, D科・S科: IL01422a2, P科: YL01417a2, J科: JL01433a2, W科: WL01418a2, N科: NL01414a2		

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。 また由良町役場の行政担当者や地元事業者などの実務経験者より、由良町の現状や課題、現在取り組んでいる対応策について講義があります。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のことを学ぶ意義を理解する。</li> <li>・地域の課題を理解する。</li> <li>・地域の課題について解決策を提案できる。</li> <li>・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。</li> <li>・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。 第11回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 4月13日(土)2時間目	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 (鶴坂)	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える(1時間) 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える(1時間)
2	自己の探求 4月20日(土)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきをまとめる(1時間)
3	自己の探求 4月21日(日)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考え、レポートをまとめる(2時間)
4	今、地域で何が起きているか 5月18日(土)1限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 (鶴坂)	【事前学習】 キーワード「消滅可能性都市」について調べる(1時間)。 【事後学習】由良町の現状と人口減少等の地域の問題を結びつける。その上で由良町での人口減少の理由を考え、グループでレポートをまとめる(2時間)
5	由良町関係者の講演 5月18日(土)2限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、観光・環境・防災・スポーツ・文化、地域医療の各領域の現状や課題をお聞きします。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる(1時間) 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめグループでレポートをまとめる(2時間)
6	地域経済・経営 —地域の観光・ブランディング— 5月18日(土)3限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 (鶴坂・久保)	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる(1時間) 【事後学習】 由良町の観光の目玉を考え、グループでレポートをまとめる(2時間)
7	地域環境・防災 —空き家の現状と課題— 6月1日(土)1限	大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 (稲地)	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと(1時間) 【事後学習】 授業後は議論した内容をふまえ、由良町における空き家対策について検討し、グループでレポートをまとめる(2時間)
8	地域政策・文化 —地域とスポーツ— 6月1日(土)2限	地域とスポーツとの関連;「トップスポーツ(プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など)との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 (藤林)	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと(1時間) 【事後学習】 授業ノート等で復習の上、由良町にける地域スポーツを振興するための方策を検討しグループでレポートをまとめる(2時間)
9	地域医療 —地域で健康な生活を送るには?— 6月15日(土)1限	民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと(1時間) 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、由良町の地

		(田中・上野山)	域医療の課題についてまとめグループでレポートにまとめる(2時間)																
10	事前学習 グループワーク 6月15日(土)2、3限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく(1時間) 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う(2時間)																
11	体験学習 (和歌山県由良町) 6月29日(土)終日	由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく(1時間) 【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく(2時間)																
12	プレゼンテーション講座 7月6日(土)1限	プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。 (石井、鶴坂)	【事前学習】 現地で得た情報をまとめておく(1時間) 【事後学習】 スライドをつくってみる(2時間)																
13	事後学習① グループワーク 7月6日(土)2限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく(2時間) 【事後学習】 発表できるよう準備をする(4時間)																
14	事後学習② 成果発表会 7月20日(土)1、2限	作成したスライドを使い、成果発表を行います。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 発表の練習を行う(4時間) 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする(1時間) 発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。																
15	事後学習③ ふりかえり 7月21日(土)3限	「地域と私」全体の総括、ふりかえりを行います。(鶴坂)	【事前学習】 これまでのプリントや副専攻課程ガイドブック等を整理する(1時間) 【事後学習】 副専攻課程ガイドブックの完成、レポート作成(3時間)																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% (ルーブリック評価) 最終レポート 40% 60%で合格とする。																		
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																		
担当者の 研究室等	鶴坂研究室 11号館7階																		
備考																			

科目名	北河内を知る	科目名(英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荻田 喜代一・尾山 廣・喜多 大三・久保 貞也・鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DPS△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01436a2, L科: LL01417a2, D科・S科: IL01423a2, P科: YL01418a2, J科: JL01434a2, W科: WL01419a2, N科: NL01415a2		

授業概要・目的	<p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。</p> <p>この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。授業担当者として、北河内7市および和歌山県すさみ町の「行政実務者」が担当する。</p>
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「講演の聴講」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。 情報収集ツールとしてスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等を持参すること
科目学習の効果(資格)	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・グループワークのアイスブレイク 9月28日(土)2限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	事前課題: 北河内について調べる(30分) 事後課題: グループワークの成果物をまとめる(30分)
2	北河内地域に関する講演 10月5日(土)1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
3	北河内地域に関する講演 10月5日(土)2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
4	グループワーク・プレゼンテーション 10月5日(土)3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
5	北河内地域に関する講演 10月19日(土)1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見する	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
6	北河内地域に関する講演 10月19日(土)2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
7	グループワーク・プレゼンテーション 10月19日(土)3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
8	北河内地域に関する講演 11月2日(土)1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
9	北河内地域に関する講演 11月2日(土)2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
10	グループワーク・プレゼンテーション 11月2日(土)3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
11	北河内地域に関する講演 11月16日(土)1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
12	北河内地域に関する講演 11月16日(土)2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
13	グループワーク・プレゼンテーション 11月16日(土)3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
14	最終発表会 12月7日(土)1限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)
15	最終発表会 12月7日(土)2限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	個人レポートの評価(40%)、グループごとの講演聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	荻田喜代一(薬学部・副学長室)、鶴坂貴恵(経営学部・経営情報学科)、尾山廣(理工学部・生命科学科)、久保貞也(経営学部・経営情報学科)、喜多大三			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名(英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01437a2, L科: LL01418a2, D科・S科: IL01424a2, P科: YL01419a2, J科: JL01435a2, W科: WL01420a2, N科: NL01416a2		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。</li> <li>2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。</li> <li>3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。</li> <li>4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。よくなるのが期待される。</li> </ol> <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。</li> <li>2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。</li> </ol>
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関するプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果(資格)	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。</li> <li>・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。</li> <li>・自己紹介後、グループ形成をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 自己紹介の原案を考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: プレゼンテーション資料を熟読すること(2時間)</li> </ul>
2	ビジネスの定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスとは何かを考察する。</li> <li>・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 企業の事例を調べること(2時間)</li> </ul>
3	組織の種類 - 営利組織と非営利組織 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。</li> <li>・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: NPOについて調べること(2時間)</li> <li>・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること(2時間)</li> </ul>
4	ビジネス環境をとらえる① - 経済のグローバル化と高度情報化 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化の明暗について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること(2時間)</li> <li>・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
5	ビジネス環境をとらえる② - 地球環境問題と少子高齢社会 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること(2時間)</li> </ul>
6	ビジネス現場をとらえる - オフィスからワークプレイスへ -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
7	ビジネス実務能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること(2時間)</li> </ul>
8	ビジネス実務の基本① - 仕事の進め方 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 問題プリント①を解くこと(2時間)</li> <li>・事後学修: 問題プリント②を解くこと(2時間)</li> </ul>
9	ビジネス実務の基本② - ビジネスと諸活動 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: CSRについて調べ、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
10	ビジネス実務の基本③ - ビジネスと経営資源 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 、ワークライフバランスに関してレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
11	ビジネス実務の基本④ - ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務) -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCAサイクルを理解する。</li> <li>・マーケティングとコストの関係について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: CMの必要性の有無に関してレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
12	自己実現とキャリアプランニング - セルフマネジメントと自己啓発 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。</li> <li>・社会の中における自己を位置づける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 自己振り返りシートを作成すること(2時間)</li> <li>・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめること(2時間)</li> </ul>
13	ビジネスプラン① - 起業への意識 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 各自がテーマを見つけること(2時間)</li> <li>・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと(2時間)</li> </ul>

教養科目

			・CM 比較をイノベーションの観点から行う（とくに CSR に関するもの）。	間)																
	14	ビジネスプラン②	・CM 比較プレゼンテーションを準備する。 ・実際に企画を考える。	・事前学修：グループのビジネスプランを発展させること（2時間） ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと（2時間）																
	15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：プレゼンテーション準備を行うこと（2時間） ・事後学修：最終レポートを作成すること（2時間）																
関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ビジネス実務総論</td> <td>全国大学実務教育協会</td> <td>紀伊国屋書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>20歳のときに知っておきたかったこと</td> <td>ティナ・シーリグ</td> <td>阪急コミュニケーションズ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>イノベーションと企業家精神</td> <td>P.F. ドラッカー</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「デザイン思考」を超えるデザイン思考</td> <td>DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ																	
2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社																	
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社																	
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。</li> <li>・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。</li> </ul>																			
学生への メッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の上の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教, 木村 朋紀, 船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p>〈摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト〉</p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(サツマイモとみかんビールのお酒、焦げがとれやすいBBQ網、シソとミカンの入浴剤など)。本プロジェクトでは、これまでに企画した商品について具体的な商品開発を行い、販売を目指す。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>3人の教員が担当する。 少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p>〈開発プロジェクト〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。</li> <li>2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。</li> <li>3. 商品を委託製造する。</li> <li>4. 広報活動を行う。</li> </ol> <p>〈販売プロジェクト〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 価格設定</li> <li>2. 販売ルートの確保</li> <li>3. 販売管理</li> </ol> <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。																		
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)																		
備考	新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教, 木村 朋紀, 船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	<p>〈摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト〉</p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(サツマイモとみかんビールのお酒、焦げがとれやすいBBQ網、シソとミカンの入浴剤など)。本プロジェクトでは、これまでに企画した商品について具体的な商品開発を行い、販売を目指す。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>3人の教員が担当する。 少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p>〈開発プロジェクト〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。</li> <li>2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。</li> <li>3. 商品を委託製造する。</li> <li>4. 広報活動を行う。</li> </ol> <p>〈販売プロジェクト〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 価格設定</li> <li>2. 販売ルートの確保</li> <li>3. 販売管理</li> </ol> <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動状況、取り組み姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。																		
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)																		
備考	新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	過疎地域におけるグリーンエネルギー活用プロジェクト これまで、過疎地域 (和歌山県すさみ町) の住民・行政に提案し、グリーンエネルギーを利用した過疎地域自立活性化に利用出来る設備などを製作してきた。本年度はこれまでの活動で得た成果をもとに廃屋を改修し災害時にも対応できる休憩施設を設計、製作する。また、当地で夏に開催される柱松まつりにおいて、観望会を開催する。観望会ではこれまでのプロジェクトで製作してきた天体望遠鏡を用いる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。																
授業方法と留意点	年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないように目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます) 4月 テーマの情報教共有 (昨年度までの成果の説明) と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定。大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 大型装置・設備については現地で加工組み立てできるよう練習する。 5月 現地で加工、施工、組み立て開始 不具合の調査 6、7月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 8月 現地で加工、施工、組み立て 9月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 10-1月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 2、3月 現地で加工、施工、組み立て 現地で加工、施工、組み立て  事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく																
関連科目	テクニカルデザイン演習																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	通常 (週1回の) 活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。																
学生へのメッセージ	「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。																
担当者の研究室等	8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。																
備考	週1階のミーティングの事前準備としての学習時間が週あたり1時間程度必要となります。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02439a2, L科:LL02420a2, D科・S科:IL02426a2, P科:YL02421a2, J科:JL02437a2, W科:WL02422a2, N科:NL02418a2		

教養科目

授業概要・目的	過疎地域におけるグリーンエネルギー活用プロジェクト これまで、過疎地域(和歌山県すさみ町)の住民・行政に提案し、グリーンエネルギーを利用した過疎地域自立活性化に利用出来る設備などを製作してきた。本年度はこれまでの活動で得た成果をもとに廃屋を改修し災害時にも対応できる休憩施設を設計、製作する。また、当地で夏に開催される柱松まつりにおいて、観望会を開催する。観望会ではこれまでのプロジェクトで製作してきた天体望遠鏡を用いる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。																
授業方法と留意点	年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないような目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます) 4月 テーマの情報教共有(昨年度までの成果の説明)と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定。大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 大型装置・設備については現地で加工組み立てできるよう練習する。 5月 現地で加工、施工、組み立て開始 不具合の調査 6、7月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 8月 現地で加工、施工、組み立て 9月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 10-1月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 2、3月 現地で加工、施工、組み立て 現地で加工、施工、組み立て  事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく																
関連科目	テクニカルデザイン演習																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	通常(週1回の)活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。																
学生へのメッセージ	「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。																
担当者の研究室等	8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。																
備考	週1階のミーティングの事前準備としての学習時間が週あたり1時間程度必要となります。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 秀士, 小田 靖久, 栗田 寿基, 下元 一輝, 釣本 聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。  イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																		
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。  1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。  なお、自主学習として自分の役割に応じ、マネジメント(参考書欄参照)、蒸気機関、機械工作手法、電気回路等々を継続して学ぶことが必要となる。																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社	2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社																
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社																
3																			
評価方法(基準)	汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																		
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																		
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室 8号館1階 テクノセンター																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 秀士, 小田 靖久, 栗田 寿基, 下元 一輝, 釣本 聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

教養科目

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。  イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																		
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。  1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。  なお、自主学習として自分の役割に応じ、マネジメント(参考書欄参照)、蒸気機関、機械工作手法、電気回路等々を継続して学ぶことが必要となる。																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社	2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社																
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社																
3																			
評価方法(基準)	汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																		
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																		
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室 8号館1階 テクノセンター																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。</li> <li>・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。</li> <li>・世界や日本で起っている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援</li> <li>2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施</li> <li>3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践</li> <li>4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践</li> <li>5. 天然アユ復活プロジェクトの学習</li> <li>6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</li> </ol> <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（7月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）          科学技術教養 C1・C2</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）          水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考	自主学習時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

教養科目

授業概要・目的	<p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。</li> <li>・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。</li> <li>・世界や日本で起きている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援</li> <li>2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施</li> <li>3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践</li> <li>4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践</li> <li>5. 天然アユ復活プロジェクトの学習</li> <li>6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</li> </ol> <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(7月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																		
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>1号館3階 石田准教授室</p>																		
備考	<p>自主学习時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。</p>																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。          ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。          ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。          ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う          ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン饗祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成を自主学习として、調べておくこと。</p>																
関連科目	ボランティア論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要がある。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

教養科目

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。          ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。          ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。          ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う          ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン饗祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成を自主学習として、調べておくこと。</p>																
関連科目	ボランティア論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要がある。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	地域を便利にするアプリ開発 学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築 (携帯アプリ) の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が最近の IT 動向を理解している</li> <li>・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる</li> <li>・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える</li> <li>・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる</li> <li>・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる</li> <li>・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる</li> </ul>																
授業方法と留意点	データベースに関する勉強会 (土曜日開催) ヒアリング調査 開発合宿 自治体でのプレゼンテーション																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 地域を便利にするアプリ開発</p> <p><b>【内容】</b> 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースに関する勉強会 (土曜日開催)</li> <li>・ヒアリング調査</li> <li>・開発合宿</li> <li>・自治体でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b> プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の情報サービスの現状調査 (4時間×2回)</li> <li>・IT関連の情報収集 (サービス、セキュリティ、生産性向上など) (1時間×8回)</li> <li>・データベース設計の見直し (3時間)</li> <li>・作成したアプリの動作テスト (2時間)</li> </ul> <p>学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学 (消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	技術習得の成長度 (グループとしての学び合いを高く評価する) 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い																
学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう!																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	地域を便利にするアプリ開発 学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築(携帯アプリ)の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が最近のIT動向を理解している</li> <li>・学生が一般ユーザー向けのITについてその仕組みを説明できる</li> <li>・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える</li> <li>・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる</li> <li>・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる</li> <li>・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる</li> </ul>																		
授業方法と留意点	データベースに関する勉強会(土曜日開催) ヒアリング調査 開発合宿 自治体でのプレゼンテーション																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 地域を便利にするアプリ開発</p> <p><b>【内容】</b> 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースに関する勉強会(土曜日開催)</li> <li>・ヒアリング調査</li> <li>・開発合宿</li> <li>・自治体でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b> プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の情報サービスの現状調査(4時間×2回)</li> <li>・IT関連の情報収集(サービス、セキュリティ、生産性向上など)(1時間×8回)</li> <li>・データベース設計の見直し(3時間)</li> <li>・作成したアプリの動作テスト(2時間)</li> </ul> <p>学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	技術習得の成長度(グループとしての学び合いを高く評価する) 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い																		
学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう!																		
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野 幸志, 久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を認識する</li> <li>・課題を解決する方法を考える</li> <li>・解決策を実行する</li> <li>・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する</li> </ul> <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																		
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p><b>【内容】</b> 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバー間のディスカッション</li> <li>・グループワーク</li> <li>・オンラインミーティング</li> <li>・博物館や自治体の見学会</li> <li>・実地調査</li> <li>・企画書や報告書の作成</li> <li>・学外でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p><b>【事前学習課題】</b> 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p><b>【事後学習課題】</b> プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																		
担当者の研究室等	11号館7階、牧野准教授室、久保准教授室、針尾准教授室																		
備考	活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野 幸志、久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02439a2,L科:LL02420a2,D科・S科:IL02426a2,P科:YL02421a2,J科:JL02437a2,W科:WL02422a2,N科:NL02418a2		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を認識する</li> <li>・課題を解決する方法を考える</li> <li>・解決策を実行する</li> <li>・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する</li> </ul> <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																		
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p><b>【内容】</b> 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけぬ福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバー間のディスカッション</li> <li>・グループワーク</li> <li>・オンラインミーティング</li> <li>・博物館や自治体の見学会</li> <li>・実地調査</li> <li>・企画書や報告書の作成</li> <li>・学外でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p><b>【事前学習課題】</b> 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p><b>【事後学習課題】</b> プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																		
担当者の研究室等	11号館7階、牧野准教授室、久保准教授室、針尾准教授室																		
備考	活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1◎,E科:B◎,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02438a2, L科:LL02419a2, D科・S科:IL02425a2, P科:YL02420a2, J科:JL02436a2, W科:WL02421a2, N科:NL02417a2		

授業概要・目的	本プロジェクトでは、連携先調剤薬局と協働し、PBLに参加した学生が、就職関連イベントを企画・運営・実施する事で、学生のコミュニケーション能力、ファシリテーション能力など、人間的な総合力を育成することを目的とする。就職関連イベントに行くのではなく、就職関連イベントを企画・運営・実施することは、難易度の高い教育プログラムである。その過程で、Active Book Dialog (ABD) の手法を用いてグループ学習を行い、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力で構成される「社会人基礎力」が向上するように設計している。																		
到達目標	<p>【到達目標】 現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを踏まえた上で、調剤薬局における理想的な就職関連イベントを企画・運営・実施する。</p> <p>【プロセス】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>理想的な就職関連イベントとは何かを定義できる。</li> <li>現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを列挙できる。</li> <li>他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの具体案を企画できる。</li> <li>他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの参加者アンケートやイベント広報を立案できる。</li> <li>関係先調剤薬局の担当者とビジネスマナーをわきまえた上で円滑な人間関係を構築できる。</li> <li>就職関連イベントの企画・運営・実施を通して、社会にどんな貢献が出来るか主体的に考えられる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>大学での学びの主役はPBLの受講者である。教員は、PBLの受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹するので、いわゆる座学的な講義は一切行わない。教員は、教科書や教材に書いてある知識の伝達は一切行わない(質問には答えます)。</p> <p>具体的には、ABD読書会方式の受講者の主体的な学び合いを行う。すなわち、各回のテーマに沿ってその内容を各自で学習し、B5用紙5枚にまとめ、リレープレゼンテーションにて共有する。</p> <p>ABD読書会については、以下のURLを参照のこと。<a href="http://www.abd-abd.com/">http://www.abd-abd.com/</a></p> <p>講義内容については、Moodleを用いて資料を配付する。また、本講義はアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。</p> <p>また、大学外での学びについても、振り返りを重視した指導を行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月 学内研修:まず、チームビルディングを行う。就職関連イベントの目的・方法・成果について具体例を調査・検証・評価する事により、理想的な就職関連イベントとは何かを定義する。また、企業ブランド・ミッションについてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>5月 学内研修:就職関連イベントの現状や課題点などについて具体例を調査・検証・評価する事により、現状の就職関連イベントの問題点と改善点とは何かを定義する。また、システム思考についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>6月 学内研修:理想的な就職関連イベントと現状の就職関連イベントの問題点を比較することで、就職関連イベントの企画のポイントを見いだす。また、組織開発についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>7月 学内研修:就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>8月 学内研修:就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。</p> <p>学外研修:阪神調剤ホールディング株式会社を訪問し、就職関連イベント開催に向けて具体的に協議する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>9月 学内研修:中間報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>10月 学内研修:企画した就職関連イベントを実際に学内で実施してみる。必要であれば企画の練り直しを図るファシリテーション力、タイムマネジメント力の育成を図る。また、ファシリテーション法についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>11月 学外研修:阪神調剤ホールディング株式会社にて就職関連イベントを実際に行う。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>学内研修:ふりかえりワークショップを行う。</p> <p>12月 学内研修:最終報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>1月 学内研修:ふりかえりワークショップを行う。成果報告書の作成。</p> <p>2月 学内研修:成果報告書の作成。</p> <p>事前、事後学習課題 について 事前、事後学習課題についてはその都度指定しますが、時間的には1単位あたり週2時間の事前、事後学習課題の実施を設定致します。</p>																		
関連科目	教養系、キャリア系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人を伸ばす力：内発と自律のすすめ</td> <td>エドワード・L・デン, リチャード・フラスト</td> <td>新曜社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フロー体験 喜びの現象学</td> <td>M. チクセントミハイ [著] ; 今村浩明訳</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>モチベーション 3.0 : 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか</td> <td>ダニエル・ピンク著 ; 大前研一訳</td> <td>講談社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人を伸ばす力：内発と自律のすすめ	エドワード・L・デン, リチャード・フラスト	新曜社	2	フロー体験 喜びの現象学	M. チクセントミハイ [著] ; 今村浩明訳	世界思想社	3	モチベーション 3.0 : 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか	ダニエル・ピンク著 ; 大前研一訳	講談社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	人を伸ばす力：内発と自律のすすめ	エドワード・L・デン, リチャード・フラスト	新曜社																
2	フロー体験 喜びの現象学	M. チクセントミハイ [著] ; 今村浩明訳	世界思想社																
3	モチベーション 3.0 : 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか	ダニエル・ピンク著 ; 大前研一訳	講談社																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グロービスMBAで教えているプレゼンの技術：人を動かす勝利の方程式</td> <td>グロービス</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教え上手になる! : 教えと学びのワークブック</td> <td>関根雅泰</td> <td>クロスメディア・パブリッシング</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつなぐ「話し合い」の新発想!</td> <td>吉田雅裕</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	グロービスMBAで教えているプレゼンの技術：人を動かす勝利の方程式	グロービス	ダイヤモンド社	2	教え上手になる! : 教えと学びのワークブック	関根雅泰	クロスメディア・パブリッシング	3	東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつなぐ「話し合い」の新発想!	吉田雅裕	東洋経済新報社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	グロービスMBAで教えているプレゼンの技術：人を動かす勝利の方程式	グロービス	ダイヤモンド社																
2	教え上手になる! : 教えと学びのワークブック	関根雅泰	クロスメディア・パブリッシング																
3	東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつなぐ「話し合い」の新発想!	吉田雅裕	東洋経済新報社																
評価方法(基準)	PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%) 準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	医療の現場を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を開花させながら、ファシリテーション能力をうまく使ってチームビルディングによる力を引き出して下さい。																		
担当者の研究室等	摂南大学校方キャンパス 薬学部薬学科 生命融合化学分野(1号館5階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1◎,E科:B◎,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02439a2,L科:LL02420a2,D科・S科:IL02426a2,P科:YL02421a2,J科:JL02437a2,W科:WL02422a2,N科:NL02418a2		

授業概要・目的	本プロジェクトでは、連携先調剤薬局と協働し、PBLに参加した学生が、就職関連イベントを企画・運営・実施する事で、学生のコミュニケーション能力、ファシリテーション能力など、人間的な総合力を育成することを目的とする。就職関連イベントに行くのではなく、就職関連イベントを企画・運営・実施することは、難易度の高い教育プログラムである。その過程で、Active Book Dialog (ABD) の手法を用いてグループ学習を行い、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力で構成される「社会人基礎力」が向上するように設計している。																		
到達目標	<p>【到達目標】 現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを踏まえた上で、調剤薬局における理想的な就職関連イベントを企画・運営・実施する。</p> <p>【プロセス】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>理想的な就職関連イベントとは何かを定義できる。</li> <li>現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを列挙できる。</li> <li>他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの具体案を企画できる。</li> <li>他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの参加者アンケートやイベント広報を立案できる。</li> <li>関係先調剤薬局の担当者とビジネスマナーをわきまえた上で円滑な人間関係を構築できる。</li> <li>就職関連イベントの企画・運営・実施を通して、社会にどんな貢献が出来るか主体的に考えられる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>大学での学びの主役はPBLの受講者である。教員は、PBLの受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹するので、いわゆる座学的な講義は一切行わない。教員は、教科書や教材に書いてある知識の伝達は一切行わない(質問には答えます)。</p> <p>具体的には、ABD読書会方式の受講者の主体的な学び合いを行う。すなわち、各回のテーマに沿ってその内容を各自で学習し、B5用紙5枚にまとめ、リレープレゼンテーションにて共有する。</p> <p>ABD読書会については、以下のURLを参照のこと。<a href="http://www.abd-abd.com/">http://www.abd-abd.com/</a></p> <p>講義内容については、Moodleを用いて資料を配付する。また、本講義はアクティブラーニング的手法を積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。</p> <p>また、大学外での学びについても、振り返りを重視した指導を行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月 学内研修:まず、チームビルディングを行う。就職関連イベントの目的・方法・成果について具体例を調査・検証・評価する事により、理想的な就職関連イベントとは何かを定義する。また、企業ブランド・ミッションについてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>5月 学内研修:就職関連イベントの現状や課題点などについて具体例を調査・検証・評価する事により、現状の就職関連イベントの問題点と改善点とは何かを定義する。また、システム思考についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>6月 学内研修:理想的な就職関連イベントと現状の就職関連イベントの問題点を比較することで、就職関連イベントの企画のポイントを見いだす。また、組織開発についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>7月 学内研修:就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>8月 学内研修:就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。</p> <p>学外研修:阪神調剤ホールディング株式会社を訪問し、就職関連イベント開催に向けて具体的に協議する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>9月 学内研修:中間報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>10月 学内研修:企画した就職関連イベントを実際に学内で実施してみる。必要であれば企画の練り直しを図るファシリテーション力、タイムマネジメント力の育成を図る。また、ファシリテーション法についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>11月 学外研修:阪神調剤ホールディング株式会社にて就職関連イベントを実際に行う。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>学内研修:ふりかえりワークショップを行う。</p> <p>12月 学内研修:最終報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>1月 学内研修:ふりかえりワークショップを行う。成果報告書の作成。</p> <p>2月 学内研修:成果報告書の作成。</p> <p>事前、事後学習課題 について 事前、事後学習課題についてはその都度指定しますが、時間的には1単位あたり週2時間の事前、事後学習課題の実施を設定致します。</p>																		
関連科目	教養系、キャリア系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人を伸ばす力：内発と自律のすすめ</td> <td>エドワード・L・デン, リチャード・フラスト</td> <td>新曜社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フロー体験 喜びの現象学</td> <td>M. チクセントミハイ [著] ; 今村浩明訳</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>モチベーション 3.0 : 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか</td> <td>ダニエル・ピンク著 ; 大前研一訳</td> <td>講談社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人を伸ばす力：内発と自律のすすめ	エドワード・L・デン, リチャード・フラスト	新曜社	2	フロー体験 喜びの現象学	M. チクセントミハイ [著] ; 今村浩明訳	世界思想社	3	モチベーション 3.0 : 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか	ダニエル・ピンク著 ; 大前研一訳	講談社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	人を伸ばす力：内発と自律のすすめ	エドワード・L・デン, リチャード・フラスト	新曜社																
2	フロー体験 喜びの現象学	M. チクセントミハイ [著] ; 今村浩明訳	世界思想社																
3	モチベーション 3.0 : 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか	ダニエル・ピンク著 ; 大前研一訳	講談社																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グロービスMBAで教えているプレゼンの技術：人を動かす勝利の方程式</td> <td>グロービス</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教え上手になる! : 教えと学びのワークブック</td> <td>関根雅泰</td> <td>クロスメディア・パブリッシング</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!</td> <td>吉田雅裕</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	グロービスMBAで教えているプレゼンの技術：人を動かす勝利の方程式	グロービス	ダイヤモンド社	2	教え上手になる! : 教えと学びのワークブック	関根雅泰	クロスメディア・パブリッシング	3	東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!	吉田雅裕	東洋経済新報社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	グロービスMBAで教えているプレゼンの技術：人を動かす勝利の方程式	グロービス	ダイヤモンド社																
2	教え上手になる! : 教えと学びのワークブック	関根雅泰	クロスメディア・パブリッシング																
3	東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!	吉田雅裕	東洋経済新報社																
評価方法(基準)	PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%) 準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	医療の現場を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を開花させながら、ファシリテーション能力をうまく使ってチームビルディングによる力を引き出して下さい。																		
担当者の研究室等	摂南大学校方キャンパス 薬学部薬学科 生命融合化学分野(1号館5階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態（座学、現地調査）を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々や調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する  <ol style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有</li> <li>マーケティング手法の学習（座学による）</li> <li>連携先との面談</li> <li>連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出</li> <li>学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査</li> <li>広報誌制作準備（広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行）</li> <li>学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施</li> <li>まとめと最終報告会</li> </ol>																		
関連科目	チームビルディング																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室																		
備考	スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間（事前・事後）をとってください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々や調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会																		
関連科目	チームビルディング																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室																		
備考	スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間(事前・事後)をとってください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p><b>I 授業概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画（企画・活動・推進・振り返り活動への参画）を行う。</li> <li>・当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV等でも紹介された。</li> <li>・2018年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。</li> </ul> <p><b>II 目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シャッター街に代表される商店街の課題を成功例に学生が参画（前述のとおり）することと事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。</li> </ul>								
到達目標	<p><b>I 到達目標（共通）</b></p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p><b>II 到達目標（本プロジェクト）</b>：Iの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。</li> <li>(2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。</li> <li>(3) 異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。</li> <li>(4) 成功事例を発展させることで他の事例へのPDCAスキルを醸成できること。</li> <li>(5) 行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案することができること。</li> <li>(6) 地域住民や商店街関係者との地域活性化に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。</li> <li>(7) 企画・運営・振り返り資料作成によるPPTのスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。</li> <li>(8) 企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画によるPDCA活用スキルを修得すること。</li> <li>(9) 地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダー間の調整スキルを修得すること。</li> <li>(10) 世代間コミュニケーションスキルを修得すること。</li> </ol>								
授業方法と留意点	<p><b>I 授業方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。</li> <li>・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点（コンビニ2階）を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストアとも協働する様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策を企画・活動・推進・振り返りを行う。</li> <li>・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習（参画による）によって到達目標へ指導する。</li> <li>・事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。</li> </ul> <p><b>II 留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。</li> </ul>								
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>I 授業テーマ</b>：商店街を中心とした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学習及び講義の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画</li> </ul> <p><b>II 内容、方法、事前・事後学習課題</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 事前・事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。</li> <li>・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。</li> <li>・上記を通じて得た「気づき」を発表する。（中間報告会、最終報告会）</li> </ul> </li> <li>(2) 参画する課外活動例 <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月頃：WEB稼働及び勉強会。吹田祭企画会議実施。（JR吹田で一番楽しい場として浸透。近隣店舗の参加推進。会員飲食店の営業推進。）</li> <li>・5月～6月：今後の企画運営検討（エンタメ教室：地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討：栄通りの特色を検討、商店会は場提供。） 今後の企画運営検討（落研寄席：近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進：地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ</li> <li>・7月頃：吹田祭推進、応援</li> <li>・8月以降：エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室（親子教室）に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。（予選エントリー本戦16組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。） ・随時：周辺空き家の活用（古民家を活かしたノスタルジック喫茶店・スタバ）による商店街連携検討。</li> <li>・9月頃：エンタメ教室実施。（ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。）</li> <li>・10月頃：高浜神社 戎祭支援（チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導）に参加</li> <li>・12月～3月頃：今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けてのWEB委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。</li> </ul> </li> </ol> <p>このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。</p>								
関連科目	地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>凡人のための地域再生入門</td> <td>木下 齊</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社						

	2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁哲之介	ちくま書房
	3	商店街はなぜ滅びるのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房
	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」を行く-	森川すいめい	青土社
	3			
評価方法 (基準)	事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションを通じて評価を行う。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。</li> <li>・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。</li> <li>・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。</li> <li>・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。</li> <li>・何よりも商店会が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。その他の事業参加も推奨する。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	1号館7階 経済学部 田井義人研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。</li> <li>・課外活動に参画することを重視する。</li> <li>・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を進める。</li> </ul>			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	<p><b>I 授業概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画(企画・活動・推進・振り返り活動への参画)を行う。</li> <li>・当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV等でも紹介された。</li> <li>・2018年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。</li> </ul> <p><b>II 目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シャッター街に代表される商店街の課題を成功例に学生が参画(前述のとおり)することと事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。</li> </ul>								
到達目標	<p><b>I 到達目標(共通)</b></p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p><b>II 到達目標(本プロジェクト): Iの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。</li> <li>(2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。</li> <li>(3) 異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。</li> <li>(4) 成功事例を発展させることで他の事例へのPDCAスキルを醸成できること。</li> <li>(5) 行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案ができること。</li> <li>(6) 地域住民や商店街関係者との地域活性化に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。</li> <li>(7) 企画・運営・振り返り資料作成によるPPTのスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。</li> <li>(8) 企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画によるPDCA活用スキルを修得すること。</li> <li>(9) 地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダー間の調整スキルを修得すること。</li> <li>(10) 世代間コミュニケーションスキルを修得すること。</li> </ol>								
授業方法と留意点	<p><b>I 授業方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。</li> <li>・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点(コンビニ2階)を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストアとも協働する様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策を企画・活動・推進・振り返りを行う。</li> <li>・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習(参画による)によって到達目標へ指導する。</li> <li>・事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。</li> </ul> <p><b>II 留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。</li> </ul>								
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>I 授業テーマ: 商店街を中心とした地域ブランドの創生</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学習及び講義の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画</li> </ul> <p><b>II 内容、方法、事前・事後学習課題</b></p> <p>(1) 事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。</li> <li>・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。</li> <li>・上記を通じて得た「気づき」を発表する。(中間報告会、最終報告会)</li> </ul> <p>(2) 参画する課外活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月頃: WEB稼働及び勉強会。吹田祭企画会議実施。(JR吹田で一番楽しい場として浸透。近隣店舗の参加推進。会員飲食店の営業推進。)</li> <li>・5月～6月: 今後の企画運営検討(エンタメ教室: 地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討: 栄通りの特色を検討、商店会は場提供。)</li> <li>・今後の企画運営検討(落研寄席: 近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進: 地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ)</li> <li>・7月頃: 吹田祭推進、応援</li> <li>・8月以降: エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室(親子教室)に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。(予選エントリー本戦16組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。)</li> <li>・随時: 周辺空き家の活用(古民家を活かしたノスタルジック喫茶店・スタバ)による商店街連携検討。</li> <li>・9月頃: エンタメ教室実施。(ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。)</li> <li>・10月頃: 高浜神社 戎祭支援(チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導)に参加</li> <li>・12月～3月頃: 今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けてのWEB委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。</li> </ul> <p>このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。</p>								
関連科目	地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>凡人のための地域再生入門</td> <td>木下 齊</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社						

	2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁哲之介	ちくま書房
	3	商店街はなぜ滅びるのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房
	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」に行く-	森川すいめい	青土社
	3			
評価方法 (基準)	事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションを通じて評価を行う。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。</li> <li>・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。</li> <li>・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。</li> <li>・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。</li> <li>・何よりも商店会が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。その他の事業参加も推奨する。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	1号館7階 経済学部 田井義人研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。</li> <li>・課外活動に参画することを重視する。</li> <li>・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を進める。</li> </ul>			

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動支援プロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動を支援するための企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦者向けにアンケートを実施し、来場者は何に価値を求めているのを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知度を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。 また、2月には摂南大学×FCティアの枚方主催で子ども向けスポーツフェスタを計画している。</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う</li> <li>クラブの広報ポスターを作成し、枚方市内の飲食店等で掲示</li> <li>近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加</li> </ul>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>学外の方々向けに通用するビジネスマナーを修得する</li> <li>アンケートの集計を通じ、回答者の傾向を読み取ることができる</li> <li>連携先に企画提案ができる</li> <li>広報活動（飛び込み営業）を通じ、基本的な営業スキルを感得する</li> <li>メンバー間とのディスカッションを通じ、他者を理解・共感することができる</li> <li>親切意識を持ち、「何を、いつまでに、誰が、どうやって」を意識するようになる</li> <li>メンバー間の連絡・返信コメントを行えるようになる</li> <li>プレゼンテーションの準備を通じ、PPTの作成スキルが向上する</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察</li> <li>連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出</li> <li>クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施）</li> <li>近隣市内におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案</li> </ul> <p>【年間計画（予定）】</p> <p>4月 マーケティング基礎講座の実施 連携先との顔合わせ</p> <p>5月 ホームゲーム観戦体験 ホームゲーム来場者向けのアンケートの実施</p> <p>6月 アンケートの集計と結果を踏まえたイベントの企画立案</p> <p>7月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査（プレ調査）の実施 域内商店街での広報活動の実施</p> <p>8月 ホームゲームでのイベントの実施</p> <p>9月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査（ポスト調査）の実施</p> <p>10月 ホームゲーム運営補助 中間報告会</p> <p>12月 最終報告会とその準備</p> <p>2月 Sports Festival</p>																		
関連科目	全ての科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																		
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。																		
担当者の研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）																		
備考	学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5～10時間は必要です。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02439a2,L科:LL02420a2,D科・S科:IL02426a2,P科:YL02421a2,J科:JL02437a2,W科:WL02422a2,N科:NL02418a2		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動支援プロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動を支援するための企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦者向けにアンケートを実施し、来場者は何に価値を求めているの明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知度を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。 また、2月には摂南大学×FCティアの枚方主催で子ども向けスポーツフェスタを計画している。</p> <p>【目的】 ・ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う ・クラブの広報ポスターを作成し、枚方市内の飲食店等で掲示 ・近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の方々向けに通用するビジネスマナーを修得する</li> <li>・アンケートの集計を通じ、回答者の傾向を読み取ることができる</li> <li>・連携先に企画提案ができる</li> <li>・広報活動(飛び込み営業)を通じ、基本的な営業スキルを感得する</li> <li>・メンバー間とのディスカッションを通じ、他者を理解・共感することができる</li> <li>・親切意識を持ち、「何を、いつまでに、誰が、どうやって」を意識するようになる</li> <li>・メンバー間の連絡・返信コメントを行えるようになる</li> <li>・プレゼンテーションの準備を通じ、PPTの作成スキルが向上する</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】 ・ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 ・連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 ・クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証(連携先の許可により実施) ・近隣市内におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案</p> <p>【年間計画(予定)】 4月 マーケティング基礎講座の実施 連携先との顔合わせ 5月 ホームゲーム観戦体験 ホームゲーム来場者向けのアンケートの実施 6月 アンケートの集計と結果を踏まえたイベントの企画立案 7月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査(プレ調査)の実施 域内商店街での広報活動の実施 8月 ホームゲームでのイベントの実施 9月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査(ポスト調査)の実施 10月 ホームゲーム運営補助 中間報告会 12月 最終報告会とその準備 2月 Sports Festival</p>																		
関連科目	全ての科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																		
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。																		
担当者の研究室等	吉田佐治子(7号館3階) 水野武(7号館3階)																		
備考	学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5~10時間は必要です。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>																		
到達目標	<p>①中山間地域に暮らし人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>																		
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます）</li> <li>地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます）</li> <li>中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）</li> </ul>																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、暮らしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02439a2,L科:LL02420a2,D科・S科:IL02426a2,P科:YL02421a2,J科:JL02437a2,W科:WL02422a2,N科:NL02418a2		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>																		
到達目標	<p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>																		
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます）</li> <li>地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます）</li> <li>中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）</li> </ul>																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤原 京佳, 梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	「異文化理解・交流を通じた地域貢献プロジェクト」 留学生を含む参加学生が異文化理解・交流にかかわる活動（オリジナルかるた、ゲーム、文化紹介教材、演劇等）を企画し、寝屋川市国際交流協会や近隣学校等において実施していく。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の想像を目指す。 自らの言語・文化資源を活用すると同時に、異なる文化背景をもつ他者と協働し、活動を企画・実行できる。 学外の活動を通して地域への理解を深め、地域における異文化理解・交流を促すことができる。 プロジェクトにおける自身の貢献および不足点を分析し、省察することができる。																		
授業方法と留意点	さまざまな文化背景、価値観をもつ人々と対話・交渉しながら活動を進めていくことになります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回のミーティングで活動に関する企画を立案し、進捗等を確認する。</li> <li>・寝屋川市国際交流協会および近隣学校と連絡をとり、活動内容や日程を決める。</li> <li>・必要に応じて本学国際交流センターにおける活動を企画・実施する。</li> <li>・活動内容を報告会等で発表する。</li> </ul> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化理解・交流をテーマにした教材、ゲーム等を作成する。</li> <li>・作成物を使った活動を地域や国際交流センターで実施する。</li> </ul> <p><b>【事後学習】</b></p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらおう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																		
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ミーティング、報告会、各活動への貢献度 60%、活動日誌およびプロジェクト最終レポート 40%																		
学生へのメッセージ	他者を知り、地域を知るは自分自身を知ることにもつながると思います。 普段自明視している常識、先入観、前提に気づくことから始めてみてください。																		
担当者の研究室等																			
備考	自主学習時間の目安は毎週1時間。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤原 京佳, 梅野 将之
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	「異文化理解・交流を通じた地域貢献プロジェクト」 留学生を含む参加学生が異文化理解・交流にかかわる活動(オリジナルかるた、ゲーム、文化紹介教材、演劇等)を企画し、寝屋川市国際交流協会や近隣学校等において実施していく。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の想像を目指す。 自らの言語・文化資源を活用すると同時に、異なる文化背景をもつ他者と協働し、活動を企画・実行できる。 学外の活動を通して地域への理解を深め、地域における異文化理解・交流を促すことができる。 プロジェクトにおける自身の貢献および不足点を分析し、省察することができる。																		
授業方法と留意点	さまざまな文化背景、価値観をもつ人々と対話・交渉しながら活動を進めていくことになります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回のミーティングで活動に関する企画を立案し、進捗等を確認する。</li> <li>・寝屋川市国際交流協会および近隣学校と連絡をとり、活動内容や日程を決める。</li> <li>・必要に応じて本学国際交流センターにおける活動を企画・実施する。</li> <li>・活動内容を報告会等で発表する。</li> </ul> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化理解・交流をテーマにした教材、ゲーム等を作成する。</li> <li>・作成物を使った活動を地域や国際交流センターで実施する。</li> </ul> <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらい。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																		
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	ミーティング、報告会、各活動への貢献度60%、活動日誌およびプロジェクト最終レポート40%																		
学生へのメッセージ	他者を知り、地域を知るは自分自身を知ることにもつながると思います。 普段自明視している常識、先入観、前提に気づくことから始めてみてください。																		
担当者の研究室等																			
備考	自主学習時間の目安は毎週1時間。																		

科目名	地域貢献実践演習	科目名 (英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 上野山 裕士, 藤林 真美, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL03440a2, L科: LL03421a2, D科・S科: IL03427a2, P科: YL03422a2, J科: JL03438a2, W科: WL03423a2, N科: NL03419a2		

授業概要・目的	この授業は、ソーシャルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。具体的にはグループ単位で地域担当者と密に連携しながら、課題の抽出から解決までの年間計画を立て、現地で実践と振り返りをくりかえしながら、当初立てた目的達成にチャレンジしていきます。																		
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。 ②課題発見から解決までのPDCAサイクルを回すことができる。 ③チームで活動することができる。 ④チーム内での役割行動ができる。 ⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																		
授業方法と留意点	この授業はグループワークで行います。 ・学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行います。 ・中間発表会、最終報告会での発表（チーム単位）、個人別レポートの作成が課せられます。 ・チームで活動を行うため、コミュニケーションを密にし、役割行動ができることが求められます。 ・社会に出れば、必ず求められる「報告、連絡、相談」を実践し、チームで情報共有しながら連携先との相互理解を図り、課題解決のための、計画策定から実施、振り返りまで、途中で投げ出すことなく取り組むことが求められます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	この授業は学生がチームごとに主体的にフィールドワークを行っていきませんが、月に1度程度、共有を図り、進捗状況の確認を行います。チームで活動したときには、必ず日誌を作成し、担当教員、連携先、チームメンバーに共有をしてください。また、課題や問題が発生した時には、必ず担当教員に相談をしてください。  月に1度程度のミーティングの年間スケジュールは第1回目に提示します。  第1回 4月18日(木) 6時間目 オリエンテーション プロジェクト内容や進め方の説明を行います 履修者は必ず出席してください。																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	活動の取組（自己評価、相互評価、連携先からの評価等）50%、発表会での発表（中間、最終）20%、レポート30%																		
学生へのメッセージ	PBLより、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう！																		
担当者の研究室等																			
備考	【事前学習】活動を実施するまでには、チームで議論し役割分担を決め準備を行います。またミーティング等活動をしたときは活動記録を作成ください。そのためには1時間～4時間程度の自主学習時間が必要となります。 【事後学習】活動を行った後は、結果をまとめ、チームでミーティングを行い振り返りをしてください。また全体ミーティングに備えて、スライドの作成をしてください。この場合も活動記録を作成してください。これらの活動に1～4時間程度の自主学習時間が必要となります。																		

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</li> <li>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</li> <li>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</li> <li>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。ようになることが期待される。</li> </ol> <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NP0 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</li> <li>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</li> <li>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</li> </ol>		
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。		
科目学習の効果 (資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等 事前・事後学習課題
	1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える</li> <li>・公と私について考える</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 自分にとって「キャリアデザイン」とは何かを考えること(1時間)</li> <li>・事後学修: キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(3時間)</li> </ul>
	2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 大学で学ぶ意味について考えること(1時間)</li> <li>・事後学修: 各受講科目のノートを整理すること(3時間)</li> </ul>
	3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学の中にある「機会」について知る</li> <li>・先輩の話を聴く</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 摂南大として、HPの建学の精神と教育理念を理解すること HPの(2時間)</li> <li>・事後学修: 大学の中にある「機会」の活用の仕方について考えること(2時間)</li> </ul>
	4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 設定された個人ワークに取り組むこと(2時間)</li> <li>・事後学修: 大学生活の目標を再度考えること(2時間)</li> </ul>
	5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する</li> <li>・社会人としてのマナーを学ぶ</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: グループワークに必要なことを考えること(1時間)</li> <li>・事後学修: グループで課題に取り組むこと(3時間)</li> </ul>
	6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 社会で求められる人材について考えること(1時間)</li> <li>・事後学修: 社会で求められる能力について考えること(3時間)</li> </ul>
	7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDPから見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: GDPについて調べること(1時間)</li> <li>・事後学修: 経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間)</li> </ul>
	8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 税金について調べること(1時間)</li> <li>・事後学修: 配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間)</li> </ul>
	9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを100挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間)</li> <li>・事後学修: 長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間)</li> </ul>
	10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学4年間の目標設定</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 大学へ入学した目的をを考慮すること(2時間)</li> <li>・事後学修: 学生としての自分の目標を再確認すること(2時間)</li> </ul>
	11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCAサイクルを身に付ける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 社会人基礎力を調べること(1時間)</li> <li>・事後学修: 社会人基礎力を実践する方法を考えること(3時間)</li> </ul>
	12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間)</li> <li>・事後学修: 自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間)</li> </ul>
	13	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ課題の発表会</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること。(3時間)</li> <li>・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)</li> </ul>
	14	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとのプレゼンテーション</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間)</li> <li>・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)</li> </ul>

	15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びのプランニング</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：キャリアデザインを振り返ること（1時間）</li> <li>・事後学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること（3時間）</li> </ul>
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク（20%）、ミニレポート（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）			
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。</li> <li>2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。</li> </ol>			

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成することが期待される。
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える	・事前学修: 自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(1時間) ・事後学修: キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(2時間)
2	さあ始めよう! 大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修: 大学で学ぶ意味について考えること(1時間) ・事後学修: 各受講科目のノートを整理すること(3時間)
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話をお聴く	・事前学修: 摂大生として、HPの建学の精神と教育理念を理解すること HPの(2時間) ・事後学修: 大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(2時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事前学修: 設定された個人ワークに取り組むこと(2時間) ・事後学修: 学生生活の目標を再度考えること(2時間)
5	グループ課題の設定	・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・事前学修: グループワークに必要なことを考えること(1時間) ・事後学修: グループで課題に取り組むこと(3時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められる力について考える	・事前学修: 社会で求められる人材について考えること(1時間) ・事後学修: 社会で求められる能力について考えること(3時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事前学修: GDPについて調べること(1時間) ・事後学修: 経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事前学修: 税金について調べること(1時間) ・事後学修: 配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	・事前学修: 自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間) ・事後学修: 長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	・事前学修: 大学へ入学した目的を再確認すること(2時間) ・事後学修: 学生としての自分の目標を再確認すること(2時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事前学修: 社会人基礎力を調べること(1時間) ・事後学修: 社会人基礎力を実践する方法を考えること(3時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修: 他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間) ・事後学修: 自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・事前学修: キャリアデザインを振り返ること(1時間) ・事後学修: 夏休み以降の大学生活の目標を考える

				こと(3時間)
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、ミニレポート (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジユメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。			

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川 浩一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成することが期待される。
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える	・事前学修: 自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(1時間) ・事後学修: キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(2時間)
2	さあ始めよう! 大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修: 大学で学ぶ意味について考えること(1時間) ・事後学修: 各受講科目のノートを整理すること(3時間)
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話聴く	・事前学修: 摂大生として、HPの建学の精神と教育理念を理解することHPの(2時間) ・事後学修: 大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(2時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事前学修: 設定された個人ワークに取り組むこと(2時間) ・事後学修: 学生生活の目標を再度考えること(2時間)
5	グループ課題の設定	・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・事前学修: グループワークに必要なことを考えること(1時間) ・事後学修: グループで課題に取り組むこと(3時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められる力について考える	・事前学修: 社会で求められる人材について考えること(1時間) ・事後学修: 社会で求められる能力について考えること(3時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事前学修: GDPについて調べること(1時間) ・事後学修: 経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事前学修: 税金について調べること(1時間) ・事後学修: 配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	・事前学修: 自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間) ・事後学修: 長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	・事前学修: 大学へ入学した目的をを考慮すること(2時間) ・事後学修: 学生としての自分の目標を再確認すること(2時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事前学修: 社会人基礎力を調べること(1時間) ・事後学修: 社会人基礎力を実践する方法を考えること(3時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修: 他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間) ・事後学修: 自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること。(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・事前学修: キャリアデザインを振り返ること(1時間) ・事後学修: 夏休み以降の大学生活の目標を考える

				こと(3時間)
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク(20%)、ミニレポート(30%)、レポート(50%)で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター(上野山)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。			

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名(英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成することが期待される。
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	さあ始めよう!大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・大学で学ぶ意味について考えること(0.5時間)
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(0.5時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(2時間)
5	グループ課題の設定	・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・グループで課題に取り組むこと(3時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(0.5時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(0.5時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(0.5時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(1時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(0.5時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(0.5時間)
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること(2時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(2時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(1時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、ミニレポート (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。			

科目名	キャリアデザインⅡ (ADVANCE)	科目名 (英文)	Career Planning II (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・配布したレジュメを見直すこと ・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(3時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること(3時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること(5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布したレジュメを見直すこと ・グループ課題に取り組むこと(5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布したレジュメを見直すこと ・どのような業種・会社があるのか調べること(4時間)
6	就活体験①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・自らの強みについて考えること(3時間)
7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・学生生活の振り返りを行うこと(3時間)
8	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(5時間)
9	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(5時間)
10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・配布したレジュメを見直すこと ・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること(3時間)
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・講義の内容を日常生活で実践すること(7時間)
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配布資料を見直すこと ・自らの将来について考えること(3時間)
13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(4時間)
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・日本を取り巻く課題について理解すること(4時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・配布したレジュメを見直すこと ・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(3時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。			
担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)			
備考	毎回のミニレポートが採点をした後に最終講義で返却する。			

科目名	キャリアデザインⅡ (ADVANCE)	科目名 (英文)	Career Planning II (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・配布したレジュメを見直すこと ・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(3時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること(3時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること(5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布したレジュメを見直すこと ・グループ課題に取り組むこと(5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布したレジュメを見直すこと ・どのような業種・会社があるのか調べること(4時間)
6	就活体験①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・自らの強みについて考えること(3時間)
7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・学生生活の振り返りを行うこと(3時間)
8	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(5時間)
9	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(5時間)
10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・配布したレジュメを見直すこと ・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること(3時間)
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・講義の内容を日常生活で実践すること(7時間)
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直すこと ・自らの将来について考えること(3時間)
13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(4時間)
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・日本を取り巻く課題について理解すること(4時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・配布したレジュメを見直すこと ・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(3時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	来るべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)
----------	---------------------------

備考	毎回のミニレポートが採点をした後最終講義で返却する。
----	----------------------------

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果(資格)	社会で必要とされる数的能力を獲得する

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
	2	数的思考①	方程式の活用	方程式について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	3	数的思考②	割合の活用①	割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	4	数的思考③	割合の活用②	割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	5	数的思考④	分数の活用	分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・速度の考え方①	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
	7	数的思考⑥	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	8	数的思考⑦	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	9	数的思考⑧	集合の概念	集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	10	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
	11	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	12	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	13	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。と、同時に学が楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宜, 寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果(資格)	社会で必要とされる数的能力を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	分数の活用	分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・速度の考え方①	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	集合の概念	集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
11	論理推論①	順序推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。と、同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川 富盛
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

教養科目

	<p>諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」はもう変わることはありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。つまり、たかだか「正解を教えてもらって要領良く覚える」ということをやってきただけに過ぎません。</p> <p>しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会は「明日を創っていく社会」ですから、最初から決まり切った正解なんかどこにもありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかないのです。そこで最も必要となるのは、他人の話や文章を正確に理解し、自分の考えを的確に表現する能力です。</p> <p>実社会で諸君が自ら成長し自分の人生を築き上げていくことは、企業がより良い企業となることを目指して経営していくことと同じです。つまり、諸君のこれからの人生は「自分株式会社を経営していくこと」に他なりません。それには、自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となる、という大きな方向転換が必要なのです。具体的には、市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、自分の人生を切り拓いていく力を身に着ける、ということです。</p> <p>金融や投資などファイナンスに関する実践的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単に目先のお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせません。これは諸君の専門科目が何であっても同じです。</p> <p>本講義の目的は、諸君が人生のさまざまな局面で確に決断し行動できるよう、ファイナンスの知識や考え方に根差した実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けることです。</p>																																								
授業概要・目的																																									
到達目標	<p>主としてファイナンスの観点から、実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けること、これが諸君の到達目標です。</p> <p>具体的には、諸君が将来直面する経済生活やキャリアライフで、諸君自身が「賢い経済主体」として適宜的確に行動できるようになることを目指します。</p>																																								
授業方法と留意点	<p>本講義は15回全体を通して次の三つのステップで構成し、各回とも教科書を使用した講義形式で進めます。</p> <p>① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。          ② 次に、ファイナンスの基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。          ③ 更に、それらを統合し活用する能力をインテリジェンスとして身に着け、社会生活に応用する方法を学びます。</p> <p>本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。但し、講義の内容は教科書通りではなく、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎません。このため、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p> <p>講義中や講義に関連した e-Learning として、スマホアプリの利用や検索等を適宜指示します。これらは諸君の成績評価に直結するので指示に従って必ず実施し、ビジネスに役立つ IT 活用を身に付けてください。</p>																																								
科目学習の効果 (資格)	<p>経済・社会生活やキャリアライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、ファイナンスの知識を活用する実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けます。</p>																																								
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>「経済主体としての立ち位置」</td> <td>テキスト&lt;P15~14, 4~13&gt; ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経済・金融の基礎知識 ①</td> <td>「国際経済と国家財政」</td> <td>テキスト&lt;P44~49, 38~44&gt; ・国際経済 ・国家の財政</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>経済・金融の基礎知識 ②</td> <td>「市場経済と金融の役割」</td> <td>テキスト&lt;P16~18, 25~29, 18~25&gt; ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>法律の基礎知識</td> <td>「契約の基本」</td> <td>テキスト&lt;P154~157, 159~166&gt; ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>リスクと向き合う ①</td> <td>「日常生活のリスク」</td> <td>テキスト&lt;P79~87, 166~168, 157~159, 168&gt; ・リスクマネジメント ・契約社会 III</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>リスクと向き合う ②</td> <td>「リタイアメント」</td> <td>テキスト&lt;P88~97&gt; ・年金制度 ・老後生活資金</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>投資の基礎知識</td> <td>「投資とは何か」</td> <td>テキスト&lt;P98~104&gt; ・投資とは ・投資意思決定プロセス</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>経済活動と金融市場</td> <td>「景気・株価」</td> <td>テキスト&lt;P30~31, 56~57, 32~36, 54~55, 37, 50~53&gt; 景気 景気と株価</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>金融商品の基礎知識 ①</td> <td>「代表的な金融商品 (株式等)」</td> <td>テキスト&lt;P123~135&gt; ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置」	テキスト<P15~14, 4~13> ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性	2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P44~49, 38~44> ・国際経済 ・国家の財政	3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~18, 25~29, 18~25> ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行	4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P154~157, 159~166> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II	5	リスクと向き合う ①	「日常生活のリスク」	テキスト<P79~87, 166~168, 157~159, 168> ・リスクマネジメント ・契約社会 III	6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P88~97> ・年金制度 ・老後生活資金	7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P98~104> ・投資とは ・投資意思決定プロセス	8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~31, 56~57, 32~36, 54~55, 37, 50~53> 景気 景気と株価	9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品 (株式等)」	テキスト<P123~135> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																						
1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置」	テキスト<P15~14, 4~13> ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性																																						
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P44~49, 38~44> ・国際経済 ・国家の財政																																						
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~18, 25~29, 18~25> ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行																																						
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P154~157, 159~166> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II																																						
5	リスクと向き合う ①	「日常生活のリスク」	テキスト<P79~87, 166~168, 157~159, 168> ・リスクマネジメント ・契約社会 III																																						
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P88~97> ・年金制度 ・老後生活資金																																						
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P98~104> ・投資とは ・投資意思決定プロセス																																						
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~31, 56~57, 32~36, 54~55, 37, 50~53> 景気 景気と株価																																						
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品 (株式等)」	テキスト<P123~135> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品																																						

				・デリバティブ テキスト<P117~123> ・預貯金 ・信託 ・債券
	10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品（債券他）」	
	11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト<P105~117> ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
	12	投資のリスク管理	「投資のリスクマネジメント」	テキスト<P136~153> ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
	13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト<P58~67> ・ライフプランニング
	14	人生の三大資金	「住宅、教育、リタイアメント資金」	テキスト<P68~78> ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題
	15	最終まとめ	「講義のまとめ」	全体レビュー 講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎		金融知力普及協会
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
評価方法 (基準)	<p>下記のとおり、本講義と課題に対する取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験 : 20% (経済やファイナンスに関する知識の正確性を評価します。試験範囲は講義全体です。)</li> <li>・レポート : 50% (自分で考えて調査し問題解決する能力、即ち、全講義を受講して得た知見を評価します。)</li> <li>・平常点 : 30% (受講状況と態度、質疑応答、e-Learning) 実績等を評価します。出席は前提条件です。)</li> </ul> <p>必要な学習は、e-Learning システムで適宜指示します。これらにきちんと対応しなければ単位は取得できません。</p> <p>講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、目標に到達することはあり得ませんから、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる必要があります。</p> <p>成績評価の一つとなる上記課題レポートは表計算ソフト「エクセル」で出題するので、提出期限(定期試験当日を予定)までにこの課題レポートの出題に答えて必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。 (講義では「エクセル」の使い方は教えませんが、フォーマットを提示するので表入力と確認が必要です。)</p> <p>レポート課題は大学内の情報システムを通じて掲示・連絡しますので、学内情報システムの利用や連絡設定は各自で事前に必ず行ってください。</p>			
学生への メッセージ	<p>本講義は「受講者の誰もが覚えられるように一つ一つ教えていく」のではなく、初回「イントロダクション」でも説明する通り、全15回を通して受講することによって、情報収集能力、考える力、判断力などの実力が付くように構成してあります。このため本講義を聴講すると、諸君は実戦と同じく、広範で大量の情報が一方的に流れてくることを経験することになります。</p> <p>しかし、諸君は既に大学生なのだから、「自分に分かる程度のことを自分に分かるように教えてもらえるのが当然だ」という子供じみた甘えは捨て去ること。</p> <p>その上で、「講義されている内容を自分自身で考えて理解しよう」という確固たる意志を持ち、私語を慎み毎回静粛に受講すること。そうすればこれまでと異なる観点に立つことができ、本講義本来の効果を各自が最大限に得ることが出来ます。</p> <p>本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありませんが、スマホやタブレット等からのネット検索やサイトの利用を適宜指示することがあります。</p> <p>受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容も教科書通りではありません。毎回きちんと聴講しなければ成果は得られませんから単位も取得できません。</p> <p>その他、課題の提示方法等についても詳しくは講義の中で説明しますので、講義は毎回注意深く受講し、指示に従って下さい。こうした日常の情報収集能力が、各自の実力や成績評価にも大きく影響します。</p> <p>本講義で得た知識は、自分が学んでいる様々な専門知識と組み合わせることで、より高い効果を得ることが出来ます。安直にありきたりの答えを求めめるのではなく、自分で考える習慣を身に付けてください。</p> <p>なお、居眠り、内職、途中離席、私語など、真摯に受講せず講義の妨げとなる学生には、講義を中断して注意を促し退席を命じる場合があります。学生の本分を弁えない不適切な行動は本講義の主旨を理解していない証左であり、成績評価にはマイナスとして反映します。</p>			
担当者の 研究室等	11号館1階(教務課)			
備考	<p>「事前・事後学習課題」について          予習(シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む): 30分程度          復習(講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する): 30分程度          質問等は、講義前又は後の時間帯に、教室等での対面による自由な質疑応答で受け付けます。          興味のあることや疑問を感じたことなど、自分で抱え込まないで気軽に相談してください。          この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。</p>			

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名 (英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2, L科: LT01422a2～LT01426a2, D科・S科: IT01428a2～IT01432a2, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2～WT01428a2, N科: NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマナーの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。																		
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																		
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。																		
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	<p>活動場所は、寝屋川市、交野市役所、すさみ町役場、共学センター、南農園等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>-----</p> <p>事前教育①～⑨回分：</p> <p>①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて</p> <p>②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ</p> <p>③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ</p> <p>④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ</p> <p>⑤安全対策スキル：安全、衛生管理、危険予知、責任について学ぶ</p> <p>⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ</p> <p>⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ</p> <p>⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ</p> <p>⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動（90分×20回分）： 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育（90分）： 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>-----</p> <p>履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	ボランティア論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																		
備考	第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。																		

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名(英文)	Community-Based Education Support ActivitiesⅠ
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・朝日 素明・谷口 雄一・林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅱ◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:Ⅱ◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:IT01428a2～IT01432a2,L科:LT01422a2～LT01426a2,D科・S科:IT01428a2～IT01432a2,P科:YT01423a2～YT01427a2,J科:,W科:WT01424a2～WT01428a2,N科:NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	<p>本科目はサービスマニエールの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。</p> <p>※ 担当者のうち2名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、小学校・中学校での活動では、現職の先生方から直接ご指導いただく。</p>																		
到達目標	<p>実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。</p>																		
授業方法と留意点	<p>原則として、履修申請が可能な学生は、本年2月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前指導1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導2 マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動1～25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	<p>教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポートの全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)</p>																		
備考	<p>事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。</p>																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・朝日 素明・谷口 雄一・林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅱ◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:Ⅱ◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:IT01428a2～IT01432a2,L科:LT01422a2～LT01426a2,D科・S科:IT01428a2～IT01432a2,P科:YT01423a2～YT01427a2,J科:,W科:WT01424a2～WT01428a2,N科:NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	<p>本科目はサービスマニエールの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。</p> <p>※ 担当者のうち2名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、小学校・中学校での活動では、現職の先生方から直接ご指導いただく。</p>																		
到達目標	<p>実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。</p>																		
授業方法と留意点	<p>原則として、履修申請が可能な学生は、本年2月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前指導1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導2 マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動1～25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	<p>教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポートの全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)</p>																		
備考	<p>事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。</p>																		

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本とします。
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	マーケティングの歴史的な研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的な研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房	
3				

評価方法 (基準)	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生への メッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階 武居教授室
備考	

科目名	チームビルディング	科目名(英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2年生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [I1]</p>
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果(資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義の進め方</li> <li>なぜチームが必要なのかを知る</li> <li>チームビルディングとは何かを理解する</li> </ul>	事前学習: 本科目のシラバスを精読すること。(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
2	チームビルディングとは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介ワーク</li> <li>チームビルディングの理論を学ぶ</li> <li>チームビルディングのための技能を知る</li> </ul>	事後学修: チームにどのように貢献できるかを考える。(1時間)
3	チームビルディング体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペーパータワーワーク(予定)</li> <li>チームの10カ条などに取り組み、チームビルディングを体験する</li> </ul>	事後学修: チームでの取り組みを振り返る。(1時間)
4	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ</li> <li>メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける</li> </ul>	事前学修: 講義3で出る課題に取り組むこと(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
5	学習するためのチームづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームを機能させるために必要な要素を学ぶ</li> </ul>	事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1.5時間)
6	話し合う技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>チーム話し合う際の技術を学ぶ</li> </ul>	事後学修: 講義で配布された資料を見直すこと(1.5時間)
7	ビジネス記事を活用したディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える</li> </ul>	事後学修: 講義で身につけた読解技術を日常生活で試してみること(1.5時間)
8	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ</li> </ul>	事前学修: チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
9	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループでニッポンの課題の解決策を考える</li> </ul>	事前学修: チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
10	チームでプロジェクトを企画する	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義の中間おさらい</li> <li>チームでプロジェクトを企画する</li> </ul>	事後学修: チームで課題に取り組むこと(4時間)
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介①	<ul style="list-style-type: none"> <li>本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介</li> </ul>	事後学修: 興味を持ったプロジェクトについて調べること(1.5時間)
12	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介②	<ul style="list-style-type: none"> <li>本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介</li> </ul>	事後学修: 興味を持ったプロジェクトについて調べること。(1.5時間)
13	プロジェクトのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>第10回目の課題の報告プレゼンテーション</li> </ul>	事後学修: チームで発表をする準備をすること(2時間) 事後学修: 自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(1時間)
14	プロジェクトのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>第10回目の課題の報告プレゼンテーション</li> </ul>	事後学修: チームで発表をする準備をすること(2時間) 事後学修: 自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(1時間)
15	講義のまとめと振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義のおさらいと振り返りを行う</li> </ul>	事前学修: 提出物などの出し忘れがないか確認する。(1.5時間) 事後学修: 講義全体を振り返ること。(1時間)

関連科目: 「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目  
 ・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学 PBL プロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40% で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。			
担当者の 研究室等	7号館 3階 教育イノベーションセンター (水野研究室)			
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。			

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂本 淳二
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生 (大学3年) を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。 なお、本授業では、パナソニック (株) より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック (株) の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)企業における品質問題を体験する。(4)原価管理の基礎知識を修得する。(5)PDCAサイクルによる課題解決を体験する。
授業方法と留意点	前半では、グループワーク、Think-Pair-Share などアクティブラーニングを主体に授業を進める。また授業テーマ毎に、授業内容についてのレポートを作成する。概大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁。なお、1~8回目までは120分授業とする。
科目学習の効果 (資格)	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	企業・製造業・仕事の基本とは① 4月11日 (木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途)
2	企業・製造業・仕事の基本とは② 4月18日 (木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途)
3	企業・製造業・仕事の基本とは③ 4月25日 (木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途)
4	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5月9日 (木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途)
5	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5月16日 (木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途)
6	企業・製造業・仕事の基本とは⑥ 5月23日 (木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途)
7	品質教育① 5月30日 (木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	----
8	品質教育② 6月6日 (木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	品質教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること (書式は別途)
9	原価・コスト教育① 6月13日 (木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
10	原価・コスト教育② 6月20日 (木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
11	原価・コスト教育③ 6月27日 (木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること (書式は別途)
12	課題解決教育① 7月4日 (木)	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	----
13	課題解決教育② 7月11日 (木)	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること (書式は別途)
14	プレゼンテーションの方法 7月18日 (木)	プレゼンテーションの基礎知識を習得する	これまでの講義を総括して、全体討議・質疑応答でのプレゼン資料作成を行うこと
15	全体討議・質疑応答 7月25日 (木)	14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	課題レポート(6回)と受講レポート50%、授業姿勢(積極性)20%、全体討議(プレゼンテーション)10%、期末試験20%にて総合評価を行う。			
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック(株)と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。			
担当者の 研究室等	12号館6階 坂本教授室			
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回1時間程度。 レポート各回3時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習20時間程度。全体討議におけるプレゼンテーション資料作成のため、2回 実習前指導を実施する(7/11(木), 7/18(木)6限目)。  パナソニック講師: 佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、町田秀人			

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	檜橋 祥一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識(社会・文化等)、協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人々と交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。これらの各項目の要点について、企業での業務・海外渡航経験を有する授業担当者により講義する。
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また、男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において受講者を選定する。講義室内ではできるだけ、日本語を使わないようにする。
科目学習の成果(資格)	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEICや英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。海外における実体験ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス、海外渡航手続き概要、英語コミュニケーション1	パスポート、チケット予約(航空機、ホテル)、保険、海外渡航準備、英語による自己紹介	事前: 海外渡航手続き調査 (1時間)	事後: 課題レポート作成 (1時間)
2	海外事情、日系企業のグローバル化、英語コミュニケーション2	英語による自己紹介発表、海外の文化、経済、グローバル化事情	事前: 英語での自己紹介準備 (1時間) 事後: 課題レポート作成 (1時間)	
3	研修先 事前調査、英語コミュニケーション3	英字新聞記事の調査、文化、歴史、経済事情、企業・大学	事前: 研修先の英字新聞調査 (1時間) 事後: 課題レポート作成 (1時間)	
4	格差社会の問題	これからのグローバル人材として必要な素養を考える、ビデオ鑑賞など	事前: 格差社会の調査 (1時間) 事後: 課題レポート作成 (1時間) 格差社会の問題について、レポート提出	
5	社会人基礎力、英語コミュニケーション4	社会人として必要な基礎力、英語による日本の紹介発表	事前: 英語での日本紹介準備 (1時間) 事後: 課題レポート作成 (1時間)	
6	英語コミュニケーション5	海外渡航、海外生活、大学紹介、専門科目の紹介	事前: 予習プリント学習 (1時間) 事後: 課題レポート作成 (1時間)	
7	英語コミュニケーション6	研修先企業、大学の調査、英語による発表、英語によるワークショップなど	事前: 予習プリント学習 (1時間) 事後: 課題レポート作成 (1時間)	
8	英語コミュニケーション7	海外研修を想定したグループ実習1、テクノセンター見学、ヒヤリングなど	事前: 予習プリント学習 (1時間) 事後: 課題レポート作成 (1時間)	
9	英語コミュニケーション8	海外研修を想定したグループ実習2、テクニカルニュースのリスニングなど	事前: 予習プリント学習 (1時間) 事後: 課題レポート作成 (1時間)	
10	英語コミュニケーション9	海外研修を想定したグループ実習3、テクニカルニュースの発表など	事前: 予習プリント学習 (1時間) 事後: 課題レポート作成 (1時間)	
11	英語コミュニケーション10	海外研修を想定したグループ実習4、英語フレーズ集の作成など	事前: 予習プリント学習 (1時間) 事後: 課題レポート作成 (1時間)	
12	英語コミュニケーション11	海外研修を想定したグループ実習5、英語フレーズ集の作成など	事前: 予習プリント学習 (1時間) 事後: 課題レポート作成 (1時間)	
13	マナー実習	挨拶、礼儀、服装、ミーティング、質疑、懇親会、感謝、気配り、機転	事前: 予習プリント学習 (1時間) 事後: 課題レポート作成 (1時間)	
14	海外渡航、海外生活	渡航準備、入出国、習慣、食生活、健康管理	事前: 予習プリント学習 (1時間) 事後: 課題レポート作成 (1時間)	
15	英語による成果発表	まとめ	事前: 成果発表の準備 (1時間) 事後: 成果発表の反省 (1時間)	

関連科目: ものづくり海外インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	課題レポート60%、取組み姿勢20%、成果発表20%として評価を行う。
学生へのメッセージ	これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また、男女も問わない。
担当者の研究室等	1号館4階 檜橋教授室
備考	【共同担当者】 檜橋教授 (E科)、原教授 (M科)、木多教授 (A科)、白鳥准教授 (R科)、理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名(英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト(青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー)で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [I1]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視点、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果(資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか?	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見ている。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか?	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見ている。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか?	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見ている。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか?	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見ている。(約1時間)
5	街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見ている。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最新の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見ている。(約1時間)
7	性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見ている。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見ている。(約1時間)
9	ストーカー、DV(配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まづさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見ている。(約1時間)
10	詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見ている。(約1時間)
11	サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見ている。(約1時間)

			パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	
	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。			
学生へのメッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できることからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。			
担当者の研究室等	11号館9階 中沼研究室			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。			

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	坂本 淳二
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2, L科: LT01422a2～LT01426a2, D科・S科: IT01428a2～IT01432a2, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2～WT01428a2, N科: NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。 なお、本授業は、パナソニック人材開発カンパニーの講師陣による生産、製造の実践を通して、企業における目標達成のプロセスを体得するものである。																		
到達目標	(1)生産革新・改善を体験、理解することができる。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験、理解することができる。(3)チームワーク・QCD問題を体験、理解することができる。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。																		
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック (株) 人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、ものづくりインターンシップ実践の準備 7/18 (木) 6限目</li> <li>・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/25 (木) 6限目</li> </ul> <p>宿泊実習 (パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～3日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>生産革新演習</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>演習終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4～5日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>モノづくりシュミレーション演習</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得 (設計～生産) し、目標達成のためのチームワーク・QCD 問題意識の重要性を体得する。(グループ演習)</li> <li>【事前・事後学習】</li> <li>演習終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>工場見学</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>見学終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>研修成果報告会</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>研修成果報告会の実施。(グループ単位)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと</li> </ul> <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月31日 (土) 1～4限目 プレゼンテーション指導</li> </ul> <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 体験報告書の添削指導</li> <li>・2回目 研修成果報告会 (2回目) に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・3回目 研修成果報告会 (2回目) に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・4回目 研修成果報告会 (2回目)</li> <li>・5回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑</li> <li>・6回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</li> </ul>																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法	実習成果 40%、研修成果報告会 (2回) 20%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、実習・授業態度 20%とした総合評価を行なう。																		

(基準)	
学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。
担当者の研究室等	坂本教授室 (12号館6階)
備考	<p>期間：2019年8月26日(月)～8月30日(金)、9月2日(月)～9月3日(火) パナソニック(株)人材開発カンパニーでの宿泊研修です。8月31日(土)には摂南大学でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック(株)社員の朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。</p> <p>【事前事後学習】 レポート作成、プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。</p> <p>【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫</p>

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名(英文)	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	檜橋 祥一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。研修先は東南アジアおよび北米とする。研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。企業での業務経験を有する授業担当者により、ものづくりおよび英語によるコミュニケーションの要点を講義する。			
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。			
授業方法と留意点	東南アジアは、タイ、フィリピン、ベトナムを、北米は、アメリカを予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間(予定)の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識を特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習 ・1~2日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学(英語)研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習/ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の上流である企画・設計部門。 【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4~5日目 【授業テーマ】製造工場見学 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地協同プロジェクト、現地現地従業員・大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6~8日目 【授業テーマ】製造系実習 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9~10日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でパワーポイントによるプレゼンテーション、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンテーションしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出すること。</p> <p>実習後指導 ・1回目 最終レポート(体験報告書)の添削指導 ・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p>			
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	海外現地研修 60%(実習記録簿 20%、実習・授業態度 20%、実習成果プレゼン 20%)、実習前後の学習 5%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会(2回) 15%として評価を行う。			
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も文系・理系も問わない。また、男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は、理工学部インターンシップ委員会において参加者を選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。			
担当者の研究室等	1号館4階 檜橋教授室 1号館5階 原教授室 8号館3階 木多教授室 12号館7階 白鳥准教授室			
備考	【注意事項】研修予定期間:2019年8月中旬(研修先の都合により変更する場合があります。) 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間:20時間程度 【共同担当者】 檜橋教授、原教授、木多教授、白鳥准教授、理工学部インターンシップ委員会委員			

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名(英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。</li> <li>2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。</li> <li>3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。</li> <li>4) ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。</li> </ol> <p>容認することが期待される。</p> <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p>
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学が姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。</li> <li>・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティの世界へようこそ</li> <li>・政策提言へ向けて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること(1時間)</li> <li>・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること(3時間)</li> </ul>
2	ダイバーシティと境界線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウチとソトの感覚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
3	ジェンダー視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェミニズム×女性学+男性学=人間学</li> <li>・時代を生きた女性たち6名に関して調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること(2時間)</li> <li>・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること(2時間)</li> </ul>
4	日本の近代化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治の落とし物</li> <li>・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること(2時間)</li> <li>・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
5	国際統計比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダーギャップ</li> <li>・ジェンダーエンパワーメント指数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
6	性役割の形成①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階における「刷り込み」</li> <li>・DV/デートDV</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること(2時間)</li> <li>・事後学修: 自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
7	性役割の形成②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚と母性信仰</li> <li>・妊娠と出生前診断</li> <li>・優生保護法と母体保護法</li> <li>・「親になること」と「親であること」の相違</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: 自らの結婚観に関するレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成</li> <li>・格差と二極分化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダーマネジメント</li> <li>・働き方改革</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること(2時間)</li> <li>・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
10	中間プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 調査考察し、発表準備をすること(2時間)</li> <li>・事後学修: 議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習すること(2時間)</li> </ul>
11	アサーティブネス理論①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界中でアサーティブネスが用いられる理由</li> <li>・政策提言へ向けての中間レポート提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: アサーティブネスについて調べること(2時間)</li> <li>・事後学修: アサーティブに話す練習をすること(2時間)</li> </ul>
12	アサーティブネス理論②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>

	13	ダイバーシティマネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究すること（2時間） ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（2時間）																
	14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間） ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）																
	15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（2時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）																
関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>共に学ぶ女性学</td> <td>石井三恵</td> <td>泉文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ジェンダーで学ぶ社会学</td> <td>伊藤公男</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかるジェンダー・スタディーズ</td> <td>木村 涼子 他</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>性と法律</td> <td>角田 由紀子</td> <td>岩波新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社																	
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房																	
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書																	
評価方法 (基準)	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名(英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。</p> <p>・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害(マルチ商法)、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。</p> <p>・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。</p> <p>・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。</p> <p>・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」(教養)でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。</p>
到達目標	<p>この講義を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「被害者」概念について説明できる</li> <li>犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる</li> <li>犯罪被害者の支援制度について理解できる</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<p>・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。</p> <p>・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方と文献紹介</li> <li>「加害者」の法的責任</li> <li>「加害者」と「犯罪者」</li> <li>「被害者」の意義</li> <li>「犯罪被害者」の意義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の入手</li> <li>事前:教科書第1章をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
2	少年犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>少年法と被害者救済</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
3	性犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>性犯罪被害特有の問題点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「性犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
4	ドメスティックバイオレンス(DV)の被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>DV被害の特殊性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「DV」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「DV被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
5	ストーカー犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストーカーへの対抗手段</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
6	インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット犯罪被害の特殊性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
7	児童虐待の被害者救済	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童虐待の意義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「児童虐待」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
8	触法精神障害者からの被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神障害者の加害行為と対処法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
9	犯罪被害救済総論①	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害届と告訴・告発の効果</li> <li>加害者との示談交渉</li> <li>マスコミ対策</li> <li>検察審査会</li> <li>検察審査員</li> <li>審査申立手続</li> <li>検察審査会と被害者</li> <li>起訴議決制度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第2章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
10	犯罪被害救済総論②	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害者による裁判傍聴と参加</li> <li>被害者による記録の閲覧と謄写</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第3章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害者における心情陳述</li> <li>・被害者等特定事項の非公開</li> <li>・遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判</li> </ul>	事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2時間）																
	11	犯罪被害救済総論③	・損害賠償命令制度	事前：教科書第4章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）																
	12	犯罪被害救済総論④	・被害回復給付金制度	事前：教科書第4章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）																
	13	犯罪被害救済総論⑤	・犯罪被害者等給付金支給制度	事前：教科書第7章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2時間）																
	14	犯罪被害救済総論⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加害者情報へのアクセス</li> <li>・法テラス</li> </ul>	事前：教科書第7章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2時間）																
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：重要事項についてノートにまとめること（2時間）																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック</td> <td>第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会</td> <td>東京法令出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時に指示する。																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	・定期試験（95%）および講義の理解を試すミニッツペーパー（5%）の合計によって評価する。																			
学生への メッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室																			
備考	講義の理解を試すミニッツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。																			

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名(英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。 また、企業で商品開発等に20年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして生体物質の実用化に関する教育も行う。
到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎知識の理解
授業方法と留意点	配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。
科目学習の効果(資格)	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	概要説明 特殊環境微生物学(西矢)	授業の進め方を説明する。 微生物や酵素に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
2	糖質生化学(大橋)	糖質にまつわる基礎知識・キーワード・最新トピックについて、生化学的な見地から解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
3	細胞生命生理学(宮崎)	生物がいかんして環境に適応する仕組み(ホメオスタシス)を獲得し、進化してきたのかについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
4	分子生物学(川崎)	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学(青笹)	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学(長田)	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	講義後に小論文を課す。
7	細胞機能学(船越)	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポート、または確認小テストを課す。
8	環境毒性学(木村)	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学(中嶋)	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートを課す。
10	共生機能材料学(松尾)	タンパク質に対する水の必要性とその機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学(西村)	多くの生命現象は「現在(いま)」を生きるためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学(井尻)	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学(居場)	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	動物生理学(向井)	生物が環境の変化に適応するしくみについて、昆虫を題材として解説する。	課題レポートを課す。
15	生体分子機能学(尾山)	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	確認小テストを課す。

関連科目	生物学概論、生化学Ⅰ、生物無機化学、生物統計学
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科専任教員)
----------	-----------------------------

備考	欠席・遅刻の扱いは理工学部の規定に従って処理する。 事後学習に要する総時間の目安は1.5時間
----	---

科目名	海外ビジネスインターンシップ	科目名 (英文)	Overseas Business Internship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2, L科: LT01422a2～LT01426a2, D科・S科: IT01428a2～IT01432a2, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2～WT01428a2, N科: NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	<p>本学では、将来グローバル、あるいは地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。そのため、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観なども海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。</p> <p>なお、授業担当者の一人は企業で人事経験を持ち、もう一人は旅行会社での実務経験を持ちます。パラダイス・バリ (旅行会社) の運営責任者は日本人であり、現地人をマネジメントしているため、授業担当者の実務視点から学生に教授する。また、旅行会社の実務視点からも学生に教授する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本と相手国 (インドネシア・バリ島) の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。</li> <li>異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。</li> <li>他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本が抱えている問題について深く考察する。</li> <li>将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p>研修先としてサラスワティ大学、ウブド第一高校、パラダイス・バリ (旅行会社) 等を予定している。研修先により研修内容は異なり、求められる資質、英語能力が異なります。事前学習において各研修先について説明しますが、受講生自身も調査し、研修先を選択します。有意義なインターンシップにするためには、学生の希望と相手先の要望とのマッチングが非常に重要になります。そのため学生の希望は配慮しますが、学生が最初に希望した研修先に配属されるとは限りません。事前に充分面談を行い、話し合いの上決定します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前学習は10日を予定している。具体的には、ガイドンス、研修先の研修内容の解説、受け入れ先とのマッチング、バリ島の歴史、習慣、経済状況などを各自調べ発表する。</p> <p>本事前学習では、グループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションを繰り返し行う。最終的には、現地での各自の研修内容の事前準備が完了するまで行う。</p> <p>現地実習 10日 (移動日含む)</p> <p>1日目 移動</p> <p>2日目 環境学習 マングローブセンターにて</p> <p>3日目 サラスワティ大学で国際交流会</p> <p>4日目～6日目 各研修先にて各々インターンシップ研修実施</p> <p>7日目～8日目 ウブド第一高校にてインターンシップ研修実施</p> <p>9日目 現地視察</p> <p>10日目 移動</p> <p>研修内容は、研修先により環境問題に対する取り組み、日本語授業のSA、課外活動のサポート、の取り組みなど異なります。なお、研修先のリクエストにより、環境問題、日本の歴史や文化紹介 (茶道、書道、空手等)、旅行会社のパッケージツアーの企画など、内容が異なります。</p> <p>事後学習 3日 (資料の作成が間に合わない場合は、追加する)</p> <p>報告書の作成、指導、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成、指導、全体報告会</p>																
関連科目	外国語関連科目、世界の歴史、日本の歴史等																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>実習前の事前学習 (10%)、海外現地研修 60% (実習記録 10%、実習態度 50% (研修先からの評価を勘案し、引率教員が評価する)、実習報告書 (20%)、全体報告会のプレゼン (10%) で評価する。</p> <p>ただし、災害やテロ等により海外現地に行けなかった場合は単位を認定しない。</p>																
学生へのメッセージ	参加を迷っている方は、遠慮なく田中先生や私の研究室に訪問して質問をしてください。																
担当者の研究室等	11号館8階 西之坊研究室 11号館8階 田中研究室																
備考	事前学習は、全体で10時間程度行うこと。																

科目名	プロポーザル・デザイン	科目名(英文)	Design and Proposal
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>新しい商品・サービスを共創型でいかに創造するか、企画の提案&amp;設計（プロポーザル・デザイン）の方法論を学習する。特に、企業・消費者等のアイデア・感性を融合する『デザイン思考（Design Thinking）』の手法により、多様なメンバーから成るグループ型の提案をどのように進めるのかを実践する。</p> <p>デザイン思考は、学部・専攻の枠を超えた汎用的な課題解決プロセスを提供し、多くの産官学で実践されている米国発の方法論で、新サービス有形化の手段として、新市場の開拓を狙う関係者から注目を集めている。</p> <p>担当教員は、IT&amp;コンサルティング企業で手掛けてきた国内・海外での多数の顧客企業向けのプロポーザル（提案書）の企画・デザインの推進実績をもとに、課題解決を支援する視点・指針を示し、学生の主体的かつ自律的な学習活動を支援する。</p>
到達目標	<p>インターネットやソーシャルメディアの利活用を図り、新サービスを提供する業界・企業等の事例研究、提案活動の体験をとおして、提案を支援するデザインに関するリテラシーとコミュニケーション力を育成する。主な目標は次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. サービス思考 どのようなサービスを提案し、いかにつくるのか（試作化）を試みる。</li> <li>2. 共創（コラボレーション） 異分野や立場の異なる人達と思考ベクトルを合わせ、新しい価値の創出を狙う。</li> <li>3. サービス提案 共創することで、アウトカム（成果）としてまとめて、プレゼンテーションで発信する。</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>授業は、①講義（前半）、②グループワーク（後半）から成る。グループワークは、デザイン思考を適用したサービスデザインのケーススタディの演習に取り組み、ディスカッションやプレゼンテーション（グループまたは個人）を行う課題を指示する。ケーススタディは、現代社会の公私の活動で接することの多い IT サービスデザイン事例に、グループワークで取り組み、デザイン思考の方法論による課題解決のプロポーザル（提案）のリテラシーを高めることを学ぶ。質問は、対面に加え、指定する Web フォーム・質問共有システム（初回授業でガイド予定、締切厳守で毎回運用する）にて記名式のものを対象に適宜回答する。</p> <p>グループワークで行うケーススタディ以外に、a. 個人向け課題の提示、b. 質問のクラス共有のために、携帯端末（スマートフォン）を持参することを推奨する。</p>
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスデザインの方法論の手順、グループワークによる共創活動の概観を理解することができる。</li> <li>・モノのデザインとサービスデザインの違いを理解して、後者への基礎的な素養を身につけることができる。</li> <li>・他学部の異分野・専攻者とのグループワークによる意見交換と創造の機会に慣れ親しむことができる。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ガイダンス</li> <li>・『デザイン思考（Design Thinking）』とは何か</li> <li>・デザインファームの役割</li> </ul>	事後学習：イントロダクション内容から質問を Web フォーム入力する。（標準学習時間：0.5 時間）
2	サービスデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスデザイン</li> <li>・人間中心のデザイン</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：日常接する IT サービスを列挙し、役割と特徴を、1 ページに要約する。（標準学習時間：1 時間）
3	ヒトの視点の適用デザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの人間の感性</li> <li>・IT サービスデザイン</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：参考文献の『デザイン思考』（前半）概観を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
4	市場とプロポーザルの視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場におけるプロポーザルの意味</li> <li>・プロポーザルの視点</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定する IT サービス事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
5	デザイン思考の概観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン思考とシステム思考</li> <li>・デザイン思考の位置づけ</li> <li>・個人発表（プレゼンテーション）</li> </ul>	事前学習：指定する対面サービス事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
6	顧客体験デザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客体験デザイン（カスタマーエクスペリエンスデザイン：Customer Experience Design）</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：参考文献の『デザイン思考』（後半）概観を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
7	デザイン思考の手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン思考の手順</li> <li>・発見・定義・発想・実証</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
8	デザイン思考のプロトタイプング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスのプロトタイプング（試作）</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
9	プロポーザルのステークホルダー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステークホルダー 顧客、取引先、CMO（chief marketing officer）、利益団体（Interest Group）</li> <li>・個人発表（プレゼンテーション）</li> </ul>	事前学習：参考文献の『デザインの誤解』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
10	プロポーザル（提案書）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロポーザルの構成と目次</li> <li>・顧客の課題解決の提案</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：参考文献の『デザイン思考の誤解』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
11	B2C/B2B とデザイン思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B2C とデザイン思考</li> <li>・B2B とデザイン思考</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
12	デザイン思考の個別手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考の発散と収束</li> <li>・演繹法と帰納法</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：参考文献の『デザイン思考の実践』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
13	オープンデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンデザイン</li> <li>・ビジネス実践事例</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>	事前学習：参考文献の『デザイン思考の社会実装』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
14	デザイン思考ビジネスの紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインファーム企業の講演</li> </ul>	事後学習：講演をとおして、何が理解でき、またど

	介	・トークセッション	んな疑問が生じたのかをWebフォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間)	
15	まとめ	・総括 ・小テスト ・小テストフィードバック	事後学習：総括と小テストの内容から質問をWebフォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間)	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	デザイン思考の先を行くもの ファン・ブイエン、アネミック/ダールハウゼン、ヤープ/ザイルストラ、イエル/ファンデル・スコール、ロース	各務 太郎	クロスメディア・パブリッシング
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	デザイン思考が世界を変える	ティム・ブラウン	早川書房
	2	IBMの思考とデザイン	山崎 和彦	丸善出版
	3	オープンデザイン ―参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」	ヴァン・アベル、バス/エバズ、ルーカス/クラークセン、ロエル/トクスター、ピーター	オライリージャパン
評価方法 (基準)	平常点 (15%)、個人課題 (5%)、小テスト (10%)、期末テスト (70%) の累計による総合評価を行う。平常点は、ケーススタディのグループ課題 (毎回および不定期、授業時間内の提出)、指名者 (個人・グループ) 発表、積極的な質問、建設的な発言等の授業への参画の程度で評価する。授業において、迷惑な私語、携帯機器の私用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映する。授業の受講に集中すること。			
学生への メッセージ	新サービスの発想を形にする方法論として、市場から注目を集めているデザイン思考を学習します。多様な視点で考察・提案を進め、異なる価値観を有する人達との情報交流をとおして成果を導き出すアプローチに慣れ親しんでください。グループワークで共創する機会を主体的かつ自律的に参画し、コミュニケーションをとおして触れ合う重要性を認識すること。グループでの自分の存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組むこと。			
担当者の 研究室等	11号館7階 (北村教授室)			
備考	指定座席での着席をお願いします。課題等のフィードバックについては、グループワークのケーススタディ、個人課題、小テストが主対象で、提出後早期の授業の中で、書面 (MS Office 形式) や学習支援ツール (Web フォーム形式) の媒体を使って、詳細を説明する。  初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、日常学習方法、成績評価基準 (評価マトリクス) の説明、ケーススタディ (グループ・個人)、課題発表 (プレゼンテーション) の実施要領、学習支援ツール (Web フォーム・質問共有システム) の使用方法を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。			

科目名	ビジネスマナー	科目名(英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:IT01428a2~IT01432a2,L科:LT01422a2~LT01426a2,D科・S科:IT01428a2~IT01432a2,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:,W科:WT01424a2~WT01428a2,N科:NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果(資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション -あいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修: ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修: 仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定(MBO) ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修: PDCAについて調べる。 ・事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる(400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修: あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修: あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPOをもとに-	・事前学修: 敬語プリント①をする。 ・事後学修: ケーススタディプリントをする。
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話応対プリントをする。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修: 来客対応プリント①をする。 ・事後学修: 来客対応プリント②をする。
8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書始める前にする。 ・事後学修: ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書③をする。 ・事後学修: ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段(電子メール、ファックス等)の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修: メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護(Pマーク) ・コンプライアンス	・事前学修: コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する(400字以上)。
13	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修: 設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修: ビジネス文書(社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修: 全体をまとめる。

関連科目: キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	現代ビジネス論	科目名(英文)	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧 美喜男
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。 両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本的経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー事例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。
到達目標	本講義では、以下の3つの目標を設定する。 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。 ②日本の経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。
授業方法と留意点	可能な限り双方向(interactive)の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。
科目学習の効果(資格)	資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	現在のビジネス環境及びリーダーの重要性	オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。働くとは何かをを考える。	日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。
2	マネージャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネージャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいリーダーの特徴を考えてみる。
5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(1~5回までのレポート提出)	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしてしているのか考えてみる。
7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。多国籍従業員意識。	トヨタ自動車・GMとの合弁企業 NUMMI がなぜ設立されたのか調べてみよう。最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。	日本人は自己主張をしないと云われます。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか?
9	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢的観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。
10	自身を考える	日米中韓 4か国の若者調査の紹介・12人の有識者による若者の実像。人材育成のモデルの紹介・提案(6~10回までのレポート提出)	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか? 自身の能力をどう評価していますか?
11	自分はどのようなビジネスリーダーになるか 事例1. 平生飢三郎	日本の経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。人生3分論(成長・働く・奉仕(奉公)を実践)	以下2回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。2人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
12	事例2 パナソニック創業者 松下幸之助	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	第11回参照
13	地方創生	「やりたい仕事がない」[若者が地方に魅力を持たなくなっている]地方の現状を如何に解決するか	外部講師を呼ぶ予定です
14	国際企業を経営する	マネジメントの国際化時代です。国際企業の経営者が実情を語ります。	外部講師を呼ぶ予定です
15	まとめ	全14回の講義の中で浮かび上がってきたことを総括する。	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際人的資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社

	2	マネジメント入門	スティーブン P. ロビンズ	ダイヤモンド社
	3	世界が称賛する日本の経営	伊勢雅臣	育鵬社
評価方法 (基準)	第5回時のレポート(20%)、第10回時のレポート(20%)、定期試験(60%)			
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。			
担当者の 研究室等	教務課(11号館1階)			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」			

科目名	現代韓国事情	科目名(英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。そのような隣国に関して、大きな歴史的流れを検討し、近現代の韓国社会における変化を長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	この講義を通じて、韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国近現代史を概観できるようにする。 ・「解放」前後における朝鮮半島の政治状況について理解する。 ・「民主化」前後における韓国の政治状況について理解する。
授業方法と留意点	韓国近現代史の基礎を踏まえた上で、関連する映画作品を鑑賞し、それらの解説なども交えながら講義を進める。
科目学習の効果(資格)	韓国近現代史および現代韓国社会に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	近現代韓国の基礎知識(1)	韓国近現代史概説: 1945年以前と以後	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
3	近現代韓国の基礎知識(2)	韓国近現代史概説: 軍政時代の時代と民主化後の時代	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
4	映画作品に見る「韓国現代史」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
5	映画作品に見る「韓国現代史」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
6	近現代韓国社会への理解(1)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
7	近現代韓国社会への理解(2)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
8	映画作品に見る「韓国現代史」における政治と人々(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
9	映画作品に見る「韓国現代史」における政治と人々(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
10	近現代韓国社会への理解(3)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
11	近現代韓国社会への理解(4)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
12	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
13	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
14	現代韓国に向き合う(1)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
15	現代韓国に向き合う(2)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国現代史	木村幹	中公新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。			

科目名	大学教養入門	科目名(英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荻田 喜代一・伊藤 謙・大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身に付けるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身に付けるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身に付けることを目指します。</p> <p>なお、授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができます。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができます。藤林真美は医療機関での運動指導の業務に従事した実務経験から、対話力を学生に伝えることができます。</p> <p>授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができます。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができます。石井は企業、自治体、NPO の運営等の実務経験から社会人基礎力全般の教育を専門としている。</p>
到達目標	<p>(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身に付けている。</p> <p>(2)ABD による読書法を身に付けている。</p> <p>(3)チームワーク能力を身に付け、対話を通じた協働学習をすることができる。</p> <p>(4)SDG s と UNAI について基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>(5)読書の意義を理解して読書習慣を身に付けている。</p> <p>(6)コミュニケーション能力を身に付け、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 学修法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>大学生に必要な教養の基礎知識が身につく。 ABD 法等の協働学習の方法が身につく。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教養入門: 「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第二章 宇宙」	「おとなの教養」第六章を読むこと(1.5 時間以上)
3	教養入門: 第六章 歴史	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	「おとなの教養」第四章を読むこと(1.5 時間以上)
4	教養入門: 第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	「おとなの教養」第一章を読むこと(1.5 時間以上)
5	教養入門: 第一章 宗教	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	中間発表の下調べ、ポスターの案(3 時間以上)
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	ポスターの改善、プレゼンの改善 振り返りレポート1 回目(3 時間以上)
7	教養入門: 中間成果発表	ポスター改善 発表・質疑応答 振り返り	SDG s とは何か調べる(3 時間以上)
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s の概要 SDG s ゲーム 理解度確認クイズ、振り返り	チーム学習の振り返り(1.5 時間以上)
9	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s とは何か ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	UNAI とは何かを調べる(3 時間以上)
10	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し(2 時間以上)
11	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	「アドラー心理学」第二章まで読むこと(2 時間以上)
12	自分を知る教養: 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	「アドラー心理学」第四章を読むこと(1.5 時間以上)
13	自分を知る教養: 第五章 人生の意味を求めて	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	「アドラー心理学」第五章を読むこと(1.5 時間以上)
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成	振り返りレポート2 回目

	表	発表・質疑応答 振り返り	(3時間以上)																
15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	振り返りレポート3回目 (3時間以上)																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アドラー心理学入門</td> <td>岸見一郎</td> <td>KK ベストセラーズ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版																
2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢 (チーム：30%)</li> <li>・ポスター／発表 (チーム：30%)</li> <li>・振り返りレポート 3回 (個人：30%)</li> <li>・理解度確認クイズ (個人：10%)</li> </ul> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																		
学生への メッセージ	<p>この科目は全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。</p>																		
担当者の 研究室等	<p>荻田喜代一 (7号館 8F, 副学長室), 伊藤譲 (1号館 3F), 柳沢学 (8号館 3F) 大塚正人 (薬学部 1号館 5F), 藤林真美 (総合体育館 1F), 久保貞也 (11号館 7F), 寺内睦博 (11号館 10F), 石井三恵 (7号館 5F)</p>																		
備考	<p>この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを期待しています。また、学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください。</p>																		

科目名	大学教養実践	科目名(英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 譲, 越 希美江, 原 由紀子, 藤林 真美, 柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>この科目は、チームで協働し、対話を通し学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期の大学教養入門のステップアップ講座としての位置づけです。</p> <p>本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の基礎知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そうすることで、教養としての知識を実社会での実践にむすびつけることを目指します。</p> <p>なお、授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができます。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができます。原由紀子、越希美江は自治体や医療機関等でのファシリテーション講師の実務経験が豊富であり、多様な学生が入り混じった授業の運営を得意とする。</p>
到達目標	<p>(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。</p> <p>(2)ABDによる読書法を身に付けている。</p> <p>(3)QFTにより、自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができるようになる。</p> <p>(4)人間関係のつくり方、チームワーク能力、リーダーシップを身に付けることができる。</p> <p>(5)論理的でわかりやすいプレゼンテーションをすることができる。</p> <p>(6)ファシリテーションの基礎能力を身に付け、協働学習を進めることができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。?</p>
科目学習の効果(資格)	<p>大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。 ABD, QFT 法等の協働学習の方法が身につく。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る チームづくり+振り返りの大切さ	「星の王子さま」1章~12章を読み、サマリーの下書き(3時間以上)
2	教養としての文学に触れる:「星の王子さま」	教科書の紹介、概要 ABDによる学習の進め方の説明 ABDにチャレンジ 振り返り、振り返りシート	「星の王子さま」13章~24章を読んでサマリーの下書き(3時間以上)
3	教養としての文学に触れる:「星の王子さま」	解説 協働学習、プレゼン、対話 振り返り、振り返りシート	「星の王子さま」25章~27章を読んでサマリーの下書き(3時間以上)
4	教養としての文学に触れる:「星の王子さま」	解説 協働学習、プレゼン、対話 QFTにより、探求テーマだし 振り返り、振り返りシート	探求テーマのリサーチ、検討(3時間以上)
5	教養としての文学に触れる:中間成果発表	解説 前回課題の共有、対話 ポスター作成 プレゼン、質疑応答 振り返り、振り返りシート	振り返りレポート1回目 「未来の年表」P3-79を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上)
6	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	教科書の紹介 解説 協働学習、プレゼン、対話、 理解度確認クイズ、振り返りシート	「未来の年表」P3-79から、重要なキーワードとキーセンテンスを抜き出し調べてくる(3時間以上)
7	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	キーワードの共有、解説 QFTによる探求テーマだし 大切な質問作り 振り返り、振り返りシート	探求テーマの調査(3時間以上)
8	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	探求テーマの調査の共有、提出 テーマ別ポスター作り プレゼンテーションを実施する 相互評価、振り返り、振り返りシート	「未来の年表」P80-146を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上)
9	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	解説、 協働学習、プレゼン、対話、 理解度確認クイズ、振り返り 振り返り、振り返りシート	「未来の年表」p80-146から、重要なキーワードとキーセンテンスを抜き出し、調べてくる(3時間以上)
10	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	キーワードの共有、解説 QFTによる探求テーマだし 大切な質問作り 振り返り、振り返りシート	探求テーマの調査(3時間以上)
11	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	探求テーマの調査の共有、提出 テーマ別ポスター作り プレゼンテーションを実施する 振り返り、振り返りレポート	「未来の年表」第2部を読む(3時間以上)
12	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	自分たちで解決策を考えたい社会課題 テーマを決める 理解度確認クイズ、振り返り 振り返り、振り返りレポート	解決策の検討(3時間以上)

	13	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	解決策を検討、ポスター作成 プレゼンテーション準備 振り返り、振り返りレポート	ポスター作成、プレゼンテーション準備(3時間以上)																
	14	教養として社会課題を知る：最終発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り、振り返りレポート	振り返りレポート2回目(3時間以上)																
	15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有、振り返り	振り返りレポート2回目(3時間以上)																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>星の王子さま</td> <td>サンテグジュペリ</td> <td>新潮文庫 476円</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>未来の年表</td> <td>河合雅司</td> <td>講談社現代新書 760円</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	星の王子さま	サンテグジュペリ	新潮文庫 476円	2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書 760円	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	星の王子さま	サンテグジュペリ	新潮文庫 476円																	
2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書 760円																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢(チーム：30%)</li> <li>・ポスター/発表(チーム：20%)</li> <li>・振り返りレポート 2回(個人：20%)</li> <li>・理解度確認クイズ(個人：20%)</li> </ul> <p>・振り返りシート(個人：10%)</p> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																			
担当者の 研究室等	伊藤譲(1号館3F)、柳沢学(8号館3F)、大塚正人(薬学部1号館5F)、喜多大三(7号館8F)、藤林真美(総合体育館1F)、水野武(7号館3F)、原由紀子(非常勤講師室)、越希美江(非常勤講師室)																			
備考	バインダーを用意し、資料を管理します。この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください。																			

科目名	大学教養応用	科目名(英文)	Applied Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人, 伊藤 謙, 越 希美江, 原 由紀子, 柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>この科目は、プロジェクトベースラーニング形式で学ぶ、学部の枠を越えた教養応用科目です。初年次の大学教養入門と大学教養実践のステップアップの講座としての位置づけです。</p> <p>本科目の目的は、自分の未来のためには「学び」を実践していくことが大切であることを知ることにあります。そして、今後の大学での学びにおいても社会との接点を考えながら学ぶ姿勢を持ってもらうため、大学生として必要な、SDGs(2030年までの世界の目標)などを中心とした教養(社会、経済、環境等)を身に付けます。また、身につけた知識をもとに考え、未来に向けての実践行動に活かすため、シナリオプランニングを活用します。</p> <p>なお、授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができる。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができる。原由紀子、越希美江は自治体や医療機関等でのファシリテーション講師の実務経験が豊富であり、多様な学生が入り混じった授業の運営を得意とする。</p>
到達目標	<p>(1)社会課題を考えるための教養として、SDGs(2030年までの世界の目標)について知り、討議することができる。</p> <p>(2)読書により教養を身につけ、さらに自分が知りたいと思うことについて「テーマ設定」をすることができる。</p> <p>(3)シナリオプランニングを通して、情報収集の方法を知り、実践できる。論理的思考を知り、実践できる。</p> <p>(4)論理的でわかりやすく、効果的なプレゼンテーションをすることができる。</p> <p>(5)ファシリテーション力を身につけ、合意形成を促進するなどチームへの貢献ができる。</p> <p>(6)チームの中でリーダーシップを発揮し、成果が上がる協働作業に貢献ができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。学修法としてABD(アクティブ・ブック・ダイアログ)、テーマ設定のためのQFT、未来を検討するためのシナリオプランニング等の協働学習による学びを体験します。この科目では、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習に取り組むことにより、人間関係のつくり方、チームワークの仕方、リーダーシップ、ものごとに対する柔軟な対応力を身につけます。諸君が積極的に参加することが大切となります。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>社会課題を議論するための教養としてSDGs(2030年までの世界の目標)を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。多様なメンバーと意見を交わしながらシナリオを作成することで、違いを活かし合い新しいものを共創する力を育むことができる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る シナリオプランニング体験 振り返りシート	SDGsを調べる(3時間以上)
2	世界を知る教養: 2030SDGsを体感する	2030SDGsカードゲームを実施する。入門編でも行っているが、そのときとの違いを知る。 振り返り、振り返りシート	SDGs前文を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上)
3	世界を知る教養: SDGs前文	解説、理解度確認クイズ 協働学習、プレゼン、対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート	設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成(3時間以上)
4	世界を知る教養: SDGs前文+アカデミックインパクト	解説、理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施。 振り返り、振り返りシート	教科書のP32-97を読み、担当のパート部分のサマリーの下書きをする(3時間以上)
5	世界を知る教養: SDGs(アジェンダ1-10)	解説、理解度確認クイズ 協働学習、プレゼン、対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート	設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成(3時間以上)
6	世界を知る教養: SDGs(アジェンダ1-10)+アカデミックインパクト	解説、理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施。 振り返り、振り返りシート	教科書のp98-159を読み、担当のパート部分のサマリーの下書きをする(3時間以上)
7	世界を知る教養: SDGs(アジェンダ11-17)	解説、理解度確認クイズ 協働学習、プレゼン、対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート	設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成(3時間以上)
8	世界を知る教養: SDGs(アジェンダ11-17)+アカデミックインパクト	解説、理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施。 シナリオプランニングとは講義	振り返りレポート 外部環境リサーチ(3時間以上)
9	未来を考える教養: ほぼ確実な未来を考える	解説、課題の共有、提出 協働学習 振り返り、振り返りシート	外部環境リサーチシート作成(3時間以上)
10	未来を考える教養: 不確実な未来を考える①	課題の共有、提出 協働学習 10年後の未来シナリオづくり	外部環境リサーチシート作成(3時間以上)

			振り返り、振り返りシート																	
	11	未来を考える教養：不確実な未来を考える②	課題の共有、提出 協働学習 10年後の未来シナリオ完成 振り返り、振り返りシート	グループでシナリオ完成（3時間以上）																
	12	未来を考える教養：不確実な未来を考える③	課題の共有、提出 協働学習、プレゼンテーション講義 10年後の機会、脅威、対応策検討 振り返り、振り返りシート	ポスター作成、プレゼンテーション準備（3時間以上）																
	13	未来を考える教養：プレゼンテーション	プレゼンテーション実施、質疑応答 プレゼンテーション相互評価 振り返り、振り返りシート	自己の行動計画案作成（3時間以上）																
	14	未来を考える教養：未来に向けての行動計画作成	課題の共有、協働学習、対話 ワールドカフェ実施、行動計画完成 振り返り、振り返りシート	振り返りレポート2回目（3時間以上）																
	15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有、振り返り	振り返りレポート2回目（3時間以上）																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SDGs アジェンダ前文</td> <td></td> <td>国連</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>未来を変える目標 SDGs アイデアブック</td> <td>蟹江憲史</td> <td>紀伊國屋書店 1,800円(税別)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	SDGs アジェンダ前文		国連	2	未来を変える目標 SDGs アイデアブック	蟹江憲史	紀伊國屋書店 1,800円(税別)	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	SDGs アジェンダ前文		国連																	
2	未来を変える目標 SDGs アイデアブック	蟹江憲史	紀伊國屋書店 1,800円(税別)																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢（チーム：20%）</li> <li>・新聞作り／発表（チーム：20%）</li> <li>・振り返りレポート 2回（個人：20%）</li> <li>・理解度確認クイズ（個人：10%）</li> <li>・外部環境リサーチ 3回（20%）</li> </ul> <p>・振り返りシート（個人：10%）</p> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生として未来を創っていくための教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																			
担当者の 研究室等	大塚正人（薬学部1号館5F）、伊藤謙（1号館3F）、柳沢学（8号館3F）、喜多大三（7号館8F）、水野武（7号館3F）、原由紀子（非常勤講師室）、越希美江（非常勤講師室）																			
備考	バインダーを用意し、資料を管理します。この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践Ⅰからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を修得することを期待しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。																			

科目名	株式投資と企業家育成	科目名(英文)	Investment & Entrepreneurship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>『投資』とは何か、個人投資に必要な基本的な金融・経済知識と投資手法について学び、シミュレーションによる資産運用演習を体験します。更に、投資対象として注目度が高い新興企業（ベンチャー企業）について、新規事業の着想から、ビジネスモデルの構築、そして実際の起業に至るまでの諸課題や起業の実際、事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。</p> <p><b>【担当教員実務経歴】</b>  ①ベンチャー投資財団（企業投資業務担当）  ②監査法人（株式上場コンサルティング担当）</p>
到達目標	<p>将来、就職してからの確定拠出型年金制度への対応として、各種投資金融商品の特徴と運用リスク、リターンに対する税務処理を習得し、個人投資家の育成を目指します。</p> <p>また、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成を目指します。</p>
授業方法と留意点	<p>毎回、当該授業内容に関するキーワードを記載した「講義メモ」と付属資料を配付します。</p> <p>「講義メモ」のキーワードについては、授業後の復習として活用してください。</p> <p>またスライドで説明した内容について、自身で「講義メモ」に必要な点のみを記載する、効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください（板書の習慣を変えてください）。</p> <p>毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を配布します。講義終了時に提出してもらいます。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>自身の将来に向けた資産形成に必要な基本的ノウハウの習得</p> <p>学生時代に自身のアイデアをビジネスに活かす挑戦意欲の醸成と将来の就くべき職業の選択肢を増やす（視野を広げる）</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 個人投資とは？ 起業家とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 投資を学ぶ理由（確定拠出型年金制度への対応、老後の資金需要への対応） 起業家教育を受ける理由	<事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
2	経済、財政の基本知識と投資との関係	投資のために必要とされる消費生活における経済動向 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
3	家計と国の財政動向による投資環境への影響	雇用と所得、財政の役割 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
4	海外の動向による影響と経済指標との関係	景気動向指数、為替動向による投資環境への影響と対応 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
5	株式市場の役割と株式価値	株式市場、発行市場、流通市場による株式の役割と価値 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
6	銘柄選択の考え方と投資シミュレーションの説明	投資情報に基づく株価評価の考え方と投資シミュレーション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
7	債券市場の役割と投資の考え方	債券の基礎情報と債券投資の仕組み。金利の決定方法。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
8	株式市況先読みの捉え方	株式投資の基本的分析手法と投資テクニック 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
9	チャート分析と銘柄選定の考え方	株価下降局面、景気低迷期における投資リスクヘッジの考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
10	投資信託の仕組み	グローバル投信を含む投資信託商品選定の考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
11	外貨預金・FX・金投資の仕組みと投資の考え方	外貨預金・FX・金投資の魅力とリスク判定 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション

教養科目

			設問による授業内容の再確認	ヨソ開始（各自）（1時間）
	12	企業組織と上場市場	ベンチャー企業組織組成の考え方と株式公開の意義。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	13	事業構想におけるドメイン設定の考え方	起業準備としての事業構想の立て方と事例によるディスカッション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	14	経営機能構造の設計と税務	ビジネスモデル設計の考え方と会社設立および税務手続き。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	15	投資シミュレーション結果検証	各自投資シミュレーションの結果報告と銘柄変動の要因についてのディスカッション。	<事後>投資シミュレーション結果と分析の再確認（30分）
関連科目	ベンチャービジネス論、経営管理論、ビジネスプランニング（演習）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>①毎回のアンケート内の〔設問1〕に対する回答評価（評価割合：50%） 授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の〔設問2〕（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。 なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。</p> <p>②最終課題レポート（評価割合：50%） 投資手法および銘柄選定（経済指標分析）に関する知識度を判定するため、総合的評価としてのレポート課題とします。</p>			
学生への メッセージ	<p>■「投資」はギャンブルではありません。将来の資産形成のための金融手段です。 ■「儲かる／儲からない」を競うものでもありません。 ■法令を遵守した投資スタンスが必要です。 ■投資は、あくまでも自己責任で行うものです。 この点を理解できる学生は参加してください。</p>			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考	実際の株式銘柄の動きを反映した「投資シミュレーション」を行う予定です。			

科目名	世界遺産論	科目名(英文)	Rethinking World Heritage
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	ユネスコの「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(1972年採択、1975年発効)に謳われる理念に基づき、世界には人類と地球にとってかけがえのない価値をもつ記念建造物や遺跡、自然環境、伝統文化などを人類共通の財産として守るための「世界遺産」がある。その理念と具体的な世界遺産に関する学びを通じて、宗教・文化の多様性、地理、芸術・建築などを深く知る知識編(前半7回)と、それぞれ異なるアプローチと研究対象地域の観点から前半の学びをさらに掘り下げて考える考察編から構成する。後半では、地域に根付く人々の暮らしや信仰を遺産化する意義、自然保護と環境保全、人類の負の歴史、行き過ぎた観光地化がもたらす問題などについて考える。
到達目標	世界遺産を通し、グローバル社会において活躍するための知識や教養を身につけるとともに、世界の動きに対する関心を深め、批判の目と自分の意見を持つようになる。
授業方法と留意点	前半7回で世界各地の「世界遺産」について講師の体験に基づく解説を通じて知識を培い、後半は4名の教員が2回ずつ、具体的な世界遺産を窓口としてその歴史をわかりやすく説き起こし、現代世界に占める意味を問題提起する。
科目学習の効果(資格)	世界遺産検定3級 旅行・観光業、ホテル業等への就職に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	世界遺産を「学ぶ」意義はなにか。ユネスコの理念と世界遺産理念誕生の背景について関g委える。	「世界遺産」の種類(自然、文化、複合)について理解しておく。
2	世界遺産誕生までの流れ	世界遺産条約誕生の背景と登録後の流れを知る。	前回のユネスコの理念を復習し、世界遺産条約について調べておく。
3	登録基準	世界遺産がもつ「顕著な普遍的価値」と登録基準について学ぶ。	京都と奈良の世界遺産について調べ、違いについて考えておく。
4	日本の産業遺産	日本で登録されている石見、富岡、明治日本の産業革命遺産について学ぶ。	日本の近代化について調べておく。
5	世界で最初の世界遺産	1978年に登録された世界で最初の世界遺産12件について学ぶ。	世界で最初に登録された遺産の保有国について調べておく。
6	文化的景観	文化遺産と自然遺産の接点を登録する文化的景観について学ぶ。	日本で登録されている文化的景観の世界遺産について調べておく。
7	中間テスト シリアル・ノミネーションと トランスバウンダリー・サイト	第6回までの理解度確認を行った後、登録の多様性を目指すシリアル・ノミネーションとトランスバウンダリー・サイトについて学ぶ。	第2回目で扱ったグローバル・ストラテジーを含め、第6回までに学んだことを復習しておく。
8	日本の文化遺産1	平泉の遺産、長崎の教会群とキリスト教関連遺産などを事例に日本における信仰の多様性について考える。	日本におけるキリスト教伝来およびその展開について書籍やwebで調べておく。
9	日本の文化遺産2	白川郷・五箇山の合掌造り集落を事例に人びとの生業や暮らしが遺産化されることについて考える。	白川郷、五箇山について書籍やwebで調べておく。
10	自然遺産の重要性と課題1	世界自然遺産とその背景にある自然保護・環境保全について、特に日本に存在する自然遺産や複合遺産を事例として考察する。	日本における自然遺産の分布や歴史的な背景について書籍やwebで調べておく。
11	自然遺産の重要性と課題2	世界自然遺産とその背景にある自然保護・環境保全について、特にアフリカのケニア山やキリマンジャロ山、セレンゲティ・ンゴロンゴロなどの自然遺産を事例として考察する。	アフリカの自然遺産の実態や問題点について書籍やwebで調べておく。
12	負の世界遺産1	アウシュヴィッツ=ヴィルケナウ強制絶滅収容所を例に、「負の世界遺産」の意義と問題点について考える。	ア第二次世界大戦中にアウシュヴィッツ=ヴィルケナウ強制絶滅収容所がどのように用いられたのか調べておく。
13	負の世界遺産2	海商都市リヴァプールを例に、奴隷貿易という負の歴史が世界遺産を通してどのように伝えられているか考える。	リヴァプールと奴隷貿易の関係について調べておく。
14	文明の衝突の記憶1	スペイン・コルドバのメスキータ大聖堂を例に、イスラム文明がカトリック圏のイベリア半島に与えた影響と異教徒間の共存について考える。	イベリア半島の歴史と世界遺産について調べておく。
15	文明の衝突の記憶2	ラテンアメリカの古代先住民文明の遺跡を例に、インディヘニスモ(先住民擁護)の歴史と先住民統合政策、観光開発とオーバー・ツーリズムがもたらす問題について考える。	中米のマヤ文明、アンデスのインカ文明について調べておく。

関連科目 エリアスタディーズ、多文化共生論、エコツーリズム論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	きほんを学ぶ世界遺産100<第2版>世界遺産検定3級公式テキスト	世界遺産検定事務局	マイナビ出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	第7回目までの学習に関する中間テスト(40%)、後半8回で取り上げられた個別の世界遺産に基づくテーマのうち、最も関心を抱いたことに関するレポート(40%)、毎回の質問・コメント票(20%)によって総合的に評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	講師控室(7号館2階)、赤澤研究室(7号館4階)、手代木研究室(7号館5階)、林田研究室(7号館4階)、北條研究室(7号館5階)			
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。 第7回目を行う中間テストに関するフィードバックは第8回目を行う。			

科目名	統計学演習	科目名(英文)	Statistics Practice
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

コース・ユニット・一般目標	統計学の基本的な考え方を理解し、その知識を専門分野に応用する技術を得ることを目的とする。特に、医学実験のデータ分析、薬剤効果の有効性、調査報告等を読み取るための基本的知識の習得を目指す。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	イントロダクション: 科学的に考えるとは	提出課題を仕上げる。	学習活動
	2	平均値, 中央値, 最頻値を求める	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	3	分散, 標準偏差を求める	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	4	度数分布表とヒストグラム	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	5	範囲, 四分位偏差, 変動係数を求める	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	6	歪度, 尖度を求める	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	7	尺度の理解と統計データ	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動、中間テスト
	8	正規分布の理解と利用	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	9	クロス表とカイ二乗検定	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	10	独立性検定と適合度検定	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	11	推定(点推定と区間推定)	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	12	検定(平均値、分散の検定)	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	13	二項分布の理解	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	14	散布図、因果、相関、関係	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	15	まとめ	今までのまとめをして期末テストに備える。	期末テスト
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	授業全 15 回出席が前提。その上で講義に関する学習活動と確認テスト(45%)、筆記テスト(55%)の合計で評価し、100 点満点換算で 60 点以上を合格とする。			
学生へのメッセージ	グループワーク、プレゼンテーション等の講義への積極的な参加を期待する。理解して人に教えられるようになることが理想である。			
担当者の研究室等				
備考、事前・事後学習課題	資料に目を通して理解してくる。提出課題を完了してくる。			

教養科目

科目名	情報処理・統計学演習	科目名(英文)	Exercise in Information Processing
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	統計学の基本的な考え方を理解し、その知識を専門分野に応用する技術を得ることを目的とする。 特に、医学実験のデータ分析、薬剤効果の有効性、調査報告等を読み取るための基本的知識の習得を目指す。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	イントロダクション: 科学的に考えるとは	提出課題を仕上げる。	学習活動
	2	平均値, 中央値, 最頻値を求める	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	3	分散, 標準偏差を求める	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	4	度数分布表とヒストグラム	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	5	範囲, 四分位偏差, 変動係数を求める	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	6	歪度, 尖度を求める	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	7	尺度の理解と統計データ	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動、中間テスト
	8	正規分布の理解と利用	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	9	クロス表とカイ二乗検定	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	10	独立性検定と適合度検定	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	11	推定(点推定と区間推定)	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	12	検定(平均値、分散の検定)	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	13	二項分布の理解	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	14	散布図、因果、相関、関係	配布プリントで予習する。提出課題を仕上げる。	提出課題、学習活動
	15	まとめ	今までのまとめをして期末テストに備える。	期末テスト
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・ 方法・基準	授業全15回出席が前提。その上で講義に関する学習活動と確認テスト(45%)、筆記テスト(55%)の合計で評価し、100点満点換算で60点以上を合格とする。			
学生への メッセージ	グループワーク、プレゼンテーション等の講義への積極的な参加を期待する。理解して人に教えられるようになることが理想である。			
担当者の 研究室等				
備考、 事前・事後 学習課題	資料に目を通して理解してくる。提出課題を完了してくる。			

科目名	医療倫理	科目名 (英文)	Medical Ethics
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	A B C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩崎 綾乃
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	コース：A 基本事項 ユニット：(2) 薬剤師に求められる倫理観 一般目標：倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。 <b>【①生命倫理】</b> 1. 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 2. 生命倫理の諸原則 (自律尊重、無危害、善行、正義等) について説明できる。 3. 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 4. 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 <b>【②医療倫理】</b> 3. 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。
-----------------------	--

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	1 回 ●みんなちがってみんないい ～あなたが生きる「いのち」～  生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	講義、レポート、クラスディスカッション、グループワーク	定期試験+レポート+成果物ワーク
2	2 回 ●生命倫理って？ ～あなたの「いのち」はだれのもの？～  生命倫理の諸原則 (自律尊重、無危害、善行、正義等) について説明できる。 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	レポート、グループワーク、プレゼンテーション、講義、	定期試験+レポート+成果物
3	3～6 回 ●「薬」と「生命倫理」 ～「いのち」を守る～  薬害、スポーツファーマシスト、疾患をもって生きる、高齢者医療について考えを述べる。 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	講義、レポート、グループワーク	定期試験+レポート+成果物ワーク
4	7～9 回 ●「うまれること」「うまれてきたこと」「いきること」 ～つながる「いのち」～  生殖、遺伝子に関係する医療技術について考えを述べる。 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	レポート、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、講義、	定期試験+レポート+成果物
5	10～13 回 ●「死ぬということ」「死に向かうこと」「いきていること」 ～尊厳ってなんだ～  脳死と臓器移植、再生医療、安楽死と尊厳死について考えを述べる。 生命倫理に関わる主な歴史と宣言について説明できる (知識)。 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	レポート、グループワーク、グループディスカッション、ディベート、講義、	定期試験+レポート+成果物
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

関連科目	薬剤師になるために、患者安全、患者コミュニケーション、社会薬学、薬事関連法規、分子細胞生物学、キャリア形成、哲学他			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生物と生命倫理の基本ノート 改訂3版	西沢いづみ著	金芳堂
	2	薬学総論 I 薬剤師としての基本事項	日本薬学会編	東京化学同人
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	授業中の個人ワーク、レポートの提出内容、Moodle 等での課題提出および発表用資料等の成果物 50 点、定期試験 50 点。100 点満点の 60 点以上で合格。			
学生へのメッセージ	<p>土曜日等に学外者（病院薬剤師、スポーツファーマシスト）の講演、講義を聴講させることがある。その場合は事前に連絡するので必ず聴講すること。</p> <p>●講義1回目の注意点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループをつくり、チームビルディングを行う。</li> <li>2. 講義時にシラバスを説明するので、シラバスを印刷して持ってくること。</li> <li>3. Moodle の登録を行うので、各自電子媒体（スマートフォン、タブレット等）を持参すること。なお、電子媒体を持っていない場合には、1回目の時に申し出ること。</li> </ol> <p>授業担当の岩崎綾乃は、国立の研究機関における2年間の特別研究員の経験を活かし、現代社会の健康と科学技術に関する実践的教育を行う。</p>			
担当者の研究室等	1号館4階 統合薬学分野：岩崎講師室			
備考、事前・事後学習課題	<p>講義前の予習（教科書（上記番号1、2）、予習プリントを読む、グループディスカッションのための事前準備等 2.5時間 x 13回、講義及び自己学習課題の復習（1時間 x 13回）</p> <p>教科書（上記番号2）「薬学総論 I 薬剤師としての基本事項」は、「薬剤師になるために」で使用したものと同じです。必ず持ってきてください。また、前期の「薬剤師になるために」の授業、「早期体験学習」での講演会、「SGD2」と関連が大変深いので、生命倫理学を履修する前に復習を必ず行ってください。</p> <p>レポート等、課題については、提出後の授業内のディスカッションで用い、理解を深めます。</p>			

科目名	医療倫理	科目名 (英文)	Medical Ethics
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	DEF
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩崎 綾乃
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	コース：A 基本事項 ユニット：(2) 薬剤師に求められる倫理観 一般目標：倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。 <b>【①生命倫理】</b> 1. 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 2. 生命倫理の諸原則 (自律尊重、無危害、善行、正義等) について説明できる。 3. 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 4. 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 <b>【②医療倫理】</b> 3. 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。
-----------------------	--

授業計画				
	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	1 回 ●みんなちがってみんないい ～あなたが生きる「いのち」～  生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	講義、レポート、クラスディスカッション、グループワーク	定期試験+レポート+成果物ワーク
	2	2 回 ●生命倫理って？ ～あなたの「いのち」はだれのもの？～  生命倫理の諸原則 (自律尊重、無危害、善行、正義等) について説明できる。 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	レポート、グループワーク、プレゼンテーション、講義、	定期試験+レポート+成果物
	3	3～6 回 ●「薬」と「生命倫理」 ～「いのち」を守る～  薬害、スポーツファーマシスト、疾患をもって生きる、高齢者医療について考えを述べる。 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	講義、レポート、グループワーク	定期試験+レポート+成果物ワーク
	4	7～9 回 ●「うまれること」「うまれてきたこと」「いきること」 ～つながる「いのち」～  生殖、遺伝子に関係する医療技術について考えを述べる。 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	レポート、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、講義、	定期試験+レポート+成果物
	5	10～13 回 ●「死ぬということ」「死に向かうこと」「いきていること」 ～尊厳ってなんだ～  脳死と臓器移植、再生医療、安楽死と尊厳死について考えを述べる。 生命倫理に関わる主な歴史と宣言について説明できる (知識)。 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	レポート、グループワーク、グループディスカッション、ディベート、講義、	定期試験+レポート+成果物
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
12				
13				

関連科目	薬剤師になるために、患者安全、患者コミュニケーション、社会薬学、薬事関連法規、分子細胞生物学、キャリア形成、哲学他			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生物と生命倫理の基本ノート 改訂3版	西沢いづみ著	金芳堂
	2	薬学総論 I 薬剤師としての基本事項	日本薬学会編	東京化学同人
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	授業中の個人ワーク、レポートの提出内容、Moodle 等での課題提出および発表用資料等の成果物 50 点、定期試験 50 点。100 点満点の 60 点以上で合格。			
学生へのメッセージ	<p>土曜日等に学外者（病院薬剤師、スポーツファーマシスト）の講演、講義を聴講させることがある。その場合は事前に連絡するので必ず聴講すること。</p> <p>●講義1回目の注意点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループをつくり、チームビルディングを行う。</li> <li>2. 講義時にシラバスを説明するので、シラバスを印刷して持ってくること。</li> <li>3. Moodle の登録を行うので、各自電子媒体（スマートフォン、タブレット等）を持参すること。なお、電子媒体を持っていない場合には、1回目の時に申し出ること。</li> </ol> <p>授業担当の岩崎綾乃は、国立の研究機関における2年間の特別研究員の経験を活かし、現代社会の健康と科学技術に関する実践的教育を行う。</p>			
担当者の研究室等	1号館4階 統合薬学分野：岩崎講師室			
備考、事前・事後学習課題	<p>講義前の予習（教科書（上記番号1、2）、予習プリントを読む、グループディスカッションのための事前準備等 2.5時間 x 13回、講義及び自己学習課題の復習（1時間 x 13回）</p> <p>教科書（上記番号2）「薬学総論 I 薬剤師としての基本事項」は、「薬剤師になるために」で使用したものと同じです。必ず持ってきてください。また、前期の「薬剤師になるために」の授業、「早期体験学習」での講演会、「SGD2」と関連が大変深いので、生命倫理学を履修する前に復習を必ず行ってください。</p> <p>レポート等、課題については、提出後の授業内のディスカッションで用い、理解を深めます。</p>			

科目名	ビジネスマナー	科目名 (英文)	Business Manners
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	4年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。</p> <p>企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。</p> <p>ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。</p>
-----------------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション ーあいさつの重要性 (理論と実践)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・授業のルール</li> <li>・あいさつの真の意味とは</li> <li>・正しい基本姿勢を学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考える。</li> <li>・事後学修：ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。</li> </ul>
	2	仕事の進め方と組織活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定型業務と非定型業務</li> <li>・コスト意識とエコ活動</li> <li>・仕事の基本の8つの意識</li> <li>・話し方と聞き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：仕事の基本の8つの意識について調べる。</li> <li>・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。</li> </ul>
	3	目標設定とPDCAサイクル スケジュールと出張業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標設定 (MBO)</li> <li>・PDCAとは</li> <li>・チームと個人の役割</li> <li>・スケジュールの作り方</li> <li>・業務としての出張-YTT方式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：PDCAについて調べる。あなたの1週間予定表を作成する。</li> <li>・事後学修：あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる (400字以上)。あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。</li> </ul>
	4	ビジネスの場での敬語表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な敬語表現の復習</li> <li>・ビジネスの場での使用方法</li> <li>-TPOをもとに-</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：敬語プリント①をする。</li> <li>・事後学修：ケーススタディプリントをする。</li> </ul>
	5	電話応対	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスフォンの扱い方</li> <li>・5W2Hから6W3Hへ</li> <li>・簡潔メモの作り方</li> <li>・不在処理と伝言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：電話応対プリントをする。</li> <li>・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。</li> </ul>
	6	来客応対	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織図と対応</li> <li>・簡単な応対から不在処理や重複処理まで</li> <li>・名刺交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：来客対応プリント①をする。</li> <li>・事後学修：来客対応プリント②をする。</li> </ul>
	7	ハウ・レン・ソウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスにおける「報連相」</li> <li>・指示の受け方</li> <li>・業務の優先順位</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる</li> <li>・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。</li> </ul>
	8	ビジネス文書の基本①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社外文書が基本</li> <li>・商取引文書と社交文書の相違</li> <li>・社内文書と社外文書の種類</li> <li>・ファイリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：ビジネス文書始める前にする。</li> <li>・事後学修：ビジネス文書②をする。</li> </ul>
	9	ビジネス文書の基本②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：ビジネス文書始③をする。</li> <li>・事後学修：ビジネス文書④をする。</li> </ul>
	10	ビジネス通信の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択</li> <li>・作成上の注意点</li> <li>・郵便・宅配便の知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：郵便の知識プリント①をする。</li> <li>・事後学修：メール文書を作成する。</li> </ul>
	11	法的業務 設営の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・押印と印鑑の意味</li> <li>・内容証明</li> <li>・個人情報保護 (Pマーク)</li> <li>・コンプライアンス</li> <li>・YTT方式からの業務遂行</li> <li>・確認の必要性</li> <li>・他部署とのコミュニケーションの必要性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：コンプライアンスについて調べる。同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。</li> <li>・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する (400字以上)。設営事例をまとめる。</li> </ul>
	12	慶弔と贈答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶弔時の基本的マナー</li> <li>・「式」について</li> <li>・業務としての贈答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。</li> <li>・事後学修：ビジネス文書 (社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。</li> </ul>
	13	協働とコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人同僚・異文化への対応</li> <li>・働き方とキャリア開発</li> <li>・公共の場でのマナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。</li> <li>・事後学修：全体をまとめる。</li> </ul>
	14			
15				

教養科目

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	ロールプレイ等のワーク（20%）、複数回のレポート（40%）、期末試験（40%）を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）			
備考、事前・事後学習課題	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

# キャリア形成科目





科目名	スタートアップゼミ	科目名 (英文)	Startup Seminar
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	河野 武幸
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP4◎, DP8◎		
科目ナンバリング	YCA1501a3		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>「スタートアップゼミ」は、新入生が薬学での学修を不安なくスタートし、目標を持って勉学に励めるよう準備された本学独自の教育プログラムです。担任教員の指導の元、高校とは異なる大学での学び方を修得し、スムーズに大学生活をスタートさせて下さい。</p> <p>コース：A 基本事項 ユニット：          (1) 薬剤師の使命 一般目標：医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。          (2) 薬剤師に求められる倫理観 一般目標：倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。          (3) 信頼関係の構築 一般目標：患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。          (4) 多職種連携協働とチーム医療 一般目標：医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。          (5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成 一般目標：生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と行動力を身につける。</p> <p>コース：B 薬学と社会 一般目標：人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。</p>

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	6 回程度  First Year Study Guide を活用しよう 第 1 章 摂南大学を知ろう (Smart Campus づくりの取り組み) 第 2 章 大学の学びのながれを知ろう 第 3 章 大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第 4 章 充実した大学生活を送るために 第 5 章 快適で安心な大学生活を送るために 第 6 章 今までの自分を自分で分析しよう 第 7 章 キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC、資格試験を意識しよう  早期体験学習の発表準備を実施し、レポートを完成しよう 1) 早期体験学習の発表会に向けて、発表、質問、質問対応等の練習をする (早期体験学習の発表会：医療施設 (病院、薬局) で体験学習したことについて、ポスターを用いて発表する)。 2) 早期体験学習で体験したことを十分伝えられるようにするために、適切で分かりやすい表現を用いた文章でレポートを完成させる (早期体験学習では、医療施設 (病院、薬局) で体験学習したことについて報告書を作成し、冊子として施設に配付している)。	小グループ討議 課題演習 自己研鑽	成果物 (総括的評価：提出状況) 成果物 (形成的評価：内容) 観察記録 (総括的評価)
	2	3 回程度  課題に挑戦してみよう！ 担任の先生から与えられた課題に取り組む／自ら見出した課題に取り組む 例 ・研究室での実験体験 ・薬学に関する学内外でのアクティビティー ・薬について調べる	小グループ討議 課題演習 自己研鑽	成果物 (総括的評価：提出状況) 成果物 (形成的評価：内容) 観察記録 (総括的評価)
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			

関連科目 早期体験学習、薬剤師になるために、その他、薬学基礎系科目及び薬学専門科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	成果物（レポート等）の提出状況（30%）及び授業への取り組みならびにグループワークへの貢献度等に関する観察記録（70%）で評価する。100点満点中60点以上で合格。なお、修学状況（出席、受講態度等）不良の者については、40点を上限として減点することがある。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	講師以上の全教員			
備考、事前・事後学習課題	<p>なお、授業スケジュールの詳細は、担任教員に確認すること。</p> <p>事前学習：指導教員から指定された教材について必ず予習すること</p> <p>事後学習：指導教員から指定された復習、討議及びその他学習を必ず実施すること</p>			

科目名	キャリア形成 I	科目名 (英文)	Career Development I
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	ABCDEF
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野 智史, 樽井 敦, 中谷 尊史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP5◎, DP6◎, DP8◎		
科目ナンバリング	YCA1502a3		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：A 基本事項</p> <p>(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成</p> <p>一般目標：生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と行動力を身につける。</p> <p>【③生涯学習】</p> <p>【④次世代を担う人材の育成】</p>
	<p>コース：B 薬学と社会</p> <p>一般目標：人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。</p> <p>(4) 地域における薬局と薬剤師</p> <p>一般目標：地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。</p> <p>【①地域における薬局の役割】</p>
	<p>コース：本学独自の薬学専門教育</p> <p>ユニット：キャリア形成</p> <p>一般目標：医療人として相手（患者）を思いやる心を持ち、情熱と責任ある態度で積極的かつ協動的に行動できるようになるために、倫理観と奉仕・慈愛の心、円滑な対人力、協調的精神、情熱と責任感及び豊かな人間性など、医療人に相応しい知識、技能、態度を身につける。</p> <p>(1) なりたい自分をさがす</p> <p>一般目標：自らがその能力及び適性、志望に応じて主体的に進路を選択できるようになるために、医療現場等で活躍する薬剤師等の体験談などを通して医療や社会全般を概観し、薬剤師の倫理観、使命感、職業観を認識するとともに、自己研鑽・体験型学習により社会人（医療人）に相応しい態度を身につける。</p> <p>(補足説明) 薬学部では、1、2年次：「なりたい自分をさがす」、3、4年次：「なりたい自分をきめる」、5、6年次：「なりたい自分にむかう」を到達目標と定め、キャリア形成教育を展開している。</p>

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	キャリア形成の重要性を説明できる。 〔講義内容〕薬学生のキャリアデザイン	講義（講義室）	臨時試験（総括的評価）
	2	薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。 〔講義内容〕薬学生のキャリアデザイン	講義（講義室）	臨時試験（総括的評価）
	3	医療の場で求められる薬剤師としてのスキルを説明できる。 〔講義内容〕医師が薬剤師に期待すること	講義（講義室）	レポート（総括的評価） 臨時試験（総括的評価）
	4	地域における薬局の機能と業務について説明できる。 医薬分業の意義と動向を説明できる。 かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。 セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。 災害時の薬局の役割について説明できる。 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。 〔講義内容〕地域における薬局・薬剤師の役割と今後の展望	講義（講義室）	レポート（総括的評価） 臨時試験（総括的評価）
	5	薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。 〔講義内容〕薬剤師のキャリアパスを比較する（1）：保険薬局で活躍する薬剤師（保険薬局で働く薬剤師のキャリアパス）	講義（講義室）	レポート（総括的評価） 臨時試験（総括的評価）
	6	企業、衛生行政などについて概説できる。 〔講義内容〕薬剤師のキャリアパスを比較する（2）：病院で活躍する薬剤師（病院で働く薬剤師のキャリアパス）	講義（講義室）	レポート（総括的評価） 臨時試験（総括的評価）
	7	薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。 〔講義内容〕薬剤師のキャリアパスを比較する（3）：行政機関で活躍する薬剤師（行政機関で働く薬剤師のキャリアパス）	講義（講義室）	レポート（総括的評価） 臨時試験（総括的評価）
	8	薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。 〔講義内容〕薬剤師のキャリアパスを比較する（4）：製薬企業・治験企業等で活躍する薬剤師（製薬企業・治験企業等で働く薬剤師のキャリアパス①）	講義（講義室）	レポート（総括的評価） 臨時試験（総括的評価）
	9	薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。 〔講義内容〕薬剤師のキャリアパスを比較する（5）：製薬企業・治験企業等で活躍する薬剤師（製薬企業・治験企業等で働く薬剤師のキャリアパス②）	講義（講義室）	レポート（総括的評価） 臨時試験（総括的評価）
	10	薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。	講義（講義室）	レポート（総括的評価） 臨時試験（総括的評価）

		<p>【講義内容】薬剤師のキャリアパスを比較する(6):製薬企業・治験企業等で活躍する薬剤師(製薬企業・治験企業等で働く薬剤師のキャリアパス③)</p>																		
	11	<p>自分のこれまでの振り返り、これからをイメージする。 【演習内容】ポートフォリオの作成①</p>	演習(講義室)	<p>成果物(総括的評価) 臨時試験(総括的評価)</p>																
	12	<p>キャリアデザインにおいて、今、すべきことについて計画を立てる。 【演習内容】ポートフォリオの作成②</p>	演習(講義室)	<p>成果物(総括的評価) 臨時試験(総括的評価)</p>																
	13	<p>グローバルな視点で薬学・薬剤師を概説できる。 【講義内容】国際感覚を身につけよう</p>	講義(講義室)	<p>レポート(総括的評価) 臨時試験(総括的評価)</p>																
	14	<p>災害時医療について概説できる。 【講義内容】災害時医療の実践について</p>	講義(講義室)	<p>レポート(総括的評価) 臨時試験(総括的評価)</p>																
	15	<p>【第15回～第16回】 災害時医療について概説できる。 災害時の対応について討議する。 【演習内容】グループワーク(HUG)</p>	演習・グループワーク(講義室他)	観察記録(総括的評価)																
	16	<p>【第17回～第28回】 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度) 災害時医療について概説できる。  【演習内容】下記のA～Eのコースから1つ選択し、自己研鑽・体験型学習に取り組む。 A:教育体験(1年次基盤実習の支援) B:教育体験(常翔啓光学園ピアエデュケーションの支援) C:災害救助訓練の支援 D:学会への参加(聴講) E:公開講座(生涯教育)への参加(聴講)</p>	自己研鑽・体験型学習(講義室他)	<p>観察記録(総括的評価) レポート・成果物(総括的評価)</p>																
	17																			
	18																			
	19																			
	20																			
	21																			
	22																			
	23																			
	24																			
	25																			
	26																			
	27																			
	28																			
	29																			
	30																			
関連科目	<p>薬剤師になるために、スタートアップゼミ、キャリア形成Ⅱ～Ⅳ、患者安全、患者コミュニケーション、医療経済学、薬局経営、セルフマネジメント演習、医薬品開発演習</p>																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬学生・薬剤師のためのキャリアデザインブック</td> <td>西鶴智香</td> <td>薬事日報社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	薬学生・薬剤師のためのキャリアデザインブック	西鶴智香	薬事日報社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	薬学生・薬剤師のためのキャリアデザインブック	西鶴智香	薬事日報社																	
2																				
3																				
評価の時期・方法・基準	<p>成果物(課題やレポート等を含む)(40%)、自己研鑽・体験型学習の取り組み状況(30%)、臨時試験(30%)で評価する。原則、すべての講義に出席し、レポートをすべて提出し、臨時試験を受けたうえ、100点満点中60点以上で合格とする。 なお、修学状況が不良の者については、40点を限度に減点することがある。また、剽窃行為の疑われるレポートは受理しないことがある。</p>																			
学生へのメッセージ																				
担当者の研究室等	<p>奥野:1号館5階(公衆衛生学研究室) 中谷:1号館4階(複合薬物解析学研究室) 梅井:1号館3階(薬化学研究室)</p>																			
備考、事前・事後学習課題	<p>共同担当:河野武幸、曾根知道、尾崎清和、小西元美、高田雅弘、倉本展行、小森浩二、首藤 誠、辻 琢己、中尾晃幸、安原智久、岩崎綾乃、金城俊彦、串畑太郎、栗尾和佐子、山室晶子、外部講師 他 枚方事務室の協力も得ています。</p> <p>担当者には、製薬企業で新薬および後発医薬品の開発に携わった実務経験者も含まれており(中谷)、その経験を活かし、本科目を通して学生達に企業における薬剤師の役割について伝える。</p> <p>自己研鑽・体験学習などの実施日は土・日・祝日になる場合があります。また、事前説明会や発表会を実施します。</p> <p>第16回～第28回に実施する自己研鑽・体験型学習のコースは受け入れ人数の関係で希望に添えないことや一部のコースを設定しないことが</p>																			

	あります。
	事前学習：講義や自己研鑽・体験型学習に参加するにあたり、必要な情報を収集し、個人またはグループでまとめる。(1.5時間×16回) 事後学習：講義や自己研鑽体験型学習を通じて得られた知識などをまとめる。(1.5時間×16回)

科目名	キャリア形成Ⅱ	科目名(英文)	Career Development II
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小西 元美, 首藤 誠, 中尾 晃幸
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2o, DP5o, DP6o, DP8o		
科目ナンバリング	YCA2503a3		

コース・  
ユニット・  
一般目標

コース：A 基本事項  
 ユニット：(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成  
 一般目標：生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と行動力を身につける。  
**【③生涯学習】**  
**【④次世代を担う人材の育成】**

コース：B 薬学と社会  
 一般目標：人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保険・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。  
 ユニット：(4) 地域における薬局と薬剤師  
 一般目標：地域の保険、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。  
**【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】**

コース：本学独自の薬学専門教育 ユニット：キャリア形成  
 一般目標：医療人として相手(患者)を思いやる心を持ち、情熱と責任ある態度で積極的かつ協動的に行動できるようになるために、倫理観と奉仕・慈愛の心、円滑な対人力、協調的精神、情熱と責任感及び豊かな人間性など、医療人に相応しい知識、技能、態度を身につける。  
 (2) になりたい自分をきめる  
 一般目標：自らがその能力及び適性、志望に応じて主体的に進路を選択できるようになるために、自己研鑽・参加型学習によって必要な情報を収集する。  
 補足説明：薬学部では、1、2年次：「になりたい自分をさがす」、3、4年次：「になりたい自分をきめる」、5、6年次：「になりたい自分にむかう」を到達目標と定め、全学年にわたるキャリア形成教育を展開している。薬剤師が活躍している現場での就労体験(インターンシップ)やボランティア活動を行い、自らのキャリアプランが正しいか否かを確認する。

\*本講義は2012年度以降入学生を対象とし、キャリア形成Ⅰを修得していること。

授業計画

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	A(5) <b>【③生涯学習】</b> 1. 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。 内容：キャリアガイダンス	講義(講義室)	レポート(総括的評価)
2	A(5) <b>【③生涯学習】</b> 1. 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。 内容：ポートフォリオの作成①	講義等(講義室)	レポート(総括的評価)
3	A(5) <b>【③生涯学習】</b> 1. 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。 内容：ポートフォリオの作成②	講義等(講義室)	レポート(総括的評価)
4	・言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。 ・意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。 ・相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。 内容：医療通訳	講義等(講義室)	レポート(総括的評価)
5	第5回～第18回 A(5) <b>【③生涯学習】</b> 2. 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。 A(5) <b>【④次世代を担う人材の育成】</b> 1. 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。 B(4) <b>【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</b> 1. 地域包括ケアの理念について説明できる。 2. 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。 3. 学校薬剤師の役割について説明できる。 4. 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。 5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。 内容：下記の10コースから一つを選択し、自己研鑽・参加型学習を行う。 コース A：薬物乱用防止のための講義実施支援 コース B：アロマセラピーの講習・体験 コース C：健康体操の講習・体験 コース D：地域連携プログラムの実施支援 コース E：地域住民を対象とした健康フォーラムの実施支援 コース F：医療(提供)機関でのインターンシップあるいはボランティア コース G：公開講座(生涯教育)の聴講 コース H 避難訓練運営ゲーム(2年生むけ HUG)の実施支援 コース I：医療通訳	実習(外部施設)、プレゼンテーション及びグループ討論(講義室) レポート作成及びプレゼンテーション準備(情報処理演習室等)	観察記録(ピア評価等)(総括的評価)、活動日誌(総括的評価)、レポート(総括的評価)

		コース J : ADL 向上のための整容講座&実施支援 コース K : 学会の聴講		
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
13				
関連科目	薬剤師になるために、早期体験実習、スタートアップゼミ、キャリア形成 I、III、IV、患者安全、患者コミュニケーション、医薬品開発演習、薬局経営、病院・薬局実務実習、他			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャリアデザインブック	西鶴智花	薬事日報社
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	原則として、外部施設での活動及び発表会にすべて出席し、すべての提出物を提出していること。その上で、座学のレポート(30%)及び各コースの自己研鑽・参加型学習の取り組み状況(50%)とその成果物(課題やレポート)(20%)で評価する。100点満点中60点以上で合格とする。ただし、修学状況(出席、受講態度等)不良の者については、減点する事がある。剽窃行為に対して、単位を認めない。			
学生へのメッセージ	授業担当の首藤誠は、9年間薬局薬剤師として勤務した経験、その後、現在に至るまで医療施設と共同研究してきた経験から、薬剤師業務及び医療制度・地域医療など、それらに関連する実践的な教育を行う。			
担当者の研究室等	小西：1号館2階(薬学教育センター 統合薬学分野) 首藤：6号館3階(医療薬学研究室) 中尾：1号館5階(疾病予防学研究室)			
備考、事前・事後学習課題	<p>共同担当：河野武幸、高田雅弘、高松宏治、奥野智史、菊田真穂、辻塚己、安原智久、中谷尊史、中原和秀、串畑太郎、三田村しのぶ、伊藤優、栗尾和佐子、山室晶子、山口昌之、中野友美子、藤林真美(学生部スポーツ振興センター)、外部講師 他 薬学部事務室・就職部の協力も得ています。</p> <p>自己研鑽・参加型学習の各コースは、受け入れ人数の関係で希望に添えない場合や一部コースを設定できない事があります。実施日が夏期休暇中や土、日曜日になる場合もあります。また、事前説明会や発表会を実施します。</p> <p>事前学習：講義や自己研鑽・体験型学習に参加するにあたり、必要な情報を収集し、まとめる。(1.5時間×16回) 事後学習：講義や自己研鑽・体験型学習を通じて得られた知識などを整理し、まとめる。(1.5時間×16回)</p>			

科目名	キャリア形成Ⅲ	科目名(英文)	Career Development III
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	4年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP8○		
科目ナンバリング	YCA2504a3		

コース・ ユニット・ 一般目標	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
-----------------------	--

キャリア形成科目

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	オリエンテーション ーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修: ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。
	2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修: 仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
	3	目標設定とPDCAサイクル スケジュールと出張業務	・目標設定(MBO) ・PDCAとは ・チームと個人の役割 ・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式	・事前学修: PDCAについて調べる。あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる(400字以上)。あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
	4	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPOをもとに	・事前学修: 敬語プリント①をする。 ・事後学修: ケーススタディプリントをする。
	5	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話応対プリントをする。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。
	6	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修: 来客対応プリント①をする。 ・事後学修: 来客対応プリント②をする。
	7	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
	8	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書始める前にする。 ・事後学修: ビジネス文書②をする。
	9	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書始③をする。 ・事後学修: ビジネス文書④をする。
	10	ビジネス通信の基本	・通信手段(電子メール、ファックス等)の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修: メール文書を作成する。
	11	法的業務 設営の基本	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護(Pマーク) ・コンプライアンス ・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: コンプライアンスについて調べる。同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する(400字以上)。設営事例をまとめる。
	12	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修: ビジネス文書(社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。
	13	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修: 全体をまとめる。
	14			
15				

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考、事前・事後学習課題	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	キャリア形成IV	科目名(英文)	Career Development IV
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	5年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	中谷 尊史, 小西 元美, 奈邊 健, 山口 太郎
ディプロマポリシー(DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	YCA3505a3		

キャリア形成科目

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>コース：本学独自の薬学専門教育 ユニット：キャリア形成</p> <p>一般目標：医療人として相手（患者）を思いやる心を持ち、情熱と責任ある態度で積極的かつ協動的に行動できるようになるために、倫理観と奉仕・慈愛の心、円滑な対人力、協調的精神、情熱と責任感及び豊かな人間性など、医療人に相応しい知識、技能、態度を身につける。 (3) になりたい自分にむかう</p> <p>一般目標：様々な分野で活躍するOBの体験談などの聴講や、グループワークによる医療業界研究の実施を通して、自らがその能力及び適性、志望に応じて主体的に進路を選択するとともにキャリアプランを立てる。</p> <p>補足説明；薬学部では、1、2年次：「になりたい自分をさがす」、3、4年次：「になりたい自分をきめる」、5、6年次：「になりたい自分にむかう」を到達目標と定め、全学年にわたるキャリア形成教育を展開している。薬剤師が活躍している現場での就労体験（インターンシップ）やボランティア活動を行い、自らのキャリアプランが正しいか否かを確認する。</p> <p>コース：A 基本事項 ユニット：(1) 薬剤師の使命 一般目標：医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。 【①医療人として】 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>コース：B 薬学と社会 一般目標：人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保険・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。 ユニット：(4) 地域における薬局と薬剤師 一般目標：地域の保険、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。 【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</p>
--------------------------------	---

<p>授業計画</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> <p>【第1回～2回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。 キャリア形成(3) になりたい自分に向かう 講義内容：キャリアガイダンス</p> </td> <td>講義（講義室）</td> <td>レポート（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> <p>【第3回～4回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。 キャリア形成(3) になりたい自分に向かう 講義内容：製薬企業・治験企業等で活躍する薬剤師のキャリアパス</p> </td> <td>講義等（講義室）</td> <td>レポート（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td> <p>【第5回～7回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。 5. 医薬品の創製（研究開発、生産等）における薬剤師の役割について説明できる。 キャリア形成(3) になりたい自分に向かう 演習内容：グループワーク 医療業界研究（製薬企業、治験企業など）</p> </td> <td>演習・グループワーク（講義室）</td> <td>レポート（総括的評価） 成果物（総括的評価） 観察記録（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td> <p>【第8回～9回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。 B(1) 【①医療人として】</p> <p>3. チーム医療や地域保健・医療福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。 キャリア形成(3) になりたい自分に向かう 講義内容：医療機関（病院、保険薬局など）で活躍する薬剤師のキャリアパス</p> </td> <td>講義等（講義室）</td> <td>レポート（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td> <p>【第10回～12回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。 B(4) 【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</p> <p>5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。 キャリア形成(3) になりたい自分に向かう 演習内容：グループワーク 医療業界研究（病院、保険薬局など）</p> </td> <td>演習・グループワーク（講義室）</td> <td>レポート（総括的評価） 成果物（総括的評価） 観察記録（総括的評価）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td> <p>【第13回～15回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政</p> </td> <td>講義等（講義室）</td> <td>レポート（総括的評価）</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	<p>【第1回～2回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。 キャリア形成(3) になりたい自分に向かう 講義内容：キャリアガイダンス</p>	講義（講義室）	レポート（総括的評価）	2	<p>【第3回～4回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。 キャリア形成(3) になりたい自分に向かう 講義内容：製薬企業・治験企業等で活躍する薬剤師のキャリアパス</p>	講義等（講義室）	レポート（総括的評価）	3	<p>【第5回～7回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。 5. 医薬品の創製（研究開発、生産等）における薬剤師の役割について説明できる。 キャリア形成(3) になりたい自分に向かう 演習内容：グループワーク 医療業界研究（製薬企業、治験企業など）</p>	演習・グループワーク（講義室）	レポート（総括的評価） 成果物（総括的評価） 観察記録（総括的評価）	4	<p>【第8回～9回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。 B(1) 【①医療人として】</p> <p>3. チーム医療や地域保健・医療福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。 キャリア形成(3) になりたい自分に向かう 講義内容：医療機関（病院、保険薬局など）で活躍する薬剤師のキャリアパス</p>	講義等（講義室）	レポート（総括的評価）	5	<p>【第10回～12回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。 B(4) 【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</p> <p>5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。 キャリア形成(3) になりたい自分に向かう 演習内容：グループワーク 医療業界研究（病院、保険薬局など）</p>	演習・グループワーク（講義室）	レポート（総括的評価） 成果物（総括的評価） 観察記録（総括的評価）	6	<p>【第13回～15回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政</p>	講義等（講義室）	レポート（総括的評価）
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																										
1	<p>【第1回～2回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。 キャリア形成(3) になりたい自分に向かう 講義内容：キャリアガイダンス</p>	講義（講義室）	レポート（総括的評価）																										
2	<p>【第3回～4回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。 キャリア形成(3) になりたい自分に向かう 講義内容：製薬企業・治験企業等で活躍する薬剤師のキャリアパス</p>	講義等（講義室）	レポート（総括的評価）																										
3	<p>【第5回～7回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。 5. 医薬品の創製（研究開発、生産等）における薬剤師の役割について説明できる。 キャリア形成(3) になりたい自分に向かう 演習内容：グループワーク 医療業界研究（製薬企業、治験企業など）</p>	演習・グループワーク（講義室）	レポート（総括的評価） 成果物（総括的評価） 観察記録（総括的評価）																										
4	<p>【第8回～9回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。 B(1) 【①医療人として】</p> <p>3. チーム医療や地域保健・医療福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。 キャリア形成(3) になりたい自分に向かう 講義内容：医療機関（病院、保険薬局など）で活躍する薬剤師のキャリアパス</p>	講義等（講義室）	レポート（総括的評価）																										
5	<p>【第10回～12回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。 B(4) 【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</p> <p>5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。 キャリア形成(3) になりたい自分に向かう 演習内容：グループワーク 医療業界研究（病院、保険薬局など）</p>	演習・グループワーク（講義室）	レポート（総括的評価） 成果物（総括的評価） 観察記録（総括的評価）																										
6	<p>【第13回～15回】</p> <p>A(1) 【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <p>2. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政</p>	講義等（講義室）	レポート（総括的評価）																										

	等) と社会における役割について説明できる。 キャリア形成(3) になりたい自分に向かう 講義内容：キャリアガイダンス、様々な分野で活躍する薬剤師のキャリアパス																		
	7																		
	8																		
	9																		
	10																		
	11																		
	12																		
	13																		
	14																		
	15																		
関連科目	薬剤師になるために、早期体験実習、スタートアップゼミ、キャリア形成Ⅰ、キャリア形成Ⅱ、キャリア形成Ⅲ、臨床研究立案演習、薬局経営・マネジメント論、病院・薬局実務実習、他																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>キャリアデザインブック</td> <td>西鶴智花</td> <td>薬事日報社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	キャリアデザインブック	西鶴智花	薬事日報社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	キャリアデザインブック	西鶴智花	薬事日報社																
2																			
3																			
評価の時期・方法・基準	原則として、キャリア支援行事及び講義にすべて出席し、すべての提出物を提出していること。その上で、パフォーマンス評価（活動日誌、レポート等）で評価する。100点満点中60点以上で合格とする。ただし、修学状況（出席、受講態度等）不良の者については、減点する事がある。剽窃行為に対して、単位を認めない。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	中谷 尊史：1号館4階（複合薬物解析学研究室） 小西 元美：1号館2階（薬学教育センター統合薬学分野） 奈邊 健：1号館7階（薬効薬理学研究室） 山口 太郎：1号館6階（薬理学研究室）																		
備考、事前・事後学習課題	<p>共同担当：河野武幸、伊藤潔、佐久間信至、矢部武士、奥野智史、菊田真穂、小森浩二、向井啓、米山雅紀、佐藤和之、眞島崇、外部講師 他 薬学部事務室・就職部の協力も得ています。</p> <p>担当者には、製薬企業で新薬および後発医薬品の開発に携わった実務経験者も含まれており、その経験を活かし、本科目を通して学生達に企業における薬剤師の役割について伝える。</p> <p>事前学習：講義やキャリア支援行事に参加するにあたり、必要な情報を収集し、まとめる。(1.5時間×15回) 事後学習：講義やキャリア支援行事を通じて得られた知識などを整理し、まとめる。(1.5時間×15回)</p>																		

科目名	患者安全	科目名 (英文)	Patient Safety
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	2年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	辻 琢己, 岩崎 綾乃, 眞島 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP5◎, DP6◎, DP8◎		
科目ナンバリング	YCA2506a3		

	<p>コース：A 基本事項</p> <p>ユニット</p> <p>(1) 薬剤師の使命</p> <p>一般目標：医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。</p> <p>【③患者安全と薬害の防止】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)</li> <li>2. WHO による患者安全の考え方について概説できる。</li> <li>3. 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。</li> <li>4. 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を挙示し、その原因と防止策を説明できる。</li> </ol> <p>(2) 薬剤師に求められる倫理観</p> <p>一般目標：倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。</p> <p>【②医療倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。</li> </ol> <p>【③患者の権利】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)</li> <li>2. 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。</li> <li>3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。</li> <li>4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)</li> </ol> <p>(4) 多職種連携協働とチーム医療</p> <p>一般目標：医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種との連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)</li> </ol>
コース・ユニット・一般目標	<p>コース：B 薬学と社会</p> <p>一般目標：人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。</p> <p>ユニット</p> <p>(1) 人と社会に関わる薬剤師</p> <p>一般目標：人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤師の関わりを認識する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)</li> <li>5. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)</li> </ol> <p>コース：F 薬学臨床</p> <p>一般目標：患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。</p> <p>ユニット</p> <p>(1) 薬学臨床の基礎</p> <p>一般目標：医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。</p> <p>【②臨床における心構え】【A (1)、(2) 参照】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)</li> <li>2. 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)</li> </ol> <p>(2) 処方せんに基づく調剤</p> <p>一般目標：処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。</p> <p>【⑥安全管理】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前) 処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を挙示できる。</li> <li>2. 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を挙示できる。</li> <li>3. 前) 代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)</li> </ol>

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	<p>1回（世界標準の患者安全1）</p> <p>○WHO による患者安全の考え方について概説できる。</p> <p>○医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。</p>	<p>講義、自己学習</p> <p>教材：ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド及びプリント</p>	臨時試験（総括的評価）
2	<p>2-5回（指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策（改善策）を提案し発表する。）</p> <p>○医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)</p> <p>○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)</p> <p>○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)</p> <p>○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)</p> <p>○薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)</p> <p>○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)</p> <p>○前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)</p> <p>○前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応が</p>	<p>小グループ討論、発表会、自己学習</p>	<p>成果物（レポート、発表資料等）（総括的評価）、観察記録等（グループワークへの貢献度等）（総括的評価）</p>	

	<p>できる。(態度)</p> <p>○前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。</p> <p>○前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。</p> <p>○前) 代表的なインシデント(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)</p>		
3	<p>6回(世界標準の患者安全2)</p> <p>○医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。</p>	<p>講義、自己学習</p> <p>教材:ねころんで読めるWHO患者安全カリキュラムガイド及びプリント</p>	<p>臨時試験(総括的評価)</p>
4	<p>7-10回(指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策)を提案し発表する。)</p> <p>○医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)</p> <p>○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)</p> <p>○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)</p> <p>○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)</p> <p>○薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)</p> <p>○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)</p> <p>○前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)</p> <p>○前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)</p> <p>○前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。</p> <p>○前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。</p> <p>○前) 代表的なインシデント(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)</p>	<p>小グループ討論、発表会、自己学習</p>	<p>成果物(レポート、発表資料等)(総括的評価)、観察記録等(グループワークへの貢献度等)(総括的評価)</p>
5	<p>11回(世界標準の患者安全3)</p> <p>○医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。</p> <p>○患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。</p> <p>○患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。</p>	<p>講義、自己学習</p> <p>教材:ねころんで読めるWHO患者安全カリキュラムガイド及びプリント</p>	<p>臨時試験(総括的評価)</p>
6	<p>12-15回(指定された事例について、小グループ討論によって必要な情報や問題点を収集・考察し、最善の対応策(改善策)を提案し発表する。)</p> <p>○医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)</p> <p>○患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)</p> <p>○知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)</p> <p>○自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)</p> <p>○薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)</p> <p>○倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)</p> <p>○前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)</p> <p>○前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)</p> <p>○前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。</p> <p>○前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。</p> <p>○前) 代表的なインシデント(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)</p>	<p>小グループ討論、発表会、自己学習</p>	<p>成果物(レポート、発表資料等)(総括的評価)、観察記録等(グループワークへの貢献度等)(総括的評価)</p>
7			
8			
9			

	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
関連科目	薬剤師になるために、生命倫理学、教育学、社会学、他			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド	相馬孝博	メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	①レポートや発表用資料等の成果物、②SGD、発表、質疑応答等での観察記録（以上 40 点）及び③臨時試験（60 点）を合わせ 100 点とし、60 点以上を合格とします。			
学生へのメッセージ	<p>医療事故（医療行為に関する予期しない結果）は、日々発生しています。これを未然に防ぐことは、患者さんを守るだけでなく、医療従事者自身を守ることにもなります。本科目では、薬剤師、看護師、医師等の医療従事者になりきって、積極的に考え、悩んで下さい。</p> <p>授業担当者の辻球己は、臨床薬剤師として勤務した経験から、実臨床での患者（医療）安全の考え方や対応策等について、画一的な考えに捉われることなく、常に考える実践的な教育を行う。【過去の勤務施設：北大阪警察病院病院（4年間+α）、国立病院機構京都医療センター（5年間（1日/週）、救命救急センター担当）】</p> <p>授業担当者の眞島崇は、ドリーム調剤薬局等で薬局薬剤師として5年、奥羽大学歯学部附属病院で非常勤病院薬剤師として1年勤務し、また看護学部教員（成人看護領域）として2年間看護学生の指導に当たった経験から、薬剤師や看護師、コメディカル職種の視点から医療安全について考える実践的な教育を行う。</p> <p>授業担当者の岩崎綾乃は、国立の研究機関での2年間の特別研究員としての経験をもとに医療の担い手が守るべき倫理規範をふまえた実践的な教育を行う。</p>			
担当者の研究室等	辻：1号館3階（病態医学研究室） 岩崎：1号館4階（統合薬学分野） 眞島：1号館4階（実践薬学分野） 森谷、山本、神谷、吉永：7号館3階			
備考、事前・事後学習課題	修学状況（受講態度等）が不良の場合、20点を限度に減点することがあります。 課題やレポート等に関するフィードバックは、講義及び小グループ討論の中で、適宜、行います。 事前学習：実際に起こった医療事故等について自己で調査し、自分の考えを発言できるようにして下さい。（2.5時間×3回） 事後学習：他者の考えを受け入れ、より良い対策を考えて下さい。（2.5時間×3回）			

科目名	患者コミュニケーション	科目名 (英文)	Communication for Patients
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 結華, 岩崎 綾乃, 眞島 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP6◎, DP8◎		
科目ナンバリング	YCA2507a3		

<p>コース・ユニット・一般目標</p>	<p>コース：A 基本事項 ユニット (3) 信頼関係の構築 一般目標：患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。</p> <p>【②患者・生活者と薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。</li> <li>2. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)</li> </ol> <p>コース：B 薬学と社会 一般目標：人と社会に関わる薬剤師として自覚をもって行動するために、保健・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。</p> <p>(1) 人と社会に関わる薬剤師 一般目標：人の行動や考え、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤師の関わりを認識する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。</li> <li>2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)</li> </ol> <p>コース：E 医療薬学 E3 薬物治療に役立つ情報 一般目標：薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、処方設計を提案したり、臨床上の問題解決ができるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集・評価・加工、臨床研究デザイン・解析などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的事項を身につける。</p> <p>(2) 患者情報 一般目標：患者からの情報の収集、評価に必要な基本的事項を修得する。</p> <p>【①情報と情報源】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。</li> <li>2. 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。</li> </ol> <p>【②収集・評価・管理】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。</li> <li>4. 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。</li> </ol> <p>コース：F 薬学臨床 一般目標：患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。</p> <p>(2) 処方せんに基づく調剤 一般目標：処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。</p> <p>【④患者・来局者応対、服薬指導、患者教育】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前) 適切な態度で、患者・来局者と応対できる。(態度)</li> </ol>
----------------------	---

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	<p>1 回</p> <p>○医療の場における患者－医療者間のコミュニケーションの特徴を理解する</p> <p>A 基本事項</p> <p>(3) 信頼関係の構築</p> <p>【②患者・生活者と薬剤師】</p> <p>1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。</p>	<p>講義、自己学習 (事前課題: テキスト付録の DVD を視聴し、指定箇所を読んでくる。)</p> <p>テキスト: がん医療におけるコミュニケーション・スキル－悪い知らせをどう伝えるか</p>	<p>成果物 (個人ワークシート記録、最終レポート等) (総括的評価)、観察記録等 (形成的評価)</p>
2	<p>2～5 回</p> <p>小グループ討議 1</p> <p>A 基本事項</p> <p>(3) 信頼関係の構築</p> <p>【②患者・生活者と薬剤師】</p> <p>1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。</p> <p>2. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)</p>	<p>小グループ討議演習 (90 分 x 3 回)、発表会 (90 分 x 1 回)、自己学習</p>	<p>成果物 (個人ワークシート記録、発表会用資料、最終レポート等)、観察記録 (討議: ピア評価も含む、発表会) (総括的評価)</p>
3	<p>6 回</p> <p>○医療を受ける患者を理解し (特に心理プロセス)、コミュニケーション上の配慮を説明できる</p> <p>A 基本事項</p>	<p>講義、自己学習</p> <p>教材: がん医療におけるコミュニケーション・スキル－悪い知らせをどう伝えるか</p>	<p>成果物 (個人ワークシート記録、最終レポート等) (総括的評価)、観察記録等 (形成的評価)</p>

	<p>(3) 信頼関係の構築</p> <p>【②患者・生活者と薬剤師】</p> <p>1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。</p> <p>B 薬学と社会</p> <p>(1) 人と社会に関わる薬剤師</p> <p>1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。</p>		
4	<p>7～10回 小グループ討議2</p> <p>A 基本事項</p> <p>(3) 信頼関係の構築</p> <p>【②患者・生活者と薬剤師】</p> <p>1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。</p> <p>2. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)</p> <p>B 薬学と社会</p> <p>(1) 人と社会に関わる薬剤師</p> <p>1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。</p> <p>2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)</p>	<p>小グループ討議演習 (90分 x 3回)、発表会 (90分 x 1回)、自己学習</p>	<p>成果物 (個人ワークシート記録、発表会用資料、最終レポート等)、観察記録 (討議:ピア評価も含む、発表会) (総括的評価)</p>
5	<p>11回 ○患者—医療者のコミュニケーション (会話) に必要な技法について説明できる</p> <p>A 基本事項 ユニット</p> <p>(3) 信頼関係の構築</p> <p>【②患者・生活者と薬剤師】</p> <p>1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。</p> <p>B 薬学と社会</p> <p>1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。</p>	<p>講義、自己学習 教材:がん医療におけるコミュニケーション・スキル—悪い知らせをどう伝えるか</p>	<p>成果物 (個人ワークシート記録、最終レポート等) (総括的評価)、観察記録等 (形成的評価)</p>
6	<p>12～15回 小グループ討議3</p> <p>A 基本事項</p> <p>(3) 信頼関係の構築</p> <p>【②患者・生活者と薬剤師】</p> <p>2. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)</p> <p>B 薬学と社会</p> <p>(1) 人と社会に関わる薬剤師</p> <p>2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)</p> <p>E 医療薬学</p> <p>E3 薬物治療に役立つ情報</p> <p>(2) 患者情報</p> <p>【①情報と情報源】</p>	<p>小グループ討議演習 (90分 x 3回)、発表会 (90分 x 1回)、自己学習</p>	<p>成果物 (個人ワークシート記録、発表会用資料、最終レポート等)、観察記録 (討議:ピア評価も含む、発表会) (総括的評価)</p>

	<p>1. 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。</p> <p>2. 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。</p> <p>【②収集・評価・管理】</p> <p>3. 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。</p> <p>4. 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。</p> <p>F 薬学臨床 (2) 処方せんに基づく調剤</p> <p>【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】</p> <p>1. 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。(態度)</p>																			
	7																			
	8																			
	9																			
	10																			
	11																			
	12																			
	13																			
	14																			
	15																			
関連科目	心理学、臨床心理学、発達心理学、実践薬学Ⅱ、Ⅲ、プレファーマシー実習																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>がん医療におけるコミュニケーション・スキル—悪い知らせをどう伝えるか</td> <td>内富 庸介 藤森 麻衣子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	がん医療におけるコミュニケーション・スキル—悪い知らせをどう伝えるか	内富 庸介 藤森 麻衣子	医学書院	2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	がん医療におけるコミュニケーション・スキル—悪い知らせをどう伝えるか	内富 庸介 藤森 麻衣子	医学書院																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価の時期・方法・基準	成果物（個人ワークシート記録、発表会用資料等）の提出状況（30%）、最終レポートの内容および提出状況（30%）、態度・パフォーマンスに関する観察記録（ピア評価を含む）（40%）で評価する（100点満点中60点以上で合格）。なお、修学状況（受講態度等）が不良の場合、20点を限度に減点することがある。																			
学生へのメッセージ	薬学部・看護学部生の共同学習です。患者と医療者および医療者間のコミュニケーションの基本的概念について、体験的学習を通して学んでください。 ＜授業担当者の実務経験＞田中結華は大学病院での4年の看護実践経験がある。眞野祥子は精神科病院での4年の実践経験がある。岩崎綾乃は国立の研究機関における2年間の特別研究員の経験を実践教育に活かす。眞島崇は薬局薬剤師として5年、非常勤病院薬剤師として1年の実務経験がある。また、看護学部教員（成人看護領域）としての2年間の看護学生指導経験を本講義での実践教育に活かす。																			
担当者の研究室等	岩崎：1号館4階（統合薬学分野：岩崎講師室） 眞島：1号館4階（実践薬学分野：眞島講師室） 田中：7号館3階（看護学部研究室9） 眞野：7号館3階（看護学部研究室19）																			
備考、事前・事後学習課題	事前学習（1.5時間 x 15回）：演習ならびに課題に取り組むために、必要な情報を収集し、教科書の指定箇所（事前に指示）を学んでおく。（1. 教科書を読む、2. 事前に指示されたDVDを視聴する） 事後学習（1.5時間 x 15回）：演習ならびに課題を振り返る（1. 授業で行ったSGDを振り返り、再度教科書の該当内容を確認する。2. 指示されたDVDや映像を視聴し、振り返りを行う。） なお、課題（グループ発表資料等）については、発表時にフィードバックを行い、口頭発表であれば、教員から総括のコメントを行う。																			

科目名	カルテ読解演習	科目名 (英文)	Seminar of Reading Comprehension of Clinical Records
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	4年	クラス	ABCDEF
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小森 浩二, 河田 興, 菊田 真徳, 倉本 展行, 河野 武幸, 小西 麗子, 高田 雅弘, 奈邊 健, 眞島 崇, 三田村 しのぶ, 向井 啓, 吉岡 靖啓, 吉田 侑矢
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	YCA3508a3		

コース：A 基本事項

ユニット：

(1) 薬剤師の使命

一般目標：医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。

【①医療人として】

【②薬剤師が果たすべき役割】

【③患者安全と薬害の防止】

(2) 薬剤師に求められる倫理観

一般目標：倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。

【①生命倫理】

【②医療倫理】

【③患者の権利】

(3) 信頼関係の構築

一般目標：患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。

【①コミュニケーション】

【②患者・生活者と薬剤師】

(4) 多職種連携協働とチーム医療

一般目標：医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

一般目標：生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と行動力を身につける。

【①学習の在り方】

コース：B 薬学と社会

一般目標：人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。

ユニット：

(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範

一般目標：調剤、医薬品等（医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の供給、その他薬事衛生に係る任務を薬剤師として適正に遂行するために必要な法規範とその意義を理解する。

【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】

コース・  
ユニット・  
一般目標

コース：E 医療薬学

E1 薬の作用と体の変化

一般目標：疾病と薬物の作用に関する知識を修得し、医薬品の作用する過程を理解する。

ユニット：

(2) 身体の病的変化を知る

一般目標：身体の病的変化から疾患を推測できるようになるために、代表的な症候、病態・臨床検査に関する基本的事項を修得する。

【①症候】

【②病態・臨床検査】

(3) 薬物治療の位置づけ

一般目標：医療チームの一員として薬物治療に参画できるようになるために、代表的な疾患における治療と薬物療法に関する基本的事項を修得する。

(4) 医薬品の安全性

一般目標：医療における医薬品のリスクを回避できるようになるために、有害事象（副作用、相互作用）、薬害、薬物乱用に関する基本的事項を修得する。

E2 薬理・病態・薬物治療

一般目標：患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。

ユニット：

(1) 神経系の疾患と薬

一般目標：神経系・筋に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】

(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬

一般目標：免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】

【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】

(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬

一般目標：循環器系・血液・造血器系・泌尿器系・生殖器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①循環器系疾患の薬、病態、治療】

【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】

【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】

(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬

一般目標：呼吸器系・消化器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・

解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】  
 【②消化器系疾患の薬、病態、治療】  
 (5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬  
 一般目標：代謝系・内分泌系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①代謝系疾患の薬、病態、治療】  
 (7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬  
 一般目標：病原微生物（細菌、ウイルス、真菌、原虫）、および悪性新生物に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①抗菌薬】  
 【②抗菌薬の耐性】  
 【③細菌感染症の薬、病態、治療】  
 【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】  
 【⑤悪性腫瘍の薬、病態、治療】  
 (11) 薬物治療の最適化  
 一般目標：最適な薬物治療の実現に貢献できるようになるために、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①総合演習】

**E3 薬物治療に役立つ情報**  
 一般目標：薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、処方設計を提案したり、臨床上の問題解決ができるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集・評価・加工、臨床研究デザイン・解析などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的事項を身につける。

ユニット：  
 (1) 医薬品情報  
 一般目標：医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理・評価、EBM の実践、生物統計ならびに臨床研究デザイン・解析に関する基本的事項を修得する。

【④EBM (Evidence-based Medicine)】  
 (3) 個別化医療  
 一般目標：薬物治療の個別化に関する基本的事項を修得する。

【⑤個別化医療の計画・立案】

**E4 薬の生体内運命**  
 一般目標：薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになるために、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それらを活用する基本的技能を身につける。

ユニット：  
 (2) 薬物動態の解析  
 一般目標：薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項を修得する。

【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】

**F 薬学臨床**  
 一般目標：患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

ユニット：  
 (1) 薬学臨床の基礎  
 一般目標：医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場で必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

【②臨床における心構え】〔A (1)、(2) 参照〕  
 (2) 処方せんに基づく調剤  
 一般目標：処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。

【②処方せんと疑義照会】  
 【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】  
 (3) 薬物療法の実践  
 一般目標：患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

【① 患者情報の把握】  
 【②医薬品情報の収集と活用】〔E 3 (1) 参照〕  
 【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】  
 【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】  
 (4) チーム医療への参画〔A (4) 参照〕  
 一般目標：医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。

【①医療機関におけるチーム医療】

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	1-10 回 ・常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度) ・患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度) ・チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度) ・患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度) ・様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度) ・患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度) ・医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。 ・医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)	講義、小グループ討論、自己学習	成果物（レポート等）、観察記録（グループワークへの貢献度等）（総括的評価）

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)</li> <li>・生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)</li> <li>・患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)</li> <li>・知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)</li> <li>・相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)</li> <li>・自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)</li> <li>・適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)</li> <li>・適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)</li> <li>・他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)</li> <li>・患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)</li> <li>・自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)</li> <li>・チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)</li> <li>・医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)</li> <li>・講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)</li> <li>・必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)</li> <li>・得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)</li> <li>・インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)</li> <li>・個人情報取扱いについて概説できる。</li> <li>・以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害</li> <li>・尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>・血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>・血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>・免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>・動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>・代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>・代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>・代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>・代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。</li> <li>・代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)</li> <li>・薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。</li> <li>・薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。</li> <li>・以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害</li> </ul>	
--	--	--



	<p>な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</li> <li>・脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</li> <li>・高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</li> <li>・以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤(ST合剤を含む)、その他の抗菌薬</li> <li>・細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、その作用機序を説明できる。</li> <li>・主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。</li> <li>・以下の呼吸器感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。上気道炎(かぜ症候群(大部分がウイルス感染症)を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎</li> <li>・ウイルス性肝炎(HAV、HBV、HCV)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(病態生理(急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。(重複)</li> <li>・以下の白血病について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。急性(慢性)骨髄性白血病、急性(慢性)リンパ性白血病、成人T細胞白血病(ATL)</li> <li>・肺癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</li> <li>・代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)</li> <li>・過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)</li> <li>・長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)</li> <li>・EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。</li> <li>・個別の患者情報(遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など)と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)</li> <li>・薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)</li> <li>・前)医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)</li> <li>・前)患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)</li> <li>・前)患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)</li> <li>・前)代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。</li> <li>・前)処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。</li> <li>・前)薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。</li> <li>・前)基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。</li> <li>・前)患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)[E3(2)①参照]</li> <li>・前)身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。</li> <li>・前)基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)</li> <li>・前)薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)</li> <li>・前)代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。</li> <li>・前)病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用</li> </ul>		
--	---	--	--

	<p>法・用量設定を立案できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。</li> <li>・前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。</li> <li>・前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。</li> <li>・前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。</li> <li>・前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。</li> <li>・前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)</li> <li>・前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。</li> </ul>		
<p>2</p>	<p>11-20回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)</li> <li>・患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)</li> <li>・チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)</li> <li>・患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)</li> <li>・様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)</li> <li>・患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)</li> <li>・医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。</li> <li>・医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)</li> <li>・重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)</li> <li>・生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)</li> <li>・患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)</li> <li>・知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)</li> <li>・相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)</li> <li>・自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)</li> <li>・適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)</li> <li>・適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)</li> <li>・他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)</li> <li>・患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)</li> <li>・自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)</li> <li>・チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)</li> <li>・医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)</li> <li>・講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)</li> <li>・必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)</li> <li>・得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)</li> <li>・インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)</li> <li>・個人情報の取扱いについて概説できる。</li> <li>・以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・</li> </ul>	<p>小グループ討論、自己学習</p>	<p>成果物(レポート等)、観察記録(グループワークへの貢献度等)(総括的評価)</p>

	<p>関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>・血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>・血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>・免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>・動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>・代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>・代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>・代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>・代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。</li> <li>・代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能）</li> <li>・薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。</li> <li>・薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。</li> <li>・以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害</li> <li>・脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</li> <li>・Parkinson（パーキンソン）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</li> <li>・以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態（病態生理、症状等）および対処法を説明できる。Stevens-Johnson（スティーブンス-ジョンソン）症候群、中毒性表皮壊死症（重複）、薬剤性過敏症症候群、薬疹</li> <li>・関節リウマチについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</li> <li>・以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。不整脈の例示：上室性期外収縮（PAC）、心室性期外収縮（PVC）、心房細動（Af）、発作性上室頻拍（PSVT）、WPW 症候群、心室頻拍（VT）、心室細動（VF）、房室ブロック、QT 延長症候群</li> <li>・急性および慢性心不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</li> <li>・虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</li> <li>・以下の高血圧症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。本態性高血圧症、二次性高血圧症（腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む）</li> <li>・止血薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。</li> <li>・抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。</li> <li>・以下の貧血について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血（悪性貧血等）、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血（AIHA）、腎性貧血、鉄芽球性貧血</li> <li>・播種性血管内凝固症候群（DIC）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</li> <li>・以下の疾患について治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療</li> </ul>	
--	---	--

	<p>療（医薬品の選択等）を説明できる。血友病、血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病（重複）、悪性リンパ腫（重複）（E2（7））【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利尿薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。</li> <li>・急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</li> <li>・以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。慢性腎臓病（CKD）、糸球体腎炎（重複）、糖尿病性腎症（重複）、薬剤性腎症（重複）、腎盂腎炎（重複）、膀胱炎（重複）、尿路感染症（重複）、尿路結石</li> <li>・気管支喘息について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</li> <li>・慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患（ニコチン依存症を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</li> <li>・間質性肺炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</li> <li>・鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。</li> <li>・炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</li> <li>・肝疾患（肝炎、肝硬変（ウイルス性を含む）、薬剤性肝障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</li> <li>・糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</li> <li>・脂質異常症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</li> <li>・高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</li> <li>・以下の抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体（アミノグリコシド）系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤（ST 合剤を含む）、その他の抗菌薬</li> <li>・細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤（ワクチン等）を挙げ、その作用機序を説明できる。</li> <li>・主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。</li> <li>・以下の呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。上気道炎（かぜ症候群（大部分がウイルス感染症）を含む）、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎</li> <li>・ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（重複）</li> <li>・以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病、成人T細胞白血病（ATL）</li> <li>・肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</li> <li>・代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。（知識・態度）</li> <li>・過剰量の医薬品による副作用への対応（解毒薬を含む）を討議する。（知識・態度）</li> <li>・長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。（知識・態度）</li> <li>・EBM の基本概念と実践のプロセスについて説明できる。</li> <li>・個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。（技能）</li> </ul>	
--	---	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識・技能)</li> <li>・前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)</li> <li>・前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)</li> <li>・前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)</li> <li>・前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。</li> <li>・前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。</li> <li>・前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。</li> <li>・前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。</li> <li>・前) 患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) [E 3 (2) ①参照]</li> <li>・前) 身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。</li> <li>・前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)</li> <li>・前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)</li> <li>・前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。</li> <li>・前) 病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。</li> <li>・前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。</li> <li>・前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。</li> <li>・前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。</li> <li>・前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。</li> <li>・前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。</li> <li>・前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)</li> <li>・前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。</li> </ul>		
3	21-24 回 取り上げた全症例について討議結果にかかわる全体発表会を行い、知識の共有化を図る。外部講師として医師をお招きする。	発表会	成果物(発表用資料等)、観察記録(発表、質疑応答及びグループワークへの貢献度)(総括的評価)
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

関連科目	薬物治療学、病態生化学、病態生理学、感染症学、プレファーマシー実習、薬学臨床実習 他			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	<p>演習には全て出席し、課題（レポート等）も全て提出していることを単位認定の必須要件とします。その上で、①レポートや発表用資料等の成果物の評点と発表、質疑応答での観察記録及びグループワーク等によるパフォーマンス評価（以上60点）、②グループワークへの貢献度に関する観察記録、ピア評価及びグループワーク等によるパフォーマンス評価（40点）をあわせ100点とし、60点以上を合格とします。かつ、「臨床準備教育における概略評価」において、本科目で評価対象とするすべての観点で「第1段階」以上に到達していることを単位認定の必須要件とします。なお、本科目で評価対象とする観点については、講義の初めに示します。</p>			
学生へのメッセージ	<p>世界に一つしかない「患者診療録（カルテ）」に記載されている記述内容から、患者状態を評価・推測し、治療介入の適切性を吟味し、処方設計や提案などの他の介入の可能性を探る思考を身に付けてもらいます。加えて、それら「臨床判断」を「患者や他の医療スタッフに対しどのように伝えるか」などの思考に基づいた成果物を作成してもらいます。</p> <p>これらの指導には、27年間医師（専門は小児科、新生児、NICU）としての経験を有する河田興をはじめ、小森浩二（病院薬剤師として5年以上）、菊田真穂（病院薬剤師として12年以上、今も研修中）、向井啓（大学病院で薬剤師として6年間、今も研修中）、眞島崇（薬局と病院併せて6年以上、今も薬剤師として研修中）、吉田侑矢（薬局薬剤師として1年以上、今も研修中）、小西麗子（市民病院で9年間、今も研修中）など臨床経験に富んだ教員が、実践的な指導を行います。</p>			
担当者の研究室等	<p>小森、河田、向井、眞島、小西（麗）：1号館4階（実践薬学分野）          河野、吉田：1号館3階（病態医学研究室）          奈邊：1号館7階（薬効薬理学研究室）          吉岡：1号館3階（薬物治療学研究室）          倉本：1号館3階（機能形態学研究室）          高田、菊田、三田村：6号館3階（医療薬学研究室）、他</p>			
備考、事前・事後学習課題	<p>【共同担当者】河野、吉田、奈邊、吉岡、倉本、河田、向井、眞島、小西（麗）、高田、菊田、三田村、外部講師、他</p> <p>カルテ読解演習では、コース：A 基本事項「(1) 薬剤師の使命、(2) 薬剤師に求められる倫理観、(3) 信頼関係の構築、(4) 多職種連携協働とチーム医療、(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成」も到達目標の一つとします。従って、学ぶ姿勢が良好ではない者については、30点を上限に減点することがあります。</p> <p>配付する演習日程表にはコアタイムが示されています。コアタイム以外にも個人あるいはグループでの演習（自己学習（事前学習：3時間程度×5回、事後学習：3時間程度×5回））が必要です。</p>			

科目名	セルフメディケーション演習	科目名 (英文)	Tutorial on Self-medication
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	4年	クラス	A B C D E F
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	河野 武幸, 栗尾 和佐子, 小西 麗子, 小森 浩二, 首藤 誠, 中野 友美子, 三田村 しのぶ, 吉田 侑矢
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	YCA3509a3		

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>コース：A 基本事項</p> <p>ユニット</p> <p>(1) 薬剤師の使命</p> <p>一般目標： 医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。</p> <p>【①医療人として】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)</li> <li>患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)</li> <li>チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)</li> <li>患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)</li> <li>様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)</li> </ol> <p>【②薬剤師が果たすべき役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)</li> <li>医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。</li> <li>健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。</li> <li>現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)</li> </ol> <p>【③患者安全と薬害の防止】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)</li> </ol> <p>(2) 薬剤師に求められる倫理観</p> <p>一般目標： 倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。</p> <p>【①生命倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)</li> </ol> <p>【③患者の権利】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)</li> <li>知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)</li> </ol> <p>(3) 信頼関係の構築</p> <p>一般目標： 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。</p> <p>【①コミュニケーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)</li> <li>自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)</li> <li>適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)</li> <li>適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)</li> <li>他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)</li> </ol> <p>【②患者・生活者と薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。</li> <li>患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)</li> </ol> <p>(4) 多職種連携協働とチーム医療</p> <p>一般目標： 医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)</li> <li>チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)</li> </ol> <p>(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成</p> <p>一般目標： 生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と行動力を身につける。</p> <p>【①学習の在り方】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)</li> <li>講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)</li> <li>必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)</li> <li>得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)</li> <li>インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)</li> </ol> <p>コース：B 薬学と社会</p> <p>一般目標： 人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。</p> <p>ユニット</p> <p>(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範</p> <p>一般目標： 調剤、医薬品等(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の供給、その他薬事衛生に係る任務を薬剤師として適正に遂行するために必要な法規範とその意義を理解する。</p> <p>【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>個人情報取扱いについて概説できる。</li> </ol> <p>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。</li> </ol> <p>(3) 社会保障制度と医療経済</p> <p>一般目標： 社会保障制度のもとで提供される医療と福祉について、現状と課題を認識するとともに、薬剤師が担う役割とその意義を理解する。</p> <p>【①医療、福祉、介護の制度】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。</li> <li>医療保険制度について説明できる。</li> </ol>
--------------------------------	---

3. 療養担当規則について説明できる。
4. 公費負担医療制度について概説できる。
5. 介護保険制度について概説できる。
6. 薬価基準制度について概説できる。
7. 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。

【②医薬品と医療の経済性】

1. 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。
2. 国民医療費の動向について概説できる。
3. 後発医薬品とその役割について説明できる。

(4)地域における薬局と薬剤師

一般目標： 地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。

【①地域における薬局の役割】

1. 地域における薬局の機能と業務について説明できる。
2. 医薬分業の意義と動向を説明できる。
3. かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。
4. セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。
5. 災害時の薬局の役割について説明できる。
6. 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。

【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】

1. 地域包括ケアの理念について説明できる。
2. 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。
3. 学校薬剤師の役割について説明できる。
4. 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。
5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)

コース：E 医療薬学

ユニット：E1 薬の作用と体の変化

一般目標： 疾病と薬物の作用に関する知識を修得し、医薬品の作用する過程を理解する。

(2)身体の病的変化を知る

一般目標： 身体の病的変化から疾患を推測できるようになるために、代表的な症候、病態・臨床検査に関する基本的事項を修得する。

【① 症候】

1. 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。  
ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・咯血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害

【②病態・臨床検査】

8. 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。

(3)薬物治療の位置づけ

一般目標： 医療チームの一員として薬物治療に参画できるようになるために、代表的な疾患における治療と薬物療法に関する基本的事項を修得する。

1. 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。
2. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)

(4)医薬品の安全性

一般目標： 医療における医薬品のリスクを回避できるようになるために、有害事象(副作用、相互作用)、薬害、薬物乱用に関する基本的事項を修得する。

1. 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。
2. 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。
3. 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害
4. 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)

ユニット：E2 薬理・病態・薬物治療

一般目標： 患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようにするために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。

(9)要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション

一般目標： 適切な薬物治療および地域の保健・医療に貢献できるようになるために、要指導医薬品・一般用医薬品およびセルフメディケーションに関する基本的知識を修得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的事項を修得する。

1. 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。
2. 要指導医薬品および一般用医薬品(リスクの程度に応じた区分(第一類、第二類、第三類)も含む)について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。
3. 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。
4. 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能)
5. 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病等
6. 主な養生法(運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む)とその健康の保持・促進における意義を説明できる。
7. 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。
8. 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)

(10)医療の中の漢方薬

一般目標： 漢方の考え方、疾患概念、代表的な漢方薬の適応、副作用や注意事項などに関する基本的事項を修得する。

【①漢方薬の基礎】

1. 漢方の特徴について概説できる。
2. 以下の漢方の基本用語を説明できる。陰陽、虚实、寒熱、表裏、気血水、証
3. 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。
4. 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。

【②漢方薬の応用】

1. 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。
2. 日本薬局方に記載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。
3. 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。

【③漢方薬の注意点】

1. 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。

(11)薬物治療の最適化

一般目標：最適な薬物治療の実現に貢献できるようになるために、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①総合演習】

1. 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)
2. 過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)
3. 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)

ユニット：E3 薬物治療に役立つ情報

一般目標：薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、処方設計を提案したり、臨床上の問題解決ができるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集・評価・加工、臨床研究デザイン・解析などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的事項を身につける。

(1)医薬品情報

一般目標：医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理・評価、EBM の実践、生物統計ならびに臨床研究デザイン・解析に関する基本的事項を修得する。

【④EBM(Evidence-based Medicine)】

1. EBM の基本概念と実践のプロセスについて説明できる。

(3)個別化医療

一般目標：薬物治療の個別化に関する基本的事項を修得する。

【⑤個別化医療の計画・立案】

1. 個別の患者情報(遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など)と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)

コース：F 薬学臨床

一般目標：患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

ユニット

(1)薬学臨床の基礎

一般目標：医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

【②臨床における心構え】

1. 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)
2. 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)
3. 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)

(2)処方せんに基づく調剤

一般目標：処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。

【④患者・薬局者対応、服薬指導、患者教育】

1. 前) 適切な態度で、患者・薬局者と対応できる。(態度)
2. 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。
3. 前) 患者・薬局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)
4. 前) 患者・薬局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)
5. 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。
6. 前) 患者・薬局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)
7. 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。
8. 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)

【⑤医薬品の供給と管理】

7. 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。

(3)薬物療法の実践

一般目標：患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

【①患者情報の把握】

1. 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。
2. 前) 患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) [E3(2)1 参照]
3. 前) 身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。
4. 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)

【②医薬品情報の収集と活用】 [E3(1) 参照]

1. 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)

【③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】

2. 前) 病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。
3. 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。

(4)チーム医療への参画 [A(4) 参照]

一般目標：医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。

【①医療機関におけるチーム医療】

3. 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。

【②地域におけるチーム医療】

1. 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義について説明できる。
2. 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)

(5)地域の保健・医療・福祉への参画 [B(4) 参照]

一般目標：地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。

【①在宅(訪問)医療・介護への参画】

- 前)在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。
- 前)在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。
- 前)在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。

【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】

- 前)地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動(薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等)について説明できる。
- 前)公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。

【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】[E2(9)参照]

- 前)現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)
- 前)代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)
- 前)代表的な症候に対する薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)
- 前)代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	1回-3回 症例解析 ＜内容＞一連の顧客応対事例から患者の病因・病態ならびに対応の適切性について、小グループで討議し、成果物を作成する。 ＜到達目標＞課題資料から、患者状態を把握し、その対応の適切性について評価できる。	小グループ討論	ルーブリック等によるパフォーマンス評価(小グループ討論)、成果物評価(総括的評価)
2	4回-7回 顧客接遇 ＜内容＞顧客の主訴から患者の病因・病態に関する様々な可能性の列挙ならびに適切な対応(OTC医薬品の選択、受診勧奨等)について小グループで討議する。個々にロールプレイ形式で顧客接遇を行ない、知識の共有化およびコミュニケーション能力の向上を図る。 ＜到達目標＞顧客の訴えから適切な患者情報を聴取・評価し、個々の患者に適した対処方法を提案できる。	小グループ討論、ロールプレイ	ルーブリック等によるパフォーマンス評価(小グループ討論、ロールプレイ)(総括的評価)
3	8回-12回 保健・医療・福祉に関する情報媒体の作成およびプレゼン ＜内容＞保健・医療・福祉に関するテーマについて小グループで討議し、その情報提供媒体を作成する。発表会を行い、知識の共有化およびプレゼン力の向上を図る。 ＜到達目標＞(1)疾患の予防、治療におけるOTC医薬品、サプリメント、保健機能食品、漢方薬等の選択・使用方法について説明できる。(2)在宅医療、介護の仕組みについて説明できる。(3)地域の包括的な支援・サービス提供体制について説明できる。	小グループ討論、発表会	ルーブリック等によるパフォーマンス評価(小グループ討論、発表)、成果物評価(発表用資料等)(総括的評価)
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

関連科目  
セルフメディケーション論、症候学、DI 演習、クリニカルパス演習、実践薬学Ⅰ～Ⅳ、プレファーマシー実習、他

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	薬の選び方を学び実践するOTC薬入門-薬効別イメージマップ付き (改訂第5版)	上村 直樹(監修)、鹿村 恵明(監修)	薬ゼミ教育情報センター
2	治療薬マニュアル 2019	高久 史磨(監修)、矢崎 義雄(監修)、北原 光夫(編集)、上野 文昭(編集)、越前 宏俊(編集)	医学書院	

評価の時期・方法・基準  
原則、演習には全て出席し、課題(発表資料等)を全て提出していること、かつ「臨床準備教育における概略評価」において、本科目で評価対象とするすべての観点で「第1段階」以上に到達していることを単位認定の必要条件とします。なお、本科目で評価対象とする観点については、講義の初めに示します。その上で、発表用資料等の成果物の評価(30点)とグループワーク、発表、質疑応答、ロールプレイ等のルーブリック等によるパフォーマンス評価(70点)を合わせて100点とし、60点以上を合格とします。

学生へのメッセージ  
授業担当者の吉田侑矢は、薬局薬剤師としても従事しており、その経験から臨床判断・トリアージ、医薬品の選択等に関する実践的な教育を行う。小森浩二は、病院薬剤師として5年以上従事しており、その経験から患者情報をヒアリングするコミュニケーション技術や、医薬品選択と薬物治療における効果・副作用など臨床判断に関する実践的な教育を行う。首藤誠は、9年間薬局薬剤師として勤務した経験、その後、現在に至るまで医療施設と共同研究してきた経験から、薬剤師業務及び医療制度・地域医療など、それらに関連する実践的な教育を行う。三田村しのぶは、薬局薬剤師として11年間勤務した経験から、患者応対、薬物療法に関する実践的な教育を行う。小西麗子は、病院薬剤師として現在も勤務しており、その経験から臨床問題を解決するための実践的な教育を行う。

担当者の研究室等  
河野、吉田：1号館3階(病態医科学研究室)、首藤、三田村：6号館3階(医療薬学研究室)、小森、小西：1号館4階(実践薬学分野)、栗尾：1号館2階(薬学教育学研究室)、中野：1号館2階(薬学教育センター)

備考、事前・事後学習課題  
就学状況(受講態度等)が不良の場合、30点を上限に減点することがあります。配付する演習日程表にはコアタイムが示されています。コアタイム以外にも個人あるいはグループでの演習が必要です。復習を2時間×4回以上してください。

科目名	クリニカルパス演習	科目名 (英文)	Tutorial on Clinical Path
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	4年	クラス	A B C D E F
単位数	1.5	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	河田 興, 菊田 真穂, 小西 麗子, 眞島 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	YCA3510a3		

コース： 本学独自の薬学専門教育 ユニット： 未来型薬剤師  
 一般目標： 社会保障審議会医療部会の「安心と希望の医療確保ビジョン」で討議されている「医療職の役割分担と連携」において、6年制薬剤師に期待される「社会のニーズ」を具備した薬剤師になるために、薬剤師の新しいスキルに関する基本的知識、技術、態度を身につける。

【アウトカム】

各種疾患に対して計画的かつ安定した医療に参画できるようになるために、検査・治療計画の標準化の必要性和クリニカルパス作成に対する薬剤師の関与を理解し、エビデンスに基づき適応となる疾患と治療を受ける患者の立場を考慮した薬物治療計画を立案できる（クリニカルパス作成）。

コース：A 基本事項

ユニット：(1) 薬剤師の使命

一般目標：医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。

ユニット：(2) 薬剤師に求められる倫理観

一般目標：倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。

ユニット：(3) 信頼関係の構築

一般目標：患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。

ユニット：(4) 多職種連携協働とチーム医療

一般目標：医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。

コース：B 薬学と社会

一般目標：人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。

ユニット：(2) 薬剤師と医薬品に係る法規範

一般目標：調剤、医薬品等（医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の供給、その他薬事衛生に係る任務を薬剤師として適正に遂行するために必要な法規範とその意義を理解する。

コース：E 医療薬学 E1 薬の作用と体の変化

一般目標：疾病と薬物の作用に関する知識を修得し、医薬品の作用する過程を理解する。

ユニット：(2) 身体の病的変化を知る

一般目標：身体の病的変化から疾患を推測できるようになるために、代表的な症候、病態・臨床検査に関する基本的事項を修得する。

ユニット：(3) 薬物治療の位置づけ

一般目標：医療チームの一員として薬物治療に参画できるようになるために、代表的な疾患における治療と薬物療法に関する基本的事項を修得する。

ユニット：(4) 医薬品の安全性

一般目標：医療における医薬品のリスクを回避できるようになるために、有害事象（副作用、相互作用）、薬害、薬物乱用に関する基本的事項を修得する。

コース・  
ユニット・  
一般目標

コース：E 医療薬学 E2 薬理・病態・薬物治療

一般目標：患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。

ユニット：(11) 薬物治療の最適化

一般目標：最適な薬物治療の実現に貢献できるようになるために、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

コース：E 医療薬学 E3 薬物治療に役立つ情報

一般目標：薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、処方設計を提案したり、臨床上的問題解決ができるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集・評価・加工、臨床研究デザイン・解析などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的事項を身につける。

ユニット：(1) 医薬品情報

一般目標：医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理・評価、EBM の実践、生物統計ならびに臨床研究デザイン・解析に関する基本的事項を修得する。

コース：E 医療薬学 E4 薬の生体内運命

一般目標：薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになるために、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それらを活用する基本的技能を身につける。

ユニット：(2) 薬物動態の解析

一般目標：薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項を修得する。

コース：F 薬学臨床

一般目標：患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

ユニット：(1) 薬学臨床の基礎

一般目標：医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

ユニット：(2) 処方箋に基づく調剤

一般目標：代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。

ユニット：(3) 薬物療法の実践

一般目標：患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

ユニット：(4) チーム医療への参画 [A(4) 参照] 一般目標：医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。			
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	クリニカルパスの意義や構成について知り、各疾患に対する検査・治療計画の標準化の必要性を理解する。	講義	観察記録（総括的評価）
2	◎グループワーク クリニカルパス作成への薬剤師の関与について討議する。 課題となったクリニカルパスを作成する。  【①医療人として】 1. 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度) 2. 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度) 3. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度) 4. 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)  【②薬剤師が果たすべき役割】 1. 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度) 3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。  【③患者安全と薬害の防止】 1. 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)  【③患者の権利】 4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)	SGD・グループワーク	観察記録（総括的評価） ピア評価（総括的評価）
3	同上	SGD・グループワーク	観察記録（総括的評価） ピア評価（総括的評価）
4	◎グループワーク 課題となったクリニカルパスを作成する。  【①コミュニケーション】 5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度) 6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度) 7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度) 8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度) 9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)  【②患者・生活者と薬剤師】 2. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)  4. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) 5. チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)  【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】 7. 個人情報の取扱いについて概説できる。  【①症候】 1. 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰部部痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害  1. 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。 2. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)  1. 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。	SGD・グループワーク	観察記録（総括的評価） ピア評価（総括的評価）

授業計画

	<p>2. 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。</p> <p>3. 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害</p>		
5	同上	SGD・グループワーク	観察記録（総括的評価） ピア評価（総括的評価）
6	同上	SGD・グループワーク	観察記録（総括的評価） ピア評価（総括的評価）
7	<p>◎グループワーク</p> <p>課題となったクリニカルパスに関連し、必要な患者説明用の資料などを作成する。</p> <p>作成したクリニカルパス及び説明用資料について、プレゼンテーションのリハーサルを行う。</p> <p>【①総合演習】</p> <p>1. 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。（知識・態度）</p> <p>3. 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。（知識・態度）</p> <p>【④EBM (Evidence-based Medicine)】</p> <p>1. EBM の基本概念と実践のプロセスについて説明できる。</p> <p>【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】</p> <p>3. 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。（知識、技能）</p> <p>【②臨床における心構え】〔A（1）、（2）参照〕</p> <p>1. 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。（態度）</p> <p>2. 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。（態度）</p> <p>3. 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。（態度）</p> <p>【③臨床実習の基礎】</p> <p>4. 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。</p> <p>【① 患者情報の把握】</p> <p>1. 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。</p> <p>2. 前) 患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）〔E 3（2）①参照〕</p> <p>3. 前) 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。</p> <p>【②医薬品情報の収集と活用】〔E 3（1）参照〕</p> <p>1. 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。（知識・技能）</p> <p>【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】</p> <p>2. 前) 病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。</p> <p>5. 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。</p> <p>6. 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。</p> <p>【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】</p> <p>1. 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。</p> <p>2. 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。（知識・技能）</p> <p>3. 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。</p> <p>5. 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。</p>	SGD・グループワーク	観察記録（総括的評価） ピア評価（総括的評価） プロダクト評価（総括的評価）
8	同上	SGD・グループワーク	観察記録（総括的評価） ピア評価（総括的評価） プロダクト評価（総括的評価）
9	同上	SGD・グループワーク	観察記録（総括的評価） ピア評価（総括的評価）

				プロダクト評価(総括的評価)																
	10	◎プレゼンテーション及びフィードバック 作成したクリニカルパス及び説明用資料について、プレゼンテーションする。	プレゼンテーション	観察記録(総括的評価) ピア評価(総括的評価) プロダクト評価(総括的評価)																
	11	同上	プレゼンテーション	観察記録(総括的評価) ピア評価(総括的評価) プロダクト評価(総括的評価)																
	12	同上	プレゼンテーション	観察記録(総括的評価) ピア評価(総括的評価) プロダクト評価(総括的評価)																
	13																			
関連科目	病態・薬物治療に関連した科目全般、実践薬学Ⅰ～Ⅴ、フィジカルアセスメント実習、DI 演習、セルフメディケーション演習、プレファーマシー実習、病院薬局実務実習																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>備考参照</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	備考参照			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	備考参照																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>内科学</td> <td>矢崎 義雄、赤司 浩一</td> <td>朝倉書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>治療薬マニュアル</td> <td>高久 史麿 矢崎 義雄</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>今日の治療指針</td> <td>福井 次矢 高木 誠</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	内科学	矢崎 義雄、赤司 浩一	朝倉書店	2	治療薬マニュアル	高久 史麿 矢崎 義雄	医学書院	3	今日の治療指針	福井 次矢 高木 誠	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	内科学	矢崎 義雄、赤司 浩一	朝倉書店																	
2	治療薬マニュアル	高久 史麿 矢崎 義雄	医学書院																	
3	今日の治療指針	福井 次矢 高木 誠	医学書院																	
評価の時期・方法・基準	<p>演習内の取り組み状況及びプロダクト内容で評価するため、原則、すべての演習に出席すること。</p> <p>演習期間内の①グループワークへの貢献度に関する観察記録等 50 点、②ピア評価 20 点及び③プロダクト評価 30 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上を合格とします。かつ、「臨床準備教育における概略評価」において、本科目で評価対象とするすべての観点で「第 1 段階」以上に到達していることを単位認定の必須要件とします。なお、本科目で評価対象とする観点については、講義の初めに示します。</p>																			
学生へのメッセージ	<p>クリニカルパスは、医療の質を担保するために、多くの臨床現場で使用されています。この演習を通して、エビデンスに基づいた各疾患とその標準療法を理解し、さらに患者の目線をもって薬物療法を考える力を養って下さい。</p> <p>河田 興：27 年間小児科医師として主に NICU の新生児医療に従事し、根拠のある医療を実践してきた。現在も京都医療センターで外来診療を継続している。</p> <p>菊田 真穂：星ヶ丘厚生年金病院（現、JCHO 星ヶ丘医療センター）で病院薬剤師として 12 年間勤務し、現在も同施設にて研修を行っている。</p> <p>眞島 崇：薬局薬剤師、病院薬剤師として 6 年間勤務し、現在に至るまで薬局をはじめとする医療施設に研修・共同研究している。</p> <p>小西 麗子：津島市民病院（愛知県）で病院薬剤師として 9 年間勤務し、現在も福田総合病院で兼職として勤務している。</p>																			
担当者の研究室等	<p>河田：1 号館 4F（実践薬学分野）</p> <p>菊田：6 号館 3F（医療薬学研究室）</p> <p>眞島：1 号館 4F（実践薬学分野）</p> <p>小西：1 号館 4F（実践薬学分野）</p>																			
備考、事前・事後学習課題	<p>&lt;事前学習&gt;</p> <p>課題となったクリニカルパスの適応疾患及びその疾患の標準療法について自己学習して下さい。：3 時間×3 回</p> <p>&lt;事後学習&gt;</p> <p>グループ討議の内容について振り返り、課題に対する理解を深めて下さい。発表後は、他の課題となったクリニカルパスの適応疾患及びその疾患の標準療法についてについて自己学習して、理解を深めて下さい。：1.5 時間×3 回</p> <p>&lt;教科書&gt;については指定しない</p> <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>『内科学』（朝倉書店）、『治療薬マニュアル』、『今日の治療指針』、各種疾患ガイドライン、4 年次までの関連科目で使用した教科書</p>																			

科目名	グローバルコミュニケーション(中国語)	科目名 (英文)	Global Communication (Chinese)
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	1.5	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	YCH1511e3		

コース・ユニット・一般目標	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・文型を学ぶ。また、基本文型を使った日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を味わうことができる。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	発音、ピンイン、単語を学ぶことができる。 ・中国語の音節 ・声調 (アクセント) ・母音 (単母音、複母音)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第1～2課の単語とフレーズを流暢に読み、また正確に書く練習をすること。p2、p5、p6、p9.	正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。
	2	発音、ピンイン、単語を学ぶことができる。 ・子音 (無気音と有気音、そり下音) ・母音 (鼻母音) ・声調記号の付け方 ・r化音	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第3～4課の単語とフレーズを流暢に読み、また正確に書く練習をすること。p10、p13、p14、p17.	正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。
	3	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・判断を表す「是 (だ)」 ・省略疑問文 ・助詞「的 (の)」 ・会話 (パーティーで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第5課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p18、p20、21.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	4	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動詞構文の基本語順 ・疑問詞疑問文 ・選択疑問文 ・会話 (喫茶店で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第6課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p22、p24-25.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	5	第1-6課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・復習 ・単元テスト1	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第1-6課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト1 (1～6課)の準備をすること。	単元テストの成績で評価する。
	6	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・年月日・曜日の言い方 ・時刻の言い方 ・連動文 ・会話 (昼休みに)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p26、p28-29.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	7	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動詞「在」 ・動詞「有①」 ・年齢の言い方 ・会話 (倶楽部かジムで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第8課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p30、p32-33.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	8	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・形容詞述語文 ・助動詞「想 (～たい)」 ・時間量の言い方 ・会話 (キャンパスで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第9課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p34、p36-37.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	9	第7-9課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・復習 ・単元テスト2	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7-9課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト2 (7～9課)の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	10	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動詞「有②」 ・方位詞 ・前置詞「從 (から)、離 (から、まで)」 ・会話 (街角で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第10課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p38、p40-41.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	11	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動作の進行と状態持続を表す表現 ・助動詞「会 (できる)」 ・助詞「過 (～たことがある)」 ・会話 (パソコンの前で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第11課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p42、p44-45.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	12	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・量詞 ・助動詞「能 (することができる)、可以 (～てよい)」 ・前置詞「在 (で)」 ・会話 (観光地の店で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第12課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p46、p48-49.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
13	第10-12課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・復習 ・単元テスト3	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7-9課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト3 (10～12課)の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	楽々学習 初級中国語 12 課	陳淑梅・胡興智	同学社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	小テスト(20%)、単元テスト(50%)と期末試験(30%)で評価する。100点満点中60点以上で合格。			
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の研究室等	非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	グローバルコミュニケーション(中国語) Bクラスの授業担当者:松田 郁子 グローバルコミュニケーション(中国語) Cクラスの授業担当者:兪 鳴蒙  「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習(テキストを読む。1時間x13回)、 復習(講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間x13回)、 自己学習(講義プリントに記載されている確認問題を解答する。)			

科目名	グローバルコミュニケーション(中国語)	科目名 (英文)	Global Communication (Chinese)
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	1.5	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	YCH1511e3		

コース・ユニット・一般目標  
ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、基本句型を使った日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を味わうことができる。

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	発音、ピンイン、単語を学ぶことができる。 ・中国語の音節 ・声調 (アクセント) ・母音 (単母音、複母音)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第1～2課の単語とフレーズを流暢に読み、また正確に書く練習をすること。p2、p5、p6、p9.	正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。
2	発音、ピンイン、単語を学ぶことができる。 ・子音 (無気音と有気音、そり下音) ・母音 (鼻母音) ・声調記号の付け方 ・r化音	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第3～4課の単語とフレーズを流暢に読み、また正確に書く練習をすること。p10、p13、p14、p17.	正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。
3	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・判断を表す「是(だ)」 ・省略疑問文 ・助詞「的(の)」 ・会話(パーティーで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第5課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p18、p20、21.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
4	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動詞構文の基本語順 ・疑問詞疑問文 ・選択疑問文 ・会話(喫茶店で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第6課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p22、p24-25.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
5	第1-6課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・復習 ・単元テスト1	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第1-6課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト1(1～6課)の準備をすること。	単元テストの成績で評価する。
6	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・年月日・曜日の言い方 ・時刻の言い方 ・連動文 ・会話(昼休みに)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p26、p28-29.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
7	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動詞「在」 ・動詞「有①」 ・年齢の言い方 ・会話(倶楽部かジムで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第8課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p30、p32-33.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
8	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・形容詞述語文 ・助動詞「想(～たい)」 ・時間量の言い方 ・会話(キャンパスで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第9課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p34、p36-37.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
9	第7-9課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・復習 ・単元テスト2	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7-9課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト2(7～9課)の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
10	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動詞「有②」 ・方位詞 ・前置詞「從(から)、離(から、まで)」 ・会話(街角で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第10課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p38、p40-41.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
11	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動作の進行と状態持続を表す表現 ・助動詞「会(できる)」 ・助詞「過(～たことがある)」 ・会話(パソコンの前で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第11課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p42、p44-45.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
12	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・量詞 ・助動詞「能(することができる)、可以(～てよい)」 ・前置詞「在(で)」 ・会話(観光地の店で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第12課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p46、p48-49.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
13	第10-12課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・復習 ・単元テスト3	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7-9課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト3(10～12課)の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	楽々学習 初級中国語 12 課	陳淑梅・胡興智	同学社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	小テスト(20%)、単元テスト(50%)と期末試験(30%)で評価する。100点満点中60点以上で合格。			
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の研究室等	非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	グローバルコミュニケーション(中国語) Aクラスの授業担当者:段 飛虹 グローバルコミュニケーション(中国語) Cクラスの授業担当者:兪 鳴蒙  「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習(テキストを読む。1時間x13回)、 復習(講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間x13回)、 自己学習(講義プリントに記載されている確認問題を解答する。)			

科目名	グローバルコミュニケーション(中国語)	科目名 (英文)	Global Communication (Chinese)
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	C
単位数	1.5	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	俞 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	YCH1511e3		

コース・ユニット・一般目標  
ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、基本句型を使った日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を味わうことができる。

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	発音、ピンイン、単語を学ぶことができる。 ・中国語の音節 ・声調 (アクセント) ・母音 (単母音、複母音)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第1～2課の単語とフレーズを流暢に読み、また正確に書く練習をすること。p2、p5、p6、p9.	正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。
2	発音、ピンイン、単語を学ぶことができる。 ・子音 (無気音と有気音、そり下音) ・母音 (鼻母音) ・声調記号の付け方 ・r化音	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第3～4課の単語とフレーズを流暢に読み、また正確に書く練習をすること。p10、p13、p14、p17.	正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。
3	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・判断を表す「是(だ)」 ・省略疑問文 ・助詞「的(の)」 ・会話(パーティーで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第5課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p18、p20、21.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
4	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動詞構文の基本語順 ・疑問詞疑問文 ・選択疑問文 ・会話(喫茶店で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第6課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p22、p24-25.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
5	第1-6課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・復習 ・単元テスト1	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第1-6課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト1(1～6課)の準備をすること。	単元テストの成績で評価する。
6	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・年月日・曜日の言い方 ・時刻の言い方 ・連動文 ・会話(昼休みに)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p26、p28-29.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
7	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動詞「在」 ・動詞「有①」 ・年齢の言い方 ・会話(倶楽部かジムで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第8課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p30、p32-33.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
8	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・形容詞述語文 ・助動詞「想(～たい)」 ・時間量の言い方 ・会話(キャンパスで)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第9課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p34、p36-37.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
9	第7-9課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・復習 ・単元テスト2	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7-9課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト2(7～9課)の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
10	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動詞「有②」 ・方位詞 ・前置詞「從(から)、離(から、まで)」 ・会話(街角で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第10課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p38、p40-41.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
11	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・動作の進行と状態持続を表す表現 ・助動詞「会(できる)」 ・助詞「過(～たことがある)」 ・会話(パソコンの前で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第11課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p42、p44-45.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
12	文法、単語、会話を学ぶことができる。 ・量詞 ・助動詞「能(することができる)、可以(～てよい)」 ・前置詞「在(で)」 ・会話(観光地の店で)	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第12課の単語、例文、会話を覚え、練習問題を解答すること。p46、p48-49.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
13	第10-12課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。 ・復習 ・単元テスト3	授業形式。自己学習：録音を聞いて、第7-9課の単語、例文、会話を覚える練習をすること。単元テスト3(10～12課)の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	楽々学習 初級中国語 12 課	陳淑梅・胡興智	同学社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	小テスト(20%)、単元テスト(50%)と期末試験(30%)で評価する。100点満点中60点以上で合格。			
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の研究室等	非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	グローバルコミュニケーション(中国語) Aクラスの授業担当者:段 飛虹 グローバルコミュニケーション(中国語) Bクラスの授業担当者:松田 郁子  「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習(テキストを読む。1時間x13回)、 復習(講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間x13回)、 自己学習(講義プリントに記載されている確認問題を解答する。)			

科目名	グローバルコミュニケーション(中国語)	科目名(英文)	Global Communication (Chinese)
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	D
単位数	1.5	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP2o		
科目ナンバリング	YCH1511e3		

コース・ ユニット・ 一般目標	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・文型を学ぶ。また、基本文型を使った日常会話の練習を行うことで、外国語学習の達成感を味わうことができる。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	発音とピンインを習うことができる。 ・中国語の仕組み ・単母音 ・声調(アクセント)とその付け方 ・子音(1) ・複合母音	授業形式。自己学習:CDを聞いて、第1~2課の発音を練習すること。p8-11.	正しく発音できる。
	2	発音、ピンイン、単語を習うことができる。 ・子音(2) ・鼻母音 ・声調変化 ・隔音記号 ・r化音 ・声調の変化 ・数字の読み方 ・人称代名詞	授業形式。自己学習:CDを聞いて、第1~2課の発音を練習すること。p12-15.	正しく発音できる。数を数えられる。
	3	単語、文法、会話を習うことができる。 ・判断動詞「是」 ・名前の尋ね方と答え方 ・疑問詞疑問文 ・副詞「也」 ・会話(お名前は)	授業形式。自己学習:第5課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p20、p21、p23.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読める。
	4	単語、文法、会話を習うことができる。 ・動詞述語文 ・助詞「的」 ・疑問詞「?」 ・会話(専攻は何ですか)	授業形式。自己学習:第6課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p24、p25、p27.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読める。
	5	単語、文法、会話を習うことができる。 ・所有を表す「有」 ・指示代名詞 ・年齢の尋ね方 ・「几」と「多少」 ・会話(何人家族ですか)	授業形式。自己学習:第7課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p28、p29、p31。 単元テスト1(5~7課)の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	6	単語、文法、会話を習うことができる。 ・単元テスト1 ・年月日 ・語気助詞「?」 ・選択質問文 ・前置詞「在」 ・会話(誕生日はいつですか)	授業形式。自己学習:第8課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p32、p33、p35.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	7	単語、文法、会話を習うことができる。 ・助動詞「想」 ・形容詞述語文 ・時間名詞 ・「量詞」の用法 ・会話(この辞書はいかがですか)	授業形式。自己学習:第9課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p36、p37、p39.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	8	単語、文法、会話を習うことができる。 ・場所代名詞と方位詞 ・存在を表す「有」 ・存在を表す「在」 ・反復疑問文 ・会話(学校の近くにコンビニがありますか)	授業形式。自己学習:第10課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p40、p41、p43.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	9	単語、文法、会話を習うことができる。 ・連動文 ・変化・語気の「了」 ・動作の完了を表す「了」 ・動作の「時間量」 ・会話(お腹がすきましたか)	第11課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p44、p45、p47。 単元テスト2(8~11課)の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	10	単語、文法、会話を習うことができる。 ・単元テスト2 ・前置詞「从」「到」 ・前置詞「離」 ・疑問詞「怎?」 ・助動詞「要」 ・会話(家は学校から遠いですか)	授業形式。自己学習:第12課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p48、p49、p51.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
11	単語、文法、会話を習うことができる。 ・動詞の進行を表す「在」 ・「快へ了」変化表現の表現 ・動詞の重ね型	授業形式。自己学習:第13課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p52、p53、p55.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞「得」</li> <li>・会話（何をしていますか）</li> </ul>			
12	<p>単語、文法、会話を習うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動作継続の「了」</li> <li>・経験の「過」</li> <li>・「是への」構文</li> <li>・会話（中国へ行ったことがありますか）</li> </ul>	<p>授業形式。自己学習：第14課の単語、会話を覚え、練習問題を解答する。p56、p57、p59。 単元テスト3（12～14課）の準備をすること。</p>	<p>単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。</p>	
13	<p>単語、文法、会話を習うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト3</li> <li>・お金の言い方</li> <li>・比較の表現</li> <li>・「有点儿」と「一点儿」</li> <li>・前置詞「給」</li> <li>・会話（誰に買ってあげるのでですか）</li> </ul>	<p>授業形式。自己学習：第15課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。 p60、p61、p63。</p>	<p>単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。</p>	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	自然に身につく基礎中国語	劔重依子・杜金楓	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	小テスト(20%)、単元テスト(50%)と期末試験(30%)で評価する。100点満点中60点以上で合格。			
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の研究室等	非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	<p>グローバルコミュニケーション（中国語）Eクラスの授業担当者：松田 郁子 グローバルコミュニケーション（中国語）Fクラスの授業担当者：兪 鳴蒙</p> <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習（テキストを読む。1時間 x13回）、 復習（講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間 X13回）、 自己学習（講義プリントに記載されている確認問題を解答する。）</p>			

科目名	グローバルコミュニケーション(中国語)	科目名 (英文)	Global Communication (Chinese)
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	E
単位数	1.5	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	YCH1511e3		

コース・ ユニット・ 一般目標	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・文型を学ぶ。また、基本文型を使った日常会話の練習を行うことで、外国語学習の達成感を味わうことができる。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	発音とピンインを習うことができる。 ・中国語の仕組み ・単母音 ・声調 (アクセント) とその付け方 ・子音 (1) ・複合母音	授業形式。自己学習: CD を聞いて、第1～2課の発音を練習すること。p8-11.	正しく発音できる。
	2	発音、ピンイン、単語を習うことができる。 ・子音 (2) ・鼻母音 ・声調変化 ・隔音記号 ・r 化音 ・声調の変化 ・数字の読み方 ・人称代名詞	授業形式。自己学習: CD を聞いて、第1～2課の発音を練習すること。p12-15.	正しく発音できる。数を数えられる。
	3	単語、文法、会話を習うことができる。 ・判断動詞「是」 ・名前の尋ね方と答え方 ・疑問詞疑問文 ・副詞「也」 ・会話 (お名前は)	授業形式。自己学習: 第5課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p20、p21、p23.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読める。
	4	単語、文法、会話を習うことができる。 ・動詞述語文 ・助詞「的」 ・疑問詞「?」 ・会話 (専攻は何ですか)	授業形式。自己学習: 第6課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p24、p25、p27.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読める。
	5	単語、文法、会話を習うことができる。 ・所有を表す「有」 ・指示代名詞 ・年齢の尋ね方 ・「几」と「多少」 ・会話 (何人家族ですか)	授業形式。自己学習: 第7課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p28、p29、p31。 単元テスト1 (5～7課) の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	6	単語、文法、会話を習うことができる。 ・単元テスト1 ・年月日 ・語気助詞「?」 ・選択質問文 ・前置詞「在」 ・会話 (誕生日はいつですか)	授業形式。自己学習: 第8課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p32、p33、p35.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	7	単語、文法、会話を習うことができる。 ・助動詞「想」 ・形容詞述語文 ・時間名詞 ・「量詞」の用法 ・会話 (この辞書はいかがですか)	授業形式。自己学習: 第9課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p36、p37、p39.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	8	単語、文法、会話を習うことができる。 ・場所代名詞と方位詞 ・存在を表す「有」 ・存在を表す「在」 ・反復疑問文 ・会話 (学校の近くにコンビニがありますか)	授業形式。自己学習: 第10課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p40、p41、p43.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	9	単語、文法、会話を習うことができる。 ・連動文 ・変化・語気の「了」 ・動作の完了を表す「了」 ・動作の「時間量」 ・会話 (お腹がすきましたか)	第11課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p44、p45、p47。 単元テスト2 (8～11課) の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	10	単語、文法、会話を習うことができる。 ・単元テスト2 ・前置詞「从」「到」 ・前置詞「離」 ・疑問詞「怎?」 ・助動詞「要」 ・会話 (家は学校から遠いですか)	授業形式。自己学習: 第12課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p48、p49、p51.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
11	単語、文法、会話を習うことができる。 ・動詞の進行を表す「在」 ・「快～了」変化表現の表現 ・動詞の重ね型	授業形式。自己学習: 第13課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p52、p53、p55.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞「得」</li> <li>・会話（何をしていますか）</li> </ul>			
12	<p>単語、文法、会話を習うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動作継続の「了」</li> <li>・経験の「過」</li> <li>・「是への」構文</li> <li>・会話（中国へ行ったことがありますか）</li> </ul>	<p>授業形式。自己学習：第14課の単語、会話を覚え、練習問題を解答する。p56、p57、p59。 単元テスト3（12～14課）の準備をすること。</p>	<p>単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。</p>	
13	<p>単語、文法、会話を習うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト3</li> <li>・お金の言い方</li> <li>・比較の表現</li> <li>・「有点儿」と「一点儿」</li> <li>・前置詞「給」</li> <li>・会話（誰に買ってあげるのでですか）</li> </ul>	<p>授業形式。自己学習：第15課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。 p60、p61、p63。</p>	<p>単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。</p>	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	自然に身につく基礎中国語	劬重依子・杜金楓	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	小テスト(20%)、単元テスト(50%)と期末試験(30%)で評価する。100点満点中60点以上で合格。			
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の研究室等	非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	<p>グローバルコミュニケーション（中国語）Dクラスの授業担当者：段 飛虹 グローバルコミュニケーション（中国語）Fクラスの授業担当者：俞 鳴蒙</p> <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習（テキストを読む。1時間 x13回）、 復習（講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間 x13回）、 自己学習（講義プリントに記載されている確認問題を解答する。）</p>			

科目名	グローバルコミュニケーション(中国語)	科目名(英文)	Global Communication (Chinese)
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	F
単位数	1.5	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	俞 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP2o		
科目ナンバリング	YCH1511e3		

コース・ ユニット・ 一般目標	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・文型を学ぶ。また、基本文型を使った日常会話の練習を行うことで、外国語学習の達成感を味わうことができる。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	発音とピンインを習うことができる。 ・中国語の仕組み ・単母音 ・声調(アクセント)とその付け方 ・子音(1) ・複合母音	授業形式。自己学習: CDを聞いて、第1~2課の発音を練習すること。p8-11.	正しく発音できる。
	2	発音、ピンイン、単語を習うことができる。 ・子音(2) ・鼻母音 ・声調変化 ・隔音記号 ・r化音 ・声調の変化 ・数字の読み方 ・人称代名詞	授業形式。自己学習: CDを聞いて、第1~2課の発音を練習すること。p12-15.	正しく発音できる。数を数えられる。
	3	単語、文法、会話を習うことができる。 ・判断動詞「是」 ・名前の尋ね方と答え方 ・疑問詞疑問文 ・副詞「也」 ・会話(お名前は)	授業形式。自己学習: 第5課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p20、p21、p23.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読める。
	4	単語、文法、会話を習うことができる。 ・動詞述語文 ・助詞「的」 ・疑問詞「?」 ・会話(専攻は何ですか)	授業形式。自己学習: 第6課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p24、p25、p27.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読める。
	5	単語、文法、会話を習うことができる。 ・所有を表す「有」 ・指示代名詞 ・年齢の尋ね方 ・「几」と「多少」 ・会話(何人家族ですか)	授業形式。自己学習: 第7課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p28、p29、p31。 単元テスト1(5~7課)の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	6	単語、文法、会話を習うことができる。 ・単元テスト1 ・年月日 ・語気助詞「?」 ・選択質問文 ・前置詞「在」 ・会話(誕生日はいつですか)	授業形式。自己学習: 第8課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p32、p33、p35.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	7	単語、文法、会話を習うことができる。 ・助動詞「想」 ・形容詞述語文 ・時間名詞 ・「量詞」の用法 ・会話(この辞書はいかがですか)	授業形式。自己学習: 第9課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p36、p37、p39.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	8	単語、文法、会話を習うことができる。 ・場所代名詞と方位詞 ・存在を表す「有」 ・存在を表す「在」 ・反復疑問文 ・会話(学校の近くにコンビニがありますか)	授業形式。自己学習: 第10課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p40、p41、p43.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	9	単語、文法、会話を習うことができる。 ・連動文 ・変化・語気の「了」 ・動作の完了を表す「了」 ・動作の「時間量」 ・会話(お腹がすきましたか)	第11課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p44、p45、p47。 単元テスト2(8~11課)の準備をすること。	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
	10	単語、文法、会話を習うことができる。 ・単元テスト2 ・前置詞「从」「到」 ・前置詞「離」 ・疑問詞「怎?」 ・助動詞「要」 ・会話(家は学校から遠いですか)	授業形式。自己学習: 第12課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p48、p49、p51.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。
11	単語、文法、会話を習うことができる。 ・動詞の進行を表す「在」 ・「快へ了」変化表現の表現 ・動詞の重ね型	授業形式。自己学習: 第13課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。p52、p53、p55.	単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞「得」</li> <li>・会話（何をしていますか）</li> </ul>																		
	<p>12</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語、文法、会話を習うことができる。</li> <li>・動作継続の「了」</li> <li>・経験の「過」</li> <li>・「是への」構文</li> <li>・会話（中国へ行ったことがありますか）</li> </ul>	<p>授業形式。自己学習：第14課の単語、会話を覚え、練習問題を解答する。p56、p57、p59。 単元テスト3（12～14課）の準備をすること。</p>	<p>単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。</p>																
	<p>13</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語、文法、会話を習うことができる。</li> <li>・単元テスト3</li> <li>・お金の言い方</li> <li>・比較の表現</li> <li>・「有点儿」と「一点儿」</li> <li>・前置詞「給」</li> <li>・会話（誰に買ってあげるのでですか）</li> </ul>	<p>授業形式。自己学習：第15課の単語、会話を覚え、練習問題を解答すること。 p60、p61、p63。</p>	<p>単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。</p>																
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>自然に身につく基礎中国語</td> <td>劔重依子・杜金楓</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	自然に身につく基礎中国語	劔重依子・杜金楓	朝日出版社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	自然に身につく基礎中国語	劔重依子・杜金楓	朝日出版社																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中日辞典 第3版</td> <td>北京商務印書館・小学館</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館																
2																			
3																			
評価の時期・方法・基準	小テスト(20%)、単元テスト(50%)と期末試験(30%)で評価する。100点満点中60点以上で合格。																		
学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。																		
担当者の研究室等	非常勤講師室																		
備考、事前・事後学習課題	<p>グローバルコミュニケーション（中国語）Dクラスの授業担当者：段 飛虹 グローバルコミュニケーション（中国語）Eクラスの授業担当者：松田 郁子</p> <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習（テキストを読む。1時間 x13回）、 復習（講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間 X13回）、 自己学習（講義プリントに記載されている確認問題を解答する。）</p>																		

科目名	グローバルコミュニケーション(韓国語)	科目名(英文)	Global Communication (Korean)
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	1.5	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー(DP)	DP2c		
科目ナンバリング	YK01512e3		

コース・ユニット・一般目標  
 不慣れな姿のハングルを知り韓国語を学ぶことで、日本語と韓国語のもつ類似点、そして同じ漢字文化圏なので、様々な言葉や表現の共通点を発見することが出来る。隣の国、韓国を真の意味で近い国として実感し、韓国の歴史や文化に興味を深めることと、両国がより近い関係に回復できるきっかけとなってほしいと望みます。外国語である日本語を習得する過程から得られた私の経験を踏まえ、初めて韓国語を学習する人でも楽しくやさしく学ぶことが出来るように心掛けます。

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	韓国語とハングル文字について理解する。	韓国語の歴史、文字構成を説明。 授業の進め方についてのガイダンス及び、 受講生の希望を伺うなど、 韓国語をめぐる受講生とのコミュニケーション。	
2	ハングル 1 基本母音 6つ 基本子音 5つを学ぶ。	子音一つ、母音一つを組み合わせて30文字を読み書きする。そして30文字でできる単語を学ぶ。	
3	ハングル 2 重母音 4つ、基本子音 5つお勉強する。	p 18 単語テスト(発音記号、意味) これまで学んだ母音 10 と子音 10 を組み合わせて100文字を読み書きの練習 100文字を使った韓国語の単語を学ぶ。	単語テスト
4	ハングル 3、4 二重母音 5つ、激音子音 4つ、濃音子音 5つを学び、単語を勉強する。	p 25 単語テスト(発音記号、意味) テキスト p. 28, 29, 33, 35, 36	単語テスト
5	子音 19、母音 15を覚えよう 1	p 29, 30 単語テスト(発音記号、意味) 日本のひらがなの音をハングルで書いてみる。 自分の名前や家族、友達の名前を書いてみる。	単語テスト ひらがな表プリント
6	子音 19、母音 15を覚えよう 2	p 35 単語テスト(発音記号、意味) ラインをとおしてハングルによる会話	単語テスト ハングルによるアンケート提出
7	二重母音残り 6つ	韓国の外来語を読んで意味を予測する。 p 30 の二重母音の単語の読み書きの練習と意味調べ。	単語テスト 外来語プリント提出
8	ハングル 5 バッチム バッチムの仕組みを勉強する。	p 30 単語テスト(発音記号、意味) 日本語では使うことの無かった発音を、細かく分析、観察、理解し徹底して練習する。	単語テスト
9	ハングル文字総合まとめ 韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる。	バッチム前半単語テスト。 p 43 国の名前や首都の名前を読む。 二重母音の特に発音が難しい単語を読む。	単語テスト
10	これまで文字を勉強する際に出てきた全ての単語をまとめて総合単語テストの後、韓国の映画を見る。	p 18, 25, 29, 30, 35, 36, 43, 44 の単語テスト 「カンナさん大成功です!」	単語テスト
11	韓国の映画を見る。	「カンナさん大成功です!」 音読テスト用の文書を配布 ～です/～ですかについて勉強する。	単語テスト
12	p 47～50 第6課 こんにちは。	7種類の助詞表を書く 名前は何かですか。 職業は何かですか。 の会話の練習	各助詞を使った作文を提出
13	前期総合まとめ	～が、～はの助詞を使った	初めて会う人との簡単な挨拶

		作文をする。(プリント) 前期定期試験の準備	の会話プリントを提出
関連科目	韓国語基礎会話		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	美しい韓国語 1-1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価の時期・方法・基準	授業態度、提出物、小テスト 50% 定期試験 50%		
学生へのメッセージ	楽しく韓国語を習いましょう。積み重ねが大切ですので遅刻・欠席しないでください。安価で韓国へ渡航して、授業で学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生活の最高の思い出になるでしょう！		
担当者の研究室等	非常勤講師室		
備考、事前・事後学習課題	講義前の予習 (テキストを読む。1時間 x12回)		

科目名	グローバルコミュニケーション(韓国語)	科目名(英文)	Global Communication (Korean)
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	1.5	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小石 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP2c		
科目ナンバリング	YK01512e3		

コース・ユニット・一般目標	<p>授業は、学期の前半には、韓国語の文字を正確に発音し、書けるように練習すると同時に、挨拶を含む基本会話を楽しく勉強していけるよう心掛ける。学期の後半には、韓国語の基本的な文法の勉強と練習に重点をおく。</p> <p>授業の目標は、初めて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の発音、文法を学び、基本的な読み書きと簡単な会話ができるようにする。合わせて、韓国語の背景である韓国社会、文化、慣習についても触れていくことで、言葉の勉強だけでなく、韓国についても学べる機会を提供したい。</p>
---------------	--

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	ガイダンスを通じて、授業の目標と進め方が分かるようになる。韓国語の基本である、母音が読めるようになる。	ガイダンス 発音と文字の仕組み①母音 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	2	子音と複合母音が読めるようになる。少し難しくなるが、パッチムが分かるようになると、文字は読めるようになる。	発音と文字の仕組み②子音と複合母音、パッチム 発音の変化 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	3	会話の基本である、自己紹介と挨拶ができるようになる。職業の名前を覚える。	自己紹介と挨拶① 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	4	出身を含むもう少し詳しい自己紹介が出来るようになる。地名の勉強も合わせてする。	自己紹介と挨拶② 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	5	否定文、否定形の表現が使えるようになる。会話の幅が広がる。	否定文と否定形について学ぶ ある/ない、する/しない 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	6	日本語の漢数詞に似ている表現の他に、韓国語固有の数詞についても言えるようになる。時計の読みが出来るようになる。	漢数詞、固有数詞、時計の読み方について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	7	敬語は韓国語の勉強において大事な部分、敬語の表現が使えるようになる。	敬語を学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	8	過去形が分かるようになる。会話の幅が広がるようになる。	過去形について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	9	過去形の表現とリンクするが、現在進行形、未来形の表現が身に付くと会話の幅がもっと広がるようになる。	現在進行形、未来形について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。

	10	ここまで勉強すると、簡単な会話はできるようになる。	可能/不可能の表現について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつくので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	11	内容的に徐々に難しくなるが、気持ちの表現ができるようになる。	願望、禁止の表現について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつくので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	12	もっと難しくなるが、気持ちの表現の幅が広がるようになる。	義務、意志、推量の表現について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつくので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	13	全体の纏めと定期テストを通じて、一学期の総括ができる。簡単な読み書きと会話ができるようになる。	全体の纏め、定期テスト 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつくので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「基礎から学ぶ」韓国語講座(初級)(改訂版)	木内明	国書刊行会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。 小テストは3回実施予定。			
学生へのメッセージ	欠席せず、積極的な参加をお願いしたい。授業中は受け身にならず、一緒に学んでいく姿勢を見せてほしい。特に予習は必要ないが、習ったことはしっかり復讐して次回の授業に臨んでもらいたい。			
担当者の研究室等				
備考、事前・事後学習課題	質問等は出講時に教室および非常勤講師室にて対応する;予習は特に必要ないが、平常授業に合わせて復習は1.5時間×13回;3回の小テスト対策として2時間×3回の自宅学習が最低必要になる。			

科目名	グローバルコミュニケーション(韓国語)	科目名(英文)	Global Communication (Korean)
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	C
単位数	1.5	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	周 相勳
ディプロマポリシー(DP)	DP2o		
科目ナンバリング	YK01512e3		

コース・ ユニット・ 一般目標	世界で一番日本語に似ている言葉である韓国語だからこそ、日本人が一番学びやすい言葉でもある。 両言葉の共通点と相違点に注意しながら授業を進める。 ハングル文字の読み書きから初級レベルの日常会話ができることを目指していく。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	ハングルの文字 基本母音や子音(1)	ハングル文字の仕組みを理解する	特になし
	2	基本母音や子音(2)	基本母音の文字を覚える	教科書 p. 6～11
	3	子音(激音と濃音) 複合母音	子音の発音変化を理解する	教科書 p. 12～15
	4	終声(パッチム) 発音変化	パッチムの区別練習	教科書 p. 16～19
	5	韓国ですか。	自己紹介練習	教科書 p. 20～25
	6	学生ですか	～は、 ～です、 ～ですか	教科書 p. 28～31
	7	何時ですか。	時間の言い方 数詞を覚える	教科書 p. 32～35
	8	野球選手ではありません。	～ではありません	教科書 p. 36～39
	9	これは何ですか。	指示代名詞を使った表現	教科書 p. 40～43
	10	どこにありますか。	あります、 ありません	教科書 p. 44～49
	11	何をしますか。	しますか、 します	教科書 p. 50～53
	12	何時に起きますか。	一日の生活表現練習	教科書 p. 54～57
	13	朝ご飯は食べません。	用言の否定形	教科書 p. 58～61
関連科目	韓国語			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	かんたん！韓国語	金殷模、権来順、宋貞喜	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・ 方法・基準	定期試験 50% 小テスト 30% 提出物 20%			
学生への メッセージ	韓国旅行に行ってもハングル文字に戸惑わず、文字を読んだり基本会話ができるよう韓国語を身に着けましょう！			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考、 事前・事後 学習課題	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	グローバルコミュニケーション(韓国語)	科目名(英文)	Global Communication (Korean)
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	D
単位数	1.5	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー(DP)	DP2o		
科目ナンバリング	YK01512e3		

コース・ ユニット・ 一般目標	不慣れな姿のハングルを知り韓国語を学ぶことで、日本語と韓国語のもつ類似点、そして同じ漢字文化圏なので、様々な言葉や表現の共通点を発見することが出来る。隣の国、韓国を真の意味で近い国として実感し、韓国の歴史や文化に興味を深めることと、両国がより近い関係に回復できるきっかけとなってほしいと望みます。外国語である日本語を習得する過程から得られた私の経験を踏まえ、初めて韓国語を学習する人でも楽しくやさしく学ぶことが出来るように心掛けます。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	韓国語とハングル文字について理解する。	韓国語の歴史、文字構成を説明。 授業の進め方についてのガイダンス及び、 受講生の希望を伺うなど、 韓国語をめぐる受講生とのコミュニケーション。	
	2	ハングル 1 基本母音 6つ 基本子音 5つを学ぶ。	子音一つ、母音一つを組み合わせて30文字を読み書きする。そして30文字でできる単語を学ぶ。	
	3	ハングル 2 重母音 4つ、基本子音 5つをお勉強する。	p 18 単語テスト(発音記号、意味) これまで学んだ母音 10 と子音 10 を組み合わせて100文字を読み書きの練習 100文字を使った韓国語の単語を学ぶ。	単語テスト
	4	ハングル 3、4 二重母音 5つ、激音子音 4つ、濃音子音 5つを学び、単語を勉強する。	p 25 単語テスト(発音記号、意味) テキスト p. 28, 29, 33, 35, 36	単語テスト
	5	子音 19、母音 15を覚えよう 1	p 29, 30 単語テスト(発音記号、意味) 日本のひらがなの音をハングルで書いてみる。 自分の名前や家族、友達の名前を書いてみる。	単語テスト ひらがな表プリント
	6	子音 19、母音 15を覚えよう 2	p 35 単語テスト(発音記号、意味) ラインをとおしてハングルによる会話	単語テスト ハングルによるアンケート提出
	7	二重母音残り 6つ	韓国の外来語を読んで意味を予測する。 p 30 の二重母音の単語の読み書きの練習と意味調べ。	単語テスト 外来語プリント提出
	8	ハングル 5 バッチム バッチムの仕組みを勉強する。	p 30 単語テスト(発音記号、意味) 日本語では使うことの無かった発音を、細かく分析、観察、理解し徹底して練習する。	単語テスト
	9	ハングル文字総合まとめ 韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる。	バッチム前半単語テスト。 p 43 国の名前や首都の名前を読む。 二重母音の特に発音が難しい単語を読む。	単語テスト
	10	これまで文字を勉強する際に出てきた全ての単語をまとめて総合単語テストの後、韓国の映画を見る。	p 18, 25, 29, 30, 35, 36, 43, 44 の単語テスト  「カンナさん大成功です!」	単語テスト
	11	韓国の映画を見る。	音読テスト用の文書を配布 ～です/～ですかについて勉強する。 7種類の助詞表を書く 名前は何か。 職業は何か。 の会話の練習	単語テスト
	12	p 47～50 第6課 こんにちは。	～が、～はの助詞を使った	各助詞を使った作文を提出
13	前期総合まとめ		初めて会う人との簡単な挨拶	

キャリア形成科目

		作文をする。(プリント) 前期定期試験の準備	の会話プリントを提出
関連科目	韓国語基礎会話		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	美しい韓国語 1-1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価の時期・方法・基準	授業態度、提出物、小テスト 50% 定期試験 50%		
学生へのメッセージ	楽しく韓国語を習いましょう。積み重ねが大切ですので遅刻・欠席しないでください。安価で韓国へ渡航して、授業で学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生活の最高の思い出になるでしょう！		
担当者の研究室等	非常勤講師室		
備考、事前・事後学習課題	講義前の予習 (テキストを読む。1時間 x 2回)		

科目名	グローバルコミュニケーション(韓国語)	科目名(英文)	Global Communication (Korean)
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	E
単位数	1.5	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小石 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP2c		
科目ナンバリング	YK01512e3		

コース・ユニット・一般目標	<p>授業は、学期の前半には、韓国語の文字を正確に発音し、書けるように練習すると同時に、挨拶を含む基本会話を楽しく勉強していけるよう心掛ける。学期の後半には、韓国語の基本的な文法の勉強と練習に重点をおく。</p> <p>授業の目標は、初めて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の発音、文法を学び、基本的な読み書きと簡単な会話ができるようにする。合わせて、韓国語の背景である韓国社会、文化、慣習についても触れていくことで、言葉の勉強だけでなく、韓国についても学ぶ機会を提供したい。</p>
---------------	---

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	ガイダンスを通じて、授業の目標と進め方が分かるようになる。韓国語の基本である、母音が読めるようになる。	ガイダンス 発音と文字の仕組み①母音 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
2	子音と複合母音が読めるようになる。少し難しくなるが、パッチムが分かるようになると、文字は読めるようになる。	発音と文字の仕組み②子音と複合母音、パッチム 発音の変化 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
3	会話の基本である、自己紹介と挨拶ができるようになる。職業の名前を覚える。	自己紹介と挨拶① 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
4	出身を含むもう少し詳しい自己紹介が出来るようになる。地名の勉強も合わせてする。	自己紹介と挨拶② 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
5	否定文、否定形の表現が使えるようになる。会話の幅が広がる。	否定文と否定形について学ぶ ある/ない、する/しない 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
6	日本語の漢数詞に似ている表現の他に、韓国語固有の数詞についても言えるようになる。時計の読みが出来るようになる。	漢数詞、固有数詞、時計の読み方について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
7	敬語は韓国語の勉強において大事な部分、敬語の表現が使えるようになる。	敬語を学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
8	過去形が分かるようになる。会話の幅が広がるようになる。	過去形について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
9	過去形の表現とリンクするが、現在進行形、未来形の表現が身に付くと会話の幅がもっと広がるようになる。	現在進行形、未来形について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。

	10	ここまで勉強すると、簡単な会話はできるようになる。	可能/不可能の表現について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつくので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	11	内容的に徐々に難しくなるが、気持ちの表現ができるようになる。	願望、禁止の表現について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつくので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	12	もっと難しくなるが、気持ちの表現の幅が広がるようになる。	義務、意志、推量の表現について学ぶ 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつくので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。
	13	全体の纏めと定期テストを通じて、一学期の総括ができる。簡単な読み書きと会話ができるようになる。	全体の纏め、定期テスト 教科書を使って講義中心形式で進めるが、学生の積極的な参加も求められる。練習問題は基本的に自己学習課題にする。	出席と積極的な授業参加は、3回予定する小テスト及び期末本試験結果と直接結びつくので、注意してもらいたい。小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「基礎から学ぶ」韓国語講座(初級)(改訂版)	木内明	国書刊行会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価の時期・方法・基準  
小テスト(筆記)30%、定期テスト70%として評価し、60点以上を合格とする。  
小テストは3回実施予定。

学生へのメッセージ  
欠席せず、積極的な参加をお願いしたい。授業中は受け身にならず、一緒に学んでいく姿勢を見せてほしい。特に予習は必要ないが、習ったことはしっかり復讐して次回の授業に臨んでもらいたい。

担当者の研究室等

備考、事前・事後学習課題  
質問等は出講時に教室および非常勤講師室にて対応する;予習は特に必要ないが、平常授業に合わせて復習は1.5時間×13回;3回の小テスト対策として2時間×3回の自宅学習が最低必要になる。

科目名	グローバルコミュニケーション(韓国語)	科目名(英文)	Global Communication (Korean)
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	F
単位数	1.5	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	周 相勳
ディプロマポリシー(DP)	DP2o		
科目ナンバリング	YK01512e3		

コース・ ユニット・ 一般目標	世界で一番日本語に似ている言葉である韓国語だからこそ、日本人が一番学びやすい言葉でもある。 両言葉の共通点と相違点に注意しながら授業を進める。 ハングル文字の読み書きから初級レベルの日常会話ができることを目指していく。			
授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	ハングルの文字 基本母音や子音(1)	ハングル文字の仕組みを理解する	特になし
	2	基本母音や子音(2)	基本母音の文字を覚える	教科書 p. 6～11
	3	子音(激音と濃音) 複合母音	子音の発音変化を理解する	教科書 p. 12～15
	4	終声(パッチム) 発音変化	パッチムの区別練習	教科書 p. 16～19
	5	韓国ですか。	自己紹介練習	教科書 p. 20～25
	6	学生ですか	～は、 ～です、 ～ですか	教科書 p. 28～31
	7	何時ですか。	時間の言い方 数詞を覚える	教科書 p. 32～35
	8	野球選手ではありません。	～ではありません	教科書 p. 36～39
	9	これは何ですか。	指示代名詞を使った表現	教科書 p. 40～43
	10	どこにありますか。	あります、 ありません	教科書 p. 44～49
	11	何をしますか。	しますか、 します	教科書 p. 50～53
	12	何時に起きますか。	一日の生活表現練習	教科書 p. 54～57
	13	朝ご飯は食べません。	用言の否定形	教科書 p. 58～61
関連科目	韓国語			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	かんたん！韓国語	金殷模、権来順、宋貞喜	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・ 方法・基準	定期試験 50% 小テスト 30% 提出物 20%			
学生への メッセージ	韓国旅行に行ってもハングル文字に戸惑わず、文字を読んだり基本会話ができるよう韓国語を身に着けましょう！			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考、 事前・事後 学習課題	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	グローバルコミュニケーション (スペイン語)	科目名 (英文)	Global Communication (Spanish)
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	4年	クラス	A B C D E F
単位数	1.5	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	手塚 進
ディプロマポリシー(DP)	DP2o		
科目ナンバリング	YSP1513e3		

コース・  
ユニット・  
一般目標

[授業の概要・目的]  
スペイン語の発音・文法・語彙を学び、簡単な会話ができるようになる。  
スペイン語と英語の類似点と相違点を知る。

[到達目標]  
スペイン語の基本的な発音、文法および語彙を習得すること。  
スペイン語圏への知識と興味を深めること。

[授業方法と留意点]  
授業に臨むにあたり必ず前回の復習をしておくこと。  
必要に応じて小テストを実施する。  
授業計画は、受講生の学習状況に応じて調整することがある。そのため、小テストの日程も変更することがある。

授業計画

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	第1課 発音とアルファベット	自己紹介とあいさつをきちんとした発音でおこなう。 授業後、発音を繰り返し練習する。	
2	第2課 名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞	教科書の Dialogo を中心に説明する。 授業後、学習した内容を繰り返し練習する。	
3	第3課 主語人称代名詞 動詞 ser	教科書の Dialogo を中心に説明する。 授業後、学習した内容を繰り返し練習する。	小テストを実施する。
4	第4課 規則活用動詞：直説法現在 指示詞「この・その・あの」	教科書の Dialogo を中心に説明する。 授業後、学習した内容を繰り返し練習する。	
5	第5課 不規則活用動詞（1人称単数形が-go で終わる動詞）：直説法現在	教科書の Dialogo を中心に説明する。 授業後、学習した内容を繰り返し練習する。	小テストを実施する。
6	第6課 一般不規則動詞：直説法現在 所有形容詞の前置形 基数（11～20）	教科書の Dialogo を中心に説明する。 授業後、学習した内容を繰り返し練習する。	
7	第6課（前週のつづき）	教科書の Dialogo を中心に説明する。 授業後、学習した内容を繰り返し練習する。	
8	第7課 1人称単数形だけが不規則な活用：直説法現在 人称代名詞：目的格	教科書の Dialogo を中心に説明する。 授業後、学習した内容を繰り返し練習する。	小テストを実施する。
9	第8課 語幹母音変化動詞：直説法現在 従属節の接続詞 que 所有形容詞の後置形	教科書の Dialogo を中心に説明する。 授業後、学習した内容を繰り返し練習する。	
10	第9課 再帰動詞：直説法現在 se の受け身 基数（21～99）	教科書の Dialogo を中心に説明する。 授業後、学習した内容を繰り返し練習する。	小テストを実施する。
11	第10課 過去分詞 直説法現在完了 時刻の表現	教科書の Dialogo を中心に説明する。 授業後、学習した内容を繰り返し練習する。	
12	第10課（前週のつづき）	教科書の Dialogo を中心に説明する。	小テストを実施する。

			授業後、学習した内容を繰り返して練習する。	
	13	第10課（前週の続き） これまでの総復習	学習した内容を確認、復習する。	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学ぼう！スペイン語初級	西川喬	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	期末試験 50%，小テスト 20%，授業内発表 30%			
学生へのメッセージ	<p>ぜひこの機会にスペイン語を覚えて、日本国内外に住むスペイン語話者と話してみよう。</p> <p>スペイン語はスペインだけでなくアメリカ大陸でも使用されているので、卒業旅行にメキシコやキューバ、アルゼンチンなどへ行くことを考えている学生にとっても有意義でしょう。</p> <p>スペイン語は比較的易しい言語といえるかもしれませんが。発音は日本語に似ているし、文章はローマ字読みでほとんど音読できてしまいます。もちろん、わからないことがあれば遠慮なく聞いてくださいね。</p>			
担当者の研究室等	非常勤講師控室			
備考、事前・事後学習課題	<p>受講にあたりテキストおよび配布プリントは必ず持参する。</p> <p>学習課題については事前に指示する。</p> <p>毎授業の予習・復習などに要する総時間は20時間程度とする。</p>			

科目名	グローバルコミュニケーション（インドネシア語）	科目名（英文）	Global Communication (Indonesian)
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	4年	クラス	A B C D E F
単位数	1.5	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP2o		
科目ナンバリング	YIN1514e3		

コース・ ユニット・ 一般目標  授業計画	この授業では配布プリントを使用してインドネシア語の基本的な会話演習をおこない、インドネシア語の基本的な会話能力の習得を目指す。 インドネシアへ旅行に出かけたり、日常生活のさまざまな場面で役に立つ表現を学ぶ。 授業中は恥ずかしがらずに大きな声で発音をおこなうことを望む。 また授業の後半では、基礎的な文法の紹介もおこなう。			
	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>インドネシア語の歴史</li> <li>インドネシア語を話す地域</li> <li>インドネシア語の特徴</li> <li>アルファベットの発音</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インドネシアに関するニュースやトピックスに関心を持つこと</li> <li>アルファベットの読み方の復習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しく発音できているかを確認する。必要に応じてアドバイスを示して、修正を求める。</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本単語の発音</li> <li>挨拶表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語の発音と混同しないよう注意しながら単語の発音を復習すること。</li> <li>学習した挨拶表現に使われる単語が書けるようになること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しく発音できているかを確認する。必要に応じてアドバイスを示して、修正を求める。</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>感謝や謝罪の表現</li> <li>自己紹介</li> <li>人称代名詞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した単語の綴りと発音が正確にできるよう復習すること。</li> <li>会話表現を暗記すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しく発音できているかを確認する。必要に応じてアドバイスを示して、修正を求める。</li> <li>学習した表現を使った会話演習をおこない、評価する。</li> <li>シーンに応じたふさわしい表現ができるか確認し、評価する。</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介</li> <li>家族や友人を紹介する</li> <li>疑問詞を用いた表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した単語の綴りと発音が正確にできるよう復習すること。</li> <li>会話表現を暗記すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しく発音できているかを確認する。必要に応じてアドバイスを示して、修正を求める。</li> <li>学習した表現を使った会話演習をおこない、評価する。</li> <li>シーンに応じたふさわしい表現ができるか確認し、評価する。</li> <li>第2回と第3回で学んだ単語の小試験。</li> </ul>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>数詞</li> <li>数詞の仕組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した単語の綴りと発音が正確にできるよう復習すること。</li> <li>数詞を暗記すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対する回答を評価する。</li> <li>今回学習した表現を使った会話演習をおこない、評価する。</li> <li>シーンに応じたふさわしい表現ができるか確認し、評価する。</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>序数詞</li> <li>分数</li> <li>電話番号や数詞を用いた表現</li> <li>日付の表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した単語の綴りと発音が正確にできるよう復習すること。</li> <li>序数詞や日付の表現を暗記すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対する回答を評価する。</li> <li>学習した表現を使った会話演習をおこない、評価する。</li> <li>シーンに応じたふさわしい表現ができるか確認し、評価する。</li> <li>第4回と第5回で学んだ単語の小試験。</li> </ul>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>曜日の表現</li> <li>月の表現</li> <li>西暦の表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した単語の綴りと発音が正確にできるよう復習すること。</li> <li>学習した表現を暗記すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対する回答を評価する。</li> <li>今回学習した表現を使った会話演習をおこない、評価する。</li> <li>シーンに応じたふさわしい表現ができるか確認し、評価する。</li> </ul>
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節の表現</li> <li>時間の表現</li> <li>時間をめぐる会話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した単語の綴りと発音が正確にできるよう復習すること。</li> <li>学習した表現を暗記すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対する回答を評価する。</li> <li>今回学習した表現を使った会話演習をおこない、評価する。</li> <li>シーンに応じたふさわしい表現ができるか確認し、評価する。</li> <li>第6回と第7回で学んだ単語の小試験。</li> </ul>

	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>色の表現</li> <li>形容詞を使った表現</li> <li>助数詞を使った会話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した単語の綴りと発音が正確にできるよう復習すること。</li> <li>学習した表現を暗記すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対する回答を評価する。</li> <li>今回学習した表現を使った会話演習をおこない、評価する。</li> <li>シーンに応じたふさわしい表現ができるか確認し、評価する。</li> </ul>
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>値段の尋ねかた</li> <li>お店での会話表現</li> <li>サイズの尋ねかた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した単語の綴りと発音が正確にできるよう復習すること。</li> <li>学習した表現を暗記すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対する回答を評価する。</li> <li>今回学習した表現を使った会話演習をおこない、評価する。</li> <li>シーンに応じたふさわしい表現ができるか確認し、評価する。</li> <li>第8回と第9回で学んだ単語の小試験。</li> </ul>
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>位置の表現</li> <li>基語動詞を使った表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した単語の綴りと発音が正確にできるよう復習すること。</li> <li>学習した表現を暗記すること。</li> <li>基語動詞を暗記すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対する回答を評価する。</li> <li>今回学習した表現を使った会話演習をおこない、評価する。</li> <li>シーンに応じたふさわしい表現ができるか確認し、評価する。</li> </ul>
	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>基語動詞を使った表現</li> <li>ber-接頭辞の紹介</li> <li>me-接頭辞の紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した単語の綴りと発音が正確にできるよう復習すること。</li> <li>学習した表現を暗記すること。</li> <li>基語動詞を暗記すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対する回答を評価する。</li> <li>今回学習した表現を使った会話演習をおこない、評価する。</li> <li>シーンに応じたふさわしい表現ができるか確認し、評価する。</li> <li>第10回と第11回で学んだ単語の小試験。</li> </ul>
	13	定期テストの準備として総復習をおこなう	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に疑問や質問などをまとめておくこと。</li> <li>今までに学習した単語や表現を暗記すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対する回答を評価する。</li> <li>今回学習した表現を使った会話演習をおこない、評価する。</li> <li>シーンに応じたふさわしい表現ができるか確認し、評価する。</li> </ul>
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の授業中に実施される会話演習で正確な表現ができる 30%</li> <li>第4回、第6回、第8回、第10回、第12回に課す単語小テスト 20%</li> <li>前期期末試験期間に実施される定期テスト 50%</li> </ul>			
学生へのメッセージ	<p>インドネシア語の特徴の1つとして、学びやすいことがよく挙げられます。また日本を訪れるインドネシア人観光客は年々増加していますし、インドネシア出身の人と日常生活で会話する機会も今後はどんどん増えるでしょう。この授業でインドネシアの人と話す時に不自由のない実力を身につけてください。インドネシアの人びとの日常的な習慣について理解を深めることもできます。</p>			
担当者の研究室等	非常勤講師室			
備考、事前・事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>毎回の会話演習の模範解答は授業時に提示し、理解が足りないと思われるところは再度説明する。</li> <li>随時課す単語小テストの模範解答は授業時に提示する。</li> <li>質問等は授業中にも受け付けるが、水曜の昼休みに非常勤講師室でも受け付ける。</li> <li>基本的に事前学習は必要ない。</li> <li>事後学習課題として毎週1時間半は、 1)前回のノートを読む・2)会話文の暗記と会話文の暗唱・3)単語を覚える、に充てること。</li> </ol>			

科目名	天然薬用資源学	科目名 (英文)	Medicinal Natural Products
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	A B C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荒木 良太
ディプロマポリシー (DP)	DP3△, DP8△		
科目ナンバリング	YCA2515a3		

コース：C 薬学基礎

ユニット：C5 自然が生み出す薬物

一般目標：自然界に存在する物質を医薬品として利用できるようになるために、代表的な生薬の基原、特色、臨床応用および天然生物活性物質の単離、構造、物性、作用などに関する基本的事項を修得する。

(1) 薬になる動植物

一般目標：基原、性状、含有成分、品質評価などに関する基本的事項を修得する。

【①薬用植物】

1. 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。

【③生薬の用途】

1. 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来）の薬効、成分、用途などを説明できる。

2. 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。

(2) 薬の宝庫としての天然物

一般目標：医薬品資源としての天然生物活性物質を構造によって分類・整理するとともに、天然生物活性物質の利用に関する基本的事項を修得する。

【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】

3. 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。

4. テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。

5. アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。

【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】

1. 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。

2. 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。

【③天然生物活性物質の取り扱い】

1. 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識)

【④天然生物活性物質の利用】

1. 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。

2. 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。

3. 農薬や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。

コース：E 医療薬学

ユニット：E2 薬理・病態・薬物治療

一般目標：患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようにするために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。

(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬

一般目標：病原微生物（細菌、ウイルス、真菌、原虫）、および悪性新生物に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【⑩化学構造と薬効】

1. 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。

(10) 医療の中の漢方薬

一般目標：漢方の考え方、疾患概念、代表的な漢方の適応、副作用や注意事項などに関する基本的事項を修得する。

コース・  
ユニット・  
一般目標

	<p>【②漢方薬の応用】</p> <p>3. 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。</p> <p>【③漢方薬の注意点】</p> <p>1. 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。</p>																																																								
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>C5-(2)-④-1 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 C5-(2)-④-2 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。 C5-(2)-④-3 農薬や香粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 C5-(2)-③-1 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識)</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 C5-(2)-③-1 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識)</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価) レポート(総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-3 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>C5-(2)-①-5 アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>C5-(2)-②-1 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。 C5-(2)-②-2 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>C5-(2)-②-1 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。 C5-(2)-②-2 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>E2-(7)-⑩-1 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>C5-(2)-④-1 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 C5-(2)-④-2 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	C5-(2)-④-1 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 C5-(2)-④-2 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。 C5-(2)-④-3 農薬や香粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	2	C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 C5-(2)-③-1 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識)	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	3	C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 C5-(2)-③-1 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識)	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	4	C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価) レポート(総括的評価)	5	C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-3 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	6	C5-(2)-①-5 アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	7	C5-(2)-②-1 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。 C5-(2)-②-2 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	8	C5-(2)-②-1 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。 C5-(2)-②-2 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	9	E2-(7)-⑩-1 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	10	E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	11	E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	12	E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	13	C5-(2)-④-1 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 C5-(2)-④-2 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)
	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																					
	1	C5-(2)-④-1 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 C5-(2)-④-2 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。 C5-(2)-④-3 農薬や香粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	2	C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 C5-(2)-③-1 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識)	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	3	C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 C5-(2)-③-1 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識)	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	4	C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価) レポート(総括的評価)																																																					
	5	C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-3 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	6	C5-(2)-①-5 アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	7	C5-(2)-②-1 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。 C5-(2)-②-2 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	8	C5-(2)-②-1 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。 C5-(2)-②-2 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	9	E2-(7)-⑩-1 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	10	E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	11	E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
12	E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																						
13	C5-(2)-④-1 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 C5-(2)-④-2 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																						
関連科目	生薬学、天然物化学、漢方処方学																																																								

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	資源天然物化学	秋久俊博ら 著	協立出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	授業終了後の定期試験 60 点以上で合格			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1 号館 4 階 複合薬物解析学研究室			
備考、事前・事後学習課題	予習（教科書を読む。1 時間×13 回）。復習（ノートをまとめる。教科書を読む。2 時間×13 回）。講義終了後に配布する演習プリントで自己学習（1 時間×13 回）			

科目名	天然薬用資源学	科目名 (英文)	Medicinal Natural Products
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	D E F
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荒木 良太
ディプロマポリシー (DP)	DP3△, DP8△		
科目ナンバリング	YCA2515a3		

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>コース：C 薬学基礎</p> <p>ユニット：C5 自然が生み出す薬物</p> <p>一般目標：自然界に存在する物質を医薬品として利用できるようになるために、代表的な生薬の基原、特色、臨床応用および天然生物活性物質の単離、構造、物性、作用などに関する基本的事項を修得する。</p> <p>(1) 薬になる動植物</p> <p>一般目標：基原、性状、含有成分、品質評価などに関する基本的事項を修得する。</p> <p>【①薬用植物】</p> <p>1. 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。</p> <p>【③生薬の用途】</p> <p>1. 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来）の薬効、成分、用途などを説明できる。</p> <p>2. 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を挙示し、説明できる。</p> <p>(2) 薬の宝庫としての天然物</p> <p>一般目標：医薬品資源としての天然生物活性物質を構造によって分類・整理するとともに、天然生物活性物質の利用に関する基本的事項を修得する。</p> <p>【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】</p> <p>3. 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を挙示し、その作用を説明できる。</p> <p>4. テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を挙示し、その作用を説明できる。</p> <p>5. アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を挙示し、その作用を説明できる。</p> <p>【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】</p> <p>1. 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。</p> <p>2. 微生物由来の代表的な生物活性物質を挙示し、その作用を説明できる。</p> <p>【③天然生物活性物質の取り扱い】</p> <p>1. 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。（知識）</p> <p>【④天然生物活性物質の利用】</p> <p>1. 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を挙示し、その用途を説明できる。</p> <p>2. 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を挙示し、その用途、リード化合物を説明できる。</p> <p>3. 農薬や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を挙示し、その用途を説明できる。</p> <p>コース：E 医療薬学</p> <p>ユニット：E2 薬理・病態・薬物治療</p> <p>一般目標：患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようにするために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。</p> <p>(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬</p> <p>一般目標：病原微生物（細菌、ウイルス、真菌、原虫）、および悪性新生物に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。</p> <p>【@化学構造と薬効】</p> <p>1. 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。</p> <p>(10) 医療の中の漢方薬</p> <p>一般目標：漢方の考え方、疾患概念、代表的な漢方の適応、副作用や注意事項などに関する基本的事項を修得する。</p>
--------------------------------	---

	<p>【②漢方薬の応用】</p> <p>3. 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。</p> <p>【③漢方薬の注意点】</p> <p>1. 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。</p>																																																								
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>C5-(2)-④-1 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 C5-(2)-④-2 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。 C5-(2)-④-3 農薬や香粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 C5-(2)-③-1 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識)</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 C5-(2)-③-1 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識)</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価) レポート(総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-3 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>C5-(2)-①-5 アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>C5-(2)-②-1 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。 C5-(2)-②-2 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>C5-(2)-②-1 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。 C5-(2)-②-2 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>E2-(7)-⑩-1 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>C5-(2)-④-1 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 C5-(2)-④-2 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。</td> <td>講義</td> <td>授業終了後の定期試験 (総括的評価)</td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	C5-(2)-④-1 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 C5-(2)-④-2 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。 C5-(2)-④-3 農薬や香粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	2	C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 C5-(2)-③-1 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識)	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	3	C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 C5-(2)-③-1 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識)	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	4	C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価) レポート(総括的評価)	5	C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-3 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	6	C5-(2)-①-5 アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	7	C5-(2)-②-1 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。 C5-(2)-②-2 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	8	C5-(2)-②-1 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。 C5-(2)-②-2 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	9	E2-(7)-⑩-1 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	10	E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	11	E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	12	E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)	13	C5-(2)-④-1 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 C5-(2)-④-2 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)
	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価																																																					
	1	C5-(2)-④-1 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 C5-(2)-④-2 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。 C5-(2)-④-3 農薬や香粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	2	C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 C5-(2)-③-1 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識)	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	3	C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 C5-(2)-③-1 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識)	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	4	C5-(2)-①-4 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価) レポート(総括的評価)																																																					
	5	C5-(1)-①-1 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 C5-(1)-③-1 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。 C5-(1)-③-2 副作用或使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 C5-(2)-①-3 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	6	C5-(2)-①-5 アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	7	C5-(2)-②-1 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。 C5-(2)-②-2 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	8	C5-(2)-②-1 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。 C5-(2)-②-2 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	9	E2-(7)-⑩-1 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	10	E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
	11	E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																					
12	E2-(10)-②-3 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 E2-(10)-③-1 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																						
13	C5-(2)-④-1 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 C5-(2)-④-2 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。	講義	授業終了後の定期試験 (総括的評価)																																																						
関連科目	生薬学、天然物化学、漢方処方学																																																								

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	資源天然物化学	秋久俊博ら 著	協立出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	授業終了後の定期試験 60 点以上で合格			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1 号館 4 階 複合薬物解析学研究室			
備考、事前・事後学習課題	予習（教科書を読む。1 時間×13 回）。復習（ノートをまとめる。教科書を読む。2 時間×13 回）。講義終了後に配布する演習プリントで自己学習（1 時間×13 回）			

科目名	薬事・衛生行政	科目名 (英文)	Study of Pharmaceutical and Hygienical Administration
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	A B C
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥野 智史, 小村 純子
ディプロマポリシー (DP)	DP5△, DP8△		
科目ナンバリング	YCA2516a3		

コース・  
ユニット・  
一般目標

コース：大学独自の薬学専門教育  
 ユニット：薬事・衛生行政  
 一般目標：人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、わが国における薬事・衛生行政に関する基本的事項を修得する。  
 (1) 薬事・衛生行政活動に係る法的基盤  
 一般目標：薬事・衛生行政活動を実践するうえで、踏まえるべき法規範とその意義を理解する。  
 (2) 薬事・衛生行政の仕組みと機能  
 一般目標：薬事・衛生行政分野の第一線で活躍する薬剤師となるために、薬事・衛生行政の組織とその業務内容を理解する。  
 (3) 薬事・衛生行政に携わる薬剤師の役割  
 一般目標：薬事衛生行政、食品衛生行政及び環境衛生行政における現状と課題を認識するとともに、人々の健康・福祉ならびに公衆衛生の向上のために薬剤師が担う役割と意義を理解する。

ユニット：医薬品等の規制、安全対策  
 一般目標：医薬品関連業務に責任をもって参画できるようになるために、医薬品の開発・承認・市販後安全対策等の薬事行政に関する基本的知識を修得する。  
 (1) 新医療用医薬品の承認審査  
 一般目標：いわゆる新薬がどのように審査されて承認されるかの基本的知識を修得し、医薬品開発業務等に就いたときにそれらを活用するための基本的事項を身につける。  
 (2) 市販後安全対策等  
 一般目標：市販後安全対策等の基本的知識を修得し、医療従事者としてそれらを活用するための基本的事項を身につける。

この科目では、学習目標の基本的事項のうち、知識について修得する。

[授業担当回数：小村 7回、奥野 6回]

授業計画

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	わが国の薬事・衛生行政の体系を説明できる。	講義 (講義室) 【奥野】 自己学習課題：わが国の行政の仕組み、国と都道府県の関係について調べる。薬剤師が地域保健にどのように関わっているかを調べる。	定期試験 (総括的評価)
2	公衆衛生の専門家として薬剤師が薬事・衛生行政に従事することの意義が説明できる。 保健所の役割と機能について説明できる。	講義、演習 [セルフワーク等] (講義室) 【奥野】 自己学習課題：薬事・衛生行政 (地域保健行政) に関する最近の話題を調べる。保健所の位置づけとその役割について調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
3	公衆衛生の専門家として薬剤師が薬事・衛生行政に従事することの意義が説明できる。 食品衛生行政の現状と課題を説明できる。	講義、演習 [セルフワーク等] (講義室) 【奥野】 自己学習課題：食品衛生行政の目的ならびにそれに関連した部署や業務内容を調べる。食品衛生行政に関連する法律を調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
4	公衆衛生の専門家として薬剤師が薬事・衛生行政に従事することの意義が説明できる。 環境衛生行政の現状と課題を説明できる。	講義、演習 [セルフワーク等] (講義室) 【奥野】 自己学習課題：環境衛生行政の目的ならびにそれに関連した部署や業務内容を調べる。環境衛生行政に関連する法律を調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
5	公衆衛生の専門家として薬剤師が薬事・衛生行政に従事することの意義が説明できる。 薬事行政の現状と課題を説明できる。	講義、演習 [セルフワーク等] (講義室) 【奥野】 自己学習課題：薬事行政の目的ならびにそれに関連した部署や業務内容を調べる。薬事行政に関連する法律を調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
6	公衆衛生の専門家として薬剤師が衛生行政に従事することの意義が説明できる。 厚生労働省等の国の機関の役割について説明できる。	講義 (講義室)、演習 [セルフワーク等] 【奥野】 自己学習課題：厚生労働省の役割について調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
7	新医療用医薬品の開発の概要について説明できる。 新医療用医薬品の承認審査の概要について説明できる。 副作用報告について概説できる。 添付文書改訂について概説できる。 再審査・再評価制度について概説できる。 副作用被害救済制度について概説できる。	講義 (講義室) 【小村】 自己学習課題：医薬品医療機器総合機構の役割について調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
8	品質・安定性試験の審査について概説できる。 毒性・薬理、薬物動態試験の審査について概説できる。 臨床試験の審査について概説できる。	演習 [セルフワーク等] (情報処理演習室) 【小村】 自己学習課題：医薬品開発	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)

			に要求される非臨床試験、臨床試験データの内容、GMP、GLP、及びGCPについて調べる。	
	9	品質・安定性試験の審査について概説できる。 毒性、薬理、薬物動態試験の審査について概説できる。 臨床試験の審査について概説できる。	演習〔セルフワーク等〕(情報処理演習室)【小村】 自己学習課題：臨床試験ガイドラインについて調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
	10	品質・安定性試験の審査について概説できる。 毒性、薬理、薬物動態試験の審査について概説できる。 臨床試験の審査について概説できる。	演習〔セルフワーク等〕(情報処理演習室)【小村】 自己学習課題：治験実施の手順について調べる。治験中の副作用報告制度について調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
	11	品質・安定性試験の審査について概説できる。 毒性、薬理、薬物動態試験の審査について概説できる。 臨床試験の審査について概説できる。	演習〔セルフワーク等〕(情報処理演習室)【小村】 自己学習課題：臨床統計解析方法について調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
	12	審査報告書について討議する。	演習 (情報処理演習室)【小村】	討議、プレゼンテーション(形成的評価) 定期試験 (総括的評価)
	13	審査報告書について討議する。	演習 (情報処理演習室)【小村】	討議、プレゼンテーション(形成的評価) 定期試験 (総括的評価)
関連科目	薬剤師になるために、キャリア形成 I～IV、医療経済学、薬局経営学、医薬品開発演習、薬事関連法規、医薬品開発論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	衛生行政大要 改訂第24版	上田 茂 編著	日本公衆衛生協会
	2	薬事法規・制度及び倫理 解説	薬事衛生研究会編	薬事日報社
	3			
評価の時期・方法・基準	総括的評価は、レポート30%および定期試験70%で評価する。すなわち、1～6回目の講義範囲はレポート20点満点および定期試験25点満点、7～13回の講義範囲はレポート10点満点および定期試験45点満点とし、合計100点満点とする。レポートを提出し、かつ定期試験を受けたうえで、100点満点中60点以上で合格とする。 なお、剽窃行為の疑われるレポートについては受理しないことがある。			
学生へのメッセージ	授業担当者の小村は、(独)医薬品医療機器総合機構(PMDA；前身の組織を含む)で約20年間、医薬品の治験相談・審査、安全対策業務等に携わった経験から、PMDAの業務のうち、主に新医療用医薬品の承認審査に関する実践的な教育を行う。			
担当者の研究室等	小村：1号館4階(実践薬学分野) 奥野：1号館5階(公衆衛生学研究室)			
備考、事前・事後学習課題	1～6回目の講義の中で、薬事・衛生行政に携わっている外部の講師を招請する予定である。 事前学習課題：シラバスの学習方法に書かれている自己学習課題をまとめる(1.5時間×13回) 事後学習課題：講義内容の理解度を深めるために、講義中に出てきたキーワード等の整理を行い、ノートをまとめる。また、レポート作成等を通して自己学習を行う(1.5時間×13回)  質問については随時受け付ける。			

科目名	薬事・衛生行政	科目名 (英文)	Study of Pharmaceutical and Hygienical Administration
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	3年	クラス	D E F
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥野 智史, 小村 純子
ディプロマポリシー (DP)	DP5△, DP8△		
科目ナンバリング	YCA2516a3		

コース・  
ユニット・  
一般目標

コース：大学独自の薬学専門教育  
 ユニット：薬事・衛生行政  
 一般目標：人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、わが国における薬事・衛生行政に関する基本的事項を修得する。  
 (1) 薬事・衛生行政活動に係る法的基盤  
 一般目標：薬事・衛生行政活動を実践するうえで、踏まえるべき法規範とその意義を理解する。  
 (2) 薬事・衛生行政の仕組みと機能  
 一般目標：薬事・衛生行政分野の第一線で活躍する薬剤師となるために、薬事・衛生行政の組織とその業務内容を理解する。  
 (3) 薬事・衛生行政に携わる薬剤師の役割  
 一般目標：薬事衛生行政、食品衛生行政及び環境衛生行政における現状と課題を認識するとともに、人々の健康・福祉ならびに公衆衛生の向上のために薬剤師が担う役割と意義を理解する。

ユニット：医薬品等の規制、安全対策  
 一般目標：医薬品関連業務に責任をもって参画できるようになるために、医薬品の開発・承認・市販後安全対策等の薬事行政に関する基本的知識を修得する。  
 (1) 新医療用医薬品の承認審査  
 一般目標：いわゆる新薬がどのように審査されて承認されるかの基本的知識を修得し、医薬品開発業務等に就いたときにそれらを活用するための基本的事項を身につける。  
 (2) 市販後安全対策等  
 一般目標：市販後安全対策等の基本的知識を修得し、医療従事者としてそれらを活用するための基本的事項を身につける。

この科目では、学習目標の基本的事項のうち、知識について修得する。

[授業担当回数：小村 7回、奥野 6回]

授業計画

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	わが国の薬事・衛生行政の体系を説明できる。	講義 (講義室) 【奥野】 自己学習課題：わが国の行政の仕組み、国と都道府県の関係について調べる。薬剤師が地域保健にどのように関わっているかを調べる。	定期試験 (総括的評価)
2	公衆衛生の専門家として薬剤師が薬事・衛生行政に従事することの意義が説明できる。 保健所の役割と機能について説明できる。	講義、演習 [セルフワーク等] (講義室) 【奥野】 自己学習課題：薬事・衛生行政 (地域保健行政) に関する最近の話題を調べる。保健所の位置づけとその役割について調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
3	公衆衛生の専門家として薬剤師が薬事・衛生行政に従事することの意義が説明できる。 食品衛生行政の現状と課題を説明できる。	講義、演習 [セルフワーク等] (講義室) 【奥野】 自己学習課題：食品衛生行政の目的ならびにそれに関連した部署や業務内容を調べる。食品衛生行政に関連する法律を調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
4	公衆衛生の専門家として薬剤師が薬事・衛生行政に従事することの意義が説明できる。 環境衛生行政の現状と課題を説明できる。	講義、演習 [セルフワーク等] (講義室) 【奥野】 自己学習課題：環境衛生行政の目的ならびにそれに関連した部署や業務内容を調べる。環境衛生行政に関連する法律を調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
5	公衆衛生の専門家として薬剤師が薬事・衛生行政に従事することの意義が説明できる。 薬事行政の現状と課題を説明できる。	講義、演習 [セルフワーク等] (講義室) 【奥野】 自己学習課題：薬事行政の目的ならびにそれに関連した部署や業務内容を調べる。薬事行政に関連する法律を法律を調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
6	公衆衛生の専門家として薬剤師が衛生行政に従事することの意義が説明できる。 厚生労働省等の国の機関の役割について説明できる。	講義 (講義室)、演習 [セルフワーク等] 【奥野】 自己学習課題：厚生労働省の役割について調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
7	新医療用医薬品の開発の概要について説明できる。 新医療用医薬品の承認審査の概要について説明できる。 副作用報告について概説できる。 添付文書改訂について概説できる。 再審査・再評価制度について概説できる。 副作用被害救済制度について概説できる。	講義 (講義室) 【小村】 自己学習課題：医薬品医療機器総合機構の役割について調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
8	品質・安定性試験の審査について概説できる。 毒性、薬理、薬物動態試験の審査について概説できる。 臨床試験の審査について概説できる。	演習 [セルフワーク等] (情報処理演習室) 【小村】 自己学習課題：医薬品開発	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)

			に要求される非臨床試験、臨床試験データの内容、GMP、GLP、及びGCPについて調べる。	
	9	品質・安定性試験の審査について概説できる。 毒性、薬理、薬物動態試験の審査について概説できる。 臨床試験の審査について概説できる。	演習〔セルフワーク等〕(情報処理演習室)【小村】 自己学習課題：臨床試験ガイドラインについて調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
	10	品質・安定性試験の審査について概説できる。 毒性、薬理、薬物動態試験の審査について概説できる。 臨床試験の審査について概説できる。	演習〔セルフワーク等〕(情報処理演習室)【小村】 自己学習課題：治験実施の手順について調べる。治験中の副作用報告制度について調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
	11	品質・安定性試験の審査について概説できる。 毒性、薬理、薬物動態試験の審査について概説できる。 臨床試験の審査について概説できる。	演習〔セルフワーク等〕(情報処理演習室)【小村】 自己学習課題：臨床統計解析方法について調べる。	レポート (総括的評価) 定期試験 (総括的評価)
	12	審査報告書について討議する。	演習 (情報処理演習室)【小村】	討議、プレゼンテーション(形成的評価) 定期試験 (総括的評価)
	13	審査報告書について討議する。	演習 (情報処理演習室)【小村】	討議、プレゼンテーション(形成的評価) 定期試験 (総括的評価)
関連科目	薬剤師になるために、キャリア形成 I～IV、医療経済学、薬局経営学、医薬品開発演習、薬事関連法規、医薬品開発論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	衛生行政大要 改訂第24版	上田 茂 編著	日本公衆衛生協会
	2	薬事法規・制度及び倫理 解説	薬事衛生研究会編	薬事日報社
	3			
評価の時期・方法・基準	総括的評価は、レポート30%および定期試験70%で評価する。すなわち、1～6回目の講義範囲はレポート20点満点および定期試験25点満点、7～13回の講義範囲はレポート10点満点および定期試験45点満点とし、合計100点満点とする。レポートを提出し、かつ定期試験を受けたうえで、100点満点中60点以上で合格とする。 なお、剽窃行為の疑われるレポートについては受理しないことがある。			
学生へのメッセージ	授業担当者の小村は、(独)医薬品医療機器総合機構(PMDA；前身の組織を含む)で約20年間、医薬品の治験相談・審査、安全対策業務等に携わった経験から、PMDAの業務のうち、主に新医療用医薬品の承認審査に関する実践的な教育を行う。			
担当者の研究室等	小村：1号館4階(実践薬学分野) 奥野：1号館5階(公衆衛生学研究室)			
備考、事前・事後学習課題	1～6回目の講義の中で、薬事・衛生行政に携わっている外部の講師を招請する予定である。 事前学習課題：シラバスの学習方法に書かれている自己学習課題をまとめる(1.5時間×13回) 事後学習課題：講義内容の理解度を深めるために、講義中に出てきたキーワード等の整理を行い、ノートをまとめる。また、レポート作成等を通して自己学習を行う(1.5時間×13回)  質問については随時受け付ける。			

科目名	医療経済学	科目名(英文)	Medical Economics
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	4年	クラス	A B C D E F
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人, 田井 義人, 田中 龍一郎, 増田 知也
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△, DP8△		
科目ナンバリング	YCA2517a3		

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>コース：B【薬学と社会】 一般目標：人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。</p> <p>ユニット(1)人と社会に関わる薬剤師 一般目標：人の行動や考え、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤師の関わりを認識する。</p> <p>ユニット(2)薬剤師と医薬品等に係る法規範 一般目標：調剤、医薬品等(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の供給、その他薬事衛生に係る任務を薬剤師として適正に遂行するために必要な法規範とその意義を理解する。</p> <p>サブユニット①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範</p> <p>ユニット(3)社会保障制度と医療経済 一般目標：社会保障制度のもとで提供される医療と福祉について、現状と課題を認識するとともに、薬剤師が担う役割とその意義を理解する。</p> <p>サブユニット①医療、福祉、介護の制度 サブユニット②医薬品と医療の経済性</p> <p>ユニット(4)地域における薬局と薬剤師 一般目標：地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。</p> <p>サブユニット①地域における薬局の役割 サブユニット②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師</p>
--------------------------------	---

授業計画	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	<p>授業テーマ：現代社会と福祉 到達目標：薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 (担当：法学部・増田)</p>	<p>学習方法：日本社会が抱える問題と、社会福祉政策の概要について学ぶ。 自己学習課題：『社会福祉政策』序章を自己学習する事。 また、予習した上で、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題をMoodleを介して講義前に予め提出させる。講義後はMoodleを用いたミニッツペーパー・リアクションペーパーで振り返り学習及び復習する。</p>	<p>ミニッツペーパー・ミニレポート、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題の提出確認による形成的評価及び総括的評価を行う。</p>
	2	<p>授業テーマ：福祉ニードと供給システム 到達目標：医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 (担当：法学部・増田)</p>	<p>学習方法：福祉におけるニード概念と、資源を割り当てるための供給システムについて学ぶ。 自己学習課題：『社会福祉政策』第2章を自己学習する事。 また、予習した上で、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題をMoodleを介して講義前に予め提出させる。講義後はMoodleを用いたミニッツペーパー・リアクションペーパーで振り返り学習及び復習する。</p>	<p>ミニッツペーパー・ミニレポート、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題の提出確認による形成的評価及び総括的評価を行う。</p>
	3	<p>授業テーマ：福祉政策と市場経済 到達目標：日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。医療保険制度について説明できる。公費負担医療制度について概説できる。国民医療費の動向について概説できる。 (担当：法学部・増田)</p>	<p>学習方法：経済理論からみた福祉政策について検討する。 自己学習課題：『社会福祉政策』第4章を自己学習する事。 また、予習した上で、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題をMoodleを介して講義前に予め提出させる。講義後はMoodleを用いたミニッツペーパー・リアクションペーパーで振り返り学習及び復習する。</p>	<p>ミニッツペーパー・ミニレポート、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題の提出確認による形成的評価及び総括的評価を行う。</p>

	4	<p>授業テーマ：医療圏及び基準病床数 到達目標：到達目標：地域における薬局の機能と業務について説明できる。医薬分業の意義と動向を説明できる。 (担当：経済学部・田井)</p>	<p>学習方法：保健医療サービスを効果的に提供するにふさわしい地理的広がりとしての医療圏の設定とその範囲内での病床数の設定について考察する。 自己学習課題：『大阪府保健医療計画及び大阪府地域医療構想 *本計画及び構想は2018年度に改定される。改定内容を適宜追加する。』を自己学習する事。 また、予習した上で、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題をMoodleを介して講義前に予め提出させる。講義後はMoodleを用いたミニッツペーパー・リアクションペーパーで振り返り学習及び復習する。</p>	<p>ミニッツペーパー・ミニレポート、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題の提出確認による形成的評価及び総括的評価を行う。</p>
	5	<p>授業テーマ：大阪府における保健医療体制 到達目標：地域における薬局の機能と業務について説明できる。医薬分業の意義と動向を説明できる。かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。 (担当：経済学部・田井)</p>	<p>学習方法：大阪府下の医療体制の情報提供方法と病院の機能分担及び連携について講義する。 自己学習課題：『大阪府保健医療計画及び大阪府地域医療構想 *本計画及び構想は2018年度に改定される。改定内容を適宜追加する。』を自己学習する事。 また、予習した上で、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題をMoodleを介して講義前に予め提出させる。講義後はMoodleを用いたミニッツペーパー・リアクションペーパーで振り返り学習及び復習する。</p>	<p>ミニッツペーパー・ミニレポート、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題の提出確認による形成的評価及び総括的評価を行う。</p>
	6	<p>授業テーマ：主要な事業ごとの保健医療体制（4疾病） 到達目標：地域包括ケアの理念について説明できる。地域における薬局の機能と業務について説明できる。医薬分業の意義と動向を説明できる。 (担当：経済学部・田井)</p>	<p>学習方法：大阪府下の医療体制の情報提供方法と病院の機能分担及び連携について講義する。 自己学習課題：『大阪府保健医療計画及び大阪府地域医療構想 *本計画及び構想は2018年度に改定される。改定内容を適宜追加する。』を自己学習する事。 また、予習した上で、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題をMoodleを介して講義前に予め提出させる。講義後はMoodleを用いたミニッツペーパー・リアクションペーパーで振り返り学習及び復習する。</p>	<p>ミニッツペーパー・ミニレポート、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題の提出確認による形成的評価及び総括的評価を行う。</p>
	7	<p>授業テーマ：主要な事業ごとの保健医療体制（5事業） 到達目標：地域包括ケアの理念について説明できる。地域における薬局の機能と業務について説明できる。医薬分業の意義と動向を説明できる。 (担当：経済学部・田井)</p>	<p>学習方法：大阪府下の医療体制の情報提供方法と病院の機能分担及び連携について講義する。 自己学習課題：『大阪府保健医療計画及び大阪府地域医療構想 *本計画及び構想は2018年度に改定される。改定内容を適宜追加する。』を自己学習する事。 また、予習した上で、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題をMoodleを介して講義前に予め提出させる。講義後はMoodleを用いたミニッツペーパー・リアクションペーパーで振り返り学習及び復習する。</p>	<p>ミニッツペーパー・ミニレポート、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題の提出確認による形成的評価及び総括的評価を行う。</p>
	8	<p>授業テーマ：在宅医療の推進とその対策</p>	<p>学習方法：大阪府下の医療</p>	<p>ミニッツペーパー・ミニレポート</p>

	到達目標：介護保険制度について概説できる。地域包括ケアの理念について説明できる。在宅医療及び在宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。 (担当：経済学部・田井)	体制の情報提供方法及び病院の機能分担及び連携について講義する。 自己学習課題：『大阪府保健医療計画及び大阪府地域医療構想 *本計画及び構想は2018年度に改定される。改定内容を適宜追加する。』を自己学習する事。 また、予習した上で、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題をMoodleを介して講義前に予め提出させる。講義後はMoodleを用いたミニッツペーパー・リアクションペーパーで振り返り学習及び復習する。	一ト、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題の提出確認による形成的評価及び総括的評価を行う。
9	授業テーマ：日本の福祉制度 到達目標：日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。医療保険制度について説明できる。療養担当規則について説明できる。公費負担医療制度について概説できる。介護保険制度について概説できる。地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。 (担当：法学部・増田)	学習方法：日本における福祉制度の体系と、その特質について学ぶ。 自己学習課題：『社会福祉政策』第7章を自己学習する事。 また、予習した上で、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題をMoodleを介して講義前に予め提出させる。講義後はMoodleを用いたミニッツペーパー・リアクションペーパーで振り返り学習及び復習する。	ミニッツペーパー・ミニレポート、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題の提出確認による形成的評価及び総括的評価を行う。
10	授業テーマ：福祉制度の費用と財政 到達目標：日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。医療保険制度について説明できる。療養担当規則について説明できる。公費負担医療制度について概説できる。介護保険制度について概説できる。 (担当：法学部・増田)	学習方法：日本における社会福祉費用の特徴と課題について学ぶ。 自己学習課題：『社会福祉政策』第12章を自己学習する事。 また、予習した上で、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題をMoodleを介して講義前に予め提出させる。講義後はMoodleを用いたミニッツペーパー・リアクションペーパーで振り返り学習及び復習する。	ミニッツペーパー・ミニレポート、今回の講義に関する質問を5個考えてくると言う課題の提出確認による形成的評価及び総括的評価を行う。
11	授業テーマ：法学部・経済学部の学生さんたちと合同でグループワーク1 到達目標：薬物療法の経済評価手法について概説できる。人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。	学習方法：教科書『日本の医療制度がめざすもの』を用いてABD(アクティブブックダイアログ)の手法を用いて学習し、内容についてSGDを行う。	ミニッツペーパー・ミニレポート、形成的評価及び総括的評価を行う。 グループワークの際の積極性、協調性、貢献度を、リーダーシップ、フォロワーシップ、メンバーシップの観点からルーブリック評価で採点し、総括的評価を行う。
12	授業テーマ：法学部・経済学部の学生さんたちと合同でグループワーク2 到達目標：薬物療法の経済評価手法について概説できる。人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。	学習方法：教科書『日本の医療制度がめざすもの』を用いてABD(アクティブブックダイアログ)の手法を用いて学習し、内容についてSGDを行った結果をポスターにまとめる。	ミニッツペーパー・ミニレポート、形成的評価及び総括的評価を行う。 グループワークの際の積極性、協調性、貢献度を、リーダーシップ、フォロワーシップ、メンバーシップの観点からルーブリック評価で採点し、総括的評価を行う。
13	授業テーマ：法学部・経済学部の学生さんたちと合同でグループワーク3 到達目標：薬物療法の経済評価手法について概説できる。人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。	学習方法：教科書『日本の医療制度がめざすもの』を用いてABD(アクティブブックダイアログ)の手法を用いて学習し、内容についてSGDを行った結果をポスターにまとめた内容をグループで発表する。	ミニッツペーパー・ミニレポート、形成的評価及び総括的評価を行う。 グループワークの際の積極性、協調性、貢献度を、リーダーシップ、フォロワーシップ、メンバーシップの観点からルーブリック評価で採点し、総括的評価を行う。

関連科目 ・地域保健医療(経済学部)・福祉政策論(法学部)

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本の医療制度がめざすもの	辻 哲夫	時事通信社
2	大阪府医療計画及び大阪府地域医療構想	大阪府	大阪府ホームページ

	3	社会福祉政策：現代社会と福祉	坂田周一	有斐閣
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	まちの病院がなくなる！？地域医療の崩壊と再生	伊関友伸	時事通信社
	2	反貧困：「すべり台社会」からの脱出	湯浅誠	岩波書店
	3	ABD_manual_ver0.5.pdf	アクティブ・ブック・ダイアログ 協会	PDF ファイル
評価の時期・ 方法・基準	講義終了後の定期試験（50%）、講義期間中の課題レポート（20%）、毎回の講義の受講態度（30%）で総合的に評価する。 出席および遅刻・欠席の扱いは、薬学部他の講義の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱います。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。3回を超えての欠席は（4回以上欠席すると）、定期試験受験資格を失います。			
学生への メッセージ	教科書 日本の医療制度がめざすものは、絶対に買って下さい。 法学部、経済学部の学生さんたちと一緒に学ぶ機会があります。11回から13回は、法学部・経済学部の学生さんたちと合同でグループワークをする予定です。 とても刺激的な講義になるように計画しています。 講義開始前の学生証による出席確認と、講義終了時のミニッツペーパー・リアクションペーパーの提出の両方がなされたことをもって、講義出席の証拠とします。Moodle を多用した講義をしますので、スマホもしくはタブレット必須の講義です。スマホもしくはタブレットを充電してから講義に臨んで下さい。			
担当者の 研究室等	大塚：薬学部1号館5階大塚教授室、田中：薬学部1号館5階田中講師室、田井：1号館7階田井准教授室（経済学部）、11号館10階増田講師室（法学部）			
備考、 事前・事後 学習課題	小レポート等する場合は、次の回でフォローアップを行う。 予習・復習等に必要時間：講義前の予習（教科書・講義資料を読む 1時間×13回）、復習（ノートをまとめる・課題を学習する 1時間×13回）			

科目名	応用薬学実習	科目名 (英文)	Laboratory Practice of Pharmaceutical Sciences
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	4年	クラス	A B C D E F
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	河野 武幸
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP3△, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	YCA2518a3		

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>コース：本学独自の薬学専門教育 ユニット：キャリア形成</p> <p>一般目標：医療人として相手（患者）を思いやる心を持ち、情熱と責任ある態度で積極的かつ協動的に行動できるようになるために、倫理観と奉仕・慈愛の心、円滑な対人力、協調的精神、情熱と責任感及び豊かな人間性など、医療人に相応しい知識、技能、態度を身につける。</p> <p>(5) 応用薬学実習（なりたい自分をきめる）</p> <p>一般目標：自らがその能力及び適性、志望に応じて主体的に進路を選択できるようになるために、卒業研究に先立って研究室での創薬研究や臨床研究などの体験を通し、薬学研究者あるいは研究マインドを持った薬剤師に必要な基本的素養を身につける。</p> <p>補足説明：薬学部では、1、2年次：「なりたい自分をさがす」、3、4年次：「なりたい自分をきめる」、5、6年次：「なりたい自分にむかう」を到達目標と定め、全学年にわたるキャリア形成教育を展開している。「応用薬学実習」では、創薬研究や臨床研究に従事することによって、自らの研究者としての適性を知り、問題発見力・問題解決力を身につけるとともに、研究推進に必要な情報の収集方法を修得する【問題解決能力の醸成】。</p>																		
到達目標	<p>(1) 薬学における研究の位置づけ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。</li> <li>研究には自立性と独創性が求められていることを知る。</li> <li>現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)</li> <li>新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)</li> </ol> <p>(2) 研究に必要な法規範と倫理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。</li> <li>研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。</li> <li>正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)</li> </ol> <p>(3) 研究の実践</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)</li> <li>課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)</li> <li>研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)</li> <li>研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)</li> <li>研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)</li> <li>研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)</li> </ol> <p>(4) 各種実験手技の修得</p>																		
学習方法・ 自己学習 課題	研究室での実験・演習、指導教員から出された自己学習課題に日々取り組む。																		
評価	観察記録で総括評価する。																		
関連科目	全薬学専門科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価の時期・ 方法・基準	研究への取り組み状況について、応用薬学実習ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により可否を判定します。全規準で基準1以上、平均1.0以上を合格とします。																		
学生への メッセージ	積極的に履修してください。																		
担当者の 研究室等	すべての研究室、分野																		
備考、 事前・事後 学習課題	事前学習：指導教員から出された学習課題を行う。 事後学習：得られた実験結果について、考察し、各研究室での発表会に臨む。																		

科目名	医薬品開発演習	科目名 (英文)	Seminar on Drug Development
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	5年	クラス	A B C D E F
単位数	1.5	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小西 元美, 久家 貴寿, 西田 健太郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2△, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	YCA3519a3		

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>コース：B 薬学と社会 一般目標：人と社会に関わる薬剤師として自覚をもって行動するために、保険・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。 ユニット：(1) 人と社会に関わる薬剤師 一般目標：人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤師の関わりを認識する。 ユニット：(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範 一般目標：調剤、医薬品等 (医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品) の供給、その他薬事衛生に係る任務を薬剤師として適正に遂行するために必要な法規範とその意義を理解する。 【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</p> <p>コース：E 医療薬学 E3 薬物治療に役立つ情報 一般目標：薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、処方設計を提案したり、臨床上の問題解決ができるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集・評価・加工、臨床研究デザイン・解析などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的事項を身につける。 ユニット：(1) 医薬品情報 一般目標：医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理・評価、EBMの実践、生物統計ならびに臨床研究デザイン・解析に関する基本事項を修得する。 【①情報】 【②情報源】 【③収集・評価・加工・提供・管理】 【④EBM (Evidence-based Medicine)】 【⑤生物統計】 【⑥臨床研究デザインと解析】</p> <p>コース：本学独自の薬学専門教育 ユニット：キャリア形成 一般目標：医療人として相手 (患者) を思いやる心を持ち、情熱と責任ある態度で積極的かつ協調的に行動できるようになるために、倫理観と奉仕・慈愛の心、円滑な対人力、協調的精神、情熱と責任感及び豊かな人間性など、医療人に相応しい知識、技能、態度を身につける。 (3) になりたい自分にむかう 一般目標：様々な分野で活躍するOBの体験談などの聴講や、グループワークによる医療業界研究の実施を通して、自らがその能力及び適性、志望に応じて主体的に進路を選択するとともにキャリアプランを立てる。 補足説明：薬学部では、1、2年次：「になりたい自分をさがす」、3、4年次：「になりたい自分をきめる」、5、6年次：「になりたい自分にむかう」を到達目標と定め、全学年にわたるキャリア形成教育を展開している。薬剤師が活躍している現場での就労体験 (インターンシップ) やボランティア活動を行い、自らのキャリアプランが正しいか否かを確認する。</p>
--------------------------------	---

<p>授業計画</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>到達目標</th> <th>学習方法・自己学習課題</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td> <p>第1, 2回 B (2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範 【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】 1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等 (医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品) の定義について説明できる。 2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。 3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。 4. 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。 7. 「医薬品等の取扱いに関する医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。 E3 (1) 医薬品情報 【①情報】 2. 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。 3. 医薬品 (後発医薬品等を含む) の開発過程で行われる試験 (非臨床試験、臨床試験、安定性試験等) と得られる医薬品情報について概説できる。 5. 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度 (「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など) とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。</p> </td> <td style="text-align: center;"> <p>講義 (演習室)</p> </td> <td style="text-align: center;"> <p>臨時試験 (総括的評価)</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td> <p>第3, 4回 B (1) 人と社会に関わる薬剤師 2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度) 3. 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度) 4. 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) 5. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度) (2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範 【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】 7. 個人情報の取扱いについて概説できる。</p> </td> <td style="text-align: center;"> <p>講義 (演習室) SGD</p> </td> <td style="text-align: center;"> <p>臨時試験 (総括的評価) 観察記録 (総括的評価)</p> </td> </tr> </tbody> </table>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価	1	<p>第1, 2回 B (2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範 【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】 1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等 (医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品) の定義について説明できる。 2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。 3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。 4. 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。 7. 「医薬品等の取扱いに関する医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。 E3 (1) 医薬品情報 【①情報】 2. 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。 3. 医薬品 (後発医薬品等を含む) の開発過程で行われる試験 (非臨床試験、臨床試験、安定性試験等) と得られる医薬品情報について概説できる。 5. 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度 (「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など) とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。</p>	<p>講義 (演習室)</p>	<p>臨時試験 (総括的評価)</p>	2	<p>第3, 4回 B (1) 人と社会に関わる薬剤師 2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度) 3. 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度) 4. 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) 5. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度) (2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範 【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】 7. 個人情報の取扱いについて概説できる。</p>	<p>講義 (演習室) SGD</p>	<p>臨時試験 (総括的評価) 観察記録 (総括的評価)</p>
回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価										
1	<p>第1, 2回 B (2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範 【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】 1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等 (医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品) の定義について説明できる。 2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。 3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。 4. 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。 7. 「医薬品等の取扱いに関する医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。 E3 (1) 医薬品情報 【①情報】 2. 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。 3. 医薬品 (後発医薬品等を含む) の開発過程で行われる試験 (非臨床試験、臨床試験、安定性試験等) と得られる医薬品情報について概説できる。 5. 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度 (「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など) とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。</p>	<p>講義 (演習室)</p>	<p>臨時試験 (総括的評価)</p>										
2	<p>第3, 4回 B (1) 人と社会に関わる薬剤師 2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度) 3. 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度) 4. 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) 5. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度) (2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範 【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】 7. 個人情報の取扱いについて概説できる。</p>	<p>講義 (演習室) SGD</p>	<p>臨時試験 (総括的評価) 観察記録 (総括的評価)</p>										

	<p>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</p> <p>1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の定義について説明できる。</p> <p>2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。</p>		
3	<p>第5, 回</p> <p>B (2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範</p> <p>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</p> <p>1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の定義について説明できる。</p> <p>2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。</p> <p>3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。</p> <p>4. 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。</p> <p>E3(1) 【⑥臨床研究デザインと解析】</p> <p>1. 臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴を概説できる。</p> <p>2. 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。</p> <p>3. 観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など）について概説できる。</p> <p>4. 副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。</p> <p>6. 介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化など）について概説できる。</p> <p>7. 統計解析時の注意点について概説できる。</p>	講義（演習室）	臨時試験（総括的評価）
4	<p>第6, 7, 8 回</p> <p>B (1) 人と社会に関わる薬剤師</p> <p>4. 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。（態度）</p> <p>5. 倫理規範や法令に則した行動を取る。（態度）</p> <p>B (2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範</p> <p>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</p> <p>1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の定義について説明できる。</p> <p>2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。</p> <p>3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。</p> <p>E3(1) 【⑥臨床研究デザインと解析】</p> <p>3. 観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など）について概説できる。</p> <p>4. 副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。</p> <p>6. 介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化など）について概説できる。</p> <p>7. 統計解析時の注意点について概説できる。</p> <p>E3(2) 【②収集・評価・管理】</p> <p>3. 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。</p> <p>4. 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。</p>	講義（演習室） SGD	臨時試験（総括的評価） 観察記録（総括的評価）
5	<p>第9, 10 回</p> <p>B (2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範</p> <p>【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】</p> <p>4. 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。</p> <p>7. 個人情報の取扱いについて概説できる。</p> <p>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</p> <p>3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。</p> <p>E3 (1) 医薬品情報</p> <p>【①情報】</p> <p>2. 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。</p> <p>5. 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など）とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。</p> <p>【③収集・評価・加工・提供・管理】</p> <p>5. 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点（知的所有権、守秘義務など）について説明できる。</p> <p>【⑥臨床研究デザインと解析】</p> <p>1. 臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察</p>	講義（演習室）	臨時試験（総括的評価）

	<p>研究)を列挙し、それらの特徴を概説できる。</p> <p>E3(2)患者情報</p> <p>【①情報と情報源】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。</li> <li>2. 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。</li> </ol> <p>【②収集・評価・管理】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。</li> <li>4. 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。</li> </ol>		
6	<p>第11,12回</p> <p>B(1)人と社会に関わる薬剤師</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。</li> <li>2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)</li> <li>3. 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)</li> <li>4. 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)</li> <li>5. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)</li> </ol> <p>E3(1)医薬品情報</p> <p>【③収集・評価・加工・提供・管理】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)</li> <li>5. 医薬品情報をニュースに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点(知的所有権、守秘義務など)について説明できる。</li> </ol>	<p>講義(演習室)</p> <p>SGD</p>	<p>臨時試験(総括的評価)</p> <p>観察記録(総括的評価)</p>
7	<p>第13回</p> <p>B(2)薬剤師と医薬品等に係る法規範</p> <p>【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。</li> <li>7. 個人情報の取扱いについて概説できる。</li> </ol> <p>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。</li> <li>3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。</li> <li>10. 健康被害救済制度について説明できる。</li> </ol> <p>E3(1)医薬品情報</p> <p>【①情報】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。</li> </ol> <p>E3(2)患者情報</p> <p>【②収集・評価・管理】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。</li> <li>4. 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。</li> </ol>	<p>講義(演習室)</p>	<p>臨時試験(総括的評価)</p>
8	<p>第14回</p> <p>B(2)薬剤師と医薬品等に係る法規範</p> <p>【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。</li> <li>7. 個人情報の取扱いについて概説できる。</li> </ol> <p>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。</li> <li>3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。</li> <li>10. 健康被害救済制度について説明できる。</li> </ol> <p>E3(1)医薬品情報</p> <p>【①情報】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。</li> </ol> <p>E3(2)患者情報</p> <p>【②収集・評価・管理】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。</li> <li>4. 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。</li> </ol> <p>B(2)薬剤師と医薬品等に係る法規範</p> <p>【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。</li> </ol> <p>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。</li> </ol>	<p>講義(演習室)</p>	<p>臨時試験(総括的評価)</p>

	E3 (1) 医薬品情報 【④情報】 5. 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など）とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。 【⑥臨床研究デザインと解析】 1. 臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴を概説できる。 4. 副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。 7. 統計解析時の注意点について概説できる。																		
	9 第 15, 16 回 B (2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範 【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】 3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。 【⑥臨床研究デザインと解析】 1. 臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴を概説できる。	講義（演習室） SGD	臨時試験（総括的評価） 観察記録（総括的評価）																
	10																		
	11																		
	12																		
13																			
関連科目	医薬品開発論、医薬品情報学、薬事関連法規、薬事・衛生行政、統計学、DI 演習、キャリア形成 I～ IV																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>CRC テキストブック第 3 版</td> <td>日本臨床薬理学会(編)</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	CRC テキストブック第 3 版	日本臨床薬理学会(編)	医学書院	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	CRC テキストブック第 3 版	日本臨床薬理学会(編)	医学書院																
2																			
3																			
評価の時期・方法・基準	成果物（課題やレポート等を含む）(40%)、自己研鑽・体験型学習の取り組み状況 (30%)、臨時試験 (30%) で評価する。原則、すべての講義に出席し、レポートをすべて提出し、臨時試験を受けたうえ、100 点満点中 60 点以上で合格とする。ただし、修学状況（出席、受講態度等）不良の者については、減点する事がある。剽窃行為に対して、単位を認めない。																		
学生へのメッセージ	医薬品開発に関わる仕事について詳しく学ぶことができます。特に医薬品開発業務に関心があり、製薬メーカーや CRO/SMO へ就職を希望する学生さんは履修して下さい。																		
担当者の研究室等	小西：1 号館 2 階（薬学教育センター統合薬学分野） 西田：1 号館 2 階（薬学教育センター統合薬学分野） 久家：1 号館 4 階（生体分子分析学）																		
備考、事前・事後学習課題	共同担当者：外部講師 他 薬学部事務室・就職部の協力も得ています。 実施日が夏期休暇中や土、日曜日になる場合もあります。  事前学習：講義に参加するにあたり、必要な情報を収集し、まとめる。(1.5 時間×16 回) 事後学習：講義を通じて得られた知識などを整理し、まとめる。(1.5 時間×16 回)																		

科目名	キャリア形成Ⅲ	科目名(英文)	Career Development III
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	4年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

コース・ ユニット・ 一般目標	<p>ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。</p> <p>企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性和それを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。</p> <p>ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。</p>
-----------------------	---

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
2	仕事の進め方と組織活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>定型業務と非定型業務</li> <li>コスト意識とエコ活動</li> <li>仕事の基本の8つの意識</li> <li>話し方と聞き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 仕事の基本の8つの意識について調べる。</li> <li>事後学修: 仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。</li> </ul>
3	目標設定とPDCAサイクルスケジュールと出張業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標設定(MBO)</li> <li>PDCAとは</li> <li>チームと個人の役割</li> <li>スケジュールの作り方</li> <li>業務としての出張-YTT方式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: PDCAについて調べる。あなたの1週間予定表を作成する。</li> <li>事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる(400字以上)。あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。</li> </ul>
4	ビジネスの場での敬語表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な敬語表現の復習</li> <li>ビジネスの場での使用方法</li> <li>-TPOをもとに-</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 敬語プリント①をする。</li> <li>事後学修: ケーススタディプリントをする。</li> </ul>
5	電話応対	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスフォンの扱い方</li> <li>5W2Hから6W3Hへ</li> <li>簡潔メモの作り方</li> <li>不在処理と伝言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 電話応対プリントをする。</li> <li>事後学修: ロールプレイングを繰り返す。</li> </ul>
6	来客応対	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織図と対応</li> <li>簡単な応対から不在処理や重複処理まで</li> <li>名刺交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 来客対応プリント①をする。</li> <li>事後学修: 来客対応プリント②をする。</li> </ul>
7	ハウ・レン・ソウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスにおける「報連相」</li> <li>指示の受け方</li> <li>業務の優先順位</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる</li> <li>事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。</li> </ul>
8	ビジネス文書の基本①	<ul style="list-style-type: none"> <li>社外文書が基本</li> <li>商取引文書と社交文書の相違</li> <li>社内文書と社外文書の種類</li> <li>ファイリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: ビジネス文書始める前にする。</li> <li>事後学修: ビジネス文書②をする。</li> </ul>
9	ビジネス文書の基本②	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: ビジネス文書始③をする。</li> <li>事後学修: ビジネス文書④をする。</li> </ul>
10	ビジネス通信の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信手段(電子メール、ファックス等)の選択</li> <li>作成上の注意点</li> <li>郵便・宅配便の知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 郵便の知識プリント①をする。</li> <li>事後学修: メール文書を作成する。</li> </ul>
11	法的業務 設営の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>押印と印鑑の意味</li> <li>内容証明</li> <li>個人情報保護(Pマーク)</li> <li>コンプライアンス</li> <li>YTT方式からの業務遂行</li> <li>確認の必要性</li> <li>他部署とのコミュニケーションの必要性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: コンプライアンスについて調べる。同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。</li> <li>事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する(400字以上)。設営事例をまとめる。</li> </ul>
12	慶弔と贈答	<ul style="list-style-type: none"> <li>慶弔時の基本的マナー</li> <li>「式」について</li> <li>業務としての贈答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。</li> <li>事後学修: ビジネス文書(社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。</li> </ul>
13	協働とコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人同僚・異文化への対応</li> <li>働き方とキャリア開発</li> <li>公共の場でのマナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。</li> <li>事後学修: 全体をまとめる。</li> </ul>
14			
15			

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	ロールプレイ等のワーク（20%）、複数回のレポート（40%）、期末試験（40%）を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）			
備考、事前・事後学習課題	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	臨床研究立案演習	科目名 (英文)	Tutorial on Clinical Research Planning
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	5年	クラス	A B C D E F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小西 元美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

<p>コース・ ユニット・ 一般目標</p>	<p>コース：本学独自の薬学専門教育          ユニット：キャリアー形成          一般目標：医療人として相手（患者）を思いやる心を持ち、情熱と責任ある態度で積極かつ協動的に行動できるようになるために、倫理観と奉仕・慈愛の心、円滑な対人力、協調的精神、情熱と責任感及び豊かな人間性など、医療人に相応しい知識、技能、態度を身につける。          (3) になりたい自分に向かう          補足説明：薬学部では、1,2年次：「になりたい自分を探す」、3,4年次：「になりたい自分をきめる」、5,6年次：「になりたい自分に向かう」を到達目標と定め、全学年にわたるキャリア形成教育を展開している。薬剤師が活躍している現場で臨床研究について学ぶ。          ユニット：未来型薬剤師          (7) 臨床研究立案演習          一般目標：職務遂行上、生じた臨床あるいは疫学上の問題点を解決するために、適切な臨床調査研究を立案し、的確に実施する準備が出来る。          コース A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ          一般目標：生命に関わる職業人となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。          (2) 医療の担い手としてのこころ構え          一般目標：常に社会に目を向け、生涯にわたって医療を通して社会に貢献できるようになるために必要なこころ構えを身につける。          到達目標：  <b>【社会の期待】</b>          1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)          2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)          3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)  <b>【研究活動に求められるこころ構え】</b>          1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。          2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)          3) 他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。(態度)  <b>【自己学習・生涯学習】</b>          2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)          ユニット：(3) 信頼関係の確立を目指して          一般目標：          医療の担い手の一員である薬学専門家として、患者、同僚、地域社会との信頼関係を確立できるようになるために、相手の心理、立場、環境を理解するための基本的知識、技能、態度を修得する。          到達目標：  <b>【相手の気持ちに配慮する】</b>          2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)          3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)  <b>【チームワーク】</b>          1) チームワークの重要性を例示して説明できる。          2) チームに参加し、協調的態で役割を果たす。(態度)          3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)          コース：医薬品をつくる          C17 医薬品の開発と生産          一般目標：将来、医薬品開発と生産に参画できるようになるために、医薬品開発の各プロセスについての基本的知識を修得し、併せてそれらを実施する上で求められる適切な態度を身につける。          (4) 治験          一般目標：医薬品開発において治験がどのように行われるかを理解するために、治験に関する基本的知識とそれを実施する上で求められる適切な態度を修得する。          到達目標：          4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)          (5) バイオスタティスティクス          一般目標： 医薬品開発、薬剤疫学、薬剤経済学などの領域において、プロトコル立案、データ解析、および評価に必要な統計学の基本的知識と技能を修得する。          到達目標：  <b>【生物統計の基礎】</b>          1) 帰無仮説の概念を説明できる。          2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。          3) 主な二群間の平均値の差の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U 検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)          4) <math>\chi^2</math> 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)          5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)          6) 主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnett 検定、Tukey 検定など) の概要を説明できる。          7) 主な多変量解析の概要を説明できる。  <b>【臨床への応用】</b>          1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。          2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。          3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。          4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)          5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier 曲線など) の特徴を説明できる。</p>
--------------------------------	---

<p>授業計画</p>	回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
	1	概要説明 臨床研究に携わる薬剤師の仕事について	講義・TBL	観察記録・ピア評価 (総括的評価)
	2	2~9回 ・医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)	実習 (学外施設)	観察記録・活動日誌・レポート (総括的評価)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)</li> <li>・医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)</li> <li>・研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。</li> <li>・研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)</li> <li>・他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。(態度)</li> <li>・医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)</li> </ul>		
3	10～17回 <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)</li> <li>・対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)</li> <li>・チームワークの重要性を例示して説明できる。</li> <li>・チームに参加し、協調的な態度で役割を果たす。(態度)</li> <li>・自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)</li> <li>・インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)</li> </ul>	実習 (学外施設)	観察記録・活動日誌・レポート (総括的評価)
4	18～21回 <ul style="list-style-type: none"> <li>・帰無仮説の概念を説明できる。</li> <li>・パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。</li> <li>・主な二群間の平均値の差の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U 検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)</li> <li>・<math>\chi^2</math> 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)</li> <li>・最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)</li> <li>・主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnett 検定、Tukey 検定など) の概要を説明できる。</li> <li>・主な多変量解析の概要を説明できる。</li> <li>・臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。</li> <li>・バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。</li> <li>・バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。</li> <li>・リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)</li> <li>・基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier 曲線など) の特徴を説明できる。</li> <li>・主な二群間の平均値の差の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U 検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)</li> <li>・<math>\chi^2</math> 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)</li> <li>・最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)</li> <li>・主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnett 検定、Tukey 検定など) の概要を説明できる。</li> <li>・主な多変量解析の概要を説明できる。</li> <li>・臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。</li> <li>・バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。</li> <li>・バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。</li> <li>・リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)</li> <li>・基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier 曲線など) の特徴を説明できる。</li> </ul>	実習 (学外施設)	観察記録・活動日誌・レポート (総括的評価)
5	22回 プレゼンテーション	発表会・PBL	発表評価・観察記録・ピア評価・レポート (総括的評価)
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
関連科目	薬剤師になるために、早期体験実習、スタートアップゼミ、キャリア形成 I、キャリア形成 II、薬局経営・マネジメント論、臨床医学概論、病院・薬局実務実習、他		

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価の時期・方法・基準	原則として全過程への出席と積極的な参加およびすべての提出物を提出していること。その上、パフォーマンス評価（活動日誌、レポート、課題等）（60%）、観察記録（20%）、発表評価（20%）で評価する。100点満点中60点以上で合格とする。ただし、修学状況（出席、受講態度等）不良の者については、減点する事があります。剽窃行為に対して、単位を認めない。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	小西：1号館2階（教育センター 統合薬学分野）			
備考、事前・事後学習課題	薬学部事務室の協力も得ています。			

科目名	薬局経営・マネージメント論	科目名 (英文)	Management Theory for Pharmacists
学部	薬学部	学科	薬学科
配当年次	6年	クラス	A B C D E F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期前半	授業担当者	砂川 雅之
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

コース：本学独自の薬学専門教育 ユニット：キャリア形成  
 一般目標：医療人として相手（患者）を思いやる心を持ち、情熱と責任ある態度で積極的かつ協調的に行動できるようになるために、倫理観と奉仕・慈愛の心、円滑な対人力、協調的精神、情熱と責任感及び豊かな人間性など、医療人に相応しい知識、技能、態度を身につける。  
 （7）薬局経営学（なりたい自分をきめる）  
 一般目標：自らがその能力及び適性、志望に応じて主体的に進路を選択できるようになるために、薬局経営学に関する基本的知識、技能、態度を修得する。  
 補足説明：薬学部では、1、2年次：「なりたい自分をさがす」、3、4年次：「なりたい自分をきめる」、5、6年次：「なりたい自分にむかう」を到達目標と定め、全学年にわたるキャリア形成教育を展開している。「薬局経営学」では、将来、開局を目指している学生を対象に、保険薬局やドラッグストア等を経営及び管理するために必要な経営学を学ぶ。

回数	到達目標	学習方法・自己学習課題	評価
1	経営学総論Ⅰ 「経営学とは何か」を理解し、経営学の基本的考え方を説明できる。	学習方法：講義（講義室） 自己学習課題：講義ノートの作成 事前・事後学習課題：教科書での予習、教科書及び講義ノートでの復習	定期試験（総括的評価）
2	経営学総論Ⅱ 「組織行動論・組織理論」「戦略論」を理解する。組織を動かす、戦略を作成する場合の原則的な考え方を列挙できる。	学習方法：講義（講義室） 自己学習課題：講義ノートの作成 事前・事後学習課題：教科書での予習、教科書及び講義ノートでの復習	定期試験（総括的評価）
3	マネジメント マネジメントについてドラッカー理論を理解し、薬局経営にとって必要なマネジメントを説明できる。	学習方法：講義（講義室） 自己学習課題：講義ノートの作成 事前・事後学習課題：教科書での予習、教科書及び講義ノートでの復習	定期試験（総括的評価）
4	組織行動論における行動特性 コンピテンシーとディメンションを理解し、マネジメントに必要な自己行動特性を発見する。	学習方法：講義（講義室） 自己学習課題：社会薬学で修得した知識を確認（予習）した上で受講し、受講後、講義ノートを作成する。	定期試験（総括的評価）
5	医療経済学（価格の決定と評価） 医療経済学における価格の決定の要因を列挙できる。医療経済学と哲学との関係について理解する。薬物治療の経済評価方法を列挙できる。	学習方法：講義（講義室） 自己学習課題：講義ノートの作成 事前・事後学習課題：教科書での予習、社会薬学で修得した知識を確認（予習）した上で受講、教科書及び講義ノートでの復習	定期試験（総括的評価）
6	マクロ経済から見たこれからの日本の薬局・薬剤師の役割を説明できる。	学習方法：講義（講義室） 自己学習課題：講義ノートの作成 事前・事後学習課題：教科書での予習、教科書及び講義ノートでの復習	定期試験（総括的評価）
7	薬局経営の戦術Ⅰ 医薬分業について説明できる。保険（調剤）薬局の市場規模を測定できる。	学習方法：講義（講義室） 自己学習課題：講義ノートの作成 事前・事後学習課題：教科書での予習、社会薬学で修得した知識を確認（予習）した上で受講、教科書及び講義ノートでの復習	定期試験（総括的評価）
8	薬局経営の戦術Ⅱ 保険調剤を理解し、薬局経営に必要な法律・規則を説明できる。	学習方法：講義（講義室） 自己学習課題：講義ノートの作成 事前・事後学習課題：教科書での予習、社会薬学で修得した知識を確認（予習）した上で受講、教科書及び講義ノートでの復習	定期試験（総括的評価）
9	薬局経営の戦術Ⅲ 保険（調剤）薬局の形態を列挙できる。調剤報酬、保険（調剤）薬局の経営状況を理解する。	学習方法：講義（講義室） 自己学習課題：講義ノートの作成 事前・事後学習課題：教科書での予習、社会薬学で修得した知識を確認（予習）した上で受講、教科書及び講義ノートでの復習	定期試験（総括的評価）
10	薬局の会計・決算Ⅰ 薬局の会計の特色を説明	学習方法：講義（講義室）	定期試験（総括的評価）

キャリア形成科目

	できる。貸借対照表（バランスシート）及び損益計算書が解読できる。	自己学習課題：講義ノートの作成 事前・事後学習課題：教科書での予習、教科書及び講義ノートでの復習																	
11	薬局の会計・決算Ⅱ 薬局における売り上げと売上原価の関連性を説明できる。	学習方法：講義（講義室） 自己学習課題：講義ノートの作成 事前・事後学習課題：教科書での予習、教科書及び講義ノートでの復習	定期試験（総括的評価）																
12	薬局の会計・決算Ⅲ 薬局の開設に係る設備投資と諸費用を列挙し試算できる。	学習方法：講義（講義室） 自己学習課題：講義ノートの作成 事前・事後学習課題：教科書での予習、教科書及び講義ノートでの復習	定期試験（総括的評価）																
13	薬局の会計・決算Ⅳ 薬局運営にかかる諸経費を列挙し損益計算及び決算ができる。決算に係る税務を説明できる。	学習方法：講義（講義室） 自己学習課題：講義ノートの作成 事前・事後学習課題：教科書での予習、教科書及び講義ノートでの復習	定期試験（総括的評価）																
関連科目	薬剤師になるために、薬系キャリア形成、薬系インターンシップ・ボランティア、ビジネスマナー、応用薬学実習、薬事関連法規、社会薬学、病院実務実習、薬局実務実習等																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬局経営・マネジメント論 Pharmacy business management</td> <td>砂川雅之</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	薬局経営・マネジメント論 Pharmacy business management	砂川雅之		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	薬局経営・マネジメント論 Pharmacy business management	砂川雅之																	
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価の時期・方法・基準	総括的評価は、定期試験で実施します。100点満点中60点以上を合格とします。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館2階（非常勤講師室）																		
備考、事前・事後学習課題	<p>薬局経営学では、コース：ヒューマニズムについて学ぶ ユニット（2）医療の担い手としてのこころ構え；SB03「医療の担い手にふさわしい態度を示す。」も到達目標の一つとします。従って、修学状況（出席、受講態度）不良の者については20点を限度に減点することがあります。事前・事後学習課題については、授業ごとに記載してあります。十分予習及び復習を行ってください。</p>																		



発行 2019年4月

常翔学園 摂南大学

寝屋川校地

〒572-8508

大阪府寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

枚方校地

〒573-0101

大阪府枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3100 【枚方事務室・薬学部】

電話(072)-807-6001 【枚方事務室・看護学部】

